

科目名	児童学概論		
担当教員名	曾野 麻紀、山田 陽子、長田 瑞恵、潮谷 恵美 他		
ナンバリング	KAa101		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学科専門科目であり、幼児教育学科の学位授与方針の1,2,3に該当する。

入学後初めに学習する基礎科目であり、これから4年間の幼児教育学科での学習の領域を概観するような内容となっている。学科専任教員各自の専門領域や研究内容を知るといった性格も持っている。

科目の概要

児童学への入口となるオムニバス形式の科目である。本年度は、『子どもと未来』というテーマのもとに、本学幼児教育学科専任教員が各自の専門的観点から「子どもと未来」について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- ・これまで持ってきたであろう一般的な「子ども」のイメージを一度突き崩して、多面的に子どもについて探究する。
- ・「子ども」という窓から、世の中の枠組み、身の回りの人間関係・出来事などについて見つめ直す。
- ・各講義担当者の講義内容について各自が作成した「講義ノート」が主要テキストとなるので、授業の内容を把握し、ノートに記載する。
- ・授業への参加、課題への取り組み、講義ノートの作成などを通して、大学で講義を受けるための基本的なスキルを身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は幼児教育学科に所属する教員全員が担当し、それぞれの専門分野から、その年のテーマに沿って子どもをどう捉えるかについて講義する授業である。

1	二宮；科目の目的や趣旨、内容、各教員の専門等の説明
2	上垣内；持続可能な開発のための教育（ESD）
3	潮谷；子どもの生活を支える環境・支援
4	長田；子どもの心から見た世界
5	向井；子どもの主体性が創る環境・親子関係の構築
6	曾野；子どもと環境（仮）
7	加藤；地域社会が親子を支援する

8	鈴木康；子どもの身体活動と社会
9	藪崎；子どもをとりまく音環境について
10	宮野；多様な表現を支える環境
11	横井；子どもの遊びと環境
12	桶田；子どもと環境（仮）
13	権；子どもの発達を支える地域の子育て環境
14	山田；子どもの遊びと環境構成
15	二宮：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】日常生活の中で子どもの姿を観察する。仲間と観察で感じたことを話し合い、体験を共有する。（1時間程度）

【事後学修】授業ノートの整理を行い、読み返す。それぞれの専門性についてノートにまとめる。（1時間程度）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50点）、試験（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

【フィードバック】必要に応じて課題を返却することがある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各担当教員が講義の中で、参考図書を紹介や資料の配布を行う予定です。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	児童学演習		
担当教員名	近藤 有紀子、上垣内 伸子、横井 紘子、長田 瑞恵 他		
ナンバリング	KAa102		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。本科目は卒業必修科目である。

実習を通じ、乳幼児とのかかわりを持ちながら学習を進める。実習という体験学習を通して、自ら関わり子どもから学ぶ姿勢を確立する。更に、本学が立地する埼玉県新座市について学ぶ機会とする。

科目の概要

本学が立地する新座市において、子どもが育つ保育所、幼稚園等実際に出かけ、現代社会での保育・育児および子どもの生活の実態を知り、地域についても学修する。実習の事前・事後指導において、他の専門科目を通じた学び等を踏まえ、保育に関する現代的課題についても探求する。自ら関わりつつ子どもから学ぶ姿勢を獲得し、保育者として必要な知識・技能を修得し今後の実習へつなげる。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 実習を通して、保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての分析、考察、検討を行う。
3. 実習の事前・事後指導を通して、自らかかわる構えを習得し、子どもから学ぶ姿勢を体得する。
更に、問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得し、地域社会についても主体的に学ぶ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

新座市内および周辺地域の、さまざまな保育の場に赴き実習という体験学習をする。具体的には、就学前の子どもの日中の保育の場である幼稚園および保育所などの、保育と育児に関連する場での実習を行う。

実習の前後には、事前学習、事後の報告発表や話し合いの時間を持ち、子どもと子育てを取り巻く社会状況の理解および子ども理解を深める一助とする。さらに、実習の事前・事後学習を通して、課題などを発見し、その課題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を修得する。

主な実習先は、幼稚園、保育所、その他の児童厚生施設である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】「実習の手引き」を読んでおく。授業資料は、事前にWEB - UPするので基本事項を確認しておく。体験学習後の振り返りで仲間の記録を読む。これらを1時間程度行う。

【事後学修】授業資料は繰り返し読み、把握、理解する。体験学習、振り返りで得た学びを整理し、課題を明確にする。これらを1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業及び話し合いへの参加状況と実習への参加（50%）、実習記録の期日内提出とその内容および授業課題への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

大豆生田啓友・三谷大紀編「最新保育資料集」(2019) ミネルヴァ書房

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	児童学研究法		
担当教員名	長田 瑞恵、大宮 明子		
ナンバリング	KAa303		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は卒業必修科目である。観察法・面接法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究方法について学ぶ。同時に、文献の探し方や文献講読・レジュメの作成方法についても学ぶ。

科目の概要

それぞれの研究方法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて先行研究の探し方や文献の読み方の基礎についても学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

各テーマの1回目は、該当内容に関する基本的事項の理解のための解説などを行う。教材や課題は授業時に配布もしくはLive Campusを使って配布する。2回目以降は提示された課題に沿って学生自身が作業を行う。各回の授業の最後にリアクションペーパーの作成を行う【グループワーク】【リアクションペーパー】【実技】【レポート(知識)】

到達目標

- (1)文献検索の方法、文献講読とレジュメのまとめ方について理解する。
- (2)授業で解説されるそれぞれの研究方法の概要について理解する。
- (3)それぞれの研究方法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- (4)どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1子どもの心理・発達の理解 -5保護者・地域・他の専門職との連携の理解 -1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

まず、児童学の研究方法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、研究方法が利用可能かを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、各研究方法についての理解を深める。さらに、文献検索や文献講読のやり方、レジュメのまとめ方を学ぶ。各回の授業の最後にはリアクションペーパーにその日の学びの振り返りや、出された課題への各自の意見を記入する。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には、授業内で教員がコメントをフィードバックする。

1	研究と常識の違い（長田）
2	文献検索の仕方（長田）

3	文献の読み方・レジユメの作り方1（大宮）：基本的事項の理解
4	文献の読み方・レジユメの作り方2（大宮）：レジユメ作成練習1
5	文献の読み方・レジユメの作り方3（大宮）：発展的事項の理解
6	文献の読み方・レジユメの作り方4（大宮）：レジユメ作成練習2
7	観察法1（大宮）：観察法とは？
8	観察法2（大宮）：観察法の体験学習
9	面接法（長田）：面接法の基本時効の理解と体験学習
10	実験法（大宮）：実験法とは？
11	質問紙法1（長田）：質問紙法とは？
12	質問紙法2（長田）：質問紙法の体験学習
13	事例研究法1（長田）：事例研究法とは？
14	事例研究法2（長田）：事例研究法の体験学習
15	まとめ（長田・大宮）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に指示した文献をよく読み、指定された課題を行うこと。[約1時間から1時間半]

【事後学修】授業内容をよく復習し、理解しておくこと。学生自ら主体的に取り組むような課題を指定するので、それに取り組むこと。[約1時間から1時間半]

評価方法および評価の基準

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

【フィードバック】授業内のレポートについてはその都度返却する。学期末の筆記試験について合格点に満たない場合にはLiveCampusの授業連絡から該当者に連絡をし、再試験を課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。授業中にプリントを配布する。

【推薦書】大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社

保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

【参考書】山田剛史・林創 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価の60点に満たなかった場合、再試験とする。再試験の方法等はLive Campusから周知する。

科目名	児童学研究法		
担当教員名	長田 瑞恵、大宮 明子		
ナンバリング	KAa303		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は卒業必修科目である。観察法・面接法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究方法について学ぶ。同時に、文献の探し方や文献講読・レジュメの作成方法についても学ぶ。

科目の概要

それぞれの研究方法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて先行研究の探し方や文献の読み方の基礎についても学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

各テーマの1回目は、該当内容に関する基本的事項の理解のための解説などを行う。教材や課題は授業時に配布もしくはLive Campusを使って配布する。2回目以降は提示された課題に沿って学生自身が作業を行う。各回の授業の最後にリアクションペーパーの作成を行う【グループワーク】【リアクションペーパー】【実技】【レポート(知識)】

到達目標

- (1)文献検索の方法、文献講読とレジュメのまとめ方について理解する。
- (2)授業で解説されるそれぞれの研究方法の概要について理解する。
- (3)それぞれの研究方法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- (4)どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1子どもの心理・発達の理解 -5保護者・地域・他の専門職との連携の理解 -1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

まず、児童学の研究方法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、研究方法が利用可能かを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、各研究方法についての理解を深める。さらに、文献検索や文献講読のやり方、レジュメのまとめ方を学ぶ。各回の授業の最後にはリアクションペーパーにその日の学びの振り返りや、出された課題への各自の意見を記入する。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には、授業内で教員がコメントをフィードバックする。

1	研究と常識の違い（長田）
2	文献検索の仕方（長田）

3	文献の読み方・レジユメの作り方1（大宮）：基本的事項の理解
4	文献の読み方・レジユメの作り方2（大宮）：レジユメ作成練習1
5	文献の読み方・レジユメの作り方3（大宮）：発展的事項の理解
6	文献の読み方・レジユメの作り方4（大宮）：レジユメ作成練習2
7	観察法1（大宮）：観察法とは？
8	観察法2（大宮）：観察法の体験学習
9	面接法（長田）：面接法の基本時効の理解と体験学習
10	実験法（大宮）：実験法とは？
11	質問紙法1（長田）：質問紙法とは？
12	質問紙法2（長田）：質問紙法の体験学習
13	事例研究法1（長田）：事例研究法とは？
14	事例研究法2（長田）：事例研究法の体験学習
15	まとめ（長田・大宮）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に指示した文献をよく読み、指定された課題を行うこと。[約1時間から1時間半]

【事後学修】授業内容をよく復習し、理解しておくこと。学生自ら主体的に取り組むような課題を指定するので、それに取り組むこと。[約1時間から1時間半]

評価方法および評価の基準

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

【フィードバック】授業内のレポートについてはその都度返却する。学期末の筆記試験について合格点に満たない場合にはLiveCampusの授業連絡から該当者に連絡をし、再試験を課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。授業中にプリントを配布する。

【推薦書】大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社

保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

【参考書】山田剛史・林創 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価の60点に満たなかった場合、再試験とする。再試験の方法等はLive Campusから周知する。

科目名	幼児教育基礎実習		
担当教員名	横井 紘子、山田 陽子、上垣内 伸子、桶田 ゆかり 他		
ナンバリング	KAa204		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実験・実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として保育や人材育成に携わった経験をもつ教員が担当し、実践での経験に基づき、グループワークを取り入れながら指導する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の卒業必修科目であり、専門科目の領域「基礎」に位置づく。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格取得のための必修科目でもある。「幼児教育基礎演習」とは相補的な科目であり、同時履修とする。

科目の概要

< 幼稚園での実習 >

本学附属幼稚園を含む15園程度の幼稚園(幼保連携型認定こども園を含む)に分かれ、隔週で週1回の実習を行う。春休みには4日間連続の実習を行い、3年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者として適切な思考・判断・表現を実習の中で試みる。

< 愛育養護学校(特別支援学校)での実習 >

学校法人愛育学園愛育養護学校幼稚部・小学部いずれかにおいて実習を1日行う。保育終了後は現地でのミーティングに参加する。

授業の方法 (ALを含む)

いずれの実習においても、保育の現場において子どもと生活や遊びを共にし、実際に子どもと関わる実習である。実習後には、自らの実践に基づき、実習記録を文章にまとめ、提出する。実習記録を書くことは、保育者としての自分の関わりや言動を省察することでもあり、実践と省察の繰り返しにより、子ども理解を深めていく。

【実習】【レポート(表現)】

到達目標

1. 「子どもから学ぶ、子どもとともに育つ」という基本姿勢を持ち、子どもの主体性を大切にしながら子どもと関わることができる。
2. 子どもと共に遊び、子どもの思いに共感的に寄り添いつ、状況に即応して判断・行動し、その内容を文章にまとめることができる。
3. 保育者の様々な役割を理解し、保育者の意図やねらいを意識しながら行動することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 2 状況判断
- 3 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

< 幼稚園での実習 >

実習先は、子どもの自発的な遊びを重視した保育を展開し、本実習のねらいと内容に理解がある幼稚園もしくは幼保連携型認定こども園(15園程度)であり、数人ずつに分かれて配属される。

1. 学外オリエンテーション

実習先の幼稚園にて、1日オリエンテーションを行う。保育見学・保育参加を伴う場合もある。

2. 隔週実習

隔週で週1回、登園前から降園後まで1日の実習を3日行う。

実習翌日までに実習記録を作成して大学に提出し、翌週には各自の実習記録を基に行う「幼児教育基礎演習」の授業に参加することで、省察を深め、自分の課題を整理し、次の実習へと向かうプロセスをとる。

3. 連続実習

後期の授業終了後の春休みに4日間の連続実習を行う。同じクラスで4日間連続の実習を行い、子どもの遊びや人間関係を生活の連続性の中で理解していくことをめざす。

実習後に実習記録を作成して提出し、総括の話し合いをもつ。

合計約60時間の幼稚園での実習となる。

< 愛育学園（特別支援学校）での実習 >

数人ずつのグループに分かれて、授業期間中の1日、幼稚部・小学部のいずれかに入り、担当する子どもを決めて、参加実習を行う。保育終了後は、引き続き愛育学園にて、配属クラスの担任保育者および現地実習指導者と、その日の保育についてのミーティングに参加する。実習翌日までに実習記録を作成し、大学に提出する。

【実習】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】幼児教育基礎演習における事前・事後指導の内容にもとづき、実習にむけてあらゆる準備を十分に行うとともに、体調管理に努めること。準備には1時間程度の時間が必要となる。

【事後学修】実習後に定められた形式で確実にレポートを提出すること。レポート作成には2時間程度の時間が必要となる。

評価方法および評価の基準

1. すべての実習への参加と、実習レポートの期限内提出を、単位取得の必要条件とする。
2. 実習参加状況、レポートの提出状況、実習態度・意欲を6:2:2の比率で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 実習参加状況 (20%/60%) 実習態度・意欲 (10%/20%)

到達目標 2 実習参加状況 (20%/60%) レポート提出状況(20%/20%)

到達目標 3 実習参加状況 (20%/60%) 実習態度・意欲 (10%/20%)

【フィードバック】レポートは、次回の実習までに毎回講評をくわえ返却し、次の実習に向けて課題を整理できるようにしている。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 平成30年

内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 平成30年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼児教育基礎演習		
担当教員名	横井 紘子、山田 陽子、上垣内 伸子、桶田 ゆかり 他		
ナンバリング	KAa205		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として保育や人材育成に携わった経験をもつ教員が担当し、実践での経験に基づき、グループワークを取り入れながら指導する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の卒業必修科目であり、専門科目の領域「基礎」に位置づく。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格取得の必修科目でもある。「幼児教育基礎実習」とは相補的な位置づけにあり、同時履修とする。

科目の概要

幼稚園および愛育養護学校での参加実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導を行う。

事前指導では、実習のねらいを理解し、実習に向けた準備を行う。事後指導は仲間の実習記録をもとに、自らの保育を省察し、自己課題を捉え、保育者へと向かう自己についても理解を深める。

実習記録を基に仲間と意見を交わし、じっくりと話し合うことを通し、子ども理解と自分自身の実践に対する理解を深めていく。

授業の方法（ALを含む）

全体での事前事後指導と、少人数にわかれ、グループでの話し合う回に分かれる。グループでの話し合いでは、仲間の保育記録を基に積極的に自分の考えを述べ合うことが求められる。

【グループワーク】【討議・討論】

到達目標

- 事前指導・事後指導のねらいを理解し、事後の学習に応じた課題を提出するなど、事前の必要な準備を行い、その意味を理解し説明することができる。
- 保育記録を基にした話し合いにおいて、仲間と啓発し合い、支え合いながら、自分の考えを適切に表現することができる。
- 自らの保育実践を記録として適切に言語化し、保育者としての自己理解を深め、自己課題を表現したり説明したりすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 2 状況判断
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

1. 隔週実習に向けた事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導を行う。

【グループワーク】

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

【グループワーク】【討議・討論】

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4日間の中での自分の保育者としての成長を確認し、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1年次に配布されている実習の手引きを読んでおくこと。話し合いや事後指導前には、実習後の自分のレポートをよく読み、自己課題を意識して授業に臨むこと。50分程度必要とする。

【事後学修】基本的事項に関するプリントに繰り返し目を通し内容を把握・理解すること。話し合いの内容や仲間のレポートから、自らの保育実践を省察すること。60分程度必要とする。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況、話し合いへの参加状況、レポートの内容を6:2:2の比率で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 授業への参加状況(20%/60%) レポートの内容(10%/20%)

到達目標2 授業への参加状況(20%/60%) 話し合いへの参加状況(20%/20%)

到達目標3 授業への参加状況(20%/60%) レポートの内容(10%/20%)

【フィードバック】実習前後には必要に応じて個別に面談を行い、実習に向けて課題を整理できるようにしている。レポートは、毎回講評をつけて返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 平成30年

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 平成30年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育者論		
担当教員名	桶田 ゆかり		
ナンバリング	KAb306		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の管理職として保育の質の向上や人材育成に携わってきた経験をもつ教員が担当し、保育の基本・保育者の在り方・専門機関との連携などについての事例を活用したグループワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「保育と教育」で必修科目である。保育者の役割と倫理、専門性や同僚性などについて理解し、保育者の在り方を探求し続ける重要性を学修する。1, 2年生で学んできた知識や技能を生かして、これから3, 4年生で実習に出たとき、就職して子どもたちの前に立って保育を実践するときに必要な保育者としての基本的な姿勢を学ぶ。

科目の概要

保育者について関係法令を知り、その制度の位置付けを確認し、保育者としての仕事内容や責務について理解する。さらに保育者の協働、保護者や地域、専門機関との連携など、専門性を高め学び続ける保育者の在り方を学び、保育という仕事、保育者について具体的なイメージをもつ。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心とし、グループワークによるディスカッションを取り入れた授業を行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議】【レポート】

到達目標

1. 保育者の基本姿勢を理解し、仕事内容や責務を説明できる。
2. 自己の資質向上のための同僚との協働、保護者・地域・専門機関等との連携の内容を理解し、説明できる。
3. 将来の自分について具体的に考え、イメージをもち、人に伝えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 保育理論の理解
- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 1 子どもとともに学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

毎回、【リアクションペーパー】の提出・活用と、【グループワーク】または【討議】を行う。

1	オリエンテーション
2	保育の営みとは【リアクションペーパー】
3	保育・教育に関わる法令(日本国憲法、教育基本法、児童憲章、幼児の権利に関する条約など) 【リアクションペーパー】
4	保育者の位置付けに関わる法令(教育基本法、学校教育法、児童福祉法、要領・指針など) 【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	保育者になるために、何を学ぶか【討議】【リアクションペーパー】
6	これまでの保育者の歩みとこれから【リアクションペーパー】
7	保育者の責務とサービス内容【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	保育者の一日とその仕事内容【グループワーク】【リアクションペーパー】
9	子どもとともに生きる生活者としての保育者【リアクションペーパー】
10	保育の計画と実践、記録と省察【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	家庭との連携・子育ての支援【討議】【リアクションペーパー】
12	地域や専門機関との連携【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	保育者の協働、同僚性、カンファレンス【討議】【リアクションペーパー】
14	保育者としての学び・研修【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	授業のまとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含め、まとめて授業に出席する。(各授業45分程度)

【事後学修】教員からの授業ノートに、自分の事前準備の内容や振り返りで気付いたことを書き込む。提示された資料を読み返したり、興味をもったことをさらに調べたりする。(各授業45分程度)

評価方法および評価の基準

授業への出席態度(30%)、リアクションペーパーの記載、最終レポート(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. グループワーク・リアクションペーパー(10%/30%)、レポート(10%/70%)

到達目標2. グループワーク・リアクションペーパー(10%/30%)、レポート(10%/70%)

到達目標3. グループワーク・リアクションペーパー(10%/30%)、レポート(50%/70%)

【フィードバック】毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え、補足説明をし、理解が深まるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育者論		
担当教員名	桶田 ゆかり		
ナンバリング	KAb306		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の管理職として保育の質の向上や人材育成に携わってきた経験をもつ教員が担当し、保育の基本・保育者の在り方・専門機関との連携などについての事例を活用したグループワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「保育と教育」で必修科目である。保育者の役割と倫理、専門性や同僚性などについて理解し、保育者の在り方を探求し続ける重要性を学修する。1, 2年生で学んできた知識や技能を生かして、これから3, 4年生で実習に出たとき、就職して子どもたちの前に立って保育を実践するときに必要な保育者としての基本的な姿勢を学ぶ。

科目の概要

保育者について関係法令を知り、その制度の位置付けを確認し、保育者としての仕事内容や責務について理解する。さらに保育者の協働、保護者や地域、専門機関との連携など、専門性を高め学び続ける保育者の在り方を学び、保育という仕事、保育者について具体的なイメージをもつ。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は、講義による解説を中心とし、グループワークによるディスカッションを取り入れた授業を行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議】【レポート】

到達目標

1. 保育者の基本姿勢を理解し、仕事内容や責務を説明できる。
2. 自己の資質向上のための同僚との協働、保護者・地域・専門機関等との連携の内容を理解し、説明できる。
3. 将来の自分について具体的に考え、イメージをもち、人に伝えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 保育理論の理解
- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 1 子どもとともに学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

毎回、【リアクションペーパー】の提出・活用と、【グループワーク】または【討議】を行う。

1	オリエンテーション
2	保育の営みとは【リアクションペーパー】
3	保育・教育に関わる法令(日本国憲法、教育基本法、児童憲章、幼児の権利に関する条約など) 【リアクションペーパー】
4	保育者の位置付けに関わる法令(教育基本法、学校教育法、児童福祉法、要領・指針など) 【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	保育者になるために、何を学ぶか【討議】【リアクションペーパー】
6	これまでの保育者の歩みとこれから【リアクションペーパー】
7	保育者の責務とサービス内容【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	保育者の一日とその仕事内容【グループワーク】【リアクションペーパー】
9	子どもとともに生きる生活者としての保育者【リアクションペーパー】
10	保育の計画と実践、記録と省察【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	家庭との連携・子育ての支援【討議】【リアクションペーパー】
12	地域や専門機関との連携【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	保育者の協働、同僚性、カンファレンス【討議】【リアクションペーパー】
14	保育者としての学び・研修【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	授業のまとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含め、まとめて授業に出席する。(各授業45分程度)

【事後学修】教員からの授業ノートに、自分の事前準備の内容や振り返りで気付いたことを書き込む。提示された資料を読み返したり、興味をもったことをさらに調べたりする。(各授業45分程度)

評価方法および評価の基準

授業への出席態度(30%)、リアクションペーパーの記載、最終レポート(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. グループワーク・リアクションペーパー(10%/30%)、レポート(10%/70%)

到達目標2. グループワーク・リアクションペーパー(10%/30%)、レポート(10%/70%)

到達目標3. グループワーク・リアクションペーパー(10%/30%)、レポート(50%/70%)

【フィードバック】毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え、補足説明をし、理解が深まるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼児教育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1,3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目として位置付けられている。幼児教育・保育全体を示す概論であり、これから学習していく学科専門科目すべての基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・ 幼児教育・保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義を基本とするが、保育実践の映像を活用したり、ディスカッションを取り入れながら保育理解を深めていく。

平行して履修する「児童学演習」での実習体験を生かし、自らの保育実践や子ども理解を省察しながら学びを深めていく。

1	保育とは何か
2	保育の歴史 近代前の子ども観
3	西洋の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷と現在の課題
4	日本の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷、社会状況の変化と現在
5	日本の保育思想、保育理念の源泉としての倉橋惣三の保育論

6	乳幼児の生活と発達、遊びの意義
7	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の制度的位置づけと成立、変遷
8	保幼児教育・保育の目的と目標、保育のねらいと内容
9	保育の環境（環境を通しての教育・保育、アフォーダンスとしての環境）
10	保育方法の原理、保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程、全体的な計画（防災、保健、食育などを含む）
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携、子育て支援、社会的資源としての幼稚園、保育所、こども園
14	世界の保育・幼児教育
15	ESD、保育の今日的課題と未来への保育ビジョン(まとめ)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前週に指示したテキストの指定箇所を読んで質問事項を整理しておく（1時間程度）。普段から、子どもと保育に関する新聞などのメディアからの発信にアンテナを立て、目を通しておくこと

【事後学修】授業内に配布した資料やテキストをもとに、ノートをまとめ、その週の学習内容を確認しておくこと(1時間程度)。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度や発言（10%）、学期内の小レポート・小テスト（20%）、学期末試験（70%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

【フィードバック】毎回の授業課題のリアクションペーパーへの記入を求め、それへのコメントを戻す。レポートも同様。テストは事後に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吾田富士子（編）「これからの保育と教育 未来を見ずえた人間形成」八千代出版

その他に、「児童学演習」で用いるテキストを使用する。（最新保育資料集2019, ミネルヴァ書房等）

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼児教育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAb107		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1,3に該当する。

この科目は、幼児教育学科の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目として位置付けられている。幼児教育・保育全体を示す概論であり、これから学習していく学科専門科目すべての基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・ 幼児教育・保育の基本的理解を目的とする。
- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・ 保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、講義を基本とするが、保育実践の映像を活用したり、ディスカッションを取り入れながら保育理解を深めていく。

平行して履修する「児童学演習」での実習体験を生かし、自らの保育実践や子ども理解を省察しながら学びを深めていく。

1	保育とは何か
2	保育の歴史 近代前の子ども観
3	西洋の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷と現在の課題
4	日本の幼児教育・保育の歴史と思想、近現代までの変遷、社会状況の変化と現在
5	日本の保育思想、保育理念の源泉としての倉橋惣三の保育論

6	乳幼児の生活と発達、遊びの意義
7	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の制度的位置づけと成立、変遷
8	保幼児教育・保育の目的と目標、保育のねらいと内容
9	保育の環境（環境を通しての教育・保育、アフォーダンスとしての環境）
10	保育方法の原理、保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程、全体的な計画（防災、保健、食育などを含む）
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携、子育て支援、社会的資源としての幼稚園、保育所、こども園
14	世界の保育・幼児教育
15	ESD、保育の今日的課題と未来への保育ビジョン(まとめ)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】前週に指示したテキストの指定箇所を読んで質問事項を整理しておく（1時間程度）。普段から、子どもと保育に関する新聞などのメディアからの発信にアンテナを立て、目を通しておくこと

【事後学修】授業内に配布した資料やテキストをもとに、ノートをまとめ、その週の学習内容を確認しておくこと(1時間程度)。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度や発言（10%）、学期内の小レポート・小テスト（20%）、学期末試験（70%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

【フィードバック】毎回の授業課題のリアクションペーパーへの記入を求め、それへのコメントを戻す。レポートも同様。テストは事後に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吾田富士子（編）「これからの保育と教育 未来を見ずえた人間形成」八千代出版

その他に、「児童学演習」で用いるテキストを使用する。（最新保育資料集2019, ミネルヴァ書房等）

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育学		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KAb108		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

幼児教育学科のディプロマポリシーの1と2を含む科目である。

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に掲げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義及び、保育士資格の「保育の本質・目的に関する科目」の「教育原理」を含む講義を行います。これから4年間にわたって教職科目や保育士科目を受講していくもっとも最初の時期に「教育・保育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。

先生になるために最小限必要となる教育の歴史や理論に関する基礎を勉強することになります。講義では「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目に従って取り上げます。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

教育の基礎理論に関して理解を深めること、仲間とともに課題を設定し、討論し合いながら研究を深めること、自己の見解を整理し、深め、発表することができること、をめあてとします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

アクティブラーニングの取り組みとして、学生による省察活動、リアクションペーパーの作成、相互評価、討論を導入する。

第1回：「教育とは何か（第1章）」

第2回：「学校とは何か（1）（第2章）」

第3回：「学校とは何か（2）（第3章）」

第4回：「こころとからだを育てる（第4章）」

第5回：「よりよく学び、教えるために（第5章）」

第6回：「教育評価とは何か（第6章）」

第7回：「授業の可能性・学校の可能性（第7章）」

第8回：「教師の仕事（第8章）」

第9回：「青年期と教育（第9章）」

第10回：「社会教育と生涯学習（第10章）」

第11回：「教育への権利と『子どもの権利条約』（第11章）」

第12回：「よりよい教育を求めて（第12章）」

第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」（イギリス産業革命期の少年労働）

第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」（斎藤喜博と島小の学校づくり）

第15回：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを読み、“教育とは何か”という問いへの仮説を持ち、疑問点を整理し、その内容をメモして講義に臨みます(各授業に対して60分)。

【事後学修】講義内容を振り返り、テキストを再読することで、“教育とは何か”について考察をふかめます(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各回毎の学修票作成(合計80点)とその内容(合計20点)を総合して、60点以上を合格点とし、単位を認定します。

【フィードバック】各授業ごとに学修票を作成し、提出された学修票について、次回の授業でコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト(教科書)】田嶋一、福田須美子、中野新之祐、狩野浩二『やさしい教育原理(第3版)』有斐閣アルマ

【推薦書】ルソー『エミール(改版)上』岩波文庫、シング『狼に育てられた子』福村出版

【参考図書】留岡清男『教育農場50年』岩波書店、谷昌恒『ひとむれ』評論社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育制度・保育政策論		
担当教員名	桶田 ゆかり、星野 敦子		
ナンバリング	KAb209		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として幼児教育に携わってきた教員が担当し、保育・教育制度や政策について、保育実践と結び付けながら理解を促す。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「保育と教育」の選択科目であるが、幼稚園教諭一種免許状取得に係る必修科目、保育士資格取得に係る選択必修科目である。保育に携わる際の基本的事項である保育制度や政策について、保育実践と結び付けながら理解を促す。

1年生では、児童学・教育学・心理学など保育と教育についての基礎を学んできている。本科目では、制度や施策という幼児理解とは違う視点から保育の歴史や課題を学び、3年生以降のより実践的な学びにつなげ、保育者の役割の理解を深めることをめざしている。

科目の概要

1. 法規や答申などと関連付けながら、保育制度の成り立ち及び現状についての知識を学ぶ。
2. グループワークにより、近年の保育政策の現状と課題について考察し、ディスカッションを行なう。
3. 保育現場における具体的な事例に基づき、制度の仕組みや課題について深く考察する。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心とし、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行なう。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議】【レポート】

到達目標

1. 教育行政制度並びに保育制度の仕組みを理解し、説明できる。
2. 保育制度に関わる法規の歴史的経緯と現状について理解し、説明できる。
3. 近年の保育政策の動向と課題、並びに家庭・学校・社会との連携について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 保育理論の理解
- 5 保護者・地域・他の専門機関との連携の理解
- 3 保育・教育に関する社会的事象への関心

内容

この授業は講義を中心に、【リアクションペーパー】の提出・活用と、【グループワーク】【討議】を取り入れる。

1	子どもと安全 家庭・地域との連携【リアクションペーパー】 [桶田]
2	子どもと安全 安全管理と安全教育【リアクションペーパー】【グループワーク】 [桶田]
3	幼稚園・保育所・こども園と家庭・地域との連携【リアクションペーパー】 [桶田]
4	保育者の職務(義務・権利・責任)【リアクションペーパー】【討議】 [桶田]
5	組織として取り組む研修の重要性【リアクションペーパー】【グループワーク】 [桶田]
6	幼稚園・保育所・こども園におけるカリキュラム・マネジメント【リアクションペーパー】【レポート】 [桶田]
7	園評価の意義と課題【リアクションペーパー】【グループワーク】 [桶田]
8	我が国における保育制度の歴史的経緯【リアクションペーパー】 [星野]
9	戦後教育の基本原則と教育行政制度【リアクションペーパー】 [星野]
10	教育基本法・関連法規と保育制度【リアクションペーパー】 [星野]
11	諸外国の保育制度の動向【リアクションペーパー】 [星野]
12	近年の保育制度改革【リアクションペーパー】【レポート】 [星野]
13	子ども・子育て支援制度と地域連携【リアクションペーパー】【グループワーク】 [星野]
14	保幼小連携・接続の現状と課題【リアクションペーパー】【討議】 [星野]
15	まとめ(定期試験) [桶田]

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含めまとめて授業に出席する。(各授業45分以上)

【事後学修】授業の配付資料を読み返す。紹介された資料や興味をもった事柄について探して読む。(各授業45分以上)

評価方法および評価の基準

課題プリント・授業への取り組み(40%)、筆記試験の達成度(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.課題プリント・授業への取り組み(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標2.課題プリント・授業への取り組み(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標3.課題プリント・授業への取り組み(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。必要な資料は事前に資料共有システムに提示、または授業の際に配布する。

【参考書・参考資料等】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月)フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館

大豆生田啓友・三谷大紀子編「最新保育資料」(最新版) ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育制度・保育政策論		
担当教員名	桶田 ゆかり、星野 敦子		
ナンバリング	KAb209		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として幼児教育に携わってきた教員が担当し、保育・教育制度や政策について、保育実践と結び付けながら理解を促す。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「保育と教育」の選択科目であるが、幼稚園教諭一種免許状取得に係る必修科目、保育士資格取得に係る選択必修科目である。保育に携わる際の基本的事項である保育制度や政策について、保育実践と結び付けながら理解を促す。

1年生では、児童学・教育学・心理学など保育と教育についての基礎を学んできている。本科目では、制度や施策という幼児理解とは違う視点から保育の歴史や課題を学び、3年生以降のより実践的な学びにつなげ、保育者の役割の理解を深めることをめざしている。

科目の概要

1. 法規や答申などと関連付けながら、保育制度の成り立ち及び現状についての知識を学ぶ。
2. グループワークにより、近年の保育政策の現状と課題について考察し、ディスカッションを行なう。
3. 保育現場における具体的な事例に基づき、制度の仕組みや課題について深く考察する。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心とし、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行なう。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議】【レポート】

到達目標

1. 教育行政制度並びに保育制度の仕組みを理解し、説明できる。
2. 保育制度に関わる法規の歴史的経緯と現状について理解し、説明できる。
3. 近年の保育政策の動向と課題、並びに家庭・学校・社会との連携について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 保育理論の理解
- 5 保護者・地域・他の専門機関との連携の理解
- 3 保育・教育に関する社会的事象への関心

内容

この授業は講義を中心に、【リアクションペーパー】の提出・活用と、【グループワーク】【討議】を取り入れる。

1	我が国における保育制度の歴史的経緯【リアクションペーパー】 [星野]
2	戦後教育の基本原則と教育行政制度【リアクションペーパー】 [星野]
3	教育基本法・関連法規と保育制度【リアクションペーパー】 [星野]
4	諸外国の保育制度の動向【リアクションペーパー】 [星野]
5	近年の保育制度改革【リアクションペーパー】【レポート】 [星野]
6	子ども・子育て支援制度と地域連携【リアクションペーパー】【グループワーク】 [星野]
7	保幼小連携・接続の現状と課題【リアクションペーパー】【討議】 [星野]
8	子どもと安全 家庭・地域との連携【リアクションペーパー】 [桶田]
9	子どもと安全 安全管理と安全教育【リアクションペーパー】【グループワーク】 [桶田]
10	幼稚園・保育所・こども園と家庭・地域との連携【リアクションペーパー】 [桶田]
11	保育者の職務(義務・権利・責任)【リアクションペーパー】【討議】 [桶田]
12	組織として取り組む研修の重要性【リアクションペーパー】【グループワーク】 [桶田]
13	幼稚園・保育所・こども園におけるカリキュラム・マネジメント【リアクションペーパー】【レポート】 [桶田]
14	園評価の意義と課題【リアクションペーパー】【グループワーク】 [桶田]
15	まとめ(定期試験) [桶田]

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含めまとめて授業に出席する。(各授業45分以上)

【事後学修】授業の配付資料を読み返す。紹介された資料や興味をもった事柄について探して読む。(各授業45分以上)

評価方法および評価の基準

課題プリント・授業への取り組み(40%)、筆記試験の達成度(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.課題プリント・授業への取り組み(15% / 40%)、筆記試験(20% / 60%)

到達目標2.課題プリント・授業への取り組み(15% / 40%)、筆記試験(20% / 60%)

到達目標3.課題プリント・授業への取り組み(10% / 40%)、筆記試験(20% / 60%)

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。必要な資料は事前に資料共有システムに提示、または授業の際に配布する。

【参考書・参考資料等】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月)フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館

大豆生田啓友・三谷大紀子編「最新保育資料」(最新版) ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障害児保育		
担当教員名			
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針 1. 2. 3 に該当する。

本科目は学科専門科目（必修科目）である。幼稚園・保育所・児童発達支援事業等に在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等による、特別の支援を必要とする幼児が、集団の中にあって自分らしく生活する過程で、「生きる力の基礎を培う」体験を積み重ねて全体的に発達するために、保育者としての必要な知識を身に付け、子ども理解と援助の方法を学ぶ。

科目の概要

障害児保育の歴史を把握し、特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達について理解し、映像や事例によって、障害のある子どもへの具体的な理解や援助について構想する。さらに、インクルーシブ教育・保育についての知識を身に付け、全ての子どもを包み込む教育・保育の方法や援助のあり方、同僚や家族との協力関係等について深く学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性、心身の発達について基礎的な知識を身に付ける
2. 人間関係や生活上の困難について理解し、特別な配慮や援助の方法を映像や事例を通して構想する
3. 障害の有無、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもも集団の中で楽しく自分らしく伸び 伸びと過ごすための遊びや生活を構想し、一人ひとりの発達課題に即した援助の方法を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	障害児保育とは1	子どもとはどういう存在か	障害とは何か
2	障害児保育とは2	子どもを1個の主体として受け止めることの意義	
3	障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助 1		
4	障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助 2		
5	障害のある子どもの理解と保育実践：視覚障害		
6	障害のある子どもの理解と保育実践：聴覚障害		

7	障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）1
8	障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）2
9	障害のある子どもの理解と保育実践：知的障害
10	障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症 1
11	障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症 2
12	障害のある子どもの理解と保育実践：発達障害
13	インクルーシブ保育とは 1
14	インクルーシブ保育とは 2
15	障害児保育の制度と変遷

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分や資料を熟読し、大事なところに下線を引くなどして授業に備える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加態度（30点）授業時の小レポート（20点）期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障害児保育		
担当教員名			
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針 1. 2. 3 に該当する。

本科目は学科専門科目（必修科目）である。幼稚園・保育所・児童発達支援事業等に在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等による、特別の支援を必要とする幼児が、集団の中であって自分らしく生活する過程で、「生きる力の基礎を培う」体験を積み重ねて全体的に発達するために、保育者としての必要な知識を身に付け、子ども理解と援助の方法を学ぶ。

科目の概要

障害児保育の歴史を把握し、特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達について理解し、映像や事例によって、障害のある子どもへの具体的な理解や援助について構想する。さらに、インクルーシブ教育・保育についての知識を身に付け、全ての子どもを包み込む教育・保育の方法や援助のあり方、同僚や家族との協力関係等について深く学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性、心身の発達について基礎的な知識を身に付ける
2. 人間関係や生活上の困難について理解し、特別な配慮や援助の方法を映像や事例を通して構想する
3. 障害の有無、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもも集団の中で楽しく自分らしく伸び 伸びと過ごすための遊びや生活を構想し、一人ひとりの発達課題に即した援助の方法を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	障害児保育とは1	子どもとはどういう存在か	障害とは何か
2	障害児保育とは2	子どもを1個の主体として受け止めることの意義	
3	障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助1		
4	障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助2		
5	障害のある子どもの理解と保育実践：視覚障害		
6	障害のある子どもの理解と保育実践：聴覚障害		
7	障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）1		

8	障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）2
9	障害のある子どもの理解と保育実践：知的障害
10	障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症 1
11	障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症 2
12	障害のある子どもの理解と保育実践：発達障害
13	インクルーシブ保育とは 1
14	インクルーシブ保育とは 2
15	障害児保育の制度と変遷

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分や資料を熟読し、大事なところに下線を引くなどして授業に備える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加態度（30点）授業時の小レポート（20点）期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障害児保育		
担当教員名			
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は学科専門科目（必修科目）である。幼稚園・保育所・児童発達支援事業等に在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等による、特別の支援を必要とする幼児が、集団の中であって自分らしく生活する過程で、「生きる力の基礎を培う」体験を積み重ねて全体的に発達するために、保育者としての必要な知識を身に付け、子ども理解と援助の方法を学ぶ。

科目の概要

障害児保育の歴史を把握し、特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達について理解し、映像や事例によって、障害のある子どもへの具体的な理解や援助について構想する。さらに、インクルーシブ教育・保育についての知識を身に付け、全ての子どもを包み込む教育・保育の方法や援助のあり方、同僚や家族との協力関係等について深く学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性、心身の発達について基礎的な知識を身に付ける
2. 人間関係や生活上の困難について理解し、特別な配慮や援助の方法を映像や事例を通して構想する
3. 障害の有無、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもも集団の中で楽しく自分らしく伸び 伸びと過ごすための遊びや生活を構想し、一人ひとりの発達課題に即した援助の方法を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	障害児保育とは1	子どもとはどういう存在か	障害とは何か
2	障害児保育とは2	子どもを1個の主体として受け止めることの意義	
3	障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助1		
4	障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助2		
5	障害のある子どもの理解と保育実践：視覚障害		
6	障害のある子どもの理解と保育実践：聴覚障害		
7	障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）1		

8	障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）2
9	障害のある子どもの理解と保育実践：知的障害
10	障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症 1
11	障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症 2
12	障害のある子どもの理解と保育実践：発達障害
13	インクルーシブ保育とは 1
14	インクルーシブ保育とは 2
15	障害児保育の制度と変遷

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分や資料を熟読し、大事なところに下線を引くなどして授業に備える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加態度（30点）授業時の小レポート（20点）期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障害児保育		
担当教員名			
ナンバリング	KAb210		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

本科目は学科専門科目（必修科目）である。幼稚園・保育所・児童発達支援事業等に在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等による、特別の支援を必要とする幼児が、集団の中であって自分らしく生活する過程で、「生きる力の基礎を培う」体験を積み重ねて全体的に発達するために、保育者としての必要な知識を身に付け、子ども理解と援助の方法を学ぶ。

科目の概要

障害児保育の歴史を把握し、特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達について理解し、映像や事例によって、障害のある子どもへの具体的な理解や援助について構想する。さらに、インクルーシブ教育・保育についての知識を身に付け、全ての子どもを包み込む教育・保育の方法や援助のあり方、同僚や家族との協力関係等について深く学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性、心身の発達について基礎的な知識を身に付ける
2. 人間関係や生活上の困難について理解し、特別な配慮や援助の方法を映像や事例を通して構想する
3. 障害の有無、障害の種別や程度や年齢に関係なく、どの子どもも集団の中で楽しく自分らしく伸び 伸びと過ごすための遊びや生活を構想し、一人ひとりの発達課題に即した援助の方法を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	障害児保育とは1	子どもとはどういう存在か	障害とは何か
2	障害児保育とは2	子どもを1個の主体として受け止めることの意義	
3	障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助1		
4	障害のある子どもが遊びを軸に集団の中で自分らしく生きることを支える保育者の援助2		
5	障害のある子どもの理解と保育実践：視覚障害		
6	障害のある子どもの理解と保育実践：聴覚障害		
7	障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）1		

8	障害のある子どもの理解と保育実践：運動障害（肢体不自由）2
9	障害のある子どもの理解と保育実践：知的障害
10	障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症 1
11	障害のある子どもの理解と保育実践：自閉症 2
12	障害のある子どもの理解と保育実践：発達障害
13	インクルーシブ保育とは 1
14	インクルーシブ保育とは 2
15	障害児保育の制度と変遷

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回の授業に関連する教科書の部分や資料を熟読し、大事なところに下線を引くなどして授業に備える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加態度（30点）授業時の小レポート（20点）期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障害児保育		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAb310		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元児童発達支援センターの相談員と支援員として、保育・教育現場の実践経験を踏まえ、障害児の理解及び支援について講義・演習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「保育の内容・方法」に位置づく科目で、保育士資格取得の必修科目である。2年次開講の障害児保育 の学びを踏まえ、更に実践的に学びを深める科目に位置づく。

科目の概要

- 1．障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
- 2．個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
- 3．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
- 4．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
- 5．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

授業の方法（ALを含む）

適宜映像や事例を取り入れながらグループディスカッションを多く取り入れながら演習の授業を行う。

授業後は毎回リアクションペーパーを記入し、次の授業でリアクションペーパーを踏まえて振り返りを行う。【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1．障害のある子ども理解の基礎的知識や態度を学習し、障害のある子ども理解の具体的な方法を習得することができる。
- 2．障害のある子どもの支援、保育の展開について実際の具体的な事例を通して習得することができる。
- 3．支援計画、諸機関との連携及び保護者支援についての知識を習得し、実践につなげることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育実践
- 2成長発達の支援、積極性

内容

1	生命の尊さ-障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
2	「障害」とは何か、もう一度考えてみよう【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
3	歴史から見る障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
4	関係性の中で育む子どもの力【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
5	ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
6	知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
7	落ち着きがないと言われている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
8	身体の発達に悩みを抱えている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
9	人とのかかわりに悩みを抱えている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
10	情報統制が難しい子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
11	集団保育の中での子ども同士のかかわりと育ち合い【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
12	保護者や家族に対する理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
13	地域おける諸機関との連携による支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
14	個別支援計画を立てよう【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
15	まとめ【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】

60分ほどの時間を利用し、テキストの該当部分の内容を読んで予習をする。また事前配布の資料を読んでくる。

【事後学修】

60分ほどの時間を利用して授業で学んだことを復習する。

評価方法および評価の基準

【評価方法および評価基準】

授業の参加状況（20点）と授業内外の課題の取り組み状況（20点）、最終課題（60点）を加味し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

十分予習を行う上で授業に臨むことを求める。

授業ではグループディスカッションを多く行う。グループディスカッションに積極的に参加しながら学び合うことを求める

。

科目名	障害児保育		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAb310		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元児童発達支援センターの相談員と支援員として、保育・教育現場の実践経験を踏まえ、障害児の理解及び支援について講義・演習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「保育の内容・方法」に位置づく科目で、保育士資格取得の必修科目である。2年次開講の障害児保育 の学びを踏まえ、更に実践的に学びを深める科目に位置づく。

科目の概要

- 1．障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
- 2．個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
- 3．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
- 4．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
- 5．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

授業の方法（ALを含む）

適宜映像や事例を取り入れながらグループディスカッションを多く取り入れながら演習の授業を行う。

授業後は毎回リアクションペーパーを記入し、次の授業でリアクションペーパーを踏まえて振り返りを行う。【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1．障害のある子ども理解の基礎的知識や態度を学習し、障害のある子ども理解の具体的な方法を習得することができる。
- 2．障害のある子どもの支援、保育の展開について実際の具体的な事例を通して習得することができる。
- 3．支援計画、諸機関との連携及び保護者支援についての知識を習得し、実践につなげることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育実践
- 2成長発達の支援、積極性

内容	
1	生命の尊さ-障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
2	「障害」とは何か、もう一度考えてみよう【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
3	歴史から見る障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
4	関係性の中で育む子どもの力【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
5	ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
6	知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
7	落ち着きがないと言われている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
8	身体の発達に悩みを抱えている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
9	人とのかわりに悩みを抱えている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
10	情報統制が難しい子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
11	集団保育の中での子ども同士のかかわりと育ち合い【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
12	保護者や家族に対する理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
13	地域おける諸機関との連携による支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
14	個別支援計画を立てよう【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
15	まとめ【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】

60分ほどの時間を利用し、テキストの該当部分の内容を読んで予習をする。また事前配布の資料を読んでくる。

【事後学修】

60分ほどの時間を利用して授業で学んだことを復習する。

評価方法および評価の基準

【評価方法および評価基準】

授業の参加状況（20点）と授業内外の課題の取り組み状況（20点）、最終課題（60点）を加味し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

十分予習を行う上で授業に臨むことを求める。

授業ではグループディスカッションを多く行う。グループディスカッションに積極的に参加しながら学び合うことを求める。

科目名	障害児保育		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAb310		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元児童発達支援センターの相談員と支援員として、保育・教育現場の実践経験を踏まえ、障害児の理解及び支援について講義・演習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「保育の内容・方法」に位置づく科目で、保育士資格取得の必修科目である。2年次開講の障害児保育 の学びを踏まえ、更に実践的に学びを深める科目に位置づく。

科目の概要

1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

授業の方法（ALを含む）

適宜映像や事例を取り入れながらグループディスカッションを多く取り入れながら演習の授業を行う。

授業後は毎回リアクションペーパーを記入し、次の授業でリアクションペーパーを踏まえて振り返りを行う。【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 障害のある子ども理解の基礎的知識や態度を学習し、障害のある子ども理解の具体的な方法を習得することができる。
2. 障害のある子どもの支援、保育の展開について実際の具体的な事例を通して習得することができる。
3. 支援計画、諸機関との連携及び保護者支援についての知識を習得し、実践につなげることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育実践
- 2成長発達の支援、積極性

内容	
1	生命の尊さ-障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
2	「障害」とは何か、もう一度考えてみよう【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
3	歴史から見る障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
4	関係性の中で育む子どもの力【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
5	ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
6	知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
7	落ち着きがないと言われている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
8	身体の発達に悩みを抱えている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
9	人とのかわりに悩みを抱えている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
10	情報統制が難しい子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
11	集団保育の中での子ども同士のかかわりと育ち合い【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
12	保護者や家族に対する理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
13	地域おける諸機関との連携による支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
14	個別支援計画を立てよう【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
15	まとめ【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】

60分ほどの時間を利用し、テキストの該当部分の内容を読んで予習をする。また事前配布の資料を読んでくる。

【事後学修】

60分ほどの時間を利用して授業で学んだことを復習する。

評価方法および評価の基準

【評価方法および評価基準】

授業の参加状況（20点）と授業内外の課題の取り組み状況（20点）、最終課題（60点）を加味し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

十分予習を行う上で授業に臨むことを求める。

授業ではグループディスカッションを多く行う。グループディスカッションに積極的に参加しながら学び合うことを求める。

科目名	障害児保育		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAb310		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元児童発達支援センターの相談員と支援員として、保育・教育現場の実践経験を踏まえ、障害児の理解及び支援について講義・演習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「保育の内容・方法」に位置づく科目で、保育士資格取得の必修科目である。2年次開講の障害児保育 の学びを踏まえ、更に実践的に学びを深める科目に位置づく。

科目の概要

- 1．障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
- 2．個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
- 3．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
- 4．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
- 5．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

授業の方法（ALを含む）

適宜映像や事例を取り入れながらグループディスカッションを多く取り入れながら演習の授業を行う。

授業後は毎回リアクションペーパーを記入し、次の授業でリアクションペーパーを踏まえて振り返りを行う。【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1．障害のある子ども理解の基礎的知識や態度を学習し、障害のある子ども理解の具体的な方法を習得することができる。
- 2．障害のある子どもの支援、保育の展開について実際の具体的な事例を通して習得することができる。
- 3．支援計画、諸機関との連携及び保護者支援についての知識を習得し、実践につなげることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育実践
- 2成長発達の支援、積極性

内容	
1	生命の尊さ-障害児保育の出発点と私たちが現場で出会う障害のある子どもたち【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
2	「障害」とは何か、もう一度考えてみよう【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
3	歴史から見る障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
4	関係性の中で育む子どもの力【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
5	ことばの育ちに難しさのある子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
6	知的な育ちに遅れのある子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
7	落ち着きがないと言われている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
8	身体の発達に悩みを抱えている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
9	人とのかわりに悩みを抱えている子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
10	情報統制が難しい子どもの理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
11	集団保育の中での子ども同士のかかわりと育ち合い【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
12	保護者や家族に対する理解と支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
13	地域おける諸機関との連携による支援【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
14	個別支援計画を立てよう【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
15	まとめ【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】

60分ほどの時間を利用し、テキストの該当部分の内容を読んで予習をする。また事前配布の資料を読んでくる。

【事後学修】

60分ほどの時間を利用して授業で学んだことを復習する。

評価方法および評価の基準

【評価方法および評価基準】

授業の参加状況（20点）と授業内外の課題の取り組み状況（20点）、最終課題（60点）を加味し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

授業時に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

十分予習を行う上で授業に臨むことを求める。

授業ではグループディスカッションを多く行う。グループディスカッションに積極的に参加しながら学び合うことを求める。

科目名	保育・教育課程論		
担当教員名	桶田 ゆかり、金 允貞		
ナンバリング	KAb311		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園担任・管理職として教育課程・指導計画を作成してきた経験をもつ教員が担当し、考え方や構成について具体的に例を示しながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目「保育と教育」の選択科目であるが、幼稚園教諭一種免許状や保育士資格取得の必須科目である。保育・教育課程の編成と指導計画作成の意義、作成方法を理解し、保育を展開する際の基本的な知識と技能を学修する。3年生前期科目の「保育実習総論」、幼稚園教育実習(前期)・保育所保育所実習 の実際の場での指導計画作成、後期科目「保育実践論」での教材研究や指導計画作成につながる内容である。

科目の概要

本科目では、保育・教育課程の編成と指導計画作成の意義を様々な角度から学ぶ。講義と演習により、理論とそれを具体的に実践に移す方法を学び、指導計画の作成を試みながら、保育における計画、実践、省察・評価、改善のサイクルの過程を理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義による解説を中心とし、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行う。

【リアクションペーパー】【討議】【グループワーク】

到達目標

1. 保育・教育課程の編成や指導計画作成の意義を理解し、説明することができる。
2. 乳児・幼児の発達特徴を理解し、指導計画を作成することができる。
3. 保育における計画、実践、省察・評価、改善のサイクルを理解し、指導計画作成に生かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 3 保育内容・指導法
- 4 指導計画作成・実践

内容

この授業は、講義を中心に、演習(個人・グループワーク)を取り入れる。リアクションペーパーは毎回記入し、次の授業で活用して学びを深めていく。

1	オリエンテーション 保育・幼児教育の基本と保育・教育課程の意義 [桶田]
2	保育・教育課程編成の基本原理及び指導計画作成の目的【リアクションペーパー】 [桶田]
3	幼稚園教育要領と保育所保育指針の性格や位置付け及び改訂の変遷とその社会的背景【リアクションペーパー】 [桶田]
4	幼稚園の理解に基づく指導計画の実際【リアクションペーパー】 [桶田]
5	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の理解に基づく保育課程の編成と指導計画の実際【リアクションペーパー】 [金]
6	指導計画(長期的・短期的)の作成の基本とその方法【リアクションペーパー】 [桶田]
7	幼児の特徴と指導計画の実際【リアクションペーパー】 [桶田]
8	保育における計画、実践、省察・評価、改善の一連のサイクル【リアクションペーパー】 [桶田]
9	演習(1) 個人による幼稚園・保育所の部分指導計画の作成【リアクションペーパー】 [桶田]
10	認定こども園の理解に基づく教育・保育課程の編成と指導計画の実際【リアクションペーパー】 [金]
11	演習(2) 乳児の特徴と指導計画の実際【リアクションペーパー】 [金]
12	個人作成の部分指導計画案の評価と改善【討議】【リアクションペーパー】 [桶田]
13	演習(3) 幼稚園・保育所の全日指導計画の作成【グループワーク】【リアクションペーパー】 [桶田]
14	演習(4) 全日指導計画のグループ発表及び評価と改善に関するディスカッション【グループワーク】【リアクションペーパー】 [桶田]
15	カリキュラム・マネジメントの意義 授業の振り返り [桶田]

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のテーマについて調べ、知りたいことや疑問を含めまとめて授業に出席する。(各授業30分程度)

【事後学修】教科書、教員からの授業ノート、配布資料を読み返し、指導計画作成の要素・過程についての理解を深める。(各授業60分程度)

評価方法および評価の基準

授業への出席態度・授業内でのグループワーク・リアクションペーパーへの記載(20%)、4回の演習で作成した指導計画(80%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.出席態度・グループワーク・リアクションペーパー(10%/20%)、指導計画の作成・提出(10%/80%)

到達目標2.出席態度・指導計画の作成・提出(40%/80%)

到達目標3.出席態度・グループワーク・リアクションペーパー(10%/20%)、指導計画の作成・提出(30%/80%)

【フィードバック】

リアクションペーパーを活用し、授業の最初に前回の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。課題(指導計画)はコメントを付け、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館

【参考図書】文部科学省 幼稚園教育要領解説書 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育・教育課程論		
担当教員名	桶田 ゆかり、金 允貞		
ナンバリング	KAb311		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園担任・管理職として教育課程・指導計画を作成してきた経験をもつ教員が担当し、考え方や構成について具体的に例を示しながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目「保育と教育」の選択科目であるが、幼稚園教諭一種免許状や保育士資格取得の必須科目である。保育・教育課程の編成と指導計画作成の意義、作成方法を理解し、保育を展開する際の基本的な知識と技能を学修する。3年生前期科目の「保育実習総論」、幼稚園教育実習(前期)・保育所保育所実習 の実際の場での指導計画作成、後期科目「保育実践論」での教材研究や指導計画作成につながる内容である。

科目の概要

本科目では、保育・教育課程の編成と指導計画作成の意義を様々な角度から学ぶ。講義と演習により、理論とそれを具体的に実践に移す方法を学び、指導計画の作成を試みながら、保育における計画、実践、省察・評価、改善のサイクルの過程を理解する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は、講義による解説を中心とし、グループによるディスカッションを取り入れた授業を行う。

【リアクションペーパー】【討議】【グループワーク】

到達目標

1. 保育・教育課程の編成や指導計画作成の意義を理解し、説明することができる。
2. 乳児・幼児の発達特徴を理解し、指導計画を作成することができる。
3. 保育における計画、実践、省察・評価、改善のサイクルを理解し、指導計画作成に生かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 3 保育内容・指導法
- 4 指導計画作成・実践

内容

この授業は、講義を中心に、演習(個人・グループワーク)を取り入れる。リアクションペーパーは毎回記入し、次の授業で活用して学びを深めていく。

1	オリエンテーション 保育・幼児教育の基本と保育・教育課程の意義 [桶田]
2	保育・教育課程編成の基本原理及び指導計画作成の目的【リアクションペーパー】 [桶田]
3	幼稚園教育要領と保育所保育指針の性格や位置付け及び改訂の変遷とその社会的背景【リアクションペーパー】 [桶田]
4	幼稚園の理解に基づく指導計画の実際【リアクションペーパー】 [桶田]
5	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の理解に基づく保育課程の編成と指導計画の実際【リアクションペーパー】 [金]
6	指導計画(長期的・短期的)の作成の基本とその方法【リアクションペーパー】 [桶田]
7	幼児の特徴と指導計画の実際【リアクションペーパー】 [桶田]
8	保育における計画、実践、省察・評価、改善の一連のサイクル【リアクションペーパー】 [桶田]
9	演習(1) 個人による幼稚園・保育所の部分指導計画の作成【リアクションペーパー】 [桶田]
10	認定こども園の理解に基づく教育・保育課程の編成と指導計画の実際【リアクションペーパー】 [金]
11	演習(2) 乳児の特徴と指導計画の実際【リアクションペーパー】 [金]
12	個人作成の部分指導計画案の評価と改善【討議】【リアクションペーパー】 [桶田]
13	演習(3) 幼稚園・保育所の全日指導計画の作成【グループワーク】【リアクションペーパー】 [桶田]
14	演習(4) 全日指導計画のグループ発表及び評価と改善に関するディスカッション【グループワーク】【リアクションペーパー】 [桶田]
15	カリキュラム・マネジメントの意義 授業の振り返り [桶田]

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のテーマについて調べ、知りたいことや疑問を含めまとめて授業に出席する。(各授業30分程度)

【事後学修】教科書、教員からの授業ノート、配布資料を読み返し、指導計画作成の要素・過程についての理解を深める。(各授業60分程度)

評価方法および評価の基準

授業への出席態度・授業内でのグループワーク・リアクションペーパーへの記載(20%)、4回の演習で作成した指導計画(80%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.出席態度・グループワーク・リアクションペーパー(10%/20%)、指導計画の作成・提出(10%/80%)

到達目標2.出席態度・指導計画の作成・提出(40%/80%)

到達目標3.出席態度・グループワーク・リアクションペーパー(10%/20%)、指導計画の作成・提出(30%/80%)

【フィードバック】

リアクションペーパーを活用し、授業の最初に前回の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。課題(指導計画)はコメントを付け、翌週以降の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館

【参考図書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説書 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

内閣府/文部科学省/厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育方法		
担当教員名	上垣内 伸子、桶田 ゆかり、曾野 麻紀、横井 紘子 他		
ナンバリング	KAB312		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と指導的立場での現任者研修指導や実習指導の実務経験のある教員は、その経験や知見を活かした授業を展開する。また、多様な専門性を有する外部講師は実践的な側面からの講義を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）であり、「保育と教育」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。3年前期までの「保育と教育」や「保育内容」に位置づけられる専門科目の学習内容を踏まえて、保育者としての思考力や判断力、表現力、および保育を実践する力を養い、実習へとつなげていくという性質をもつ。

科目の概要

乳幼児期の子どもにとってふさわしい生活、環境、遊び、幼児理解に基づいた関わり方など、保育方法の基礎を学んだ上で、現場の保育者の保育に対する考え方や日々の保育実践、行事などの取り組みを直に聞く機会を持つ。現場の新鮮な話題や、多様な保育方法の実際や日常を具体的に知ることによって、現場を身近に感じ、自分が実践していくことを思い描いて保育方法を選択していくことの重要性に対する理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

複数の教員と外部講師によるオムニバス形式の授業である。毎回のテーマに沿った課題が出される。授業への参加方法も異なっている。講義、映像による学習、グループディスカッション、現場の先生方との対話、実技など、多様な方法で授業は展開される。

【リアクションペーパー】【実技】【レポート（知識）】【討議・討論】【レポート（表現）】

到達目標

1. 幼児の生活や遊びの実態に即して、一人ひとりの発達特性（見方、考え方、感じ方、関わり方など）を理解し、一人ひとりに合わせた指導の方法を考え、説明することができる。
2. 多様な保育方法の理論と実際を知り、それを応用して一人ひとりに合わせた保育方法を考え、説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育内容・指導法 -3保育者としての思考力・判断力 -4保育者としての感性

内容

この授業は、講義を基本とするが、保育実践者や保育関係者による講義やワークショップを取り入れたり、実際の保育事例を示しながら展開し、各自が、これまでに自身の保育実践をふり返りながら、当事者性をもって、受講する仲間との意見交換などを通して、保育理解を深めていく。

毎回【リアクションペーパー】

1	フーグ 子どもにとって集団で過ごすということは...入園期の子どもたち/1学期の姿から (横井)
2	DVD「あそんでぼくらは人間になる」鑑賞～子どもにとって遊びとは～ (曾野)
3	映像から感じ取る 子どもの心 保育者の思い (山田) 【討議・討論】
4	DVD「4歳児のヒミツ」鑑賞～子どもを知ろう～ (桶田)
5	生活とのつながりの中できらりと光る行事・生活発表会、誕生会など (山田)
6	学びのめばえを育てる～0, 1, 2歳児の保育で大切にしたいこと～ (金/上垣内)
7	折り紙から演劇への試み～ ワークショップ: 劇的空間のつくり方の話 等 (曾野) 【実技】
8	子どもの遊びを引き出す保育者の援助～体を動かす遊びから～ (須田) 【実技】
9	ESDの観点から保育を考える (上垣内)
10	附属幼稚園の先生のお話 (3歳児担任) (上垣内) 【討議・討論】
11	附属幼稚園の先生のお話 (4歳児担任) (横井) 【討議・討論】
12	附属幼稚園の先生のお話 (5歳児担任) (桶田) 【討議・討論】
13	附属幼稚園の先生 3年間の子どもの育ちと幼稚園の役割 ほか (曾野/金) 【討議・討論】
14	実習を受け入れてくれる園側に立って考える (桶田)
15	まとめ (横井/金) 【レポート(知識)】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1時間程度。保育内容の指導法等の保育関連科目で学んだことを復習しておく。毎回のテーマに沿って、これまでの実習や自分の子ども時代の保育体験を思い出したり話し合ったりしておく。

【事後学修】1時間程度。授業を振り返り、資料などをもう一度読み返して、保育者としての自分の在り方について、様々な視点から考えてみる。各回に出された課題の作成。

評価方法および評価の基準

各授業の終わりの小レポートや提出課題(50%)、まとめのレポート(50%)により評価を行い、60点以上を合格とする。

到達目標1および2ともに、各授業での課題(25%/50%)、まとめのレポート(25%/50%)である。

【フィードバック】提出されたレポートは、翌週以降の授業内でコメントして返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、毎回の授業内容に応じて資料を配布するので、各自がファイリングしておく。

(参考図書)『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成30年3月刊行,フレーベル館)。それ以外の書籍は授業時に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KAb213		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。幼稚園教諭を目指す学生のための教職教養科目

科目の概要

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

授業の方法（ALを含む）

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

「教育の目的の応じた教育方法の違いがわかる」「幼稚園教育要領における学習のねらいがわかる」「授業設計の手法がわかる」

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-2保育理論の理解 -3保育内容・指導法

内容

この授業は、講義を基本として、グループワークを取り入れながら進める

1	1. 教育の目的と方法（ガイダンス）
2	2. 教育方法の基礎理論
3	3. 幼児教育思想の展開
4	4. 問題解決学習の方法
5	5. 幼稚園教育・保育方法の歴史
6	6. 幼稚園教育要領・保育所指針改定のポイント
7	7. 育ってほしい10の姿

8	8．指導方法の工夫（グループワーク）
9	9．環境による保育
10	10．幼児の主体的な活動と環境の構成
11	11．幼児の生活と遊びの充実
12	12．保育方法と形態
13	13．幼児教育におけるICT活用
14	14．幼小接続とスタートカリキュラム
15	15．多文化社会への対応・まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る（60分）

【事後学修】授業で学んだ内容のうち、キーワードにあたるものを選びなぜそれがキーワードになるのかをノートに記載する（60分）

評価方法および評価の基準

1 授業ごとの課題提出（30％）

2 最終試験の達成度（70％）

とし、総合評価60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼児教育の方法』小田 豊、青井倫子 編著（北大路書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KAb213		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。幼稚園教諭を目指す学生のための教職教養科目

科目の概要

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

授業の方法（ALを含む）

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

「教育の目的の応じた教育方法の違いがわかる」「幼稚園教育要領における学習のねらいがわかる」「授業設計の手法がわかる」

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-2保育理論の理解 -3保育内容・指導法

内容

この授業は、講義を基本として、グループワークを取り入れながら進める

1	1. 教育の目的と方法（ガイダンス）
2	2. 教育方法の基礎理論
3	3. 幼児教育思想の展開
4	4. 問題解決学習の方法
5	5. 幼稚園教育・保育方法の歴史
6	6. 幼稚園教育要領・保育所指針改定のポイント
7	7. 育ってほしい10の姿

8	8．指導方法の工夫（グループワーク）
9	9．環境による保育
10	10．幼児の主体的な活動と環境の構成
11	11．幼児の生活と遊びの充実
12	12．保育方法と形態
13	13．幼児教育におけるICT活用
14	14．幼小接続とスタートカリキュラム
15	15．多文化社会への対応・まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る（60分）

【事後学修】授業で学んだ内容のうち、キーワードにあたるものを選びなぜそれがキーワードになるのかをノートに記載する（60分）

評価方法および評価の基準

1 授業ごとの課題提出（30％）

2 最終試験の達成度（70％）

とし、総合評価60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼児教育の方法』小田 豊、青井倫子 編著（北大路書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	乳児保育		
担当教員名	寒河江 芳枝		
ナンバリング	KAb214		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科専門科目「保育と教育」の領域にあり、選択科目である。0歳児から3歳未満児の発達と保育について学び、乳児保育の専門性を高める。

科目の概要

乳児の具体的な姿を想像しながら学べるように、映像やエピソードなどを使用し、実践的な講義を行う。

授業の方法 (ALを含む)

乳児保育の基礎的な知識の解説をすると共に、学生たちの理解を深めるために意見交換をする。

到達目標

- ・乳児保育の理念と歴史的変遷について説明できる。
- ・3歳未満児の発達を踏まえた上で保育内容を理解できる。
- ・指導計画等の内容を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育者としての思考力・判断力
- 2成長発達の支援、積極性

内容

1	オリエンテーション 乳児保育 とは
2	乳児保育の理念と歴史的変遷
3	乳児保育の基礎知識
4	0歳児の発達と保育 新生児
5	0歳児の発達と保育
6	0歳児の発達と保育
7	1歳児の発達と保育
8	1歳児の発達と保育
9	2歳児の発達と保育

10	2歳児の発達と保育
11	乳児保育の場（保育所、乳児院、家庭的保育等）
12	乳児保育における計画・記録・評価について
13	乳児保育における保護者とのかかわり
14	乳児保育の現状と課題
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】講義の内容に該当する箇所を読んでおく。1回目は、テキストp8～13を読んでおく。2回目からの内容は、前授業の最後に伝えると共にテキストの該当箇所も指示する。また、分からない点については、A4用紙1枚程度にまとめておく。（90分）

【事後学習】配布された資料と共に理解を深め、明らかになった点も含めA4用紙2枚程度にまとめる。（60分）

評価方法および評価の基準

乳児保育の理念と歴史的変遷について説明できる。（授業への参加度及びレポート10%、筆記試験15%） 3歳未満児の発達を踏まえた上で保育内容を理解できる。（授業への参加度及びレポート10%、筆記試験40%） 指導計画等の内容を理解できる。（授業への参加度及びレポート10%、筆記試験15%）

よって、授業への参加度及びレポート30%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

松本峰雄監修「乳児保育演習ブック第2版」ミネルヴァ書房

【参考図書】

厚生労働省編「保育所保育指針解説」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

乳児とかかわる上での知識を身に付けてほしいです。

科目名	乳児保育		
担当教員名	寒河江 芳枝		
ナンバリング	KAb214		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科専門科目「保育と教育」の領域にあり、選択科目である。0歳児から3歳未満児の発達と保育について学び、乳児保育の専門性を高める。

科目の概要

乳児の具体的な姿を想像しながら学べるように、映像やエピソードなどを使用し、実践的な講義を行う。

授業の方法（ALを含む）

乳児保育の基礎的な知識の解説をすると共に、学生たちの理解を深めるために意見交換をする。

到達目標

- ・乳児保育の理念と歴史的変遷について説明できる。
- ・3歳未満児の発達を踏まえた上で保育内容を理解できる。
- ・指導計画等の内容を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育者としての思考力・判断力
- 2成長発達の支援、積極性

内容

1	オリエンテーション 乳児保育 とは
2	乳児保育の理念と歴史的変遷
3	乳児保育の基礎知識
4	0歳児の発達と保育 新生児
5	0歳児の発達と保育
6	0歳児の発達と保育
7	1歳児の発達と保育
8	1歳児の発達と保育
9	2歳児の発達と保育

10	2歳児の発達と保育
11	乳児保育の場（保育所、乳児院、家庭的保育等）
12	乳児保育における計画・記録・評価について
13	乳児保育における保護者とのかかわり
14	乳児保育の現状と課題
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】講義の内容に該当する箇所を読んでおく。1回目は、テキストp8～13を読んでおく。2回目からの内容は、前授業の最後に伝えると共にテキストの該当箇所も指示する。また、分からない点については、A4用紙1枚程度にまとめておく。（90分）

【事後学習】配布された資料と共に理解を深め、明らかになった点も含めA4用紙2枚程度にまとめる。（60分）

評価方法および評価の基準

乳児保育の理念と歴史的変遷について説明できる。（授業への参加度及びレポート10%、筆記試験15%） 3歳未満児の発達を踏まえた上で保育内容を理解できる。（授業への参加度及びレポート10%、筆記試験40%） 指導計画等の内容を理解できる。（授業への参加度及びレポート10%、筆記試験15%）

よって、授業への参加度及びレポート30%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

松本峰雄監修「乳児保育演習ブック第2版」ミネルヴァ書房

【参考図書】

厚生労働省編「保育所保育指針解説」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

乳児とかかわる上での知識を身に付けてほしいです。

科目名	乳児保育		
担当教員名	寒河江 芳枝		
ナンバリング	KAb314		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目「保育と教育」の領域にあり、選択科目である。0歳児から3歳児未満の発達や保育者対応を理解することにより、保育者としての適切な判断を行えるようにする。このことから自らの問題意識を持ち、それに取り組むようにする。

科目の概要

乳児保育 で得た学びを基に、0歳児から3歳未満児の知識や技術をさらに深め、実践力を養うための科目をである。

授業の方法（ALを含む）

本授業は、学生が主体となり授業が行われるようにするため、学生たちが積極的に意見交換をし、より実践的な保育体験を行うことを目指す。

到達目標

- ・乳児保育を担当する保育者としての知識と技術を習得することができる。
- ・演習を通じて3歳未満の実践力を養うことができる。
- ・乳児保育における指導計画を作成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3保育内容・指導法 - 4指導計画作成・実践 - 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

グループワーク。ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション 乳児保育 とは
2	子どもの自立に向けた園（家庭）での生活習慣づくり
3	運動機能と手指操作の発達
4	心の育ちとかかわり
5	心の育ちとかかわり
6	職員間・地域の関係機関との連携
7	0歳児～1歳児の保育と計画

8	1歳児～2歳児の保育と計画
9	2歳児～3歳児の保育と計画
10	乳児保育の指導計画作成
11	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
12	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
13	模擬保育 グループ活動
14	模擬保育 グループ活動
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回の授業は、乳児保育 を復習し授業に出席する。2回目からの内容は、前授業の最後に伝えると共に、テキストの該当箇所を指示したり、配布された資料を読んでおくこと。また、分からない点については、A4用紙1枚程度にまとめておく。(90分)

【事後学習】配布された資料と共に理解を深め、明らかになった点も含めA4用紙2枚程度にまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

乳児保育を担当する保育者としての知識と技術を習得することができる。(授業への参加態度及びミニレポート10%、レポート15%) 演習を通じて3歳未満の実践力を養うことができる。(授業への参加態度及びミニレポート10%、レポート15%) 乳児保育における指導計画を作成できる。(授業への参加態度及びミニレポート10%レポート、レポート40%)

よって、授業への参加態度及びミニレポート30%、レポート70%により評価する。総合点60%以上を合格とする。なお、合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

プリントを配布する

【参考図書】

今井和子監修「育ちの理解と指導計画 改訂版」小学館

厚生労働省編「保育所保育指針解説」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

乳児保育 で得た知識を活かし、乳児への理解を深めましょう。

科目名	乳児保育		
担当教員名	寒河江 芳枝		
ナンバリング	KAb314		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目「保育と教育」の領域にあり、選択科目である。0歳児から3歳児未満の発達や保育者対応を理解することにより、保育者としての適切な判断を行えるようにする。このことから自らの問題意識を持ち、それに取り組むようにする。

科目の概要

乳児保育 得た学びを基に、0歳児から3歳未満児の知識や技術をさらに深め、実践力を養うための科目をである。

授業の方法（ALを含む）

本授業は、学生が主体となり授業が行われるようにするため、学生たちが積極的に意見交換をし、より実践的な保育体験を行うことを目指す。

到達目標

- ・乳児保育を担当する保育者としての知識と技術を習得することができる。
- ・演習を通じて3歳未満の実践力を養うことができる。
- ・乳児保育における指導計画を作成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3保育内容・指導法 - 4指導計画作成・実践 - 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

グループワーク。ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション 乳児保育 とは
2	子どもの自立に向けた園（家庭）での生活習慣づくり
3	運動機能と手指操作の発達
4	心の育ちとかかわり
5	心の育ちとかかわり
6	職員間・地域の関係機関との連携
7	0歳児～1歳児の保育と計画

8	1歳児～2歳児の保育と計画
9	2歳児～3歳児の保育と計画
10	乳児保育の指導計画作成
11	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
12	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
13	模擬保育 グループ活動
14	模擬保育 グループ活動
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回の授業は、乳児保育 を復習し授業に出席する。2回目からの内容は、前授業の最後に伝えると共に、テキストの該当箇所を指示したり、配布された資料を読んでおくこと。また、分からない点については、A4用紙1枚程度にまとめておく。(90分)

【事後学習】配布された資料と共に理解を深め、明らかになった点も含めA4用紙2枚程度にまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

乳児保育を担当する保育者としての知識と技術を習得することができる。(授業への参加態度及びミニレポート10%、レポート15%) 演習を通じて3歳未満の実践力を養うことができる。(授業への参加態度及びミニレポート10%、レポート15%) 乳児保育における指導計画を作成できる。(授業への参加態度及びミニレポート10%レポート、レポート40%)

よって、授業への参加態度及びミニレポート30%、レポート70%により評価する。総合点60%以上を合格とする。なお、合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

プリントを配布する

【参考図書】

今井和子監修「育ちの理解と指導計画 改訂版」小学館

厚生労働省編「保育所保育指針解説」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

乳児保育 で得た知識を活かし、乳児への理解を深めましょう。

科目名	乳児保育		
担当教員名	寒河江 芳枝		
ナンバリング	KAb314		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目「保育と教育」の領域にあり、選択科目である。0歳児から3歳児未満の発達や保育者対応を理解することにより、保育者としての適切な判断を行えるようにする。このことから自らの問題意識を持ち、それに取り組むようにする。

科目の概要

乳児保育 で得た学びを基に、0歳児から3歳未満児の知識や技術をさらに深め、実践力を養うための科目をである。

授業の方法（ALを含む）

本授業は、学生が主体となり授業が行われるようにするため、学生たちが積極的に意見交換をし、より実践的な保育体験を行うことを目指す。

到達目標

- ・乳児保育を担当する保育者としての知識と技術を習得することができる。
- ・演習を通じて3歳未満の実践力を養うことができる。
- ・乳児保育における指導計画を作成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3保育内容・指導法 - 4指導計画作成・実践 - 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

グループワーク。ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション 乳児保育 とは
2	子どもの自立に向けた園（家庭）での生活習慣づくり
3	運動機能と手指操作の発達
4	心の育ちとかかわり
5	心の育ちとかかわり
6	職員間・地域の関係機関との連携
7	0歳児～1歳児の保育と計画

8	1歳児～2歳児の保育と計画
9	2歳児～3歳児の保育と計画
10	乳児保育の指導計画作成
11	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
12	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
13	模擬保育 グループ活動
14	模擬保育 グループ活動
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回の授業は、乳児保育 を復習し授業に出席する。2回目からの内容は、前授業の最後に伝えると共に、テキストの該当箇所を指示したり、配布された資料を読んでおくこと。また、分からない点については、A4用紙1枚程度にまとめておく。(90分)

【事後学習】配布された資料と共に理解を深め、明らかになった点も含めA4用紙2枚程度にまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

乳児保育を担当する保育者としての知識と技術を習得することができる。(授業への参加態度及びミニレポート10%、レポート15%) 演習を通じて3歳未満の実践力を養うことができる。(授業への参加態度及びミニレポート10%、レポート15%) 乳児保育における指導計画を作成できる。(授業への参加態度及びミニレポート10%レポート、レポート40%)

よって、授業への参加態度及びミニレポート30%、レポート70%により評価する。総合点60%以上を合格とする。なお、合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

プリントを配布する

【参考図書】

今井和子監修「育ちの理解と指導計画 改訂版」小学館

厚生労働省編「保育所保育指針解説」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

乳児保育 で得た知識を活かし、乳児への理解を深めましょう。

科目名	乳児保育		
担当教員名	寒河江 芳枝		
ナンバリング	KAb314		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目「保育と教育」の領域にあり、選択科目である。0歳児から3歳児未満の発達や保育者対応を理解することにより、保育者としての適切な判断を行えるようにする。このことから自らの問題意識を持ち、それに取り組むようにする。

科目の概要

乳児保育 で得た学びを基に、0歳児から3歳未満児の知識や技術をさらに深め、実践力を養うための科目をである。

授業の方法（ALを含む）

本授業は、学生が主体となり授業が行われるようにするため、学生たちが積極的に意見交換をし、より実践的な保育体験を行うことを目指す。

到達目標

- ・乳児保育を担当する保育者としての知識と技術を習得することができる。
- ・演習を通じて3歳未満の実践力を養うことができる。
- ・乳児保育における指導計画を作成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 3保育内容・指導法 - 4指導計画作成・実践 - 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

グループワーク。ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション 乳児保育 とは
2	子どもの自立に向けた園（家庭）での生活習慣づくり
3	運動機能と手指操作の発達
4	心の育ちとかかわり
5	心の育ちとかかわり
6	職員間・地域の関係機関との連携
7	0歳児～1歳児の保育と計画

8	1歳児～2歳児の保育と計画
9	2歳児～3歳児の保育と計画
10	乳児保育の指導計画作成
11	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
12	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
13	模擬保育 グループ活動
14	模擬保育 グループ活動
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回の授業は、乳児保育 を復習し授業に出席する。2回目からの内容は、前授業の最後に伝えると共に、テキストの該当箇所を指示したり、配布された資料を読んでおくこと。また、分からない点については、A4用紙1枚程度にまとめておく。(90分)

【事後学習】配布された資料と共に理解を深め、明らかになった点も含めA4用紙2枚程度にまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

乳児保育を担当する保育者としての知識と技術を習得することができる。(授業への参加態度及びミニレポート10%、レポート15%) 演習を通じて3歳未満の実践力を養うことができる。(授業への参加態度及びミニレポート10%、レポート15%) 乳児保育における指導計画を作成できる。(授業への参加態度及びミニレポート10%レポート、レポート40%)

よって、授業への参加態度及びミニレポート30%、レポート70%により評価する。総合点60%以上を合格とする。なお、合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

プリントを配布する

【参考図書】

今井和子監修「育ちの理解と指導計画 改訂版」小学館

厚生労働省編「保育所保育指針解説」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

乳児保育 で得た知識を活かし、乳児への理解を深めましょう。

科目名	多文化保育論		
担当教員名	大和 洋子		
ナンバリング	KAb315		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目「保育と教育」の領域にある選択科目である。

近年日本において増えている、外国文化を背景に持つ家庭のこどもの保育を担当する際に気を付けるべきことを学ぶ。シラバスは予定であり、履修者のニーズや興味により、臨機応変に対応します。

科目の概要

日本の移民政策の歴史を追いながら、その変遷を学習し、近年の多文化の状況が起こっている背景を理解する。日本に住む外国人の中でも割合が多い、アジア諸地域の保育・幼児教育の実践ビデオを見て、共通点や違いを見つけ、その地域から日本に移住した家族が日本の就学前教育現場で体験するであろう問題、及びそのような子どもを受け入れた就学前施設側が直面するであろう困難点について話し合う。また、南米に出自がある子の場合にはどのような配慮が必要かを学習する。学生の興味ある世界の幼児教育について調べ学習をして発表する。他国の実践を知ることにより、日本が直面する課題を広い視野をもって理解する。

授業の方法 (ALを含む)

基本的に「講義」+「ペアワーク・ディスカッション」、映像がある場合には「映像」を鑑賞し、話し合いの時間をもちます。【ペアワーク・ディスカッション】【討議・討論】

到達目標

卒業後に教育現場に入ることを前提に、現場で直面するであろう多文化の背景を持つ子どもの受け入れに関する知識を学ぶと同時に、対処できる素地を作る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

基本的に、「講義」+「ペア/グループ/クラス・ディスカッション」の形式をとります。映像があるものに関しては、(必要に応じて「講義」)+「映像」+「ディスカッション」となります。

また、毎回授業の最後に一言フィードバックを提出してもらい、それに対して次週にフィードバックを返します。受け身的な授業ではないので、活発な参加を期待しています。

1	オリエンテーション：自己/他己紹介。授業参加者皆で日本人とは、文化とは何かを考える。
---	--

2	記録ドキュメンタリー『青い目、茶色い目』を鑑賞。なぜ「多文化共生」が必要なのか
3	日本の移民政策の歴史：移民送り出しの歴史、労働者としての移民受け入れ政策
4	日本在住の外国出自の人々：オールドカマーとニューカマー
5	アジアの就学前教育 中国・台湾（彼らが日本の園や学校に入ったら...）
6	アジアの就学前教育 日本・韓国（何がどう違う？）
7	アジアの就学前教育 シンガポール・香港（あなたは何語ができますか？）
8	世界の就学前教育と多文化（アメリカ・カナダ）多文化主義国家
9	世界の就学前教育と多文化（北欧）移民・難民の受け入れと課題
10	世界の就学前教育と多文化（ヨーロッパ）移民・難民受け入れの狭間
11	就学前教育とことばの問題
12	就学前教育と宗教：指導者として気を付けなければならないこと
13	就学前教育の国際比較＜保育者・教育者養成とカリキュラム＞
14	今日本で起きていること＜指導者として何ができるか＞
15	まとめ・総復習：「共生」の言葉の意味の再確認。総復習。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

実習に行った園や施設での体験を振り返っておく。発表の際にはリサーチをして発表資料を作成する。

【事後学習】毎回学習した内容を振り返り、復習する。

評価方法および評価の基準

授業中のプレゼン及びディスカッションの参加・態度（40％）と、課題レポート（60％）を総合的に評価して、総合評価60点以上を合格とする。課題レポートのフィードバックは、次週に授業がある場合には授業中に、授業がない場合は、各自にメールにて文章で通知します。

【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】泉 千勢・一見真理子・汐見稔幸編著『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店（2009年第2刷） 咲間 まり子 編『多文化保育・教育論』（株）みらい（2014年）ISBN:978-4-86015-319-9

【参考図書】OECD編著 星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳『OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店（2019年第4版） ISBN:978-4-7503

-3365-6 近藤敦著『多文化共生と人権：諸外国の「移民」と日本の「外国人」』明石書店（2019年）ISBN:978-4-7503-4805-6

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAb416		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

発達支援事業所にて保育士、臨床発達心理士として障害児保育のコンサルテーションと発達相談にかかわってきたという実務経験と、幼児教育研究会の指導者として保育者とともに現任者研修を行ったり保育実践研究を行ってきたという経験をもつ教員が担当し、理論と実践の双方の視点に立ち講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、「保育と教育」領域に位置づけられます。幼児教育学・保育学について追究し、保育理解の深化と専門性の向上を目指したい学生、これからの保育のあり方について広い見地から考えていきたい学生の履修を推奨します。ここでの学びが卒業研究に続いていきます。担当者が異なり、授業内容も別の視点から保育額に光を当てるものであるため、繰り返し受講可とします。

科目の概要

保育の基礎となる発達理論について、その概念を抑え、保育という窓からどのようにとらえられるのか、それら発達理論を踏まえて保育をどのように展開していくのかについて、これまで学習してきた保育の知識と実習体験を生かしながら考えていきます。

世界の主要な保育理論や保育実践に触れて、これからの保育のあり方、目指すものは何か考えていきます。

授業の方法 (ALを含む)

資料や映像等を用いて、具体的な保育実践を通して保育を考えていきたいと思えます。事例についてのディスカッションやレポート、附属幼稚園の観察と記録作成など、座学に留まらない学習を目指します。

【レポート(知識)】【討議・討論】【レポート(表現)】【ケースメソッド】【フィールドワーク】

到達目標

- 1.自分の保育実践を省察し子ども理解を深め、表現することが出来る。
- 2.保育者に求められる多様な役割を構造化してとらえ、説明することが出来る。
- 3.保育を支える主要な理論を理解し、説明することが出来る。
- 4.諸外国の保育についての知見を得て、比較・考察することができる。
- 5.自分の保育実践に新たな視点を加え、実践につなげることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2保育理論の理解 -3保育・教育に関する社会的事象への関心
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は、講義を基本とするが、多様な保育実践事例を紹介し、リアリティのある保育理解を目指す。模擬保育室を使つての環境構成、附属幼稚園の保育観察など、フィールドワークやグループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学習を深めていく。

1	Children Firstとは ESDについて考えよう 【討議・討論】
2	アフォーダンスの観点から保育の環境構成を考えよう アフォーダンスの概念
3	アフォーダンス 環境構成を保育実践を通して学ぶ；「環境を通しての保育」
4	アフォーダンス 実際に環境構成しながら考えてみよう 【ロールプレイ】【グループワーク】
5	遊びの援助（保育実践記録を読む/見る）【ケースメソッド】【討議・討論】
6	遊びの援助（保育実践記録を読む/見る）【ケースメソッド】【レポート（知識）】
7	心の理論と愛着形成の観点から保育援助について考える 理論編
8	心の理論と愛着形成の観点から保育援助について考える 保育実践記録を読む 【討議・討論】
9	心の理論と愛着形成の観点から保育援助について考える 特別な配慮を被梅雨とする子どもの保育事例から考える【討議・討論】
10	世界の保育 ニュージーランド（テファーリキ、ラーニング・ストーリー）
11	世界の保育 北欧（自然を基盤におく保育）
12	世界の保育 イタリア（アートと自然からなる保育）
13	附属幼稚園観察 【フィールドワーク】
14	倉橋惣三「幼稚園真諦」を読む
15	倉橋惣三「幼稚園真諦」を読む 【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】1時間程度。乳幼児の発達の復習、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の基本となる考えを確認しておく。前週に指示したテキストの指定箇所を読んでおく。

【事後学習】1時間程度。授業内に配布した資料やテキストをもとに、その週の学習内容を確認しておく。課題を作成する。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（30%）、学期内の小レポート（40%）、学期末のレポート（30%）の比率で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,5. 授業参加（10%/30%）学期内レポート（10%/40%）

到達目標2. 授業参加（10%/30%）学期内レポート（20%/40%）

到達目標3,4. 学期末レポート（15%/30%）

【フィードバック】授業課題は、毎回のリアクションペーパーに記入したものにコメントして翌週返却。レポート課題は次週以降で解説した後、コメントを記載して返却。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回プリント資料を配布する

【教科書】初回授業時に指定する

【推薦書】津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

津守真 『子ども学のはじまり』 フレーベル館

津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

守永英子・保育を考える会『保育の中の小さなこと大切なこと』フレーベル館

その他、授業時に指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育学		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAb416		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園での勤務経験をもつ教員が担当し、実践経験に基づいた事例を用いながら、講義を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、卒業研究につながる選択科目である。専門科目の領域「保育と教育」に位置づく。また、担当教員により内容が異なるため、繰り返し受講可とする。

科目の概要

子どもの遊びを子どもの経験に即しながら解明していくことをめざす。年齢に応じた遊びの内容や展開の相違点、ごっこ遊びを中心とした模倣、遊びにおける言葉や感情、身体性といったテーマを中心に、子どもの遊びの面白さや豊かさを丁寧に言葉にしていくを試みる。

授業の方法 (ALを含む)

教科書に沿い、テーマをもって教科書内の乳幼児の遊びの事例を仲間と共に深く読み込む。取りあげた事例や授業内容について毎回リアクションペーパーを提出し、翌週の学びへとつなげていく。授業内容に沿いながら自らの経験や実践を振り返り、自分の考えをまとめ、言語化する作業を行う。【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(表現)】

到達目標

- ・教科書に基づき、子どもの実際の遊びの姿を子どもの経験に即しながら深い次元で解釈することができる。
- ・各回のテーマと自分の経験や実践を関連づけながら自分の考えを言語化することができる。
- ・自らの実践を振り返り、子どもの遊びのエピソードを記述し、子どもの内面の動きや経験の意味を自分なりの言葉で表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 保育理論の理解
- 3 社会的事象への関心
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	はじめに 遊びってなんだろう？【リアクションペーパー】
2	子どもの成長と遊び 【リアクションペーパー】
3	年少と年長の違い【リアクションペーパー】
4	ままごとにおける豊かなあり方【リアクションペーパー】
5	模倣と真似【リアクションペーパー】
6	本質の浮き彫り【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	模倣と真似における指標【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	乳児における遊びと現実【リアクションペーパー】
9	制作における創造力【リアクションペーパー】
10	競技と遊び【リアクションペーパー】
11	遊びの移行と展開【リアクションペーパー】
12	遊びにおける言葉と感情【リアクションペーパー】
13	身体の動きと遊び【リアクションペーパー】
14	遊びにおける充実感【リアクションペーパー】
15	まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の事前に指定した章を必ず読み、意見や疑問を持って出席すること。（各授業に対して40分）

【事後学修】授業の内容を復習し、自らの保育実践を振り返りながら、考えをまとめ、提出すること。紹介した文献を購読する努力をすること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、毎回のリアクションペーパー30%、最終レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標（1）授業への参加度（10%/30%）リアクションペーパー（15%/40%）最終レポート（10%/40%）

到達目標（2）授業への参加度（10%/30%）リアクションペーパー（15%/40%）最終レポート（15%/40%）

到達目標（3）授業への参加度（10%/30%）リアクションペーパー（10%/40%）最終レポート（15%/40%）

【フィードバック】

毎回のリアクションペーパーはコメントをつけて戻す。授業時で紹介するなどして授業内容につなげていく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遊びのリアリティー事例から読み解く子どもの豊かさと奥深さ 中田基昭 編著 / 大岩みちの・横井紘子 著
新曜社 2016

【参考図書】教室内で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育臨床学		
担当教員名	金 允貞		
ナンバリング	KAb417		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士、幼稚園でのボランティア活動、特別支援学校での非常勤職員など保育の現場での経験を振り返りながら授業の内容に取り込む。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する学科専門科目である。学生たちが1年次に受講した幼児教育学、2年次に受講した保育者論の内容と共に保育の現場での参加観察実習の体験をつなげて、保育における保育者の在り方を子どもと大人の関係の中で考察し卒業研究につなげていく。

科目の概要

本科目は子どもと大人の関係について関連する文献を読みながら保育者の在り方に対する理解を深めていく。さらに、文献の内容や保育の映像を学生同士で議論し合うことで学びを深める。

授業の方法

授業で選定した文献を授業前に読んでレジユメを作成し、授業時に他の学生の前で発表を行う。授業の中で読んだ文献や映像を用いて議論し合う。子どもの行為とその理解について事例を教材に学生同士でグループワークを行う。

【討論・議論】【プレゼンテーション】【グループワーク】

学修目標（到達目標）

- (1) 子どもと大人の関係に対する理解を深め、関連する文献をまとめ伝達できる
- (2) 子どもの発達や行為を関係の中で捉える保育者の在り方を考察し、自分の保育者像について表現できる
- (3) 課題発表やグループワークで議論し合い、主体性を持って自分の考えを発言できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することができる

- 1- 保育理論の理解 2- 保育者の感性 3- 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

1	オリエンテーション
2	保育における保育者の位置づけ

3	「子ども」、「大人」、「関係」概念の再考【グループワーク】
4	関係論1子どもと大人の関係の概観
5	関係論2子どもを育てる存在としての大人（ランゲフェルド）【プレゼンテーション】
6	関係の中で捉える子どもの発達1【討論・議論】
7	関係の中で捉える子どもの発達2（津守真）【プレゼンテーション】
8	関係の中で捉える子どもの発達3（鯨岡峻）【プレゼンテーション】
9	子どもの行為に対する捉え（事例検討）【グループワーク】
10	子どもの行為を表現として捉える1（津守真）【プレゼンテーション】
11	子どもの行為を表現として捉える2【議論・討論】
12	子どもと共に学び成長する保育者【議論・討論】
13	倉橋創三の「保育者論」を読む1【プレゼンテーション】
14	倉橋創三の「保育者論」を読む2【プレゼンテーション】
15	まとめ（自分の保育者像の発表）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次回の授業で扱う文献を熟読し、わからない語句を調べてくる[60分]

【事後学修】授業資料を振り返り関連文献を読んで自らの課題をまとめる[60分]

評価方法および評価の基準

各授業回における発表資料の作成と発表（30%）学期末レポート（40%）授業への参加姿勢（30%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1．発表資料の作成(20%) 発表(10%)

到達目標2．学期末レポート作成（30%）発表（10%）

到達目標3．グループワークや議論の参加姿勢（20%）授業態度（10%）

【フィードバック】提出したレポートにコメントを付し返却する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。関連資料をその都度配布する

【参考書】「かわりの教育学」（第2刷）岡田敬司ミネルヴァ書房

「関係の中で人は生きる」鯨岡峻ミネルヴァ書房

「教育と人間の考察」M.J.ランゲフェルド 岡田渥美・和田修二訳 玉川大学出版部

「倉橋創三の「保育者論」」倉橋創三フレーベル館

「子どもの世界をどうみるか 行為とその意味」津守真NHKブックス

「保育者の地平」津守真ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業を受ける前に文献の講読が必要な科目です。子どもを育てる保育者の存在について学びを深めることができます。

科目名	保育臨床学		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAb417		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

幼稚園教諭12年間及び特別支援学校教諭11年間の実務経験あり。

実務経験および科目との関連性

授業で核となる「子ども理解の方法やふさわしい援助の仕方を学び合う」際に、実務経験の中での子ども理解と援助の実践研究の成果やエピソードを生かすことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は幼児教育学科の学科専門科目である。受講する学生は1・2年次に身に付けた保育の専門的な知識があり、保育所・幼稚園・特別支援学校にて参加観察実習を体験している。そこで本科目では、学習する内容と保育の実際をつなげて捉える視点を持ちながら、保育者の子ども理解の方法や遊びへの援助に対する考え方や姿勢を身に付ける。

科目の概要

本科目は、まずは遊びの本質について理解する。次に子どもの発達を促進させる遊びの価値や遊びを援助する保育者の役割等についての理解を深め、必要な知識を蓄える。さらに知識を実際に生かすことができるよう、子どもの日常的な遊び（例：砂遊び）に注目し、その活動独自の遊びの価値や予想される具体的な発達の姿を捉えて、小グループ毎に保護者向けのポスターを作成し、発表し合い、学生同士で学びの共有を図る。

授業の方法（ALを含む）

・リアクションペーパー・実技・レポート・グループワーク

到達目標

1. 子ども理解と発達に根差した遊びの本質や遊びの価値を理解し子どもと遊びへの考え方を深める
2. 日常的な遊びの価値に気づき、それを子どもの実際の発達につなげる援助の方法を捉える
3. 各自の中にある子ども観や保育観を耕すことで柔軟さを身に付け、新しい見方や考え方を加える

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 1子どもの人権尊重
- 4保育者の感性

内容

この授業は内容に応じて講義、グループワーク、アクティブラーニングを組み合わせながら、学びを深めていく。

1	学びの環境の視点から捉える保育環境
2	遊びの特性と目的
3	保育における遊びの位置づけ

4	遊びの理論1 遊びの社会的ステージ(パーテン)
5	遊びの理論2 遊びの認知的ステージ(ピアジェ・シュラミンスキー)
6	遊びの価値(身体的発達・情緒的発達・社会的発達・認知的発達)とは
7	3・4・5歳児のごっこ遊びの実践記録に見られる各年齢の遊びの楽しさと発達の姿
8	遊びによる発達援助
9	子どもの発達における戸外遊びの特別な役割
10	日常的な遊びの中にある遊びの価値を保護者に伝えるポスター制作(グループワーク)1
11	日常的な遊びの中にある遊びの価値を保護者に伝えるポスター制作(グループワーク)2
12	遊びの価値のポスター発表会
13	遊びのおもしろさ 子どもの遊びへの保育者の援助のあり方 鬼ごっこのおもしろさ
14	鬼ごっこの種類別の遊び方・おもしろさ・育つ力・保育者の援助等に関するポスター制作
15	鬼ごっこのポスター制作とポスター発表会

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回の授業に関連する資料を熟読し、分からない語句を調べる。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

学修目標に関する授業時のレポート(40%)および学期末のレポート(50%)、さらに通常の授業態度(10%)により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。毎回資料を配布する。

【推薦書】ステファニー・フィーニイ他 Who am I 研究会訳『保育学入門』ミネルヴァ書房

【参考図書】子どもと保育総合研究所森上史朗他『yaよくわかる保育原理第2版』ミネルヴァ書房

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の中に、子どもの気持ちを理解する幅を広げるために絵本の読み合いを行ったり、子どもの心情に寄り添う感性を耕すために子どもに関する詩を朗読したりする時間を設けます。

科目名	保育臨床学		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	KAb417		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は選択科目である。1・2年次の科目や実習における学びを踏まえ、さらに子どもの育ちを支える保育の中で特に乳幼児の保育について追究し、専門性を深める。卒業研究の土台となる。

科目の概要

乳幼児の発達について学びつつ、子どもにとってよりよい保育の環境、保育者の役割について理解を深める。さまざまな課題に目を向け、実践力に繋げていくことを目的とする。

授業の方法 (ALを含む)

講義を基本とし、グループディスカッション、グループワークを取り入れながら学びを深めていく。

【グループディスカッション】【グループワーク】

到達目標

1. 乳幼児の発達について専門知識を身に付け、理解を深めることができる。
2. 保育の環境と保育者の役割について考えを深めることができる。
3. 今日の保育のさまざまな課題について興味、関心を深めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者としての感性
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業では、講義を基本とし、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	乳幼児保育の今日の課題【グループディスカッション】
3	乳児期の発達と保育 乳児のすがた
4	乳児期の発達と保育 保育者との関係

5	低年齢児の発達と保育 低年齢児のすがた
6	低年齢児の発達と保育 さまざまな環境との関わり
7	幼児期の発達と保育 3歳児【グループディスカッション】
8	幼児期の発達と保育 4歳児【グループディスカッション】
9	幼児期の発達と保育 5歳児【グループディスカッション】
10	保育の環境と保育者の役割
11	保育の環境と保育者の役割 【グループディスカッション】
12	事例検討とグループワーク 【グループワーク】
13	事例検討とグループワーク 【グループワーク】
14	発表
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】乳幼児の発達過程について確認し、各年齢ごとの特徴をノート等にまとめておくこと。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。教科書や授業で配付、紹介された資料や文献を確認し、発達や保育、保育者の役割についての気づきをノート等にまとめること。（各授業に対して60分程度）

評価方法および評価の基準

授業への参加および授業内容に関わるレポート（60%）学期末レポート（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．授業の参加および授業内容に関わるレポート（20/60）学期末レポート（10/40）

到達目標 2．授業の参加および授業内容に関わるレポート（20/60）学期末レポート（10/40）

到達目標 3．授業の参加および授業内容に関わるレポート（20/60）学期末レポート（20/40）

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートは、コメントを記載し翌週以降の授業で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習だけでなく、日ごろから周囲の子どもの姿をよくとらえること。子どもの遊びや、子ども同士のやり取りする言葉、大人の関わりについて関心を持つこと。

科目名	保育実践論		
担当教員名	桶田 ゆかり		
ナンバリング	KAb418		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として保育を展開してきた経験をもつ教員が担当し、実践につながる幼児理解・保育の考え方・内容・方法について、指導計画の作成やグループワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学科専門科目「保育と教育」であり、本実習や卒業後の保育実践を意識し、より専門的・具体的な知識や技能を身に付けることを目的とする。

本科目は前期にも開講されているが担当教員が違い、後期は実務経験のある教員が担当する。前期の「保育・教育課程論」の授業と関連させて学びを深めたい学生、後期にある実習に向けて実務経験を生かした実践を学びたい学生に対応するため、繰り返し受講を可とする。

科目の概要

幼児理解を深め、幼児の成長を促す遊びや活動の内容、方法などを具体的な実践の在り方を知るとともに、広い視野で幼児を取り巻く環境を取り入れた保育の展開について学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は、講義による解説を中心とし、グループによるディスカッション、資料作成(教材研究)、指導案作成などを取り入れた授業を行う。【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート(教材研究・指導案)】

到達目標

1. 保育の基本・幼児理解に基づいて教材研究をすることができる。
2. 幼児を取り巻く環境を理解し、指導計画に取り入れて作成することができる。
3. 課題解決を意識して、個々や仲間と指導計画を作成することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 保育理論の理解
- 3 保育・教育に関する社会的事象への関心
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

1	オリエンテーション
2	環境を通して行う教育とは 環境とは・主体性とは
3	表現活動 絵本 【レポート(指導案作成)】
4	表現活動 手遊び【レポート(教材研究)】
5	表現活動 製作 【レポート(指導案作成)】
6	自然との関わり 【レポート(教材研究)】
7	家庭・地域との連携
8	運動的な活動 室内での遊び【レポート(教材研究)】
9	運動的な活動 戸外での遊び【グループワーク】
10	安全教育 【グループワーク】【レポート(指導案作成)】
11	学びの連続性(幼小の接続) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
12	表現活動 合奏 【グループワーク】
13	表現活動 身体表現・劇遊び【グループワーク】
14	園行事と日々の遊びや活動
15	グループ発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のテーマについて教材研究をして授業に臨む。(各授業に対して30分)

【事後学修】配布資料を読み返す。返却されたレポート(教材研究・指導案)のコメントを読み、書き加えたり書き直したりする。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加態度・グループワークの取り組み(40%)、レポート(教材研究・指導案の作成)(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．授業態度・グループワーク(10%/40%)、レポート提出(15%/60%)

到達目標2．授業態度・グループワーク(10%/40%)、レポート提出(25%/60%)

到達目標3．授業態度・グループワーク(20%/40%)、レポート提出(20%/60%)

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え、説明不足を補い、理解が深まるようにする。

教材研究や指導計画などのレポートに対してコメントを付し、翌週以降の授業で説明・返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育実践論		
担当教員名	近藤 有紀子		
ナンバリング	KAb418		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

幼稚園教諭として幼稚園において保育に携わった経験を持つ教員が担当し、幼児教育における「遊び」の本質と保育者の役割について、子ども、保育者の視点から実践を活かした内容を取り上げ、考察を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科の学科専門科目であり、領域は「保育と教育」である。また、卒業研究につながる選択科目である。1・2年次での幼児教育の学びをさらに深め、専門的な知識を身につけることを目的とする。本科目は「繰り返し受講可」であるが、卒業研究につながる科目であり、それぞれの教員により授業内容は異なる。

科目の概要

「遊び」の本質・子ども理解について学ぶ。「遊び」については「遊び論」から価値や意義を考える。そこから保育者の役割について、子どもの視点、保育者の視点から考察し、理解を深め保育実践につなげる。さらに、いくつかの事例をこれまでの学びと関連付けながら、実習での経験等を基に考察をする。

授業の方法 (ALを含む)

この授業は、内容に応じて、講義、グループワーク、アクティブ・ラーニングを組み合わせながら、学びを深めていく。

各テーマの1回目は、取り上げた内容に関する理解、課題を取り上げる。2回目は、考察に基づき討議、検討を行う。3回目に振り返り等のまとめを行い、テーマ全体の修得、各テーマにおける関連性について考察を行う。【討議・討論】【グループワーク】

到達目標

1. 「遊び」の本質を理解する
2. 子どもにとっての「遊び」の価値や意義を考え、保育者の援助の方法を捉える
3. 事例考察などから、学びを共有し、思考の幅を広げる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	はじめに
2	「遊び」について考える
3	子どもにとっての「遊び」
4	「遊び論」から考える
5	「遊び」を支えるもの
6	子どもの「姿」
7	私（保育者）と子どもとの関わり 「遊び」を捉える
8	私（保育者）と子どもとの関わり 「遊び」への関わりの意義を考える【討議・検討】
9	私（保育者）と子どもとの関わり 保育者の役割【グループワーク】
10	事例を基に考える 「遊び」の充実とは
11	事例を基に考える 充実するということとは 【討議・検討】
12	事例を基に考える 保育者の役割 【グループワーク】
13	記録について 改めて記録の意義 【討議・検討】
14	記録について 記録と保育観の関連性
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業に関連して提示する資料等を必ず読んでおくこと（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内容の整理・まとめ・課題レポートの作成（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み（30%）、課題提出（40%）、最終レポートの達成度（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 授業への取り組み（10%/30%） 課題提出（10%/40%） 最終レポートの達成度（10%/30%）

到達目標2 授業への取り組み（10%/30%） 課題提出（10%/40%） 最終レポートの達成度（10%/30%）

到達目標3 授業への取り組み（10%/30%） 課題提出（20%/40%） 最終レポートの達成度（10%/30%）

【フィードバック】提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】授業内で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	権 明愛、山田 陽子、中西 郁、岡本 明博		
ナンバリング	KAb270		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元特別支援学校の教員としての経験を踏まえ、障害のある子どもの理解と支援について理解を促す。
また相談機関における発達相談支援の経験を踏まえ、関係機関、保護者との連携について理解を促す。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目「保育と教育」に位置づく科目で、教職課程の必修科目で幼稚園教諭一種免許状に係る必修科目である。

科目の概要

障害のある子ども、障害はないが特別なニーズのある子どもを理解し、支援方法について学ぶ。特別支援教育に関する制度の理念と仕組み、関係機関と家族との連携について理解する。

授業方法

適宜映像や事例を交えながら講義による解説を中心とし、グループによるディスカッションを取り入れながら授業を行う。毎回の授業後はリアクションペーパーの記入を行う。【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 障害のある子ども、障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもについて専門的な知見から理解し、説明できる。
2. 障害のある子ども、障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもに対する支援の必要性、支援方法について理解することができる。
3. 特別支援教育に関する制度の理念と仕組みについて理解し、説明できる。
4. 関係機関と家族との連携について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 子どもの心理、発達の理解
- 2 保育理論の理解
- 5 保護者・地域・他の専門性との連携の理解

内容

1	障害児保育とは、特別支援教育とは 権
2	障害とは、特別な配慮を要する子どもとは 権・山田・中西・岡本【グループディスカッション】
3	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－視覚障害 山田・中西
4	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－聴覚障害 山田・中西
5	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－肢体不自由と病弱 山田・中西

6	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－知的障害 山田・中西
7	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－発達障害や軽度の知的障害 山田・岡本
8	特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援－母国語 権・岡本
9	特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援－貧困 権・岡本
10	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み 権
11	特別支援教育に関する制度の変遷 権【グループディスカッション】
12	関係機関や家族との連携 権・岡本
13	個別支援計画 権・岡本
14	個別支援計画の事例検討 権・岡本【グループディスカッション】
15	まとめ 権・山田・中西・岡本

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】

1時間前後の時間を利用しテキストを読んで予習すること。

【事後学修】

1時間前後の時間を利用し、授業の学んだ内容を復習すること。

評価方法および評価の基準

授業の参加状況（20点）、授業内外の課題の取組状況（20点）、最終テスト（60点）を加味して評価する。総合評価60点以上を合格とする。60点満たなかった場合再試を行う。

到達目標1：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標2：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標3：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標4：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

尾野明美・小湊真衣・奥田訓子編著『特別支援 教育・保育概論』萌文書林・2019年。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

新しい知識を習得することになるので、授業のみならず事前学修や事後学修を有効に取り入れながら学習を進めてほしい。

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	権 明愛、山田 陽子、中西 郁、岡本 明博		
ナンバリング	KAb270		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元特別支援学校の教員としての経験を踏まえ、障害のある子どもの理解と支援について理解を促す。
また相談機関における発達相談支援の経験を踏まえ、関係機関、保護者との連携について理解を促す。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目「保育と教育」に位置づく科目で、教職課程の必修科目で幼稚園教諭一種免許状に係る必修科目である。

科目の概要

障害のある子ども、障害はないが特別なニーズのある子どもを理解し、支援方法について学ぶ。特別支援教育に関する制度の理念と仕組み、関係機関と家族との連携について理解する。

授業方法

適宜映像や事例を交えながら講義による解説を中心とし、グループによるディスカッションを取り入れながら授業を行う。毎回の授業後はリアクションペーパーの記入を行う。【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1．障害のある子ども、障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもについて専門的な知見から理解し、説明できる。
- 2．障害のある子ども、障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもに対する支援の必要性、支援方法について理解することができる。
- 3．特別支援教育に関する制度の理念と仕組みについて理解し、説明できる。
- 4．関係機関と家族との連携について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 子どもの心理、発達の理解
- 2 保育理論の理解
- 5 保護者・地域・他の専門性との連携の理解

内容

1	障害児保育とは、特別支援教育とは 権
2	障害とは、特別な配慮を要する子どもとは 権・山田・中西・岡本【グループディスカッション】
3	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－視覚障害 山田・中西
4	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－聴覚障害 山田・中西
5	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－肢体不自由と病弱 山田・中西

6	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－知的障害 山田・中西
7	特別の支援を必要とする子どもの理解と支援－発達障害や軽度の知的障害 山田・岡本
8	特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援－母国語 権・岡本
9	特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援－貧困 権・岡本
10	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み 権
11	特別支援教育に関する制度の変遷 権【グループディスカッション】
12	関係機関や家族との連携 権・岡本
13	個別支援計画 権・岡本
14	個別支援計画の事例検討 権・岡本【グループディスカッション】
15	まとめ 権・山田・中西・岡本

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】

1時間前後の時間を利用しテキストを読んで予習すること。

【事後学修】

1時間前後の時間を利用し、授業の学んだ内容を復習すること。

評価方法および評価の基準

授業の参加状況（20点）、授業内外の課題の取組状況（20点）、最終テスト（60点）を加味して評価する。総合評価60点以上を合格とする。60点満たなかった場合再試を行う。

到達目標1：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標2：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標3：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標4：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

尾野明美・小湊真衣・奥田訓子編著『特別支援 教育・保育概論』萌文書林・2019年。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

新しい知識を習得することになるので、授業のみならず事前学修や事後学修を有効に取り入れながら学習を進めてほしい。

科目名	保育・教育心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング	KAd172		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムに関わる科目の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。保育とは人が人を育てることを通して自らもまた育つ営みであることを踏まえ、学習の対象を乳幼児から児童期を中心にしつつも、生涯発達の視点から胎児期から老年期まで理解する。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とから児童期、青年期の各時期における心身の発達の過程と特徴、具体的には運動、言語、認知及び社会性等の特徴についての基礎的な知識を理解することを目指す。理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

授業の方法

各テーマに沿って、各自事前学習として内容のレジюмеを作成していただくことを課題とする。授業資料はLive Campusで提示する。授業はテキストの内容に加え、適宜必要な内容をプリント等で提示する。学生は主体的にレジюме作成、ノートテイキング、課題への取り組みなどを行うことで、知識だけでなく学習の基本的スキルを身につける。各回の授業の最後には、リアクションペーパーの作成を行う。【レポート(知識)】【リアクションペーパー】

学修目標

- (1)特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- (2)教育における発達理解の意義について理解を深める。
- (3)発達と学習活動を支援する基礎を学ぶための基礎的知識を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

講義形式ではあるが、学生自らが主体的に事前・事後学習を行うアクティブラーニングを目指す。

発達のそれぞれの時期の発達特徴と発達課題をライフサイクルの中で捉え、人間の成長・成熟の意味を問う。中心は乳幼児期となるが、親準備性という観点から青年期・成人前期も焦点を当てる。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には授業内で教員がコメントをフィードバックする。

1	保育と心理学（1）：保育における実証性と保育実践
2	保育と心理学（2）：発達の記述から教育の規定へ・発達の独自性
3	子どもの発達と保育環境（1）：発達観・子ども観と保育観
4	子どもの発達と保育環境（2）：子どもの発達と環境
5	子どもの発達と保育環境（3）：社会情動的スキル・感情・自己の発達
6	子どもの発達と保育環境（4）：身体的機能と運動機能の発達
7	子どもの発達と保育環境（5）：知覚と認知の発達
8	子どもの発達と保育環境（6）：言葉と社会性の発達
9	人とのかかわりと子どもの発達（1）：人とのかかわりと子どもの発達
10	人とのかかわりと子どもの発達（2）：思いやりの心と道徳性の発達
11	学習に関する理論と生活・遊びを通しての学習（1）：学習のさまざまな理論
12	学習に関する理論（2）：学習の動機づけ・子どもの遊びや生活を通じた学習
13	生涯発達のプロセスと援助・支援（1）：生涯発達の考え方
14	生涯発達のプロセスと援助・支援（2）：各時期の発達の特徴と援助・支援、子育て支援
15	まとめと質疑応答

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読み、レジユメを指定された用紙に作成してこよう。[約1時間から1時間半]

【事後学修】授業終了時にその日の学びの振り返りを記入したリアクションペーパーを提出する。自作レジユメや配布資料に基づいてしっかり復習し、理解しておく。[約1時間]

評価方法および評価の基準

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さかの（編著）「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育の心理学』」（光生館,2019)

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房
無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

幼稚園教育要領(2018)など他科目の使用テキストや適宜補足プリントを使用する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業資料はLive Campusを使用して配布する。

学期末試験の総合評価60点に満たなかった場合、再試験とする。試験の方法等についてはLive Campusの授業連絡にて周知する。

科目名	保育・教育心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング	KAd172		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であり、保育士養成課程教育カリキュラムに関わる科目の一つである。1年次の最初に学ぶ専門科目の一つとして、後の養成課程の基礎の一部を成すものである。保育とは人が人を育てることを通して自らもまた育つ営みであることを踏まえ、学習の対象を乳幼児から児童期を中心にしつつも、生涯発達の視点から胎児期から老年期まで理解する。

科目の概要

発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とから児童期、青年期の各時期における心身の発達の過程と特徴、具体的には運動、言語、認知及び社会性等の特徴についての基礎的な知識を理解することを目指す。理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

授業の方法

各テーマに沿って、各自事前学習として内容のレジюмеを作成していただくことを課題とする。授業資料はLive Campusで提示する。授業はテキストの内容に加え、適宜必要な内容をプリント等で提示する。学生は主体的にレジюме作成、ノートテイキング、課題への取り組みなどを行うことで、知識だけでなく学習の基本的スキルを身につける。各回の授業の最後には、リアクションペーパーの作成を行う。【レポート(知識)】【リアクションペーパー】

学修目標

- (1)特に乳幼児期から児童期にかけての身体的、心理的発達について重要性を理解する。
- (2)教育における発達理解の意義について理解を深める。
- (3)発達と学習活動を支援する基礎を学ぶための基礎的知識を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

講義形式ではあるが、学生自らが主体的に事前・事後学習を行うアクティブラーニングを目指す。

発達のそれぞれの時期の発達特徴と発達課題をライフサイクルの中で捉え、人間の成長・成熟の意味を問う。中心は乳幼児期となるが、親準備性という観点から青年期・成人前期も焦点を当てる。リアクションペーパーで多かった疑問や意見には授業内で教員がコメントをフィードバックする。

1	保育と心理学（1）：保育における実証性と保育実践
2	保育と心理学（2）：発達の記述から教育の規定へ・発達の独自性
3	子どもの発達と保育環境（1）：発達観・子ども観と保育観
4	子どもの発達と保育環境（2）：子どもの発達と環境
5	子どもの発達と保育環境（3）：社会情動的スキル・感情・自己の発達
6	子どもの発達と保育環境（4）：身体的機能と運動機能の発達
7	子どもの発達と保育環境（5）：知覚と認知の発達
8	子どもの発達と保育環境（6）：言葉と社会性の発達
9	人とのかかわりと子どもの発達（1）：人とのかかわりと子どもの発達
10	人とのかかわりと子どもの発達（2）：思いやりの心と道徳性の発達
11	学習に関する理論と生活・遊びを通しての学習（1）：学習のさまざまな理論
12	学習に関する理論（2）：学習の動機づけ・子どもの遊びや生活を通じた学習
13	生涯発達のプロセスと援助・支援（1）：生涯発達の考え方
14	生涯発達のプロセスと援助・支援（2）：各時期の発達の特徴と援助・支援、子育て支援
15	まとめと質疑応答

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定されたテキストの次回範囲をよく読み、レジユメを指定された用紙に作成してこよう。[約1時間から1時間半]

【事後学修】授業終了時にその日の学びの振り返りを記入したリアクションペーパーを提出する。自作レジユメや配布資料に基づいてしっかり復習し、理解しておく。[約1時間]

評価方法および評価の基準

授業への参加度（授業内の課題）20点、学期末の筆記試験80点（自由記述課題と選択式課題）として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さかの（編著）「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育の心理学』」（光生館,2019)

【推薦書】無藤隆・岩立京子編著 『乳幼児心理学』 北大路書房
無藤隆・藤崎真知代編著 『保育の心理学』 北大路書房

幼稚園教育要領(2018)など他科目の使用テキストや適宜補足プリントを使用する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の授業資料はLive Campusを使用して配布する。

学期末試験の総合評価60点に満たなかった場合、再試験とする。試験の方法等についてはLive Campusの授業連絡にて周知する。

科目名	子どもの理解と援助		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAd273		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園教諭として保育に携わった経験をもつ教員が担当し、保育実践や連携などについての事例を活用しグループワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得の必修科目である。子ども理解と援助について保育者としての基本的姿勢を理解するとともに観察・記録・省察といった実践的な子ども理解の方法を学修する。

科目の概要

本科目は、他者との関係性、保育環境、一人一人の発達課題など、多角的な視点から総合的に子どもを理解し、子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を学ぶ。個と集団を捉える両義的なまなざしをもち、子どもの生活や遊びの中に学びを捉え、発達課題を見出す保育者の視点を実践的に理解する。また、観察や記録の実践的方法、省察や評価へとつなげていくプロセスについても学習する。加えて、生活と発達の連続性を意識し、保護者や他の保育者との連携、小学校への接続の意義と方法についても学ぶ。

授業の方法

本科目は、講義による解説と事例等の資料を基にした演習を組み合わせた授業を行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議】

到達目標

1. 子ども一人一人の発達と学びを把握することの保育的意義を理解し、子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を説明することができる。
2. 観察や記録など、子どもの学びを実践的に捉える方法を学び、子どもの理解と学びを多面的に捉え評価につなげていくプロセスについて理解し、説明することができる。
3. 子どもの生活や発達の連続性を理解し、保育者の協働性、保護者との連携、小学校との連携・接続の重要性を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 1 子どもの人権尊重

-1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

1	子どもを理解すること
2	子どもの生活や遊びから学びと発達課題を捉える
3	子どもを関係性の中で理解する 子どもの葛藤経験に対する援助
4	子どもを理解する具体的方法 観察・記録・省察など
5	子どもの生活と発達の連続性 職員・家庭・地域・小学校との連携
6	3歳児の保育における子ども理解と援助の実際【グループワーク】
7	4・5歳児の保育における子ども理解と援助の実際【グループワーク】
8	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際
9	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際
10	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際
11	子どもの生活や遊びから学びと発達課題を捉える
12	子どもを関係性の中で理解する 子どもの葛藤経験に対する援助
13	子どもを理解する具体的方法 観察・記録・省察など
14	子どもの生活と発達の連続性 職員・家庭・地域・小学校との連携
15	まとめ(課題レポート)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含めたまとめて授業に出席する。(各授業30分程度)

【事後学修】授業の配布資料を読む。紹介された資料や興味をもつた事柄について探して読む。(各授業30分程度)

評価方法および評価の基準

授業への参加態度・リアクションペーパーや提出物(40%)、最終課題(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.授業態度・リアクションペーパー・提出物(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標2.授業態度・リアクションペーパー・提出物(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標3.授業態度・リアクションペーパー・提出物(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず、毎回の授業内容に応じて資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月) フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月) フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年3月) フレー

ベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの理解と援助		
担当教員名	桶田 ゆかり、金 允貞		
ナンバリング	KAd273		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として保育や人材育成に携わった経験をもつ教員が担当し、保育実践や連携などについての事例を活用しグループワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「発達と臨床」の選択科目であるが、保育士資格取得の必修科目である。子ども理解と援助について保育者としての基本的姿勢を理解するとともに観察・記録・省察といった実践的な子ども理解の方法を学修する。

本科目は、1年生後期の「児童学演習」における実習という体験学習を通じた学びの発展として、幼児を見る目を養い幼児理解を深める記録や省察の在り方を学ぶ。このことは、3年生以降の幼稚園・保育所・施設の実習での幼児理解や援助の実践につながる。

科目の概要

本科目は、他者との関係性、保育環境、一人一人の発達課題など、多角的な視点から総合的に子どもを理解し、子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を学ぶ。個と集団を捉える両義的なまなざしをもち、子どもの生活や遊びの中に学びを捉え、発達課題を見出す保育者の視点を実践的に理解する。また、観察や記録の実践的方法、省察や評価へとつなげていくプロセスについても学習する。加えて、生活と発達の連続性を意識し、保護者や他の保育者との連携、小学校への接続の意義と方法についても学ぶ。

授業の方法

本科目は、講義による解説と事例等の資料を基にした演習を組み合わせた授業を行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議】

到達目標

1. 子ども一人一人の発達と学びを把握することの保育的意義を理解し、子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を説明することができる。
2. 観察や記録など、子どもの学びを実践的に捉える方法を学び、子どもの理解と学びを多面的に捉え評価につなげていくプロセスについて理解し、説明することができる。
3. 子どもの生活や発達の連続性を理解し、保育者の協働性、保護者との連携、小学校との連携・接続の重要性を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 1 子どもの人権尊重
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

【リアクションペーパー】の提出・活用や【グループワーク】を取り入れる。

1	子どもを理解すること【リアクションペーパー】
2	子どもの生活や遊びから学びと発達課題を捉える 【討議】【リアクションペーパー】
3	子どもを関係性の中で理解する 子どもの葛藤経験に対する援助 【討議】【リアクションペーパー】
4	子どもを理解する具体的方法 観察・記録・省察など 【討議】【リアクションペーパー】
5	子どもの生活と発達の連続性 職員・家庭・地域・小学校との連携 【討議】【リアクションペーパー】
6	3歳児の保育における子ども理解と援助の実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
7	4・5歳児の保育における子ども理解と援助の実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際 【リアクションペーパー】[金]
9	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際 【リアクションペーパー】[金]
10	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際 【リアクションペーパー】[金]
11	子どもの生活や遊びから学びと発達課題を捉える 【討議】【リアクションペーパー】
12	子どもを関係性の中で理解する 子どもの葛藤経験に対する援助 【討議】【リアクションペーパー】
13	子どもを理解する具体的方法 観察・記録・省察など 【討議】【リアクションペーパー】
14	子どもの生活と発達の連続性 職員・家庭・地域・小学校との連携 【討議】【リアクションペーパー】
15	まとめ(課題レポート)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含めたまとめて授業に出席する。(各授業45分程度)

【事後学修】授業の配布資料を読む。紹介された資料や興味をもった事柄について探して読む。(各授業45分程度)

評価方法および評価の基準

授業への参加態度・リアクションペーパーや提出物(40%)、最終課題(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.授業態度・リアクションペーパー・提出物(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標2.授業態度・リアクションペーパー・提出物(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標3.授業態度・リアクションペーパー・提出物(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

【フィールドバック】

リアクションペーパーを毎回活用し、前回の授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず、毎回の授業内容に応じて資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月)フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館

科目名	子どもの理解と援助		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAd273		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園教諭として保育に携わった経験をもつ教員が担当し、保育実践や連携などについての事例を活用しグループワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得の必修科目である。子ども理解と援助について保育者としての基本的姿勢を理解するとともに観察・記録・省察といった実践的な子ども理解の方法を学修する。

科目の概要

本科目は、他者との関係性、保育環境、一人一人の発達課題など、多角的な視点から総合的に子どもを理解し、子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を学ぶ。個と集団を捉える両義的なまなざしをもち、子どもの生活や遊びの中に学びを捉え、発達課題を見出す保育者の視点を実践的に理解する。また、観察や記録の実践的方法、省察や評価へとつなげていくプロセスについても学習する。加えて、生活と発達の連続性を意識し、保護者や他の保育者との連携、小学校への接続の意義と方法についても学ぶ。

授業の方法

本科目は、講義による解説と事例等の資料を基にした演習を組み合わせた授業を行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議】

到達目標

1. 子ども一人一人の発達と学びを把握することの保育的意義を理解し、子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を説明することができる。
2. 観察や記録など、子どもの学びを実践的に捉える方法を学び、子どもの理解と学びを多面的に捉え評価につなげていくプロセスについて理解し、説明することができる。
3. 子どもの生活や発達の連続性を理解し、保育者の協働性、保護者との連携、小学校との連携・接続の重要性を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 1 子どもの人権尊重

-1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

1	子どもを理解すること
2	子どもの生活や遊びから学びと発達課題を捉える
3	子どもを関係性の中で理解する 子どもの葛藤経験に対する援助
4	子どもを理解する具体的方法 観察・記録・省察など
5	子どもの生活と発達の連続性 職員・家庭・地域・小学校との連携
6	3歳児の保育における子ども理解と援助の実際【グループワーク】
7	4・5歳児の保育における子ども理解と援助の実際【グループワーク】
8	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際
9	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際
10	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際
11	子どもの生活や遊びから学びと発達課題を捉える
12	子どもを関係性の中で理解する 子どもの葛藤経験に対する援助
13	子どもを理解する具体的方法 観察・記録・省察など
14	子どもの生活と発達の連続性 職員・家庭・地域・小学校との連携
15	まとめ(課題レポート)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含めたまとめて授業に出席する。(各授業30分程度)

【事後学修】授業の配布資料を読む。紹介された資料や興味をもつた事柄について探して読む。(各授業30分程度)

評価方法および評価の基準

授業への参加態度・リアクションペーパーや提出物(40%)、最終課題(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.授業態度・リアクションペーパー・提出物(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標2.授業態度・リアクションペーパー・提出物(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標3.授業態度・リアクションペーパー・提出物(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず、毎回の授業内容に応じて資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月) フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月) フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年3月) フレー

ベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの理解と援助		
担当教員名	桶田 ゆかり、金 允貞		
ナンバリング	KAd273		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として保育や人材育成に携わった経験をもつ教員が担当し、保育実践や連携などについての事例を活用しグループワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「発達と臨床」の選択科目であるが、保育士資格取得の必修科目である。子ども理解と援助について保育者としての基本的姿勢を理解するとともに観察・記録・省察といった実践的な子ども理解の方法を学修する。

本科目は、1年生後期の「児童学演習」における実習という体験学習を通じた学びの発展として、幼児を見る目を養い幼児理解を深める記録や省察の在り方を学ぶ。このことは、3年生以降の幼稚園・保育所・施設の実習での幼児理解や援助の実践につながる。

科目の概要

本科目は、他者との関係性、保育環境、一人一人の発達課題など、多角的な視点から総合的に子どもを理解し、子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を学ぶ。個と集団を捉える両義的なまなざしをもち、子どもの生活や遊びの中に学びを捉え、発達課題を見出す保育者の視点を実践的に理解する。また、観察や記録の実践的方法、省察や評価へとつなげていくプロセスについても学習する。加えて、生活と発達の連続性を意識し、保護者や他の保育者との連携、小学校への接続の意義と方法についても学ぶ。

授業の方法

本科目は、講義による解説と事例等の資料を基にした演習を組み合わせた授業を行う。

【リアクションペーパー】 【グループワーク】 【討議】

到達目標

1. 子ども一人一人の発達と学びを把握することの保育的意義を理解し、子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を説明することができる。
2. 観察や記録など、子どもの学びを実践的に捉える方法を学び、子どもの理解と学びを多面的に捉え評価につなげていくプロセスについて理解し、説明することができる。
3. 子どもの生活や発達の連続性を理解し、保育者の協働性、保護者との連携、小学校との連携・接続の重要性を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 1 子どもの人権尊重
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

【リアクションペーパー】の提出・活用や【グループワーク】を取り入れる。

1	子どもを理解すること【リアクションペーパー】
2	子どもの生活や遊びから学びと発達課題を捉える 【討議】【リアクションペーパー】
3	子どもを関係性の中で理解する 子どもの葛藤経験に対する援助 【討議】【リアクションペーパー】
4	子どもを理解する具体的方法 観察・記録・省察など 【討議】【リアクションペーパー】
5	子どもの生活と発達の連続性 職員・家庭・地域・小学校との連携 【討議】【リアクションペーパー】
6	3歳児の保育における子ども理解と援助の実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
7	4・5歳児の保育における子ども理解と援助の実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際 【リアクションペーパー】[金]
9	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際 【リアクションペーパー】[金]
10	3歳未満児保育における子ども理解と援助の実際 【リアクションペーパー】[金]
11	子どもの生活や遊びから学びと発達課題を捉える 【討議】【リアクションペーパー】
12	子どもを関係性の中で理解する 子どもの葛藤経験に対する援助 【討議】【リアクションペーパー】
13	子どもを理解する具体的方法 観察・記録・省察など 【討議】【リアクションペーパー】
14	子どもの生活と発達の連続性 職員・家庭・地域・小学校との連携 【討議】【リアクションペーパー】
15	まとめ(課題レポート)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のキーワードについて調べ、知りたいことや疑問を含めたまとめて授業に出席する。(各授45分程度)

【事後学修】授業の配布資料を読む。紹介された資料や興味をもった事柄について探して読む。(各授業45分程度)

評価方法および評価の基準

授業への参加態度・リアクションペーパーや提出物(40%)、最終課題(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.授業態度・リアクションペーパー・提出物(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標2.授業態度・リアクションペーパー・提出物(15%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標3.授業態度・リアクションペーパー・提出物(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

【フィールドバック】

リアクションペーパーを毎回活用し、前回の授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず、毎回の授業内容に応じて資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月) フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月) フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年3月) フレーベル館

科目名	生涯発達心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd174		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の卒業必修科目、及び保育士資格取得の必修科目である。保育・教育心理学での学びをふまえ、特別教育支援概論や子ども家庭支援論とも関連がある。

科目の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族や家庭の意義や機能、親子関係や家族関係、子育て家庭をめぐる現代の社会状況とその課題、子どもの心の健康について理解する。本科目は、各自の表現力育成も目標とし、限られた時間内で自分の意見をまとめ、それを表現する力を養う。

授業の方法

基本的には講義であるが、毎回の授業において、提示された問題に対して自分の意見をまとめ記述する【レポート（表現）】。

また、毎回授業終了前に、授業内容に関する自分の意見・感想を記述する【リアクションペーパー】。

到達目標

1. 乳幼児期から老年期までの発達に関する基礎的な心理学的知識を習得し、自分なりの言葉で説明できる。。
2. 家族や家庭の意義及び機能、子育て家庭に関する現状と課題と課題、子どもの心の健康とその課題について理解し、それらについて自分なりの意見を述べることができる。
3. 限られた時間の中で、自分の考えをまとめ、文章で表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1「子どもの心理・発達の理解」、 -1「子どもの人権尊重」、 -1「子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢」

内容

この授業は講義を基本とするが、各自事例などから考えることによって、学びを深めていく。

1	乳幼児期の発達の特徴(1)
2	乳幼児期の発達の特徴(2)
3	学童期の発達の特徴
4	思春期から青年期の発達の特徴
5	成人期の発達の特徴
6	高齢期の発達の特徴
7	家族システムと家族の発達
8	親としての養育スタイルの形成

9	子育て環境の社会状況的变化
10	ライフコースと仕事・子育て
11	多様な子育て家庭への支援
12	特別な配慮を必要とする家庭への支援
13	子どもを取り巻く生活環境とその影響
14	子どもの心の健康
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回教科書の指定された箇所を読み、レジュメを作成して持参する。（各授業に対して90分）

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジュメを修正・加筆する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎回のレジュメ・課題が30点、期末テスト70点の合計100点満点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【フィードバック】毎回授業の最初に前回の課題の説明を行い、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】児童育成協会監修「子ども家庭支援の心理学」中央法規出版

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】本郷一夫・神谷哲司編著「シードブック 子ども家庭支援の心理学」建帛社

大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編「よくわかる子育て支援・家庭支援論」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育・教育心理学の内容を踏まえて授業を行いますので、保育・教育心理学の授業内容をよく復習して授業に臨んでください。

また、自分の意見をまとめて限られた時間内にそれを文章で表現することが苦手な場合には、本科目のだけでなく、日ごろから自分で文章を書く練習をすることをお勧めします。

科目名	生涯発達心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd174		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当する。本科目は、幼児教育学科の卒業必修科目、及び保育士資格取得の必修科目である。保育心理学での学びをふまえ、特別教育支援概論や子ども家庭支援論とも関連がある。

科目の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族や家庭の意義や機能、親子関係や家族関係、子育て家庭をめぐる現代の社会状況とその課題、子どもの心の健康について理解する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

1. 乳幼児期から老年期までの発達に関する心理学的な基礎的な知識を習得する。
2. 家族や家庭の意義及び機能について理解する。
3. 子育て家庭に関する現状と課題について理解する。
4. 子どもの心の健康とその課題について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本とするが、各自事例などから考えることによって、学びを深めていく。

1	乳幼児期の発達の特徴(1)
2	乳幼児期の発達の特徴(2)
3	学童期の発達の特徴
4	思春期から青年期の発達の特徴
5	成人期の発達の特徴
6	高齢期の発達の特徴

7	家族システムと家族の発達
8	親としての養育スタイルの形成
9	子育て環境の社会状況的变化
10	ライフコースとワーク・ライフ・バランス
11	多様な子育て家庭への支援
12	特別な配慮を必要とする家庭への支援
13	子どもを取り巻く生活環境とその影響
14	子どもの心の健康
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回教科書の指定された個所を読み、レジュメを作成して持参する。（各授業に対して90分）

【事後学修】授業内容を確認しながら、自分のレジュメを修正・加筆する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

毎回のレジュメ・課題が30点、期末テスト70点の合計100点満点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【フィードバック】毎回授業の最初に前回の課題の説明を行い、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】本郷一夫・神谷哲司編著「シードブック 子ども家庭支援の心理学」建帛社

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編「よくわかる子育て支援・家庭支援論」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子育て支援		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAe278		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元児童発達支援センターの相談員、支援員として地域の保育所・幼稚園・保健センター等と連携しながら、保育現場や地域の子どもと保護者の支援を行ってきた。その実務経験を踏まえ子育て支援について講義・演習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目【生活と福祉】に位置づく科目で、選択科目である。同時に保育士資格取得に係る必修科目である。

科目の概要

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。

保育の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。

授業の方法（ALを含む）

基本知識を確認しながら、適宜映像、事例等を通してグループディスカッション、ロールプレイ等の演習方法で授業を行う。授業後は毎回リアクションペーパーを記入し、次の授業でリアクションペーパーを踏まえて振り返りを行う。【グループディスカッション】【ロールプレイ】【リアクションペーパー】

到達目標

保育士の行う保護者支援の基本を理解し、支援の方法及び具体的展開について理解する。

1. 保育士の行う子育て支援の基本を理解し、説明できる。
2. 保育の専門性を背景とした保護者に対する支援の特性と展開について具体的に理解し、説明できる。
3. 様々な場や対象に即した支援内容と方法、技術を理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1-5 保護者・地域・他の専門性との連携の理解
- 2-3 保育者の思考・判断
- 3-4 受容的・共感的態度

内容

1	保育実践における子育て支援 【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
2	保育者の専門性と倫理 【リアクションペーパー】
3	保育者の支援ニーズへの気づきと多面的な理解 【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
4	子ども・保護者が多様な他者とかがわる機会・場の提供【リアクションペーパー】
5	子ども・保護者の状況・状態の把握と養育力の向上【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
6	保育所等を利用する保護者への支援【リアクションペーパー】
7	地域の保護者への支援【リアクションペーパー】
8	職員間・関係機関との連携・協働【リアクションペーパー】
9	特別な配慮を要する子どもとその保護者への支援【リアクションペーパー】
10	多様なニーズのある保護者への理解と支援 【ロールプレイ】【リアクションペーパー】
11	子どもの虐待の予防と対応【ロールプレイ】【リアクションペーパー】
12	要保護児童等の家庭に対する支援【リアクションペーパー】
13	子育て支援の計画と環境の構成【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
14	支援の実践・記録・評価【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】授業前にシラバスを確認しながらテキストの該当箇所を90分程の時間を掛けて丁寧に読んで授業に臨むことを求める。

【事後学修】授業時に学んだ内容を踏まえて60分の時間をかけて丁寧に振り返ることを求める。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（20点）、期末課題（60点）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、期末課題（20% / 60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、期末課題（20% / 60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%）、期末課題（20% / 60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

『保育実践に求められる子育て支援』小原敏郎・三浦主博編著（2019）ミネルヴァ書房。

【推薦書】

新基本保育シリーズ19『子育て支援』公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀・青木夕貴編集（2019）中央法規。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

皆さんが前期に履修した「子ども家庭支援論」の知識を含む保育や福祉等の科目で学んだ知識とリンクする部分が多くある。こうした基礎知識をふり返りながら保育実践に求められる子育て支援について実際の事例検討等を踏まえながら学んでいく。ディスカッション等を通してみんなで授業を作っていくので、仲間と学び合う充実さも体験してほしい。

科目名	子育て支援		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAe278		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元児童発達支援センターの相談員、支援員として地域の保育所・幼稚園・保健センター等と連携しながら、保育現場や地域の子どもと保護者の支援を行ってきた。その実務経験を踏まえ子育て支援について講義・演習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目【生活と福祉】に位置づく科目で、選択科目である。同時に保育士資格取得に係る必修科目である。

科目の概要

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。

保育の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。

授業の方法（ALを含む）

基本知識を確認しながら、適宜映像、事例等を通してグループディスカッション、ロールプレイ等の演習方法で授業を行う。授業後は毎回リアクションペーパーを記入し、次の授業でリアクションペーパーを踏まえて振り返りを行う。【グループディスカッション】【ロールプレイ】【リアクションペーパー】

到達目標

保育士の行う保護者支援の基本を理解し、支援の方法及び具体的展開について理解する。

1. 保育士の行う子育て支援の基本を理解し、説明できる。
2. 保育の専門性を背景とした保護者に対する支援の特性と展開について具体的に理解し、説明できる。
3. 様々な場や対象に即した支援内容と方法、技術を理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1-5 保護者・地域・他の専門性との連携の理解
- 2-3 保育者の思考・判断
- 3-4 受容的・共感的態度

内容

1	保育実践における子育て支援 【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
2	保育者の専門性と倫理 【リアクションペーパー】
3	保育者の支援ニーズへの気づきと多面的な理解 【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
4	子ども・保護者が多様な他者とのかかわる機会・場の提供【リアクションペーパー】
5	子ども・保護者の状況・状態の把握と養育力の向上【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
6	保育所等を利用する保護者への支援【リアクションペーパー】
7	地域の保護者への支援【リアクションペーパー】
8	職員間・関係機関との連携・協働【リアクションペーパー】
9	特別な配慮を要する子どもとその保護者への支援【リアクションペーパー】
10	多様なニーズのある保護者への理解と支援 【ロールプレイ】【リアクションペーパー】
11	子どもの虐待の予防と対応【ロールプレイ】【リアクションペーパー】
12	要保護児童等の家庭に対する支援【リアクションペーパー】
13	子育て支援の計画と環境の構成【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
14	支援の実践・記録・評価【グループディスカッション】【リアクションペーパー】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】授業前にシラバスを確認しながらテキストの該当箇所を90分程の時間を掛けて丁寧に読んで授業に臨むことを求める。

【事後学修】授業時に学んだ内容を踏まえて60分の時間をかけて丁寧に振り返ることを求める。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（20点）、期末課題（60点）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、期末課題（20% / 60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、期末課題（20% / 60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%）、期末課題（20% / 60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

『保育実践に求められる子育て支援』小原敏郎・三浦主博編著（2019）ミネルヴァ書房。

【推薦書】

新基本保育シリーズ19『子育て支援』公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀・青木夕貴編集（2019）中央法規。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

皆さんが前期に履修した「子ども家庭支援論」の知識を含む保育や福祉等の科目で学んだ知識とリンクする部分が多くある。こうした基礎知識をふり振り返りながら保育実践に求められる子育て支援について実際の事例検討等を踏まえながら学んでいく。ディスカッション等を通してみんなで授業を作っていくので、仲間と学び合う充実さも体験してほしい。

科目名	子育て支援		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe278		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

母子保健事業における子育て相談や子育て教室、幼児教育施設等での相談業務の経験を活かし授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

保育者の保育の専門性に基づいた保育相談支援について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育者による子育て支援についても理解をする。

授業の方法 (ALを含む)

基本的知識を踏まえ、実際の援助法と具体的展開についてグループワークを中心に検討していく。授業毎にリアクションペーパーに取り組み、自己の学びの整理として活用する。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 保育士の行う子育て支援の特性を理解し、説明できる。
2. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、説明できる。
3. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援内容と方法、技術を理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3 保育者の思考・判断
- ? - 4 受容的・共感的態度

内容

視聴教材や臨床事例（保育場面、園庭開放、特別な配慮を要する子どもと保護者など）を取り入れて具体的に学んでいく。

【ケースメソッド】【グループワーク】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

1. 保育者による保育相談支援、子育て支援とは
2. 子どもの保育とともに行う保護者の支援【グループワーク】
3. 保護者との相互理解と信頼関係の形成【ロールプレイ】
4. 支援ニーズへの気づきと多面的な理解【グループワーク】
5. 子どもおよび保護者の状況・状態の把握
6. 地域と保育者の連携・協働【グループワーク】
7. 幼児教育施設における保護者支援【ケースメソッド】
8. 幼児教育施設における保護者支援【プレゼンテーション】
9. 特別な配慮を要する子どもと保護者に関する支援【ケースメソッド】
10. 相談援助の展開：事例に基づいた計画・記録・評価の作成
11. 相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開
12. 地域の保護者への支援【ケースメソッド】【グループワーク】
13. 多様なニーズを抱える子育て家庭の理解と支援【ケースメソッド】【グループワーク】
14. 相談援助の展開：まとめ
15. 子育て家庭のニーズと保育者の専門性【ケースメソッド】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、保育所保育指針解説等を読む。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標1. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（10/30）、期末レポート（15/50）

到達目標2. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（10/30）、期末レポート（15/50）

到達目標3. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（10/20）、グループ学習及び授業課題（10/30）、期末レポート（20/50）

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】子育て支援（中央法規）、保育所保育指針解説書（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

[推薦書] 子どもが育つ保護者も育つ 保育者のコミュニケーションスキル（少年写真新聞社）

[参考図書] 最新保育資料集2020（ミネルヴァ書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日常生活の場で出会う子どもと保護者に関心を持ちましょう。

科目名	子育て支援		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe278		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

母子保健事業における子育て相談や子育て教室、幼児教育施設等での相談業務の経験を活かし授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

保育者の保育の専門性に基づいた保育相談支援について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育者による子育て支援についても理解をする。

授業の方法 (ALを含む)

基本的知識を踏まえ、実際の援助法と具体的展開についてグループワークを中心に検討していく。授業毎にリアクションペーパーに取り組み、自己の学びの整理として活用する。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 保育士の行う子育て支援の特性を理解し、説明できる。
2. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援 (保育相談支援) について、その特性と展開を具体的に理解し、説明できる。
3. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援内容と方法、技術を理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3 保育者の思考・判断
- ? - 4 受容的・共感的態度

内容

視聴教材や臨床事例 (保育場面、園庭開放、特別な配慮を要する子どもと保護者など) を取り入れて具体的に学んでいく。

【ケースメソッド】【グループワーク】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

1. 保育者による保育相談支援、子育て支援とは
2. 子どもの保育とともに行う保護者の支援【グループワーク】
3. 保護者との相互理解と信頼関係の形成【ロールプレイ】
4. 支援ニーズへの気づきと多面的な理解【グループワーク】
5. 子どもおよび保護者の状況・状態の把握
6. 地域と保育者の連携・協働【グループワーク】
7. 幼児教育施設における保護者支援【ケースメソッド】
8. 幼児教育施設における保護者支援【プレゼンテーション】
9. 特別な配慮を要する子どもと保護者に関する支援【ケースメソッド】
10. 相談援助の展開：事例に基づいた計画・記録・評価の作成
11. 相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開
12. 地域の保護者への支援【ケースメソッド】【グループワーク】
13. 多様なニーズを抱える子育て家庭の理解と支援【ケースメソッド】【グループワーク】
14. 相談援助の展開：まとめ
15. 子育て家庭のニーズと保育者の専門性【ケースメソッド】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、保育所保育指針解説等を読む。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標1. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（10/30）、期末レポート（15/50）

到達目標2. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（10/30）、期末レポート（15/50）

到達目標3. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（10/20）、グループ学習及び授業課題（10/30）、期末レポート（20/50）

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】子育て支援（中央法規）、保育所保育指針解説書（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

[推薦書] 子どもが育つ保護者も育つ 保育者のコミュニケーションスキル（少年写真新聞社）

[参考図書] 最新保育資料集2020（ミネルヴァ書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日常生活の場で出会う子どもと保護者に関心を持ちましょう。

科目名	社会的養護		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe276		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と基本的知識、課題等の理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護について意義と歴史的展開変遷（講義1.2.3）、児童の権利擁護と社会的養護に関わる子ども、家庭に関わる基本知識と動向（講義5）、法と制度施策体系と施設機関の理解、社会的養護の対象、形態、関わる専門職、自立支援、虐待対応と防止等（講義 6.7.8.9.10.11.12.13）の理解と今後の課題について考察ができる（講義14.15）ことを目指す。

授業の方法（ALを含む） 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内に事例の検討、ワークシートに取り組んだり、少人数で課題について検討を行ったりする中で多面的な理解と考察を深められることを目指す。毎回の授業ではリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。【ケースメソッド】【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標 講義の目標 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明できる 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解し、説明できる。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解し、説明できる。 5. 社会的養護の現状と課題について考察を記述できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解、 -1子どもの人権尊重、 -3保育者の思考・判断。

内容

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と理念【ワークシート】【グループディスカッション】
- 2 社会的養護の歴史的展開、変遷 1
- 3 社会的養護の歴史的展開、変遷 2
- 4 社会的養護と子ども家庭福祉政策の展開
- 5 児童の権利擁護と社会的養護 【ケースメソッド】

- 6 社会的養護の制度、仕組みと実施体系
- 7 家庭養護と施設養護 【ケースメソッド】【グループディスカッション】
- 8 社会的養護に関わる専門職
- 9 施設養護の実際
- 10 施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 - 【ケースメソッド】
- 11 施設養護とソーシャルワーク 【ケースメソッド】
- 12 施設等の運営管理と地域とのかかわり、社会的養護の現状と課題
- 13 被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 14 講義の総括、
- 15 学習のまとめ 学習に対するフィードバック

なお、毎回の授業でリアクションペーパーを活用する【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】「子ども家庭福祉」、「社会福祉」の学習内容を確認のこと。各授業の前回内容の復習と次回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

評価方法および評価の基準

到達目標「1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について説明できる 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解し、説明できる。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる。4 . 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解し、説明できる。5. 社会的養護の現状と課題について考察を記述できる。」の各々について、授業内容で学んだ基本的知識、用語を理解し、説明できること、また、課題に対して基本的な知識踏まえて自身の視点で考察できることを以下の方法と割合で評価する。課題レポート(授業内提出含む)(10%)、試験(70%)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(20%)。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。

毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題、まとめのフィードバックは授業最終週に行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 小池由佳・山縣文治他編著「社会的養護」ミネルヴァ書房

推薦書 講義中に適宜示す

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容の理解を確実にするために、事前、事後の学習に積極的、主体的に取り組むこと。

科目名	社会的養護		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe276		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている保育士資格必修科目である。1年生で学ぶ保育専門職として修得すべき科目を踏まえて、社会的養護の概念、意義と基本的知識、課題等の理解を目標とする。科目の関連は特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護」をはじめとした保育、社会的養護に関わる各福祉領域の制度やサービス理解とつながりが深い科目である。

科目の概要 本講義では、社会的養護について意義と歴史的展開変遷（講義1.2.3）、児童の権利擁護と社会的養護に関わる子ども、家庭に関わる基本知識と動向（講義5）、法と制度施策体系と施設機関の理解、社会的養護の対象、形態、関わる専門職、自立支援、虐待対応と防止等（講義 6.7.8.9.10.11.12.13）の理解と今後の課題について考察ができる（講義14.15）ことを目指す。

授業の方法（ALを含む） 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内に事例の検討、ワークシートに取り組んだり、少人数で課題について検討を行ったりする中で多面的な理解と考察を深められることを目指す。毎回の授業ではリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。【ケースメソッド】【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

到達目標 講義の目標 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明できる 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解し、説明できる。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解し、説明できる。 5. 社会的養護の現状と課題について考察を記述できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解、 -1子どもの人権尊重、 -3保育者の思考・判断。

内容

< 内容 >

- 1 現代社会における社会的養護の意義と理念【ワークシート】【グループディスカッション】
- 2 社会的養護の歴史的展開、変遷 1
- 3 社会的養護の歴史的展開、変遷 2
- 4 社会的養護と子ども家庭福祉政策の展開
- 5 児童の権利擁護と社会的養護 【ケースメソッド】

- 6 社会的養護の制度、仕組みと実施体系
- 7 家庭養護と施設養護 【ケースメソッド】【グループディスカッション】
- 8 社会的養護に関わる専門職
- 9 施設養護の実際
- 10 施設養護の実際 - 日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等 - 【ケースメソッド】
- 11 施設養護とソーシャルワーク 【ケースメソッド】
- 12 施設等の運営管理と地域とのかかわり、社会的養護の現状と課題
- 13 被措置児童等の虐待防止と社会的養護
- 14 講義の総括、
- 15 学習のまとめ 学習に対するフィードバック

なお、毎回の授業でリアクションペーパーを活用する【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】「子ども家庭福祉」、「社会福祉」の学習内容を確認のこと。各授業の前回内容の復習と次回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

評価方法および評価の基準

到達目標「1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について説明できる 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解し、説明できる。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる。4 . 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解し、説明できる。5. 社会的養護の現状と課題について考察を記述できる。」の各々について、授業内容で学んだ基本的知識、用語を理解し、説明できること、また、課題に対して基本的な知識踏まえて自身の視点で考察できることを以下の方法と割合で評価する。課題レポート(授業内提出含む)(10%)、試験(70%)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(20%)。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題、まとめのフィードバックは授業最終週に行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 小池由佳・山縣文治他編著「社会的養護」ミネルヴァ書房

推薦書 講義中に適宜示す

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容の理解を確実にするために、事前、事後の学習に積極的、主体的に取り組むこと。

科目名	社会的養護		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe377		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

家庭養護に関する支援に取り組んでいる施設職員による講話と質疑応答を予定している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた選択科目であり、保育士資格取得必修科目である。1年開講「子ども家庭福祉」「社会福祉」及び2年前期開講「社会的養護」等の子ども家庭福祉関係科目とのつながりが深い科目であり、これらで学んだ保育専門職として習得すべき内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

授業の方法（ALを含む）

基本的知識を踏まえ、実際の援助法と具体的展開についてグループワークを中心に検討していく。授業毎にリアクションペーパーに取り組み、自己の学びの整理として活用する。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【レポート（表現）】

到達目標

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的な内容について具体的に理解し、説明できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解し、説明できる。
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学び、説明できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、説明できる。
5. 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践
- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 1 子どもの人権尊重

内容

視聴教材や臨床事例を取り入れて、グループワーク等を重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

1. 社会的養護における子どもの理解
2. 施設養護の基本原則と支援の実際【ケースメソッド】
3. 児童養護施設の日常生活支援 子どもの視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
3. 児童養護施設の日常生活支援 施設職員の視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
4. 児童養護施設の自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
5. 乳児院の日常生活支援 子どもの視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
6. 乳児院の日常生活支援 施設職員の視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
7. 乳児院の自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
8. 施設養護における「養育」と運営指針
9. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
10. 福祉型障害児支援の日常生活支援と自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
11. 医療型障害児支援の日常生活支援と自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
12. 施設における治療的支援と親子・地域との関係調整【ケースメソッド】【グループワーク】
13. 家庭養護の生活特性
14. 家庭養護の実際
15. まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標1.授業毎リアクションペーパーの内容評価（4/20）、グループ学習及び授業課題（6/30）、期末レポート（10/50）

到達目標2.授業毎リアクションペーパーの内容評価（4/20）、グループ学習及び授業課題（6/30）、期末レポート（10/50）

到達目標3.授業毎リアクションペーパーの内容評価（4/20）、グループ学習及び授業課題（6/30）、期末レポート（10/50）

到達目標4.授業毎リアクションペーパーの内容評価（4/20）、グループ学習及び授業課題（6/30）、期末レポート（10/50）

到達目標5.授業毎リアクションペーパーの内容評価（4/20）、グループ学習及び授業課題（6/30）、期末レポート（10/50）

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕「社会的養護」で使用したテキスト、「子ども家庭福祉」で使用したデータブック（保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規））を使用する。

〔参考図書〕最新保育資料集2020（ミネルヴァ書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの幸せを願う社会となるよう、一人の人間として、専門職としての学びを共に進めていきましょう。

科目名	社会的養護		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe377		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

家庭養護に関する支援に取り組んでいる施設職員による講話と質疑応答を予定している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた選択科目であり、保育士資格取得必修科目である。1年開講「子ども家庭福祉」「社会福祉」及び2年前期開講「社会的養護」等の子ども家庭福祉関係科目とのつながりが深い科目であり、これらで学んだ保育専門職として習得すべき内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

授業の方法（ALを含む）

基本的知識を踏まえ、実際の援助法と具体的展開についてグループワークを中心に検討していく。授業毎にリアクションペーパーに取り組み、自己の学びの整理として活用する。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【レポート（表現）】

到達目標

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的な内容について具体的に理解し、説明できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解し、説明できる。
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学び、説明できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、説明できる。
5. 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践
- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 1 子どもの人権尊重

内容

視聴教材や臨床事例を取り入れて、グループワーク等を重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

1. 社会的養護における子どもの理解
2. 施設養護の基本原則と支援の実際【ケースメソッド】
3. 児童養護施設の日常生活支援 子どもの視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
3. 児童養護施設の日常生活支援 施設職員の視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
4. 児童養護施設の自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
5. 乳児院の日常生活支援 子どもの視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
6. 乳児院の日常生活支援 施設職員の視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
7. 乳児院の自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
8. 施設養護における「養育」と運営指針
9. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
10. 福祉型障害児支援の日常生活支援と自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
11. 医療型障害児支援の日常生活支援と自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
12. 施設における治療的支援と親子・地域との関係調整【ケースメソッド】【グループワーク】
13. 家庭養護の生活特性
14. 家庭養護の実際
15. まとめ【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパーの内容評価(20点)、グループ学習及び授業課題(30点)、期末レポート(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標1.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

到達目標2.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

到達目標3.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

到達目標4.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

到達目標5.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕「社会的養護」で使用したテキスト、「子ども家庭福祉」で使用したデータブック（保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規））を使用する。

〔参考図書〕最新保育資料集2020（ミネルヴァ書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの幸せを願う社会となるよう、一人の人間として、専門職としての学びを共に進めていきましょう。

科目名	社会的養護		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe377		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

家庭養護に関する支援に取り組んでいる施設職員による講話と質疑応答を予定している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた選択科目であり、保育士資格取得必修科目である。1年開講「子ども家庭福祉」「社会福祉」及び2年前期開講「社会的養護」等の子ども家庭福祉関係科目とのつながりが深い科目であり、これらで学んだ保育専門職として習得すべき内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

授業の方法（ALを含む）

基本的知識を踏まえ、実際の援助法と具体的展開についてグループワークを中心に検討していく。授業毎にリアクションペーパーに取り組み、自己の学びの整理として活用する。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【レポート（表現）】

到達目標

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的な内容について具体的に理解し、説明できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解し、説明できる。
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学び、説明できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、説明できる。
5. 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践
- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 1 子どもの人権尊重

内容

視聴教材や臨床事例を取り入れて、グループワーク等を重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

1. 社会的養護における子どもの理解
2. 施設養護の基本原則と支援の実際【ケースメソッド】
3. 児童養護施設の日常生活支援 子どもの視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
3. 児童養護施設の日常生活支援 施設職員の視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
4. 児童養護施設の自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
5. 乳児院の日常生活支援 子どもの視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
6. 乳児院の日常生活支援 施設職員の視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
7. 乳児院の自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
8. 施設養護における「養育」と運営指針
9. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
10. 福祉型障害児支援の日常生活支援と自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
11. 医療型障害児支援の日常生活支援と自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
12. 施設における治療的支援と親子・地域との関係調整【ケースメソッド】【グループワーク】
13. 家庭養護の生活特性
14. 家庭養護の実際
15. まとめ【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパーの内容評価(20点)、グループ学習及び授業課題(30点)、期末レポート(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標1.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

到達目標2.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

到達目標3.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

到達目標4.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

到達目標5.授業毎リアクションペーパーの内容評価(4/20)、グループ学習及び授業課題(6/30)、期末レポート(10/50)

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕「社会的養護」で使用したテキスト、「子ども家庭福祉」で使用したデータブック（保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規））を使用する。

〔参考図書〕最新保育資料集2020（ミネルヴァ書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの幸せを願う社会となるよう、一人の人間として、専門職としての学びを共に進めていきましょう。

科目名	社会的養護		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe377		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

家庭養護に関する支援に取り組んでいる施設職員による講話と質疑応答を予定している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育士資格取得必修科目である。1年開講「子ども家庭福祉」「社会福祉」及び2年前期開講「社会的養護」等の子ども家庭福祉関係科目とのつながりが深い科目であり、これらで学んだ保育専門職として習得すべき内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。

科目の概要

社会的養護や子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や自立支援の実際について、臨床事例や視聴教材より具体的に学ぶ。授業展開ではグループディスカッションやグループワークを取り入れ、理解や認識を深める。

授業の方法 (ALを含む)

基本的知識を踏まえ、実際の援助法と具体的展開についてグループワークを中心に検討していく。授業毎にリアクションペーパーに取り組み、自己の学びの整理として活用する。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【レポート(表現)】

到達目標

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的な内容について具体的に理解し、説明できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解し、説明できる。
3. 個々の児童に応じた支援計画や、日常生活の支援、自立支援等の内容について具体的に学び、説明できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、説明できる。
5. 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践
- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 1 子どもの人権尊重

内容

視聴教材や臨床事例を取り入れて、グループワーク等を重ねながら受講生相互に学びを深めていく。

1. 社会的養護における子どもの理解
2. 施設養護の基本原則と支援の実際【ケースメソッド】
3. 児童養護施設の日常生活支援 子どもの視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
3. 児童養護施設の日常生活支援 施設職員の視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
4. 児童養護施設の自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
5. 乳児院の日常生活支援 子どもの視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
6. 乳児院の日常生活支援 施設職員の視点から【ケースメソッド】【グループワーク】
7. 乳児院の自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
8. 施設養護における「養育」と運営指針
9. 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価
10. 福祉型障害児支援の日常生活支援と自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
11. 医療型障害児支援の日常生活支援と自立支援【ケースメソッド】【グループワーク】
12. 施設における治療的支援と親子・地域との関係調整【ケースメソッド】【グループワーク】
13. 家庭養護の生活特性
14. 家庭養護の実際
15. まとめ【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読などしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 「社会的養護」で使用したテキスト、「子ども家庭福祉」で使用したデータブック（保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規））を使用する。

[参考図書] 最新保育資料集2020（ミネルヴァ書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子ども家庭支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAe275		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場を含めた保育臨床・心理臨床場面での相談経験を持つ教員が担当し、子どもの発達臨床相談や家庭支援の実践事例を紹介しながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の本質・目的に関する科目」の一つであり、保育士資格の必修科目である。また、幼児教育学科の専門科目であり、「生活と福祉」の領域に位置づいている。「子育て家庭に対する支援の意義・目的」、「保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本」、「子育て家庭に対する支援の体制」、「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題」について理解することが求められる。

科目の概要

子育てを取り巻く昨今の社会的状況の変化を踏まえ、子育てや家族・家庭の現状を知ると共に、現代社会で求められている子育て家庭支援について考えを深めることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とするが、視聴覚教材等を用いたグループディスカッションや毎回のリアクションペーパーを取り入れる授業を行う。、【リアクションペーパー】【グループワーク】【グループディスカッション】

到達目標

- ・子育てを取り巻く地域や社会の状況と多様な支援ニーズについて理解し、子ども家庭支援に関する広い視野を身につけることができる。
- ・子ども家庭支援の実践例について主体的に学ぶ中で、子ども家庭支援の必要性と意義について理解し、受講者自身が取り組むことができる子育て家庭支援について考えを深めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保育者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3 社会的事象への関心
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

各授業毎に修得及び理解を要するテーマを提示する。その授業テーマに応じて、グループディスカッションやグループワーク、発表等を取り入れる。また、授業内で自分自身の考えを発言することが求められる。講義形式の授業ではあるが、可能な限り双方向からの応答的な授業展開を目指す。

1	授業科目の概要：オリエンテーション「子どもが育つ」とは 【リアクションペーパー】
---	--

2	子ども家庭支援の意義と必要性 【リアクションペーパー】
3	子ども家庭支援の目的と機能 【リアクションペーパー】
4	子育てを取り巻く社会的状況 (1) 子育て環境・意識の変化 【リアクションペーパー】
5	子育てを取り巻く社会的状況 (2) 子育て家庭支援に必要な社会資源 【リアクションペーパー】
6	保育者による子ども家庭支援の意義と基本 【リアクションペーパー】
7	保育者に求められる基本的態度 【リアクションペーパー】
8	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の実際 【リアクションペーパー】
9	子育て家庭に対する支援の体制 【リアクションペーパー】 【グループワーク】
10	子育て支援に関わる政策・施策 【リアクションペーパー】
11	多様な支援の展開と関係機関との連携 (1) 子ども家庭支援の概要と実践例 【リアクションペーパー】
12	多様な支援の展開と関係機関との連携 (2) 子育て支援機関の概要と実践例 【リアクションペーパー】【グループディスカッション】
13	多様な支援の展開と関係機関との連携 (3) 子育て支援機関の概要と実践例 【リアクションペーパー】【グループディスカッション】
14	諸外国の子ども家庭支援と日本の子ども家庭支援の比較 【リアクションペーパー】
15	まとめ(子ども家庭支援に関する現状と課題)【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で指定されたテキストの該当箇所を読み、自分なりの問題意識を持ち考えを深めておくこと(各授業に対して1時間程度)。また、事前課題を提示された場合は、意欲を持って取り組むこと。【事後学修】授業内で記入したノートとテキストを照らし合わせて復習し、自分の考えをまとめること(各授業に対して1時間程度)。

評価方法および評価の基準

毎回の授業後のリアクションペーパーと小課題(25%)、授業への参加度(25%)、最終課題(50%)により総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指定する。その他、適宜プリントを配布する。

【推薦書】松本園子他著「実践 家庭支援論」ななみ書房

松原康雄他「子ども家庭支援論」中央法規

小野澤昇他編著「子どもの生活を支える家庭支援論」ミネルヴァ書房

【参考図書】適宜、授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で学んだことを発展的に理解しようとする気持ちを持ち、主体的姿勢で受講することを望みます。

科目名	子ども家庭支援論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAe275		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場を含めた保育臨床・心理臨床場面での相談経験を持つ教員が担当し、子どもの発達臨床相談や家庭支援の実践事例を紹介しながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は保育士養成課程カリキュラムの「保育の本質・目的に関する科目」の一つであり、保育士資格の必修科目である。また、幼児教育学科の専門科目であり、「生活と福祉」の領域に位置づいている。「子育て家庭に対する支援の意義・目的」、「保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本」、「子育て家庭に対する支援の体制」、「子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題」について理解することが求められる。

科目の概要

子育てを取り巻く昨今の社会的状況の変化を踏まえ、子育てや家族・家庭の現状を知ると共に、現代社会で求められている子育て家庭支援について考えを深めることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とするが、視聴覚教材等を用いたグループディスカッションや毎回のリアクションペーパーを取り入れる授業を行う。【リアクションペーパー】【グループワーク】【グループディスカッション】

到達目標

- ・子育てを取り巻く地域や社会の状況と多様な支援ニーズについて理解し、子ども家庭支援に関する広い視野を身につけることができる。
- ・子ども家庭支援の実践例について主体的に学ぶ中で、子ども家庭支援の必要性と意義について理解し、受講者自身が取り組むことができる子育て家庭支援について考えを深めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保育者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3 社会的事象への関心
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

各授業毎に修得及び理解を要するテーマを提示する。その授業テーマに応じて、グループディスカッションやグループワーク、発表等を取り入れる。また、授業内で自分自身の考えを発言することが求められる。講義形式の授業ではあるが、可能な限り双方向からの応答的な授業展開を目指す。

1	授業科目の概要：オリエンテーション「子どもが育つ」とは 【リアクションペーパー】
---	--

2	子ども家庭支援の意義と必要性 【リアクションペーパー】
3	子ども家庭支援の目的と機能 【リアクションペーパー】
4	子育てを取り巻く社会的状況 (1) 子育て環境・意識の変化 【リアクションペーパー】
5	子育てを取り巻く社会的状況 (2) 子育て家庭支援に必要な社会資源 【リアクションペーパー】
6	保育者による子ども家庭支援の意義と基本 【リアクションペーパー】
7	保育者に求められる基本的態度 【リアクションペーパー】
8	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の実際 【リアクションペーパー】
9	子育て家庭に対する支援の体制 【リアクションペーパー】 【グループワーク】
10	子育て支援に関わる政策・施策 【リアクションペーパー】
11	多様な支援の展開と関係機関との連携 (1) 子ども家庭支援の概要と実践例 【リアクションペーパー】
12	多様な支援の展開と関係機関との連携 (2) 子育て支援機関の概要と実践例 【リアクションペーパー】【グループディスカッション】
13	多様な支援の展開と関係機関との連携 (3) 子育て支援機関の概要と実践例 【リアクションペーパー】【グループディスカッション】
14	諸外国の子ども家庭支援と日本の子ども家庭支援の比較 【リアクションペーパー】
15	まとめ(子ども家庭支援に関する現状と課題)【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で指定されたテキストの該当箇所を読み、自分なりの問題意識を持ち考えを深めておくこと(各授業に対して1時間程度)。また、事前課題を提示された場合は、意欲を持って取り組むこと。【事後学修】授業内で記入したノートとテキストを照らし合わせて復習し、自分の考えをまとめること(各授業に対して1時間程度)。

評価方法および評価の基準

毎回の授業後のリアクションペーパーと小課題(25%)、授業への参加度(25%)、最終課題(50%)により総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指定する。その他、適宜プリントを配布する。

【推薦書】松本園子他著「実践 家庭支援論」ななみ書房

松原康雄他「子ども家庭支援論」中央法規

小野澤昇他編著「子どもの生活を支える家庭支援論」ミネルヴァ書房

【参考図書】適宜、授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で学んだことを発展的に理解しようとする気持ちを持ち、主体的姿勢で受講することを望みます。

科目名	児童保健学		
担当教員名			
ナンバリング	KAf179		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、統計をはじめ、母子保健行政の役割、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 小児保健の意義が説明できる。
2. 小児保健・母子保健に関する統計が説明できる。
3. 子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
4. 子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
5. 保育所での安全管理のあり方について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 乳児・幼児の発達と反射
- 2 母子健康手帳の変遷と役割
- 3 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 4 小児保健とは 母子保健統計
- 5 母子保健行政の流れ
- 6 乳児・幼児健診 就学時検診

- 7 乳児・幼児の栄養と消化吸収
- 8 子どもの睡眠
- 9 子どもの生活リズム
- 10 子どもにありがちな気になる行動
- 11 子どもの病的な気になる行動
- 12 子どもの環境整備 メディアリテラシー
- 13 事故と安全
- 14 復習
- 15 まとめと解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	児童保健学		
担当教員名			
ナンバリング	KAf179		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

小児保健・母子保健の意義、統計をはじめ、母子保健行政の役割、子どもの発育・発達の特徴について学ぶ。また、日常の保育の中で、子どもの健康に関する支援について理解し、健康課題に対応できるよう学習する。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 小児保健の意義が説明できる。
2. 小児保健・母子保健に関する統計が説明できる。
3. 子どもの発育・発達の特徴が説明できる。
4. 子どもの発達課題に応じた対応法について説明できる。
5. 保育所での安全管理のあり方について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 乳児・幼児の発達と反射
- 2 母子健康手帳の変遷と役割
- 3 乳児・幼児の発育と成長曲線
- 4 小児保健とは 母子保健統計
- 5 母子保健行政の流れ

- 6 乳児・幼児健診 就学時検診
- 7 乳児・幼児の栄養と消化吸収
- 8 子どもの睡眠
- 9 子どもの生活リズム
- 10 子どもにありがちな気になる行動
- 11 子どもの病的な気になる行動
- 12 子どもの環境整備 メディアリテラシー
- 13 事故と安全
- 14 復習
- 15 まとめと解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、各自印刷するか、内容を閲覧できるタブレット・ノートパソコン等を持参する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの健康と安全		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf280		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

小児科臨床現場の実務及び母子保健研究の実務経験が直接教科内容に関連する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に対応する

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

授業の方法（ALを含む）

学修目標（＝到達目標）

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は演習に積極的に参加させ、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法

- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

【評価の方法と比率】

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。試験5% 平常点5%
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。試験10% 平常点10%
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。試験10% 平常点15%
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。試験10% 平常点15%
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。試験10% 平常点10%

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽。加藤則子、加藤忠愛、松橋有子編著 新版小児保健（新保育ライブラリ）北大路書房
授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、予習に役立てる

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの健康と安全		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf280		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

小児科臨床現場の実務及び母子保健研究の実務経験が直接教科内容に関連する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.3に対応する

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

授業の方法（ALを含む）

学修目標（＝到達目標）

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は演習に積極的に参加させ、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法

- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

【評価の方法と比率】

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。試験5% 平常点5%
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。試験10% 平常点10%
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。試験10% 平常点15%
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。試験10% 平常点15%
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。試験10% 平常点10%

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽。加藤則子、加藤忠愛、松橋有子編著 新版小児保健（新保育ライブラリ）北大路書房
授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、予習に役立てる

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの健康と安全		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf280		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

小児科臨床現場の実務及び母子保健研究の実務経験が直接教科内容に関連する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

授業の方法 (ALを含む)

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は演習に積極的に参加させ、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法

- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

【評価の方法と比率】

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。試験5% 平常点5%
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。試験10% 平常点10%
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。試験10% 平常点15%
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。試験10% 平常点15%
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。試験10% 平常点10%

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽。加藤則子、加藤忠愛、松橋有子編著 新版小児保健（新保育ライブラリ）北大路書房
授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、予習に役立てる

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの健康と安全		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf280		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

小児科臨床現場の実務及び母子保健研究の実務経験が直接教科内容に関連する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理を演習から学び、観察力と対応力を身につける。

科目の概要

小児の発達段階に応じた心身の健康状態を理解するため、講義と演習を取り入れて、授業を展開する。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい。

授業の方法 (ALを含む)

学修目標 (= 到達目標)

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は演習に積極的に参加させ、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

- 1 子どもの正しい身体計測
- 2 体温測定、聴診器を使った心拍、呼吸数測定
- 3 デンバー式発達判定法

- 4 家庭で行う聴力・視力検査
- 5 叩かないしつけの技術
- 6 子どもの事故防止
- 7 手洗い実習、手洗い歌
- 8 ノロウイルス対策
- 9 調乳、哺乳、排気
- 10 乳児の抱き方、衣類の着脱、沐浴の手順
- 11 沐浴実習
- 12 夏の保育の注意
- 13 発熱、外傷、けいれん等の対応
- 14 復習
- 15 まとめと解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

【評価の方法と比率】

- 1 子どもの発育・発達の状況を正確にとらえることができる。試験5% 平常点5%
- 2 子どもの発育・発達の知識にもとづいて、個別の発達課題に応じた対応ができる。試験10% 平常点10%
- 3 子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。試験10% 平常点15%
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。試験10% 平常点15%
- 5 子どもの日常的な世話が適切に実践できる。試験10% 平常点10%

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽。加藤則子、加藤忠愛、松橋有子編著 新版小児保健（新保育ライブラリ）北大路書房
授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、予習に役立てる

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAc319		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と現任者研修指導、保育巡回指導の実務経験のある教員が、自身の保育実践と指導実績を活かした授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容および保育内容の指導法の科目を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格をもつ。

科目の概要

幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園において、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養う。これまでの各授業や実習を振り返り、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表する。

授業の方法（ALを含む）

6-8人のグループで、幼稚園（保育所、幼保連携型認定こども園）を作り、発表する。所在地の社会・文化・自然特性と政策、園の教育・保育理念、園舎・園庭の設計、教育課程（全体的な計画）と年間指導計画の作成、特徴的な活動などを考えて、園を設計していく。グループで工夫し、資料を作成して発表を行い、質疑応答を通して、保育内容や領域の総合性等への理解を深める。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【創作、制作】【レポート（表現）】

到達目標

- 1.幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解し、説明することが出来る。
- 2.幼稚園および保育所における保育内容を吟味し、批判、評価することが出来る。
- 3.乳幼児期にふさわしい保育の全体的な計画を自ら工夫して作成することが出来る。
- 4.自分の考えや構想、計画について、わかりやすく伝えることが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5表現・コミュニケーション
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は演習であり、6～8人のグループを作り、グループ毎に幼稚園を設計し発表する。仲間と討議し、作業を分担してすすめていくグループワークが基本であり、主体的な参加が必須である。

15会の授業全体が、【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【創作、制作】【レポート（表現）】で構成されている。

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称/基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮）
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目（園の教育方針や園舎、園環境の特徴について）質疑応答
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	園の特性を生かした保育内容の具体化（地域特性を反映した取り組みなど）
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目（園のパンフレットを作成し、役割を決めて入園説明会を開く）
13	グループごとの発表2回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 ESDを理解し保育を見つめ直す

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】1～2時間。幼稚園、こども園、保育所をグループでデザインしていく上での必要事項を調べてくる（教育要領や保育指針だけでなく、設置市町村の基本情報など）。

【事後学習】1～2時間。その時間に行った討議や作業を踏まえて次週に行う作業をグループ内で確認し、分担して準備、検索などを行う。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼン内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2,3. グループ作成資料（10%/30%）、学期末レポート（10%/30%）

到達目標4. 授業参加態度（20%/20%）、グループ活動取り組み姿勢とプレゼン（20%/20%）

【フィードバック】グループワークによる成果物は発表時にコメント，評価する。期末課題は、後日クラス全体へのコメントを行い、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他、必要に応じてプリント資料配布）

【参考書】『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

適宜、紹介する

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAc319		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と現任者研修指導、保育巡回指導の実務経験のある教員が、自身の保育実践と指導実績を活かした授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容および保育内容の指導法の科目を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格をもつ。

科目の概要

幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園において、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養う。これまでの各授業や実習を振り返り、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表する。

授業の方法（ALを含む）

6-8人のグループで、幼稚園（保育所、幼保連携型認定こども園）を作り、発表する。所在地の社会・文化・自然特性と政策、園の教育・保育理念、園舎・園庭の設計、教育課程（全体的な計画）と年間指導計画の作成、特徴的な活動などを考えて、園を設計していく。グループで工夫し、資料を作成して発表を行い、質疑応答を通して、保育内容や領域の総合性等への理解を深める。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【創作、制作】【レポート（表現）】

到達目標

- 1.幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解し、説明することが出来る。
- 2.幼稚園および保育所における保育内容を吟味し、批判、評価することが出来る。
- 3.乳幼児期にふさわしい保育の全体的な計画を自ら工夫して作成することが出来る。
- 4.自分の考えや構想、計画について、わかりやすく伝えることが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5表現・コミュニケーション
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は演習であり、6～8人のグループを作り、グループ毎に幼稚園を設計し発表する。仲間と討議し、作業を分担してすすめていくグループワークが基本であり、主体的な参加が必須である。

15会の授業全体が、【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【創作、制作】【レポート（表現）】で構成されている。

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称/基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮）
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目（園の教育方針や園舎、園環境の特徴について）質疑応答
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	園の特性を生かした保育内容の具体化（地域特性を反映した取り組みなど）
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目（園のパンフレットを作成し、役割を決めて入園説明会を開く）
13	グループごとの発表2回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 ESDを理解し保育を見つめ直す

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】1～2時間。幼稚園、こども園、保育所をグループでデザインしていく上での必要事項を調べてくる（教育要領や保育指針だけでなく、設置市町村の基本情報など）。

【事後学習】1～2時間。その時間に行った討議や作業を踏まえて次週に行う作業をグループ内で確認し、分担して準備、検索などを行う。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼン内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2,3. グループ作成資料（10%/30%）、学期末レポート（10%/30%）

到達目標4. 授業参加態度（20%/20%）、グループ活動取り組み姿勢とプレゼン（20%/20%）

【フィードバック】グループワークによる成果物は発表時にコメント，評価する。期末課題は、後日クラス全体へのコメントを行い、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他、必要に応じてプリント資料配布）

【参考書】『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

適宜、紹介する

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAc319		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と現任者研修指導、保育巡回指導の実務経験のある教員が、自身の保育実践と指導実績を活かした授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容および保育内容の指導法の科目を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格をもつ。

科目の概要

幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園において、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養う。これまでの各授業や実習を振り返り、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表する。

授業の方法（ALを含む）

6-8人のグループで、幼稚園（保育所、幼保連携型認定こども園）を作り、発表する。所在地の社会・文化・自然特性と政策、園の教育・保育理念、園舎・園庭の設計、教育課程（全体的な計画）と年間指導計画の作成、特徴的な活動などを考えて、園を設計していく。グループで工夫し、資料を作成して発表を行い、質疑応答を通して、保育内容や領域の総合性等への理解を深める。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【創作、制作】【レポート（表現）】

到達目標

- 1.幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解し、説明することが出来る。
- 2.幼稚園および保育所における保育内容を吟味し、批判、評価することが出来る。
- 3.乳幼児期にふさわしい保育の全体的な計画を自ら工夫して作成することが出来る。
- 4.自分の考えや構想、計画について、わかりやすく伝えることが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5表現・コミュニケーション
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は演習であり、6～8人のグループを作り、グループ毎に幼稚園を設計し発表する。仲間と討議し、作業を分担してすすめていくグループワークが基本であり、主体的な参加が必須である。

15会の授業全体が、【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【創作、制作】【レポート（表現）】で構成されている。

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称/基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮）
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目（園の教育方針や園舎、園環境の特徴について）質疑応答
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	園の特性を生かした保育内容の具体化（地域特性を反映した取り組みなど）
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目（園のパンフレットを作成し、役割を決めて入園説明会を開く）
13	グループごとの発表2回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 ESDを理解し保育を見つめ直す

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】1～2時間。幼稚園、こども園、保育所をグループでデザインしていく上での必要事項を調べてくる（教育要領や保育指針だけでなく、設置市町村の基本情報など）。

【事後学習】1～2時間。その時間に行った討議や作業を踏まえて次週に行う作業をグループ内で確認し、分担して準備、検索などを行う。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼン内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2,3. グループ作成資料（10%/30%）、学期末レポート（10%/30%）

到達目標4. 授業参加態度（20%/20%）、グループ活動取り組み姿勢とプレゼン（20%/20%）

【フィードバック】グループワークによる成果物は発表時にコメント，評価する。期末課題は、後日クラス全体へのコメントを行い、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他、必要に応じてプリント資料配布）

【参考書】『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

適宜、紹介する

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAc319		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と現任者研修指導、保育巡回指導の実務経験のある教員が、自身の保育実践と指導実績を活かした授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容および保育内容の指導法の科目を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格をもつ。

科目の概要

幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園において、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養う。これまでの各授業や実習を振り返り、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表する。

授業の方法（ALを含む）

6-8人のグループで、幼稚園（保育所、幼保連携型認定こども園）を作り、発表する。所在地の社会・文化・自然特性と政策、園の教育・保育理念、園舎・園庭の設計、教育課程（全体的な計画）と年間指導計画の作成、特徴的な活動などを考えて、園を設計していく。グループで工夫し、資料を作成して発表を行い、質疑応答を通して、保育内容や領域の総合性等への理解を深める。

【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【創作、制作】【レポート（表現）】

到達目標

- 1.幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解し、説明することが出来る。
- 2.幼稚園および保育所における保育内容を吟味し、批判、評価することが出来る。
- 3.乳幼児期にふさわしい保育の全体的な計画を自ら工夫して作成することが出来る。
- 4.自分の考えや構想、計画について、わかりやすく伝えることが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5表現・コミュニケーション
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は演習であり、6～8人のグループを作り、グループ毎に幼稚園を設計し発表する。仲間と討議し、作業を分担してすすめていくグループワークが基本であり、主体的な参加が必須である。

15会の授業全体が、【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【創作、制作】【レポート（表現）】で構成されている。

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称/基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮）
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目（園の教育方針や園舎、園環境の特徴について）質疑応答
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	園の特性を生かした保育内容の具体化（地域特性を反映した取り組みなど）
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目（園のパンフレットを作成し、役割を決めて入園説明会を開く）
13	グループごとの発表2回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 ESDを理解し保育を見つめ直す

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】1～2時間。幼稚園、こども園、保育所をグループでデザインしていく上での必要事項を調べてくる（教育要領や保育指針だけでなく、設置市町村の基本情報など）。

【事後学習】1～2時間。その時間に行った討議や作業を踏まえて次週に行う作業をグループ内で確認し、分担して準備、検索などを行う。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼン内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2,3. グループ作成資料（10%/30%）、学期末レポート（10%/30%）

到達目標4. 授業参加態度（20%/20%）、グループ活動取り組み姿勢とプレゼン（20%/20%）

【フィードバック】グループワークによる成果物は発表時にコメント，評価する。期末課題は、後日クラス全体へのコメントを行い、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

（他、必要に応じてプリント資料配布）

【参考書】『最新保育資料集』ミネルヴァ書房

適宜、紹介する

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目です。幼児教育学科学位授与方針の1.2.3に該当します。

科目の概要

心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や指導の実際について具体的に考察していきます。子どもの心情、意欲、態度を育み、子どもの主体的な活動を援助するための考え方や指導法についての知識を広め、見識を深めていくことを目指します。

授業の方法（ALを含む）

領域「健康」にまつわる基礎的な知識、現代的な課題に関する知識を踏まえた上で、実際の援助法についてグループワークを中心に検討していく。

【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者としての役割を考える力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「保育実践」
- 3「保育者の思考・判断」
- 2「成長発達の支援、積極性」

内容

1	領域「健康」とは何か 遊びを中心とした保育と領域「健康」
2	領域「健康」のねらいと内容
3	内容の取り扱い（指導上、特に留意すべき事項について）
4	子どもの生活リズム・生活習慣

5	子どもをめぐる食の現状と課題
6	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
7	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の確認（グループワーク）
8	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の修正（グループワーク）
9	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表準備（グループワーク）
10	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク）
11	子どもの身体の発達
12	子どもの運動能力の発達
13	安全への配慮 （リスクとハザード）
14	安全への配慮 （事故の予防と応急処置）
15	授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく（2時間程度）。

【事後学修】授業内容を振り返り、まとめる（2時間程度）。

評価方法および評価の基準

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及び期末試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】未定 授業始めに指示します。

【参考書】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領、保育所保育指針

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目です。幼児教育学科学位授与方針の1.2.3に該当します。

科目の概要

心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や指導の実際について具体的に考察していきます。子どもの心情、意欲、態度を育み、子どもの主体的な活動を援助するための考え方や指導法についての知識を広め、見識を深めていくことを目指します。

授業の方法（ALを含む）

領域「健康」にまつわる基礎的な知識、現代的な課題に関する知識を踏まえた上で、実際の援助法についてグループワークを中心に検討していく。

【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者としての役割を考える力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「保育実践」
- 3「保育者の思考・判断」
- 2「成長発達の支援、積極性」

内容

1	領域「健康」とは何か 遊びを中心とした保育と領域「健康」
2	領域「健康」のねらいと内容
3	内容の取り扱い（指導上、特に留意すべき事項について）
4	子どもの生活リズム・生活習慣
5	子どもをめぐる食の現状と課題

6	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
7	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の確認（グループワーク）
8	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の修正（グループワーク）
9	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の発表準備（グループワーク）
10	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク）
11	子どもの身体の発達	
12	子どもの運動能力の発達	
13	安全への配慮	（リスクとハザード）
14	安全への配慮	（事故の予防と応急処置）
15	授業のまとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく（2時間程度）。

【事後学修】授業内容を振り返り、まとめる（2時間程度）。

評価方法および評価の基準

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及び期末試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】未定 授業始めに指示します。

【参考書】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領、保育所保育指針

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目です。幼児教育学科学位授与方針の1．2．3に該当します。

科目の概要

心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や指導の実際について具体的に考察していきます。子どもの心情、意欲、態度を育み、子どもの主体的な活動を援助するための考え方や指導法についての知識を広め、見識を深めていくことを目指します。

授業の方法（ALを含む）

領域「健康」にまつわる基礎的な知識、現代的な課題に関する知識を踏まえた上で、実際の援助法についてグループワークを中心に検討していく。

【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者としての役割を考える力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「保育実践」
- 3「保育者の思考・判断」
- 2「成長発達の支援、積極性」

内容

1	領域「健康」とは何か 遊びを中心とした保育と領域「健康」
2	領域「健康」のねらいと内容
3	内容の取り扱い（指導上、特に留意すべき事項について）
4	子どもの生活リズム・生活習慣

5	子どもをめぐる食の現状と課題
6	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
7	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の確認（グループワーク）
8	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の修正（グループワーク）
9	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表準備（グループワーク）
10	食育と健康 食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク）
11	子どもの身体の発達
12	子どもの運動能力の発達
13	安全への配慮 （リスクとハザード）
14	安全への配慮 （事故の予防と応急処置）
15	授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく（2時間程度）。

【事後学修】授業内容を振り返り、まとめる（2時間程度）。

評価方法および評価の基準

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及び期末試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】未定 授業始めに指示します。

【参考書】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領、保育所保育指針

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAc220		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学びます。幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する上での必修科目です。幼児教育学科学位授与方針の1.2.3に該当します。

科目の概要

心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や指導の実際について具体的に考察していきます。子どもの心情、意欲、態度を育み、子どもの主体的な活動を援助するための考え方や指導法についての知識を広め、見識を深めていくことを目指します。

授業の方法（ALを含む）

領域「健康」にまつわる基礎的な知識、現代的な課題に関する知識を踏まえた上で、実際の援助法についてグループワークを中心に検討していく。

【グループワーク】【プレゼンテーション】【模擬授業】

到達目標

保育内容の領域「健康」に関する基本的知識を習得すると同時に、「健康」の視点から子ども理解を深め、より実践的に保育者としての役割を考える力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「保育実践」
- 3「保育者の思考・判断」
- 2「成長発達の支援、積極性」

内容

1	領域「健康」とは何か 遊びを中心とした保育と領域「健康」
2	領域「健康」のねらいと内容
3	内容の取り扱い（指導上、特に留意すべき事項について）
4	子どもの生活リズム・生活習慣
5	子どもをめぐる食の現状と課題

6	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）
7	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の確認（グループワーク）
8	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の修正（グループワーク）
9	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の発表準備（グループワーク）
10	食育と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の発表（グループワーク）
11	子どもの身体の発達	
12	子どもの運動能力の発達	
13	安全への配慮	（リスクとハザード）
14	安全への配慮	（事故の予防と応急処置）
15	授業のまとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく（2時間程度）。

【事後学修】授業内容を振り返り、まとめる（2時間程度）。

評価方法および評価の基準

評価は、授業への取り組み（20点）、授業での課題（指導計画の立案・修正・発表 30点）及び期末試験（50点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】 授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】未定 授業始めに指示します。

【参考書】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領、保育所保育指針

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	KAc221		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育内容の指導法に関する専門科目の一つである。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や学び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育を「環境」という視点から捉え、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出していくか、子どもの発達過程と一人ひとりの理解を深めながら、季節や状況に応じた援助や保育者の役割について具体的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。内容に応じて、教室外での実践演習を行う。

【グループワーク】【グループディスカッション】

到達目標

1. 保育における「環境」という視点を通して、乳幼児と環境との関わりやその育ちが理解できる。
2. 保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画することができる。
3. 「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 3 保育内容・指導法
- 3 保育者としての思考力・判断力

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。さらに、保育における総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

1	保育における「環境」とは
2	子どもの育ちと環境に関わる力
3	子どもの育ちと環境に関わる力
4	領域「環境」内容の変遷
5	自然や季節との関わり 周囲の自然に気付く【グループワーク】
6	自然や季節との関わり 四季と保育【グループワーク】
7	生き物との関わり【グループワーク】
8	物や道具との関わり 物や道具の意味と使い方【グループワーク】
9	物や道具との関わり 物や道具を利用した保育実践【グループワーク】
10	文字や標識、数量や図形との関わり【グループワーク】
11	地域社会や文化との関わり【グループワーク】
12	子どもが主体的に関われる環境構成を計画する
13	計画した環境構成の振り返りと再構成【グループディスカッション】
14	環境への関わりを促す保育者の役割【グループディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に示されるねらいと内容について、具体的な子どもの生活や保育活動と結び付けて考え、ノート等にまとめる。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。授業内で配布、紹介された資料や文献、授業実践を踏まえた保育活動を具体的にイメージし、ノート等にまとめておく。（各授業に対して60分程度）

評価方法および評価の基準

授業への参加度および授業実践に関わるレポート（70%）、筆記試験（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（20/70）筆記試験（10/30）

到達目標 2．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（20/70）筆記試験（10/30）

到達目標 3．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（30/70）筆記試験（10/30）

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートはコメントを記載し、翌週以降の授業で全体講評とともに返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】「環境」無藤隆・福元真由美 編 萌文書林

「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日ごろから自分の周囲をよく観察し、自然の変化や季節に対して敏感に感じ取れるように意識すること。また、身の回りにあるものや道具、生活する環境全体に目を向け、子どもの興味・関心がどのような点にあるのかを意識すること。課題等の提出期日は守ること。

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	KAc221		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育内容の指導法に関する専門科目の一つである。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や学び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育を「環境」という視点から捉え、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出していくか、子どもの発達過程と一人ひとりの理解を深めながら、季節や状況に応じた援助や保育者の役割について具体的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。内容に応じて、教室外での実践演習を行う。

【グループワーク】【グループディスカッション】

到達目標

1. 保育における「環境」という視点を通して、乳幼児と環境との関わりやその育ちが理解できる。
2. 保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画することができる。
3. 「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 3 保育内容・指導法
- 3 保育者としての思考力・判断力

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。さらに、保育における総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

1	保育における「環境」とは
2	子どもの育ちと環境に関わる力
3	子どもの育ちと環境に関わる力
4	領域「環境」内容の変遷
5	自然や季節との関わり 周囲の自然に気付く【グループワーク】
6	自然や季節との関わり 四季と保育【グループワーク】
7	生き物との関わり【グループワーク】
8	物や道具との関わり 物や道具の意味と使い方【グループワーク】
9	物や道具との関わり 物や道具を利用した保育実践【グループワーク】
10	文字や標識、数量や図形との関わり【グループワーク】
11	地域社会や文化との関わり【グループワーク】
12	子どもが主体的に関われる環境構成を計画する
13	計画した環境構成の振り返りと再構成【グループディスカッション】
14	環境への関わりを促す保育者の役割【グループディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に示されるねらいと内容について、具体的な子どもの生活や保育活動と結び付けて考え、ノート等にまとめる。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。授業内で配布、紹介された資料や文献、授業実践を踏まえた保育活動を具体的にイメージし、ノート等にまとめておく。（各授業に対して60分程度）

評価方法および評価の基準

授業への参加度および授業実践に関わるレポート（70%）、筆記試験（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（20/70）筆記試験（10/30）

到達目標 2．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（20/70）筆記試験（10/30）

到達目標 3．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（30/70）筆記試験（10/30）

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートはコメントを記載し、翌週以降の授業で全体講評とともに返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】「環境」無藤隆・福元真由美 編 萌文書林

「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日ごろから自分の周囲をよく観察し、自然の変化や季節に対して敏感に感じ取れるように意識すること。また、身の回りにあるものや道具、生活する環境全体に目を向け、子どもの興味・関心がどのような点にあるのかを意識すること。課題等の提出期日は守ること。

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	KAc221		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育内容の指導法に関する専門科目の一つである。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や学び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育を「環境」という視点から捉え、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出していくか、子どもの発達過程と一人ひとりの理解を深めながら、季節や状況に応じた援助や保育者の役割について具体的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。内容に応じて、教室外での実践演習を行う。

【グループワーク】【グループディスカッション】

到達目標

1. 保育における「環境」という視点を通して、乳幼児と環境との関わりやその育ちが理解できる。
2. 保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画することができる。
3. 「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 3 保育内容・指導法
- 3 保育者としての思考力・判断力

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。さらに、保育における総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

1	保育における「環境」とは
2	子どもの育ちと環境に関わる力
3	子どもの育ちと環境に関わる力
4	領域「環境」内容の変遷
5	自然や季節との関わり 周囲の自然に気付く【グループワーク】
6	自然や季節との関わり 四季と保育【グループワーク】
7	生き物との関わり【グループワーク】
8	物や道具との関わり 物や道具の意味と使い方【グループワーク】
9	物や道具との関わり 物や道具を利用した保育実践【グループワーク】
10	文字や標識、数量や図形との関わり【グループワーク】
11	地域社会や文化との関わり【グループワーク】
12	子どもが主体的に関われる環境構成を計画する
13	計画した環境構成の振り返りと再構成【グループディスカッション】
14	環境への関わりを促す保育者の役割【グループディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に示されるねらいと内容について、具体的な子どもの生活や保育活動と結び付けて考え、ノート等にまとめる。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。授業内で配布、紹介された資料や文献、授業実践を踏まえた保育活動を具体的にイメージし、ノート等にまとめておく。（各授業に対して60分程度）

評価方法および評価の基準

授業への参加度および授業実践に関わるレポート（70%）、筆記試験（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（20/70）筆記試験（10/30）

到達目標 2．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（20/70）筆記試験（10/30）

到達目標 3．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（30/70）筆記試験（10/30）

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートはコメントを記載し、翌週以降の授業で全体講評とともに返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】「環境」無藤隆・福元真由美 編 萌文書林

「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日ごろから自分の周囲をよく観察し、自然の変化や季節に対して敏感に感じ取れるように意識すること。また、身の回りにあるものや道具、生活する環境全体に目を向け、子どもの興味・関心がどのような点にあるのかを意識すること。課題等の提出期日は守ること。

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	KAc221		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育内容の指導法に関する専門科目の一つである。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や学び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育を「環境」という視点から捉え、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出していくか、子どもの発達過程と一人ひとりの理解を深めながら、季節や状況に応じた援助や保育者の役割について具体的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。内容に応じて、教室外での実践演習を行う。

【グループワーク】【グループディスカッション】

到達目標

1. 保育における「環境」という視点を通して、乳幼児と環境との関わりやその育ちが理解できる。
2. 保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画することができる。
3. 「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 3 保育内容・指導法
- 3 保育者としての思考力・判断力

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深める。さらに、保育における総合的指導の理解を目的として、教室外での実践演習を行うことがある。

1	保育における「環境」とは
2	子どもの育ちと環境に関わる力
3	子どもの育ちと環境に関わる力
4	領域「環境」内容の変遷
5	自然や季節との関わり 周囲の自然に気付く【グループワーク】
6	自然や季節との関わり 四季と保育【グループワーク】
7	生き物との関わり【グループワーク】
8	物や道具との関わり 物や道具の意味と使い方【グループワーク】
9	物や道具との関わり 物や道具を利用した保育実践【グループワーク】
10	文字や標識、数量や図形との関わり【グループワーク】
11	地域社会や文化との関わり【グループワーク】
12	子どもが主体的に関われる環境構成を計画する
13	計画した環境構成の振り返りと再構成【グループディスカッション】
14	環境への関わりを促す保育者の役割【グループディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」に示されるねらいと内容について、具体的な子どもの生活や保育活動と結び付けて考え、ノート等にまとめる。（各授業に対して60分程度）

【事後学修】授業内容についての復習は必須。授業内で配布、紹介された資料や文献、授業実践を踏まえた保育活動を具体的にイメージし、ノート等にまとめておく。（各授業に対して60分程度）

評価方法および評価の基準

授業への参加度および授業実践に関わるレポート（70%）、筆記試験（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（20/70）筆記試験（10/30）

到達目標 2．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（20/70）筆記試験（10/30）

到達目標 3．授業への参加度および授業実践に関わるレポート（30/70）筆記試験（10/30）

【フィードバック】毎授業の最後に内容に関する質疑に対応し、理解を深められるようにする。提出されたレポートはコメントを記載し、翌週以降の授業で全体講評とともに返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】「環境」無藤隆・福元真由美 編 萌文書林

「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日ごろから自分の周囲をよく観察し、自然の変化や季節に対して敏感に感じ取れるように意識すること。また、身の回りにあるものや道具、生活する環境全体に目を向け、子どもの興味・関心がどのような点にあるのかを意識すること。課題等の提出期日は守ること。

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAc322		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

幼稚園教諭として12年間担任を経験している。幼稚園での未就園児（2歳児）クラスの保育（週1回）を1年間担当。。

実務経験および科目との関連性

幼稚園では3歳児から5歳児まで各年齢を担当し保育の経験を積んでおり、集団生活における幼児期の人間関係の発達の姿をある程度把握している。また、遊びや生活の場面でのエピソードももっていることから、幼児期の人間関係の指導・援助のあり方について学ぶ際に役立てることができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭1種免許状及び保育士資格を取得する上での必修科目である。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における、人との関わりに関する領域「人間関係」について学ぶ。

科目の概要

領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の姿勢、援助のあり方を、具体的な事例を通して学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

・リアクションペーパー・レポート・グループワーク

到達目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。
2. 乳幼児期の人間関係の発達の過程を理解し、ふさわしい援助のあり方を学ぶ。
3. 子どもと保育者の信頼関係の重要性を理解し、保育者の役割を考え身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育実践
- 4保育者の感性

内容

この授業は内容に応じて講義、グループワーク、アクティブラーニングを組み合わせながら学びを深めていく。

1	保育・幼児教育の基本
2	領域「人間関係」の特質
3	「幼稚園教育要領」等の3法令における領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取扱い
4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」
5	乳児期、1～2歳児期、幼児期における「友達の出会いと関わり」と「友達のぶつかり」
6	人と関わる力を育む保育者の役割
7	遊びの楽しさと遊びの中の人との関わり
8	遊びの発達と人間関係 1 遊びのタイプと仲間
9	遊びの発達と人間関係 2 遊びの中での楽しさ・場・イメージの共有
10	遊びの発達と人間関係 3 遊びを作り出す・異年齢交流
11	子どもが家庭・園・その他の場所や地域における人との関わりを通して積み重ねる経験
12	個と集団の育ち
13	人との関わりを見る視点
14	現代の保育の課題と領域「人間関係」
15	乳児期・幼児期・学童期以降の人間関係の育ちのつながり

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

次回の授業に関連する教科書を熟読し、分からない語句を調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業ノートをもとに内容の振り返りをとおして、知識を身に付ける（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加度及び態度（40％）、提出課題及び期末レポート（60％）を総合して評価を行い、総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

無藤隆監修・岩立京子編者代表「新訂事例で学ぶ保育内容『領域人間関係』」萌文書林 2018年

【参考図書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の中で、子どもの人間関係についての理解の幅を広げるための絵本の読み合いや子どもの心情に寄り添う感性を養う手がかりを得るための子どもに関する詩の朗読をする時間を設けます。

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAc322		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

幼稚園教諭として12年間担任を経験している。幼稚園での未就園児（2歳児）クラスの保育（週1回）を1年間担当。。

実務経験および科目との関連性

幼稚園では3歳児から5歳児まで各年齢を担当し保育の経験を積んでおり、集団生活における幼児期の人間関係の発達の姿をある程度把握している。また、遊びや生活の場面でのエピソードももっていることから、幼児期の人間関係の指導・援助のあり方について学ぶ際に役立てることができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭1種免許状及び保育士資格を取得する上での必修科目である。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における、人との関わりに関する領域「人間関係」について学ぶ。

科目の概要

領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の姿勢、援助のあり方を、具体的な事例を通して学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

・リアクションペーパー・レポート・グループワーク

到達目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。
2. 乳幼児期の人間関係の発達の過程を理解し、ふさわしい援助のあり方を学ぶ。
3. 子どもと保育者の信頼関係の重要性を理解し、保育者の役割を考え身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育実践
- 4保育者の感性

内容

この授業は内容に応じて講義、グループワーク、アクティブラーニングを組み合わせながら学びを深めていく。

1	保育・幼児教育の基本
2	領域「人間関係」の特質
3	「幼稚園教育要領」等の3法令における領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取扱い
4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」
5	乳児期、1～2歳児期、幼児期における「友達の出会いと関わり」と「友達のぶつかり」
6	人と関わる力を育む保育者の役割
7	遊びの楽しさと遊びの中の人との関わり
8	遊びの発達と人間関係 1 遊びのタイプと仲間
9	遊びの発達と人間関係 2 遊びの中での楽しさ・場・イメージの共有
10	遊びの発達と人間関係 3 遊びを作り出す・異年齢交流
11	子どもが家庭・園・その他の場所や地域における人との関わりを通して積み重ねる経験
12	個と集団の育ち
13	人との関わりを見る視点
14	現代の保育の課題と領域「人間関係」
15	乳児期・幼児期・学童期以降の人間関係の育ちのつながり

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

次回の授業に関連する教科書を熟読し、分からない語句を調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業ノートをもとに内容の振り返りをとおして、知識を身に付ける（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加度及び態度（40％）、提出課題及び期末レポート（60％）を総合して評価を行い、総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

無藤隆監修・岩立京子編者代表「新訂事例で学ぶ保育内容『領域人間関係』」萌文書林 2018年

【参考図書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の中で、子どもの人間関係についての理解の幅を広げるための絵本の読み合いや子どもの心情に寄り添う感性を養う手がかりを得るための子どもに関する詩の朗読をする時間を設けます。

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAc322		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

幼稚園教諭として12年間担任を経験している。幼稚園での未就園児（2歳児）クラスの保育（週1回）を1年間担当。。

実務経験および科目との関連性

幼稚園では3歳児から5歳児まで各年齢を担当し保育の経験を積んでおり、集団生活における幼児期の人間関係の発達の姿をある程度把握している。また、遊びや生活の場面でのエピソードももっていることから、幼児期の人間関係の指導・援助のあり方について学ぶ際に役立てることができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭1種免許状及び保育士資格を取得する上での必修科目である。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における、人との関わりに関する領域「人間関係」について学ぶ。

科目の概要

領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の姿勢、援助のあり方を、具体的な事例を通して学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

・リアクションペーパー・レポート・グループワーク

到達目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。
2. 乳幼児期の人間関係の発達の過程を理解し、ふさわしい援助のあり方を学ぶ。
3. 子どもと保育者の信頼関係の重要性を理解し、保育者の役割を考え身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育実践
- 4保育者の感性

内容

この授業は内容に応じて講義、グループワーク、アクティブラーニングを組み合わせながら学びを深めていく。

1	保育・幼児教育の基本
2	領域「人間関係」の特質
3	「幼稚園教育要領」等の3法令における領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取扱い
4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」
5	乳児期、1～2歳児期、幼児期における「友達の出会いと関わり」と「友達のぶつかり」
6	人と関わる力を育む保育者の役割
7	遊びの楽しさと遊びの中の人との関わり
8	遊びの発達と人間関係 1 遊びのタイプと仲間
9	遊びの発達と人間関係 2 遊びの中での楽しさ・場・イメージの共有
10	遊びの発達と人間関係 3 遊びを作り出す・異年齢交流
11	子どもが家庭・園・その他の場所や地域における人との関わりを通して積み重ねる経験
12	個と集団の育ち
13	人との関わりを見る視点
14	現代の保育の課題と領域「人間関係」
15	乳児期・幼児期・学童期以降の人間関係の育ちのつながり

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

次回の授業に関連する教科書を熟読し、分からない語句を調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業ノートをもとに内容の振り返りをとおして、知識を身に付ける（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加度及び態度（40％）、提出課題及び期末レポート（60％）を総合して評価を行い、総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

無藤隆監修・岩立京子編者代表「新訂事例で学ぶ保育内容『領域人間関係』」萌文書林 2018年

【参考図書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の中で、子どもの人間関係についての理解の幅を広げるための絵本の読み合いや子どもの心情に寄り添う感性を養う手がかりを得るための子どもに関する詩の朗読をする時間を設けます。

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAc322		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

幼稚園教諭として12年間担任を経験している。幼稚園での未就園児（2歳児）クラスの保育（週1回）を1年間担当。。

実務経験および科目との関連性

幼稚園では3歳児から5歳児まで各年齢を担当し保育の経験を積んでおり、集団生活における幼児期の人間関係の発達の姿をある程度把握している。また、遊びや生活の場面でのエピソードももっていることから、幼児期の人間関係の指導・援助のあり方について学ぶ際に役立てることができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭1種免許状及び保育士資格を取得する上での必修科目である。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における、人との関わりに関する領域「人間関係」について学ぶ。

科目の概要

領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の姿勢、援助のあり方を、具体的な事例を通して学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

・リアクションペーパー・レポート・グループワーク

到達目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、基本的知識を身につける。
2. 乳幼児期の人間関係の発達の過程を理解し、ふさわしい援助のあり方を学ぶ。
3. 子どもと保育者の信頼関係の重要性を理解し、保育者の役割を考え身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 3保育実践
- 4保育者の感性

内容

この授業は内容に応じて講義、グループワーク、アクティブラーニングを組み合わせながら学びを深めていく。

1	保育・幼児教育の基本
2	領域「人間関係」の特質
3	「幼稚園教育要領」等の3法令における領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取扱い
4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」
5	乳児期、1～2歳児期、幼児期における「友達の出会いと関わり」と「友達のぶつかり」
6	人と関わる力を育む保育者の役割
7	遊びの楽しさと遊びの中の人との関わり
8	遊びの発達と人間関係 1 遊びのタイプと仲間
9	遊びの発達と人間関係 2 遊びの中での楽しさ・場・イメージの共有
10	遊びの発達と人間関係 3 遊びを作り出す・異年齢交流
11	子どもが家庭・園・その他の場所や地域における人との関わりを通して積み重ねる経験
12	個と集団の育ち
13	人との関わりを見る視点
14	現代の保育の課題と領域「人間関係」
15	乳児期・幼児期・学童期以降の人間関係の育ちのつながり

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

次の授業に関連する教科書を熟読し、分からない語句を調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業ノートをもとに内容の振り返りをとおして、知識を身に付ける（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加度及び態度（40％）、提出課題及び期末レポート（60％）を総合して評価を行い、総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

無藤隆監修・岩立京子編者代表「新訂事例で学ぶ保育内容『領域人間関係』」萌文書林 2018年

【参考図書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の中で、子どもの人間関係についての理解の幅を広げるための絵本の読み合いや子どもの心情に寄り添う感性を養う手がかりを得るための子どもに関する詩の朗読をする時間を設けます。

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAc323		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と現任者研修指導、保育巡回指導の実務経験のある教員が、自身の保育実践と指導実績を活かした授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園教育実習、保育実習（保育所）、保育実習を履修して実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。子どもを受容し安心感を育てる言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを友だちに伝えたり聞こうとする態度を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。文化の作り手としての自己を啓発することを望むものである。

授業の方法（ALを含む）

テキストや資料を活用した乳幼児の発達、領域「言葉」のねらいと内容などの理解を促す学習、事例を活用した保育援助の学習、指導計画作成と実技に取り組む教材研究の学習、言葉に対する感性を高めることを目的とした創作活動と発表を行う。各自が積極的に行動することが求められる。

【ミニテスト】【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【模擬授業】【創作、制作】【レポート（表現）】【ロールプレイ】【ケースメソッド】【レポート（知識）】

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解し、説明することが出来る。
2. 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解し、その知識を活用して保育実践を行うことが出来る。
3. 絵本等の児童文化財についての教材研究を行い、計画を立てたり、実践したりすることができる。
4. 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養い、豊かに表現することが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は演習であり、作品の作成と鑑賞、模擬保育、教材研究などを通して、リアリティのある学びを目指す。グループワークや発表の機会が多くもたれるので、主体的な参加が求められる。

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解 【ミニテスト】
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解 【討議・討論】
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句 【創作、制作】【レポート(表現)】
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助(実践記録を基にした学習) 模擬保育 【ロールプレイ】【ケースメソッド】
7	- 2保育者の言葉と援助(映像による学習) 【討議・討論】
8	文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用(情報機器の活用を含む) / 教材研究
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 指導計画の作成(情報機器の特性に応じた活用方法)
10	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育 【模擬授業】【プレゼンテーション】
11	言葉遊び・劇遊びの体験 / 言葉の楽しさや美しさに対する感覚 【グループワーク】【ロールプレイ】
12	領域「言葉」の変遷と現代的課題 【レポート(知識)】
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評 【創作、制作】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 発達理解、教材研究、保育援助、言葉に対する感性を磨く4つのテーマに基づく各回の授業に必要な事項(例：乳幼児期の言語発達、教師の役割)を1・2年次の学習をふりかえって復習しておく(1時間程度)。教材研究の週は教材の用意をする。

【事後学習】 レポートや作品作りなど発展的な取り組みを行う(1～2時間)。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度(30%)、学期内の小レポート(30%)、学期末のレポートと作品の提出(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2. 学期内レポート(10%/30%)、学期末レポート/作品提出(10%/40%)

到達目標3. 授業参加(10%/30%)、学期内レポート(10%/30%)

到達目標4. 授業参加(20%/30%)、学期末レポート/作品提出(30%/40%)

【フィードバック】 授業課題は、次週以降にそれを活用した授業を行い、解説し返却する。作品は、合評会を行い鑑賞後返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

(他に毎回プリント資料配布)

【推薦書】 授業開始時に指示する

【参考図書】 授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAc323		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と現任者研修指導、保育巡回指導の実務経験のある教員が、自身の保育実践と指導実績を活かした授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園教育実習、保育実習（保育所）、保育実習を履修して実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。子どもを受容し安心感を育てる言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを友だちに伝えたり聞こうとする態度を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。文化の作り手としての自己を啓発することを望むものである。

授業の方法（ALを含む）

テキストや資料を活用した乳幼児の発達、領域「言葉」のねらいと内容などの理解を促す学習、事例を活用した保育援助の学習、指導計画作成と実技に取り組む教材研究の学習、言葉に対する感性を高めることを目的とした創作活動と発表を行う。各自が積極的に行動することが求められる。

【ミニテスト】【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【模擬授業】【創作、制作】【レポート（表現）】【ロールプレイ】【ケースメソッド】【レポート（知識）】

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解し、説明することが出来る。
2. 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解し、その知識を活用して保育実践を行うことが出来る。
3. 絵本等の児童文化財についての教材研究を行い、計画を立てたり、実践したりすることができる。
4. 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養い、豊かに表現することが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は演習であり、作品の作成と鑑賞、模擬保育、教材研究などを通して、リアリティのある学びを目指す。グループワークや発表の機会が多くもたれるので、主体的な参加が求められる。

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解 【ミニテスト】
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解 【討議・討論】
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句 【創作、制作】【レポート(表現)】
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助(実践記録を基にした学習) 模擬保育 【ロールプレイ】【ケースメソッド】
7	- 2保育者の言葉と援助(映像による学習) 【討議・討論】
8	文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用(情報機器の活用を含む) / 教材研究
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 指導計画の作成(情報機器の特性に応じた活用方法)
10	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育 【模擬授業】【プレゼンテーション】
11	言葉遊び・劇遊びの体験 / 言葉の楽しさや美しさに対する感覚 【グループワーク】【ロールプレイ】
12	領域「言葉」の変遷と現代的課題 【レポート(知識)】
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評 【創作、制作】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 発達理解、教材研究、保育援助、言葉に対する感性を磨く4つのテーマに基づく各回の授業に必要な事項(例：乳幼児期の言語発達、教師の役割)を1・2年次の学習をふりかえって復習しておく(1時間程度)。教材研究の週は教材の用意をする。

【事後学習】 レポートや作品作りなど発展的な取り組みを行う(1～2時間)。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度(30%)、学期内の小レポート(30%)、学期末のレポートと作品の提出(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2. 学期内レポート(10%/30%)、学期末レポート/作品提出(10%/40%)

到達目標3. 授業参加(10%/30%)、学期内レポート(10%/30%)

到達目標4. 授業参加(20%/30%)、学期末レポート/作品提出(30%/40%)

【フィードバック】 授業課題は、次週以降にそれを活用した授業を行い、解説し返却する。作品は、合評会を行い鑑賞後返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

(他に毎回プリント資料配布)

【推薦書】 授業開始時に指示する

【参考図書】 授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAc323		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と現任者研修指導、保育巡回指導の実務経験のある教員が、自身の保育実践と指導実績を活かした授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園教育実習、保育実習（保育所）、保育実習を履修して実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。子どもを受容し安心感を育てる言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを友だちに伝えたり聞こうとする態度を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。文化の作り手としての自己を啓発することを望むものである。

授業の方法（ALを含む）

テキストや資料を活用した乳幼児の発達、領域「言葉」のねらいと内容などの理解を促す学習、事例を活用した保育援助の学習、指導計画作成と実技に取り組む教材研究の学習、言葉に対する感性を高めることを目的とした創作活動と発表を行う。各自が積極的に行動することが求められる。

【ミニテスト】【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【模擬授業】【創作、制作】【レポート（表現）】【ロールプレイ】【ケースメソッド】【レポート（知識）】

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解し、説明することが出来る。
2. 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解し、その知識を活用して保育実践を行うことが出来る。
3. 絵本等の児童文化財についての教材研究を行い、計画を立てたり、実践したりすることができる。
4. 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養い、豊かに表現することが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は演習であり、作品の作成と鑑賞、模擬保育、教材研究などを通して、リアリティのある学びを目指す。グループワークや発表の機会が多くもたれるので、主体的な参加が求められる。

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解 【ミニテスト】
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解 【討議・討論】
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句 【創作、制作】【レポート(表現)】
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助(実践記録を基にした学習) 模擬保育 【ロールプレイ】【ケースメソッド】
7	- 2保育者の言葉と援助(映像による学習) 【討議・討論】
8	文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用(情報機器の活用を含む) / 教材研究
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 指導計画の作成(情報機器の特性に応じた活用方法)
10	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育 【模擬授業】【プレゼンテーション】
11	言葉遊び・劇遊びの体験 / 言葉の楽しさや美しさに対する感覚 【グループワーク】【ロールプレイ】
12	領域「言葉」の変遷と現代的課題 【レポート(知識)】
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評 【創作、制作】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 発達理解、教材研究、保育援助、言葉に対する感性を磨く4つのテーマに基づく各回の授業に必要な事項(例：乳幼児期の言語発達、教師の役割)を1・2年次の学習をふりかえって復習しておく(1時間程度)。教材研究の週は教材の用意をする。

【事後学習】 レポートや作品作りなど発展的な取り組みを行う(1～2時間)。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度(30%)、学期内の小レポート(30%)、学期末のレポートと作品の提出(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2. 学期内レポート(10%/30%)、学期末レポート/作品提出(10%/40%)

到達目標3. 授業参加(10%/30%)、学期内レポート(10%/30%)

到達目標4. 授業参加(20%/30%)、学期末レポート/作品提出(30%/40%)

【フィードバック】 授業課題は、次週以降にそれを活用した授業を行い、解説し返却する。作品は、合評会を行い鑑賞後返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

(他に毎回プリント資料配布)

【推薦書】 授業開始時に指示する

【参考図書】 授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAc323		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と現任者研修指導、保育巡回指導の実務経験のある教員が、自身の保育実践と指導実績を活かした授業を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性質

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられる。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園教育実習、保育実習（保育所）、保育実習を履修して実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

発達理解、保育援助、教材研究、自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。子どもを受容し安心感を育てる言葉かけ、遊びの発展を促す言葉かけ、気持ちや考えを友だちに伝えたり聞こうとする態度を育てる言葉かけなどの保育援助を考える。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。文化の作り手としての自己を啓発することを望むものである。

授業の方法（ALを含む）

テキストや資料を活用した乳幼児の発達、領域「言葉」のねらいと内容などの理解を促す学習、事例を活用した保育援助の学習、指導計画作成と実技に取り組む教材研究の学習、言葉に対する感性を高めることを目的とした創作活動と発表を行う。各自が積極的に行動することが求められる。

【ミニテスト】【実技】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【模擬授業】【創作、制作】【レポート（表現）】【ロールプレイ】【ケースメソッド】【レポート（知識）】

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領に示される領域「言葉」の指導法について理解し、説明することが出来る。
2. 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解し、その知識を活用して保育実践を行うことが出来る。
3. 絵本等の児童文化財についての教材研究を行い、計画を立てたり、実践したりすることができる。
4. 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養い、豊かに表現することが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は演習であり、作品の作成と鑑賞、模擬保育、教材研究などを通して、リアリティのある学びを目指す。グループワークや発表の機会が多くもたれるので、主体的な参加が求められる。

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解 【ミニテスト】
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解 【討議・討論】
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句 【創作、制作】【レポート(表現)】
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助(実践記録を基にした学習) 模擬保育 【ロールプレイ】【ケースメソッド】
7	- 2保育者の言葉と援助(映像による学習) 【討議・討論】
8	文化財としての絵本と紙芝居、他の伝達媒体の役割と活用(情報機器の活用を含む) / 教材研究
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 指導計画の作成(情報機器の特性に応じた活用方法)
10	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせ場面など児童文化財を活かした実践場面の模擬保育 【模擬授業】【プレゼンテーション】
11	言葉遊び・劇遊びの体験 / 言葉の楽しさや美しさに対する感覚 【グループワーク】【ロールプレイ】
12	領域「言葉」の変遷と現代的課題 【レポート(知識)】
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評 【創作、制作】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 発達理解、教材研究、保育援助、言葉に対する感性を磨く4つのテーマに基づく各回の授業に必要な事項(例：乳幼児期の言語発達、教師の役割)を1・2年次の学習をふりかえって復習しておく(1時間程度)。教材研究の週は教材の用意をする。

【事後学習】 レポートや作品作りなど発展的な取り組みを行う(1～2時間)。

評価方法および評価の基準

授業への参加態度(30%)、学期内の小レポート(30%)、学期末のレポートと作品の提出(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2. 学期内レポート(10%/30%)、学期末レポート/作品提出(10%/40%)

到達目標3. 授業参加(10%/30%)、学期内レポート(10%/30%)

到達目標4. 授業参加(20%/30%)、学期末レポート/作品提出(30%/40%)

【フィードバック】 授業課題は、次週以降にそれを活用した授業を行い、解説し返却する。作品は、合評会を行い鑑賞後返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 幼稚園教育要領解説

厚生労働省 保育所保育指針解説

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

(他に毎回プリント資料配布)

【推薦書】 授業開始時に指示する

【参考図書】 授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAc324		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教諭免許取得・保育士資格取得の必修科目である。領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持つ。保育現場での音楽活動において求められる指導力、それを支える保育表現技術力を身につけることを目標としている。

科目の概要

乳幼児期の発達に応じた表現について、主に音楽面において理解し、援助・指導の方法について学ぶ。「子どもの歌」を様々な展開し指導できるよう、「子どもの歌」の深い理解を目指す。伴奏理論を学び、自分の力で伴奏付ができることを目的の1つとしている。さらにリズム活動を支え、子どもと音楽で遊べるように、楽譜から離れて子どもの要求する音楽を演奏する技術を身につける。

授業の方法（ALを含む）

L教室を使いながら、子どもの歌の理解、その指導法に関わる音楽理論、和声理論、伴奏法理論を実際に鍵盤で弾きながら学ぶ。その学びを通して、子どもの歌唱活動に求められることを理解し、その活動の展開方法を実践できるよう経験を積む。【実技】

到達目標

1. 保育現場における子どもの歌が持つ意味、発展性を理解し、適切に指導できる。
2. 子どもの歌に関し、個々人の技量に合わせながらも、相応しい伴奏ができる。
3. 保育現場で行われている様々な音楽活動に対応した演奏力及び指導力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育内容・指導法、 -4保育者としての感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は理論を実践を通して学ぶ。音楽理論を実際に演奏しながら学ぶことで、演奏や指導法を支える基礎理論として認識し、子どもの音楽指導にとって必要なことは何かを身体を通して理解する。

1	オリエンテーション：子どもの歌の特徴を知る
---	-----------------------

2	子どもの歌の旋律的特性～音の高さの変化に着目して～
3	子どもの歌の旋律的特性～音の長さの変化に着目して～
4	子どもの歌のリズム的特性～拍と分割に着目して～
5	子どもの歌のリズム的特性～様々なリズムに着目して～
6	子どもの歌の和声的特性～基本的な和声構成に着目して～
7	子どもと歌うために～子どもの歌の伴奏とは～
8	子どもの歌の調性的特性
9	様々な調性による子どもの歌の伴奏
10	子どもの歌の和声的特性～様々な和声・副三和音に着目して～
11	子どもの歌の和声的特性～様々な和声・借用和音に着目して～
12	リズム活動における音楽的援助
13	子どもの歌をアレンジする
14	子どもの歌に関する理論的理解のまとめ
15	まとめ：音楽表現としての子どもの歌のアレンジと弾き歌い

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】1～7回毎授業時に配布されるプリント及び教科書の課題を歌い、書き、弾くこと（60分）。8～11回理論的理解の為教科書の課題を予習する（60分）。12～13回まとめとして出される配布プリントにおける学習を事前に行うこと（60分）。14回コード譜を書き、子どもの歌の和声分析をするための予習をする（2～3時間）。15回自身の力量に合わせアレンジした子どもの歌を弾き歌いする準備をする（2～3時間）。

【事後学習】授業内で学んだことの整理、復習を1時間ほど行う。事前学習に準ずる。

評価方法および評価の基準

毎回の授業の取り組み、到達目標1と3に関わる筆記による確認テスト、課題プリントの提出等60%、到達目標2と3に関わる演奏による評価40%を総合的に判断して評価する。総合評価60%以上を合格点とする。

【フィードバック】提出課題、筆記試験は添削、採点ののち返却する。合格点に達しないときは再試験、課題の再提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】歌って、弾いて、書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 二宮紀子著 音楽之友社 2014年

【推薦書】日本の子どもの歌 - 唱歌童謡140年の歩み 全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 2013年

【参考図書】乳幼児の音楽表現 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 中央法規 2016年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの音楽活動は歌から始まります。遊びながら歌い、歌いながら遊ぶ。周りの人間が歌うのを聞いて歌いたくなり、歌おうとすることで言葉を音高をリズムを獲得します。子どもの歌が作曲されるようになった明治時代以降、子どもの歌はどうあるべきかという議論を経た探求によって、様々な子どもの歌が誕生しました。歌が創作された時代背景を理解し、作曲家の意図を理解し、子どもと歌うとはどのようなことかを理解して、子どもと楽しく歌えるための知識と技術を身につけましょう。

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAc324		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教諭免許取得・保育士資格取得の必修科目である。領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持つ。保育現場での音楽活動において求められる指導力、それを支える保育表現技術力を身につけることを目標としている。

科目の概要

乳幼児期の発達に応じた表現について、主に音楽面において理解し、援助・指導の方法について学ぶ。「子どもの歌」を様々な展開し指導できるよう、「子どもの歌」の深い理解を目指す。伴奏理論を学び、自分の力で伴奏付ができることを目的の1つとしている。さらにリズム活動を支え、子どもと音楽で遊べるように、楽譜から離れて子どもの要求する音楽を演奏する技術を身につける。

授業の方法（ALを含む）

L教室を使いながら、子どもの歌の理解、その指導法に関わる音楽理論、和声理論、伴奏法理論を実際に鍵盤で弾きながら学ぶ。その学びを通して、子どもの歌唱活動に求められることを理解し、その活動の展開方法を実践できるよう経験を積む。【実技】

到達目標

1. 保育現場における子どもの歌が持つ意味、発展性を理解し、適切に指導できる。
2. 子どもの歌に関し、個々人の技量に合わせながらも、相応しい伴奏ができる。
3. 保育現場で行われている様々な音楽活動に対応した演奏力及び指導力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育内容・指導法、 -4保育者としての感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は理論を実践を通して学ぶ。音楽理論を実際に演奏しながら学ぶことで、演奏や指導法を支える基礎理論として認識し、子どもの音楽指導にとって必要なことは何かを身体を通して理解する。

1	オリエンテーション：子どもの歌の特徴を知る
---	-----------------------

2	子どもの歌の旋律的特性～音の高さの変化に着目して～
3	子どもの歌の旋律的特性～音の長さの変化に着目して～
4	子どもの歌のリズム的特性～拍と分割に着目して～
5	子どもの歌のリズム的特性～様々なリズムに着目して～
6	子どもの歌の和声的特性～基本的な和声構成に着目して～
7	子どもと歌うために～子どもの歌の伴奏とは～
8	子どもの歌の調性的特性
9	様々な調性による子どもの歌の伴奏
10	子どもの歌の和声的特性～様々な和声・副三和音に着目して～
11	子どもの歌の和声的特性～様々な和声・借用和音に着目して～
12	リズム活動における音楽的援助
13	子どもの歌をアレンジする
14	子どもの歌に関する理論的理解のまとめ
15	まとめ：音楽表現としての子どもの歌のアレンジと弾き歌い

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】1～7回毎授業時に配布されるプリント及び教科書の課題を歌い、書き、弾くこと（60分）。8～11回理論的理解の為教科書の課題を予習する（60分）。12～13回まとめとして出される配布プリントにおける学習を事前に行うこと（60分）。14回コード譜を書き、子どもの歌の和声分析をするための予習をする（2～3時間）。15回自身の力量に合わせアレンジした子どもの歌を弾き歌いする準備をする（2～3時間）。

【事後学習】授業内で学んだことの整理、復習を1時間ほど行う。事前学習に準ずる。

評価方法および評価の基準

毎回の授業の取り組み、到達目標1と3に関わる筆記による確認テスト、課題プリントの提出等60%、到達目標2と3に関わる演奏による評価40%を総合的に判断して評価する。総合評価60%以上を合格点とする。

【フィードバック】提出課題、筆記試験は添削、採点ののち返却する。合格点に達しないときは再試験、課題の再提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】歌って、弾いて、書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 二宮紀子著 音楽之友社 2014年

【推薦書】日本の子どもの歌 - 唱歌童謡140年の歩み 全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 2013年

【参考図書】乳幼児の音楽表現 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 中央法規 2016年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの音楽活動は歌から始まります。遊びながら歌い、歌いながら遊ぶ。周りの人間が歌うのを聞いて歌いたくなり、歌おうとすることで言葉を音高をリズムを獲得します。子どもの歌が作曲されるようになった明治時代以降、子どもの歌はどうあるべきかという議論を経た探求によって、様々な子どもの歌が誕生しました。歌が創作された時代背景を理解し、作曲家の意図を理解し、子どもと歌うとはどのようなことかを理解して、子どもと楽しく歌えるための知識と技術を身につけましょう。

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAc324		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教諭免許取得・保育士資格取得の必修科目である。領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持つ。保育現場での音楽活動において求められる指導力、それを支える保育表現技術力を身につけることを目標としている。

科目の概要

乳幼児期の発達に応じた表現について、主に音楽面において理解し、援助・指導の方法について学ぶ。「子どもの歌」を様々な展開し指導できるよう、「子どもの歌」の深い理解を目指す。伴奏理論を学び、自分の力で伴奏付ができることを目的の1つとしている。さらにリズム活動を支え、子どもと音楽で遊べるように、楽譜から離れて子どもの要求する音楽を演奏する技術を身につける。

授業の方法（ALを含む）

L教室を使いながら、子どもの歌の理解、その指導法に関わる音楽理論、和声理論、伴奏法理論を実際に鍵盤で弾きながら学ぶ。その学びを通して、子どもの歌唱活動に求められることを理解し、その活動の展開方法を実践できるよう経験を積む。【実技】

到達目標

1. 保育現場における子どもの歌が持つ意味、発展性を理解し、適切に指導できる。
2. 子どもの歌に関し、個々人の技量に合わせながらも、相応しい伴奏ができる。
3. 保育現場で行われている様々な音楽活動に対応した演奏力及び指導力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育内容・指導法、 -4保育者としての感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は理論を実践を通して学ぶ。音楽理論を実際に演奏しながら学ぶことで、演奏や指導法を支える基礎理論として認識し、子どもの音楽指導にとって必要なことは何かを身体を通して理解する。

1	オリエンテーション：子どもの歌の特徴を知る
---	-----------------------

2	子どもの歌の旋律的特性～音の高さの変化に着目して～
3	子どもの歌の旋律的特性～音の長さの変化に着目して～
4	子どもの歌のリズム的特性～拍と分割に着目して～
5	子どもの歌のリズム的特性～様々なリズムに着目して～
6	子どもの歌の和声的特性～基本的な和声構成に着目して～
7	子どもと歌うために～子どもの歌の伴奏とは～
8	子どもの歌の調性的特性
9	様々な調性による子どもの歌の伴奏
10	子どもの歌の和声的特性～様々な和声・副三和音に着目して～
11	子どもの歌の和声的特性～様々な和声・借用和音に着目して～
12	リズム活動における音楽的援助
13	子どもの歌をアレンジする
14	子どもの歌に関する理論的理解のまとめ
15	まとめ：音楽表現としての子どもの歌のアレンジと弾き歌い

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】1～7回毎授業時に配布されるプリント及び教科書の課題を歌い、書き、弾くこと（60分）。8～11回理論的理解の為教科書の課題を予習する（60分）。12～13回まとめとして出される配布プリントにおける学習を事前に行うこと（60分）。14回コード譜を書き、子どもの歌の和声分析をするための予習をする（2～3時間）。15回自身の力量に合わせアレンジした子どもの歌を弾き歌いする準備をする（2～3時間）。

【事後学習】授業内で学んだことの整理、復習を1時間ほど行う。事前学習に準ずる。

評価方法および評価の基準

毎回の授業の取り組み、到達目標1と3に関わる筆記による確認テスト、課題プリントの提出等60%、到達目標2と3に関わる演奏による評価40%を総合的に判断して評価する。総合評価60%以上を合格点とする。

【フィードバック】提出課題、筆記試験は添削、採点ののち返却する。合格点に達しないときは再試験、課題の再提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】歌って、弾いて、書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 二宮紀子著 音楽之友社 2014年

【推薦書】日本の子どもの歌 - 唱歌童謡140年の歩み 全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 2013年

【参考図書】乳幼児の音楽表現 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 中央法規 2016年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの音楽活動は歌から始まります。遊びながら歌い、歌いながら遊ぶ。周りの人間が歌うのを聞いて歌いたくなり、歌おうとすることで言葉を音高をリズムを獲得します。子どもの歌が作曲されるようになった明治時代以降、子どもの歌はどうあるべきかという議論を経た探求によって、様々な子どもの歌が誕生しました。歌が創作された時代背景を理解し、作曲家の意図を理解し、子どもと歌うとはどのようなことかを理解して、子どもと楽しく歌えるための知識と技術を身につけましょう。

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAc324		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教諭免許取得・保育士資格取得の必修科目である。領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持つ。保育現場での音楽活動において求められる指導力、それを支える保育表現技術力を身につけることを目標としている。

科目の概要

乳幼児期の発達に応じた表現について、主に音楽面において理解し、援助・指導の方法について学ぶ。「子どもの歌」を様々な展開し指導できるよう、「子どもの歌」の深い理解を目指す。伴奏理論を学び、自分の力で伴奏付ができることを目的の1つとしている。さらにリズム活動を支え、子どもと音楽で遊べるように、楽譜から離れて子どもの要求する音楽を演奏する技術を身につける。

授業の方法（ALを含む）

L教室を使いながら、子どもの歌の理解、その指導法に関わる音楽理論、和声理論、伴奏法理論を実際に鍵盤で弾きながら学ぶ。その学びを通して、子どもの歌唱活動に求められることを理解し、その活動の展開方法を実践できるよう経験を積む。【実技】

到達目標

1. 保育現場における子どもの歌が持つ意味、発展性を理解し、適切に指導できる。
2. 子どもの歌に関し、個々人の技量に合わせながらも、相応しい伴奏ができる。
3. 保育現場で行われている様々な音楽活動に対応した演奏力及び指導力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育内容・指導法、 -4保育者としての感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は理論を実践を通して学ぶ。音楽理論を実際に演奏しながら学ぶことで、演奏や指導法を支える基礎理論として認識し、子どもの音楽指導にとって必要なことは何かを身体を通して理解する。

1	オリエンテーション：子どもの歌の特徴を知る
---	-----------------------

2	子どもの歌の旋律的特性～音の高さの変化に着目して～
3	子どもの歌の旋律的特性～音の長さの変化に着目して～
4	子どもの歌のリズム的特性～拍と分割に着目して～
5	子どもの歌のリズム的特性～様々なリズムに着目して～
6	子どもの歌の和声的特性～基本的な和声構成に着目して～
7	子どもと歌うために～子どもの歌の伴奏とは～
8	子どもの歌の調性的特性
9	様々な調性による子どもの歌の伴奏
10	子どもの歌の和声的特性～様々な和声・副三和音に着目して～
11	子どもの歌の和声的特性～様々な和声・借用和音に着目して～
12	リズム活動における音楽的援助
13	子どもの歌をアレンジする
14	子どもの歌に関する理論的理解のまとめ
15	まとめ：音楽表現としての子どもの歌のアレンジと弾き歌い

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】1～7回毎授業時に配布されるプリント及び教科書の課題を歌い、書き、弾くこと（60分）。8～11回理論的理解の為教科書の課題を予習する（60分）。12～13回まとめとして出される配布プリントにおける学習を事前に行うこと（60分）。14回コード譜を書き、子どもの歌の和声分析をするための予習をする（2～3時間）。15回自身の力量に合わせアレンジした子どもの歌を弾き歌いする準備をする（2～3時間）。

【事後学習】授業内で学んだことの整理、復習を1時間ほど行う。事前学習に準ずる。

評価方法および評価の基準

毎回の授業の取り組み、到達目標1と3に関わる筆記による確認テスト、課題プリントの提出等60%、到達目標2と3に関わる演奏による評価40%を総合的に判断して評価する。総合評価60%以上を合格点とする。

【フィードバック】提出課題、筆記試験は添削、採点ののち返却する。合格点に達しないときは再試験、課題の再提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】歌って、弾いて、書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ 二宮紀子著 音楽之友社 2014年

【推薦書】日本の子どもの歌 - 唱歌童謡140年の歩み 全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 2013年

【参考図書】乳幼児の音楽表現 小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子編著 中央法規 2016年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの音楽活動は歌から始まります。遊びながら歌い、歌いながら遊ぶ。周りの人間が歌うのを聞いて歌いたくなり、歌おうとすることで言葉を音高をリズムを獲得します。子どもの歌が作曲されるようになった明治時代以降、子どもの歌はどうあるべきかという議論を経た探求によって、様々な子どもの歌が誕生しました。歌が創作された時代背景を理解し、作曲家の意図を理解し、子どもと歌うとはどのようなことかを理解して、子どもと楽しく歌えるための知識と技術を身につけましょう。

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KAc225		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育内容の指導法に関する専門科目として保育における「造形表現」について学ぶ。今日、保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

科目の概要

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1)子どもの興味関心と深く関わる「人的、物的、自然や社会の事象」をいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野におきながら理解できる。
- (2)身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくり、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開について構想できる。
- (3)生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児に共感し、造形を通して認め励ます保育のあり方を考え、自ら実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践 - 3 保育者の思考・判断 - 4 保育者の感性

内容

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について

- 2.自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 3.自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 4.自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 5.自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる【実技】【レホ? ート(知識)】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 6.自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 9.ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料 色水遊びを活かして【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 11.ものやひととの出会い-5- 光とのかかわり 透明な素材から【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 12.ものやひととの出会い-6- 布とのかかわり 大きな布から【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めるとともに教科書等を閲覧し、活動に求められる内容の概観を把握しておくこと。また、身支度、用具・材料等も含めた人的・物的環境を構成する準備を進めておくこと。（各授業に対して45分）

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどを自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブックにより到達目標（1）（2）を評価する（60%）。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標（3）を評価する（40%）。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KAc225		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育内容の指導法に関する専門科目として保育における「造形表現」について学ぶ。今日、保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

科目の概要

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1)子どもの興味関心と深く関わる「人的、物的、自然や社会の事象」をいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野におきながら理解できる。
- (2)身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくり、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開について構想できる。
- (3)生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児に共感し、造形を通して認め励ます保育のあり方を考え、自ら実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践 - 3 保育者の思考・判断 - 4 保育者の感性

内容

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について

- 2.自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 3.自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 4.自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 5.自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる【実技】【レホ? ート(知識)】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 6.自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 9.ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料 色水遊びを活かして【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 11.ものやひととの出会い-5- 光とのかかわり 透明な素材から【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 12.ものやひととの出会い-6- 布とのかかわり 大きな布から【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めるとともに教科書等を閲覧し、活動に求められる内容の概観を把握しておくこと。また、身支度、用具・材料等も含めた人的・物的環境を構成する準備を進めておくこと。（各授業に対して45分）

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどを自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブックにより到達目標（1）（2）を評価する（60%）。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標（3）を評価する（40%）。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KAc225		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育内容の指導法に関する専門科目として保育における「造形表現」について学ぶ。今日、保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

科目の概要

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1)子どもの興味関心と深く関わる「人的、物的、自然や社会の事象」をいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野におきながら理解できる。
- (2)身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくり、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開について構想できる。
- (3)生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児に共感し、造形を通して認め励ます保育のあり方を考え、自ら実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践 - 3 保育者の思考・判断 - 4 保育者の感性

内容

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について

- 2.自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 3.自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 4.自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 5.自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる【実技】【レホ? ート(知識)】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 6.自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 9.ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料 色水遊びを活かして【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 11.ものやひととの出会い-5- 光とのかかわり 透明な素材から【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 12.ものやひととの出会い-6- 布とのかかわり 大きな布から【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めるとともに教科書等を閲覧し、活動に求められる内容の概観を把握しておくこと。また、身支度、用具・材料等も含めた人的・物的環境を構成する準備を進めておくこと。（各授業に対して45分）

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどを自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブックにより到達目標（1）（2）を評価する（60%）。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標（3）を評価する（40%）。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KAc225		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育内容の指導法に関する専門科目として保育における「造形表現」について学ぶ。今日、保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

科目の概要

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1)子どもの興味関心と深く関わる「人的、物的、自然や社会の事象」をいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野におきながら理解できる。
- (2)身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくり、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開について構想できる。
- (3)生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児に共感し、造形を通して認め励ます保育のあり方を考え、自ら実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践 - 3 保育者の思考・判断 - 4 保育者の感性

内容

以下を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について

- 2.自然との出会い-1- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 感じる【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 3.自然との出会い-2- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 切る、割る等【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 4.自然との出会い-3- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 結ぶ、つなげる等【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 5.自然との出会い-4- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 組み合わせる【実技】【レホ? ート(知識)】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 6.自然との出会い-5- 身近な自然物（葉や枝など）を活かして 活かす【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 9.ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料 色水遊びを活かして【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【レホ? ート(表現)】【創作・制作】
- 11.ものやひととの出会い-5- 光とのかかわり 透明な素材から【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 12.ものやひととの出会い-6- 布とのかかわり 大きな布から【実技】【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【レホ? ート(表現)】
- 15.エピローグ 全体の振り返りと総括【レホ? ート(知識)】【ク? ルーフ? ワーク】【討 議・討 論】【フ? レセ? ンテーション】【レホ? ート(表現)】【PBL】【創作・制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めるとともに教科書等を閲覧し、活動に求められる内容の概観を把握しておくこと。また、身支度、用具・材料等も含めた人的・物的環境を構成する準備を進めておくこと。（各授業に対して45分）

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどを自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブックにより到達目標（１）（２）を評価する（60%）。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標（３）を評価する（40%）。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

〔推薦書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、“もの・ごと＝身近な素材”に直接触れて体感し、経験を深めていくため、身支度等の準備は必須である。

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	増田 未来、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAc326		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園での身体表現の指導経験のある教員が、子ども達の身体表現の発達や実際の姿を踏まえながら、年齢に応じた指導法や指導の工夫について授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられています。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園教育実習、保育実習（保育所）、保育実習を履修して実習を行うための必要条件となっています。体育基礎の履修が完了していることが望ましいです。

科目の概要

体育基礎（身体表現）では、自分と他者の心身の変化を敏感に捉えていくことを身体表現活動を実際に体験しながら学びました。その学びをもとに自身の身体による表現力や創造性を育みながら、幼児の心身の変化をどう捉え、どのように子どもの身体表現を育み、援助していくのかを学びます。

授業の方法（ALを含む）

多様な身体表現活動、グループ創作、発表等多様な方法で展開します。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【グループディスカッション】

到達目標

- 1、子どもの身体表現に関する知識や方法、留意点を理解し説明できる。
- 2、子どもの身体表現にふさわしい題材を検討・開拓し、身体表現活動を実践することができる。
- 3、時に指導者の立場に立ち、時に子どもの立場に立って身体表現を行うことで、両方の視点から身体表現に対する理解を深め、自分の身体で豊かに表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3「保育実践」、－ 3「保育者の思考・判断」、－ 4「保育者の感性」

内容

1	領域「表現」と身体表現について（増田・渡邊）
2	動きを生み出す 身近な遊びから発展【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
3	動きを生み出す 基本的な運動から発展【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
4	動きからイメージへ【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
5	イメージを広げる 音楽や道具を手掛かりに【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）

6	イメージを広げる 想像の世界で【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
7	動きとイメージを引き出す・広げる 擬音語・擬態語に着目する【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
8	動きとイメージを引き出す・広げる 言葉かけを考える【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
9	動きとイメージを引き出す・広げる 子どもそれぞれの捉え方や表し方を受け止める【実技】【グループワーク】(増田)
10	多様な環境での身体表現活動 探検して表現【実技】【グループワーク】(増田)
11	多様な環境での身体表現活動 裸足で感じて表現【実技】【グループワーク】(増田)
12	多様な身体表現活動の検討 捨てる素材を身体表現へ変化させる【実技】【グループワーク】(増田)
13	多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の計画【グループディスカッション】【グループワーク】(増田)
14	多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の実施【実技】【プレゼンテーション】(増田)
15	模擬保育を振り返るグループディスカッション/授業のまとめ【グループディスカッション】【プレゼンテーション】(増田)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。(45分)

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

積極的な授業への取り組み30点、毎時のコメント表・身体表現ノート20点、模擬保育等の計画・実施30点、レポート課題20点とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

到達目標 1) 積極的な授業への取り組み10点/30点、毎時のコメント表・身体表現ノート10点/20点

到達目標 2) 積極的な授業への取り組み10点/30点、毎時のコメント表・身体表現ノート10点/20点、模擬保育等の計画・実施15点/30点

到達目標 3) 積極的な授業への取り組み10点/30点、模擬保育等の計画・実施15点/30点、レポート課題20点

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】柴眞理子編著「臨床舞踊学への誘い 身体表現の力」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	増田 未来、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAc326		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園での身体表現の指導経験のある教員が、子ども達の身体表現の発達や実際の姿を踏まえながら、年齢に応じた指導法や指導の工夫について授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられています。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園教育実習、保育実習（保育所）、保育実習を履修して実習を行うための必要条件となっています。体育基礎の履修が完了していることが望ましいです。

科目の概要

体育基礎（身体表現）では、自分と他者の心身の変化を敏感に捉えていくことを身体表現活動を実際に体験しながら学びました。その学びをもとに自身の身体による表現力や創造性を育みながら、幼児の心身の変化をどう捉え、どのように子どもの身体表現を育み、援助していくのかを学びます。

授業の方法（ALを含む）

多様な身体表現活動、グループ創作、発表等多様な方法で展開します。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【グループディスカッション】

到達目標

- 1、子どもの身体表現に関する知識や方法、留意点を理解し説明できる。
- 2、子どもの身体表現にふさわしい題材を検討・開拓し、身体表現活動を実践することができる。
- 3、時に指導者の立場に立ち、時に子どもの立場に立って身体表現を行うことで、両方の視点から身体表現に対する理解を深め、自分の身体で豊かに表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3「保育実践」、－ 3「保育者の思考・判断」、－ 4「保育者の感性」

内容

1	領域「表現」と身体表現について（増田・渡邊）
2	動きを生み出す 身近な遊びから発展【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
3	動きを生み出す 基本的な運動から発展【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
4	動きからイメージへ【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
5	イメージを広げる 音楽や道具を手掛かりに【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
6	イメージを広げる 想像の世界で【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）

7	動きとイメージを引き出す・広げる 擬音語・擬態語に着目する【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
8	動きとイメージを引き出す・広げる 言葉かけを考える【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
9	動きとイメージを引き出す・広げる 子どもそれぞれの捉え方や表し方を受け止める【実技】【グループワーク】(増田)
10	多様な環境での身体表現活動 探検して表現【実技】【グループワーク】(増田)
11	多様な環境での身体表現活動 裸足で感じて表現【実技】【グループワーク】(増田)
12	多様な身体表現活動の検討 捨てる素材を身体表現へ変化させる【実技】【グループワーク】(増田)
13	多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の計画【グループディスカッション】【グループワーク】(増田)
14	多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の実施【実技】【プレゼンテーション】(増田)
15	模擬保育を振り返るグループディスカッション/授業のまとめ【グループディスカッション】【プレゼンテーション】(増田)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。(45分)

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

積極的な授業への取り組み30点、毎時のコメント表・身体表現ノート20点、模擬保育等の計画・実施30点、レポート課題20点とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

到達目標 1) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、毎時のコメント表・身体表現ノート10点 / 20点

到達目標 2) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、毎時のコメント表・身体表現ノート10点 / 20点、模擬保育等の計画・実施15点 / 30点

到達目標 3) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、模擬保育等の計画・実施15点 / 30点、レポート課題20点

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】柴眞理子編著「臨床舞踊学への誘い 身体表現の力」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	増田 未来、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAc326		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園での身体表現の指導経験のある教員が、子ども達の身体表現の発達や実際の姿を踏まえながら、年齢に応じた指導法や指導の工夫について授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられています。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園教育実習、保育実習（保育所）、保育実習を履修して実習を行うための必要条件となっています。体育基礎の履修が完了していることが望ましいです。

科目の概要

体育基礎（身体表現）では、自分と他者の心身の変化を敏感に捉えていくことを身体表現活動を実際に体験しながら学びました。その学びをもとに自身の身体による表現力や創造性を育みながら、幼児の心身の変化をどう捉え、どのように子どもの身体表現を育み、援助していくのかを学びます。

授業の方法（ALを含む）

多様な身体表現活動、グループ創作、発表等多様な方法で展開します。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【グループディスカッション】

到達目標

- 1、子どもの身体表現に関する知識や方法、留意点を理解し説明できる。
- 2、子どもの身体表現にふさわしい題材を検討・開拓し、身体表現活動を実践することができる。
- 3、時に指導者の立場に立ち、時に子どもの立場に立って身体表現を行うことで、両方の視点から身体表現に対する理解を深め、自分の身体で豊かに表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3「保育実践」、－ 3「保育者の思考・判断」、－ 4「保育者の感性」

内容

1	領域「表現」と身体表現について（増田・渡邊）
2	動きを生み出す 身近な遊びから発展【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
3	動きを生み出す 基本的な運動から発展【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
4	動きからイメージへ【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
5	イメージを広げる 音楽や道具を手掛かりに【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
6	イメージを広げる 想像の世界で【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）

7	動きとイメージを引き出す・広げる 擬音語・擬態語に着目する【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
8	動きとイメージを引き出す・広げる 言葉かけを考える【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
9	動きとイメージを引き出す・広げる 子どもそれぞれの捉え方や表し方を受け止める【実技】【グループワーク】(増田)
10	多様な環境での身体表現活動 探検して表現【実技】【グループワーク】(増田)
11	多様な環境での身体表現活動 裸足で感じて表現【実技】【グループワーク】(増田)
12	多様な身体表現活動の検討 捨てる素材を身体表現へ変化させる【実技】【グループワーク】(増田)
13	多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の計画【グループディスカッション】【グループワーク】(増田)
14	多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の実施【実技】【プレゼンテーション】(増田)
15	模擬保育を振り返るグループディスカッション/授業のまとめ【グループディスカッション】【プレゼンテーション】(増田)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。(45分)

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

積極的な授業への取り組み30点、毎時のコメント表・身体表現ノート20点、模擬保育等の計画・実施30点、レポート課題20点とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

到達目標 1) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、毎時のコメント表・身体表現ノート10点 / 20点

到達目標 2) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、毎時のコメント表・身体表現ノート10点 / 20点、模擬保育等の計画・実施15点 / 30点

到達目標 3) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、模擬保育等の計画・実施15点 / 30点、レポート課題20点

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】柴眞理子編著「臨床舞踊学への誘い 身体表現の力」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	増田 未来、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAc326		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園での身体表現の指導経験のある教員が、子ども達の身体表現の発達や実際の姿を踏まえながら、年齢に応じた指導法や指導の工夫について授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「保育内容」の領域に位置づけられています。幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園教育実習、保育実習（保育所）、保育実習を履修して実習を行うための必要条件となっています。体育基礎の履修が完了していることが望ましいです。

科目の概要

体育基礎（身体表現）では、自分と他者の心身の変化を敏感に捉えていくことを身体表現活動を実際に体験しながら学びました。その学びをもとに自身の身体による表現力や創造性を育みながら、幼児の心身の変化をどう捉え、どのように子どもの身体表現を育み、援助していくのかを学びます。

授業の方法（ALを含む）

多様な身体表現活動、グループ創作、発表等多様な方法で展開します。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【グループディスカッション】

到達目標

- 1、子どもの身体表現に関する知識や方法、留意点を理解し説明できる。
- 2、子どもの身体表現にふさわしい題材を検討・開拓し、身体表現活動を実践することができる。
- 3、時に指導者の立場に立ち、時に子どもの立場に立って身体表現を行うことで、両方の視点から身体表現に対する理解を深め、自分の身体で豊かに表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 3「保育実践」、－ 3「保育者の思考・判断」、－ 4「保育者の感性」

内容

1	領域「表現」と身体表現について（増田・渡邊）
2	動きを生み出す 身近な遊びから発展【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
3	動きを生み出す 基本的な運動から発展【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
4	動きからイメージへ【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
5	イメージを広げる 音楽や道具を手掛かりに【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）
6	イメージを広げる 想像の世界で【実技】【グループワーク】（増田・渡邊）

7	動きとイメージを引き出す・広げる 擬音語・擬態語に着目する【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
8	動きとイメージを引き出す・広げる 言葉かけを考える【実技】【グループワーク】(増田・渡邊)
9	動きとイメージを引き出す・広げる 子どもそれぞれの捉え方や表し方を受け止める【実技】【グループワーク】(増田)
10	多様な環境での身体表現活動 探検して表現【実技】【グループワーク】(増田)
11	多様な環境での身体表現活動 裸足で感じて表現【実技】【グループワーク】(増田)
12	多様な身体表現活動の検討 捨てる素材を身体表現へ変化させる【実技】【グループワーク】(増田)
13	多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の計画【グループディスカッション】【グループワーク】(増田)
14	多様な身体表現活動の検討 絵本をもとにした模擬保育の実施【実技】【プレゼンテーション】(増田)
15	模擬保育を振り返るグループディスカッション/授業のまとめ【グループディスカッション】【プレゼンテーション】(増田)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。(45分)

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

積極的な授業への取り組み30点、毎時のコメント表・身体表現ノート20点、模擬保育等の計画・実施30点、レポート課題20点とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

到達目標 1) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、毎時のコメント表・身体表現ノート10点 / 20点

到達目標 2) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、毎時のコメント表・身体表現ノート10点 / 20点、模擬保育等の計画・実施15点 / 30点

到達目標 3) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、模擬保育等の計画・実施15点 / 30点、レポート課題20点

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】柴眞理子編著「臨床舞踊学への誘い 身体表現の力」ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穣		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。幼児教育学科の専門科目の「保育内容」に位置づけられている。

科目の概要

学生自身が自然に親しみ、自然に関する理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考え、自然を取り入れた保育を構想する。

授業の方法（ALを含む）

動植物をはじめとする季節の自然事象を活用し、野外での活動を含めてこれらと直接かかわる体験と講義を通して理解したことに基づいて、授業外学習の成果や、学生同士の意見交換も取り入れつつ、自然を取り入れた保育実践の構想を立案していく。【実践】【体験】

到達目標

1. 保育実践とかかわりの深い動植物をはじめとする身近な自然事象の性質・特徴・魅力などを説明でき、また、それらを活かしたかかわり方を実施できる。
2. 保育中の場面を想定し、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を工夫できる。
3. 自然とかかわる子どもの体験を豊かにするような保育実践を構想し、具体的な計画として表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育内容・指導法
- 3 保育者としての思考力・判断力
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり 【実践】【体験】
3	身近な自然体験 植物とのかかわり 【実践】【体験】
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり 【実践】【体験】
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用 【実践】【体験】
6	動物とのかかわり ねらい、動物とは何か？

7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい、植物とは何か？
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい、自然事象とは何か？
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと〔計15時間〕。また、前時に指示された予習をしておくこと〔計14時間〕。

【事後学修】体験型の授業（2～5回）の後には、経験を今後に生かせるように平常のレポートにまとめること〔計16時間〕。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと〔計15時間〕。

評価方法および評価の基準

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。評価の手段（方法）は平常のレポートおよび平常点（40点）、試験に代わるレポート（60点）とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された成績物は、必要に応じて誤りを直し、コメントを記入したうえで評点をつけ、平常のレポートについては次週以降、試験に代わるレポートについては成績確定後に返却する。

【到達目標の評価方法】

到達目標 評価の手段（試験に代わるレポート 平常のレポートおよび平常点）と評価の比率

- | | | |
|--|-----|-----|
| 1. 保育実践とかかわりの深い動植物をはじめとする身近な自然事象の性質・特徴・魅力などを説明でき、また、それらを活かしたかかわり方を実践できる。 | 0% | 30% |
| 2. 保育中の場面を想定し、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を工夫できる。 | 20% | 10% |
| 3. 自然とかかわる子どもの体験を豊かにするような保育実践を構想し、具体的な計画として表現できる。 | 40% | 0% |

合計 試験に代わるレポート60% 平常のレポートおよび平常点40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】文部科学省『幼稚園教育要領解説（最新版）』、厚生労働省『保育所保育指針解説（最新版）』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）』

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穣		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。幼児教育学科の専門科目の「保育内容」に位置づけられている。

科目の概要

学生自身が自然に親しみ、自然に関する理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考え、自然を取り入れた保育を構想する。

授業の方法 (ALを含む)

動植物をはじめとする季節の自然事象を活用し、野外での活動を含めてこれらと直接かかわる体験と講義を通して理解したことに基づいて、授業外学習の成果や、学生同士の意見交換も取り入れつつ、自然を取り入れた保育実践の構想を立案していく。【実践】【体験】

到達目標

1. 保育実践とかかわりの深い動植物をはじめとする身近な自然事象の性質・特徴・魅力などを説明でき、また、それらを活かしたかかわり方を実施できる。
2. 保育中の場面を想定し、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を工夫できる。
3. 自然とかかわる子どもの体験を豊かにするような保育実践を構想し、具体的な計画として表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育内容・指導法
- 3 保育者としての思考力・判断力
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり 【実践】【体験】
3	身近な自然体験 植物とのかかわり 【実践】【体験】
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり 【実践】【体験】
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用 【実践】【体験】
6	動物とのかかわり ねらい、動物とは何か？
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかかわるか

8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい，植物とは何か？
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい，自然事象とは何か？
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと〔計15時間〕。また、前時に指示された予習をしておくこと〔計14時間〕。

【事後学修】体験型の授業（2～5回）の後は、経験を今後に生かせるように平常のレポートにまとめること〔計16時間〕。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと〔計15時間〕。

評価方法および評価の基準

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。評価の手段（方法）は平常のレポートおよび平常点（40点）、試験に代わるレポート（60点）とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された成績物は、必要に応じて誤りを直し、コメントを記入したうえで評点をつけ、平常のレポートについては次週以降、試験に代わるレポートについては成績確定後に返却する。

【到達目標の評価方法】

到達目標 評価の手段（試験に代わるレポート 平常のレポートおよび平常点）と評価の比率

- | | | |
|--|-----|-----|
| 1. 保育実践とかかわりの深い動植物をはじめとする身近な自然事象の性質・特徴・魅力などを説明でき、また、それらを活かしたかかわり方を実践できる。 | 0% | 30% |
| 2. 保育中の場面を想定し、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を工夫できる。 | 20% | 10% |
| 3. 自然とかかわる子どもの体験を豊かにするような保育実践を構想し、具体的な計画として表現できる。 | 40% | 0% |

合計 試験に代わるレポート60% 平常のレポートおよび平常点40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】文部科学省『幼稚園教育要領解説（最新版）』、厚生労働省『保育所保育指針解説（最新版）』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）』

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穣		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。幼児教育学科の専門科目の「保育内容」に位置づけられている。

科目の概要

学生自身が自然に親しみ、自然に関する理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考え、自然を取り入れた保育を構想する。

授業の方法 (ALを含む)

動植物をはじめとする季節の自然事象を活用し、野外での活動を含めてこれらと直接かかわる体験と講義を通して理解したことに基づいて、授業外学習の成果や、学生同士の意見交換も取り入れつつ、自然を取り入れた保育実践の構想を立案していく。【実践】【体験】

到達目標

1. 保育実践とかかわりの深い動植物をはじめとする身近な自然事象の性質・特徴・魅力などを説明でき、また、それらを活かしたかかわり方を実施できる。
2. 保育中の場面を想定し、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を工夫できる。
3. 自然とかかわる子どもの体験を豊かにするような保育実践を構想し、具体的な計画として表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育内容・指導法
- 3 保育者としての思考力・判断力
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容	
1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり 【実践】【体験】
3	身近な自然体験 植物とのかかわり 【実践】【体験】
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり 【実践】【体験】
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用 【実践】【体験】
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかかわるか

8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい，植物とは何か？
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい，自然事象とは何か？
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと〔計15時間〕。また、前時に指示された予習をしておくこと〔計14時間〕。

【事後学修】体験型の授業（2～5回）の後は、経験を今後に生かせるように平常のレポートにまとめること〔計16時間〕。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと〔計15時間〕。

評価方法および評価の基準

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。評価の手段（方法）は平常のレポートおよび平常点（40点）、試験に代わるレポート（60点）とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された成績物は、必要に応じて誤りを直し、コメントを記入したうえで評点をつけ、平常のレポートについては次週以降、試験に代わるレポートについては成績確定後に返却する。

【到達目標の評価方法】

到達目標 評価の手段（試験に代わるレポート 平常のレポートおよび平常点）と評価の比率

- | | | |
|--|-----|-----|
| 1. 保育実践とかかわりの深い動植物をはじめとする身近な自然事象の性質・特徴・魅力などを説明でき、また、それらを活かしたかかわり方を実践できる。 | 0% | 30% |
| 2. 保育中の場面を想定し、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を工夫できる。 | 20% | 10% |
| 3. 自然とかかわる子どもの体験を豊かにするような保育実践を構想し、具体的な計画として表現できる。 | 40% | 0% |

合計 試験に代わるレポート60% 平常のレポートおよび平常点40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】文部科学省『幼稚園教育要領解説（最新版）』、厚生労働省『保育所保育指針解説（最新版）』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）』

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穣		
ナンバリング	KAc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。幼児教育学科の専門科目の「保育内容」に位置づけられている。

科目の概要

学生自身が自然に親しみ、自然に関する理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考え、自然を取り入れた保育を構想する。

授業の方法 (ALを含む)

動植物をはじめとする季節の自然事象を活用し、野外での活動を含めてこれらと直接かかわる体験と講義を通して理解したことに基づいて、授業外学習の成果や、学生同士の意見交換も取り入れつつ、自然を取り入れた保育実践の構想を立案していく。【実践】【体験】

到達目標

1. 保育実践とかかわりの深い動植物をはじめとする身近な自然事象の性質・特徴・魅力などを説明でき、また、それらを活かしたかかわり方を実施できる。
2. 保育中の場面を想定し、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を工夫できる。
3. 自然とかかわる子どもの体験を豊かにするような保育実践を構想し、具体的な計画として表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育内容・指導法
- 3 保育者としての思考力・判断力
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり 【実践】【体験】
3	身近な自然体験 植物とのかかわり 【実践】【体験】
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり 【実践】【体験】
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用 【実践】【体験】
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかかわるか

8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい，植物とは何か？
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい，自然事象とは何か？
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎日10分、学内の自然や人の生活に現れる季節の移り変わりを観察し、把握したうえで授業に臨むこと〔計15時間〕。また、前時に指示された予習をしておくこと〔計14時間〕。

【事後学修】体験型の授業（2～5回）の後は、経験を今後に生かせるように平常のレポートにまとめること〔計16時間〕。また、授業内容を復習し、指示された課題に取り組むこと〔計15時間〕。

評価方法および評価の基準

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。評価の手段（方法）は平常のレポートおよび平常点（40点）、試験に代わるレポート（60点）とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された成績物は、必要に応じて誤りを直し、コメントを記入したうえで評点をつけ、平常のレポートについては次週以降、試験に代わるレポートについては成績確定後に返却する。

【到達目標の評価方法】

到達目標 評価の手段（試験に代わるレポート 平常のレポートおよび平常点）と評価の比率

- | | | |
|--|-----|-----|
| 1. 保育実践とかかわりの深い動植物をはじめとする身近な自然事象の性質・特徴・魅力などを説明でき、また、それらを活かしたかかわり方を実践できる。 | 0% | 30% |
| 2. 保育中の場面を想定し、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を工夫できる。 | 20% | 10% |
| 3. 自然とかかわる子どもの体験を豊かにするような保育実践を構想し、具体的な計画として表現できる。 | 40% | 0% |

合計 試験に代わるレポート60% 平常のレポートおよび平常点40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】文部科学省『幼稚園教育要領解説（最新版）』、厚生労働省『保育所保育指針解説（最新版）』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）』

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAd330		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場を含めた保育臨床・心理臨床場面での相談経験を持つ教員が担当し、保育実践や相談の実践事例を活用しながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、「発達と臨床」の領域に位置づいている。また、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得のための必修科目である。保育者としての基本姿勢の一つであるカウンセリングマインドについて理解し、身につける為の姿勢を持つことを目指す。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の基盤的理解を踏まえ、保育者が担うべき保護者に対する保育・教育相談の理論と技法の基本を学ぶための教科である。

子どもの臨床的課題の解決の為には、子どもへの臨床的なアプローチだけではなく、保護者への相談やカウンセリングも必要となる。そこで、保育者の専門性の一つである子ども理解を踏まえた、保育者ならではの相談及びカウンセリングについて学ぶ。保護者の相談に応じる際の基本的姿勢と理論について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

グループワークを多く取り入れ、受講生同士の協働的学びを目指す。自分の考えや発見、心情を他者と共有しようとする姿勢を持つことを目指す。また、自分の考えを短い文章にまとめて伝えられるようにする。【リアクションペーパー】【ロールプレイ】【グループワーク】

到達目標

- ・保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法について理解している。
- ・幼稚園や保育所、子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性（カウンセリングマインド）の修得しようとする姿勢を持つことができる。
- ・行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める意欲を持つ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 4 受容的・共感的態度

内容

子どもの発達および個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。授業では、基礎的知識を習得することだけでなく、子どもおよび保護者の支援についてロールプレイや事例を通して実践的に学ぶ。

保育・教育相談とは 【リアクションペーパー】

カウンセリングの歴史と広がり 【リアクションペーパー】

カウンセリングの基礎理論（さまざまな心理療法について）

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク基礎編：カウンセリングの視点 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク実践編：保育場面でのカウンセリング 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク応用編：カウンセリングマインドの必要性の理解 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

保育者が相談者としての役割を担うことの必要性 【リアクションペーパー】

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開 【リアクションペーパー】

保育・教育相談の特性に対応した実践理論 【リアクションペーパー】

実践事例から学ぶ 【リアクションペーパー】

事例のロール・プレイからの検討 導入編：ロール・プレイの意義を理解する 【リアクションペーパー】

事例のロール・プレイからの検討 実践編：ロール・プレイを通して事例を理解する 【ロールプレイ】 【リアクションペーパー】

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本 【リアクションペーパー】

保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際 【リアクションペーパー】

まとめと振り返り（保育者に必要とされるカウンセリングマインドの省察） 【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】2年次までの学修内容の理解を深めるよう振り返っておくこと。さまざまな事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考えること。指定されたテキストの該当箇所を必ず読み、自分の意見や疑問をもって参加すること（各授業毎に1時間程度）。【事後学修】授業ノートをまとめ、自分の考えを文章にしてまとめること（各授業毎に1時間程度）。

評価方法および評価の基準

最終課題（50%）、講義・グループワーク等への参加度（25%）、リアクションペーパー及び小レポート（25%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内にて候補となるテキストを紹介し、指定する。

【推薦書】子ども理解とカウンセリングマインド - 保育臨床の視点から -

青木久子 間藤侑 河邊貴子 著 萌文書林

そのほか授業内で必要に応じて随時紹介する。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

他者を理解しようとする気持ちを持つことは保育の基本でもあり、関係構築の基本でもあります。他者を理解するためには、自分のことをよく知ることが必要になります。まずは、そこから始めてみましょう！

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAd330		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場を含めた保育臨床・心理臨床場面での相談経験を持つ教員が担当し、保育実践や相談の実践事例を活用しながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、「発達と臨床」の領域に位置づいている。また、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得のための必修科目である。保育者としての基本姿勢の一つであるカウンセリングマインドについて理解し、身につける為の姿勢を持つことを目指す。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の基盤的理解を踏まえ、保育者が担うべき保護者に対する保育・教育相談の理論と技法の基本を学ぶための教科である。

子どもの臨床的課題の解決の為には、子どもへの臨床的なアプローチだけではなく、保護者への相談やカウンセリングも必要となる。そこで、保育者の専門性の一つである子ども理解を踏まえた、保育者ならではの相談及びカウンセリングについて学ぶ。保護者の相談に応じる際の基本的姿勢と理論について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

グループワークを多く取り入れ、受講生同士の協働的学びを目指す。自分の考えや発見、心情を他者と共有しようとする姿勢を持つことを目指す。また、自分の考えを短い文章にまとめて伝えられるようにする。【リアクションペーパー】【ロールプレイ】【グループワーク】

到達目標

- ・ 保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法について理解している。
- ・ 幼稚園や保育所、子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性（カウンセリングマインド）の修得しようとする姿勢を持つことができる。
- ・ 行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める意欲を持つ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 4 受容的・共感的態度

内容

子どもの発達および個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。授業では、基礎的知識を習得することだけでなく、子どもおよび保護者の支援についてロールプレイや事例を通して実践的に学ぶ。

保育・教育相談とは 【リアクションペーパー】

カウンセリングの歴史と広がり 【リアクションペーパー】

カウンセリングの基礎理論（さまざまな心理療法について）

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク基礎編：カウンセリングの視点 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク実践編：保育場面でのカウンセリング 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク応用編：カウンセリングマインドの必要性の理解 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

保育者が相談者としての役割を担うことの必要性 【リアクションペーパー】

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開 【リアクションペーパー】

保育・教育相談の特性に対応した実践理論 【リアクションペーパー】

実践事例から学ぶ 【リアクションペーパー】

事例のロール・プレイからの検討 導入編：ロール・プレイの意義を理解する 【リアクションペーパー】

事例のロール・プレイからの検討 実践編：ロール・プレイを通して事例を理解する 【ロールプレイ】 【リアクションペーパー】

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本 【リアクションペーパー】

保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際 【リアクションペーパー】

まとめと振り返り（保育者に必要とされるカウンセリングマインドの省察） 【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】2年次までの学修内容の理解を深めるよう振り返っておくこと。さまざまな事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考えること。指定されたテキストの該当箇所を必ず読み、自分の意見や疑問をもって参加すること（各授業毎に1時間程度）。【事後学修】授業ノートをまとめ、自分の考えを文章にしてまとめること（各授業毎に1時間程度）。

評価方法および評価の基準

最終課題（50%）、講義・グループワーク等への参加度（25%）、リアクションペーパー及び小レポート（25%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内にて候補となるテキストを紹介し、指定する。

【推薦書】子ども理解とカウンセリングマインド - 保育臨床の視点から -

青木久子 間藤侑 河邊貴子 著 萌文書林

そのほか授業内で必要に応じて随時紹介する。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

他者を理解しようとする気持ちを持つことは保育の基本でもあり、関係構築の基本でもあります。他者を理解するためには、自分のことをよく知ることが必要になります。まずは、そこから始めてみましょう！

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAd330		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場を含めた保育臨床・心理臨床場面での相談経験を持つ教員が担当し、保育実践や相談の実践事例を活用しながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、「発達と臨床」の領域に位置づいている。また、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得のための必修科目である。保育者としての基本姿勢の一つであるカウンセリングマインドについて理解し、身につける為の姿勢を持つことを目指す。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の基盤的理解を踏まえ、保育者が担うべき保護者に対する保育・教育相談の理論と技法の基本を学ぶための教科である。

子どもの臨床的課題の解決の為には、子どもへの臨床的なアプローチだけではなく、保護者への相談やカウンセリングも必要となる。そこで、保育者の専門性の一つである子ども理解を踏まえた、保育者ならではの相談及びカウンセリングについて学ぶ。保護者の相談に応じる際の基本的姿勢と理論について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

グループワークを多く取り入れ、受講生同士の協働的学びを目指す。自分の考えや発見、心情を他者と共有しようとする姿勢を持つことを目指す。また、自分の考えを短い文章にまとめて伝えられるようにする。【リアクションペーパー】【ロールプレイ】【グループワーク】

到達目標

- ・ 保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法について理解している。
- ・ 幼稚園や保育所、子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性（カウンセリングマインド）の修得しようとする姿勢を持つことができる。
- ・ 行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める意欲を持つ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 4 受容的・共感的態度

内容

子どもの発達および個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。授業では、基礎的知識を習得することだけでなく、子どもおよび保護者の支援についてロールプレイや事例を通して実践的に学ぶ。

保育・教育相談とは 【リアクションペーパー】

カウンセリングの歴史と広がり 【リアクションペーパー】

カウンセリングの基礎理論（さまざまな心理療法について）

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク基礎編：カウンセリングの視点 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク実践編：保育場面でのカウンセリング 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク応用編：カウンセリングマインドの必要性の理解 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

保育者が相談者としての役割を担うことの必要性 【リアクションペーパー】

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開 【リアクションペーパー】

保育・教育相談の特性に対応した実践理論 【リアクションペーパー】

実践事例から学ぶ 【リアクションペーパー】

事例のロール・プレイからの検討 導入編：ロール・プレイの意義を理解する 【リアクションペーパー】

事例のロール・プレイからの検討 実践編：ロール・プレイを通して事例を理解する 【ロールプレイ】 【リアクションペーパー】

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本 【リアクションペーパー】

保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際 【リアクションペーパー】

まとめと振り返り（保育者に必要とされるカウンセリングマインドの省察） 【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】2年次までの学修内容の理解を深めるよう振り返っておくこと。さまざまな事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考えること。指定されたテキストの該当箇所を必ず読み、自分の意見や疑問をもって参加すること（各授業毎に1時間程度）。【事後学修】授業ノートをまとめ、自分の考えを文章にしてまとめること（各授業毎に1時間程度）。

評価方法および評価の基準

最終課題（50%）、講義・グループワーク等への参加度（25%）、リアクションペーパー及び小レポート（25%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内にて候補となるテキストを紹介し、指定する。

【推薦書】子ども理解とカウンセリングマインド - 保育臨床の視点から -

青木久子 間藤侑 河邊貴子 著 萌文書林

そのほか授業内で必要に応じて随時紹介する。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

他者を理解しようとする気持ちを持つことは保育の基本でもあり、関係構築の基本でもあります。他者を理解するためには、自分のことをよく知ることが必要になります。まずは、そこから始めてみましょう！

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAd330		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場を含めた保育臨床・心理臨床場面での相談経験を持つ教員が担当し、保育実践や相談の実践事例を活用しながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科専門科目であり、「発達と臨床」の領域に位置づいている。また、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得のための必修科目である。保育者としての基本姿勢の一つであるカウンセリングマインドについて理解し、身につける為の姿勢を持つことを目指す。

科目の概要

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の基盤的理解を踏まえ、保育者が担うべき保護者に対する保育・教育相談の理論と技法の基本を学ぶための教科である。

子どもの臨床的課題の解決の為には、子どもへの臨床的なアプローチだけではなく、保護者への相談やカウンセリングも必要となる。そこで、保育者の専門性の一つである子ども理解を踏まえた、保育者ならではの相談及びカウンセリングについて学ぶ。保護者の相談に応じる際の基本的姿勢と理論について学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

グループワークを多く取り入れ、受講生同士の協働的学びを目指す。自分の考えや発見、心情を他者と共有しようとする姿勢を持つことを目指す。また、自分の考えを短い文章にまとめて伝えられるようにする。【リアクションペーパー】【ロールプレイ】【グループワーク】

到達目標

- ・保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法について理解している。
- ・幼稚園や保育所,子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性(カウンセリングマインド)の修得しようとする姿勢を持つことができる。
- ・行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める意欲を持つ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者の感性
- 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 4 受容的・共感的態度

内容

子どもの発達および個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。授業では、基礎的知識を習得することだけでなく、子どもおよび保護者の支援についてロールプレイや事例を通して実践的に学ぶ。

保育・教育相談とは 【リアクションペーパー】

カウンセリングの歴史と広がり 【リアクションペーパー】

カウンセリングの基礎理論（さまざまな心理療法について）

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク基礎編：カウンセリングの視点 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク実践編：保育場面でのカウンセリング 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク応用編：カウンセリングマインドの必要性の理解 【グループワーク】 【リアクションペーパー】

保育者が相談者としての役割を担うことの必要性 【リアクションペーパー】

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開 【リアクションペーパー】

保育・教育相談の特性に対応した実践理論 【リアクションペーパー】

実践事例から学ぶ 【リアクションペーパー】

事例のロール・プレイからの検討 導入編：ロール・プレイの意義を理解する 【リアクションペーパー】

事例のロール・プレイからの検討 実践編：ロール・プレイを通して事例を理解する 【ロールプレイ】 【リアクションペーパー】

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本 【リアクションペーパー】

保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際 【リアクションペーパー】

まとめと振り返り（保育者に必要とされるカウンセリングマインドの省察） 【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】2年次までの学修内容の理解を深めるよう振り返っておくこと。さまざまな事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考えること。指定されたテキストの該当箇所を必ず読み、自分の意見や疑問をもって参加すること（各授業毎に1時間程度）。【事後学修】授業ノートをまとめ、自分の考えを文章にしてまとめること（各授業毎に1時間程度）。

評価方法および評価の基準

最終課題（50%）、講義・グループワーク等への参加度（25%）、リアクションペーパー及び小レポート（25%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内にて候補となるテキストを紹介し、指定する。

【推薦書】子ども理解とカウンセリングマインド - 保育臨床の視点から -

青木久子 間藤侑 河邊貴子 著 萌文書林

そのほか授業内で必要に応じて随時紹介する。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

他者を理解しようとする気持ちを持つことは保育の基本でもあり、関係構築の基本でもあります。他者を理解するためには、自分のことをよく知ることが必要になります。まずは、そこから始めてみましょう！

科目名	青年心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd231		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科における保育士資格取得の選択必修科目の一つである。保育士資格取得希望の2・3・4年生を対象とする。専門科目の領域は「発達と臨床」である。

科目の概要

この科目では、思春期・青年期の発達の特徴や生じうる臨床的な課題について学ぶ。

また、学ぶ対象に履修者自身が含まれることから、履修者同士が各回のテーマについて、履修者自身に当てはめて考えることにより、自己理解を深めるとともに、他者理解をも深める。

授業の方法

講義であるが、毎回授業中にグループワークを行いながら自己を振り返り、ディスカッション等で、他者の考えを聞くことにより、多様な考え方があることを知る。授業終了前に、その回のグループワークやディスカッションを含め、授業内容について考えた自分の意見をまとめる。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 思春期・青年期の発達の特徴と臨床的な課題を理解し、自分の言葉でそれらを説明できる。
2. 他者との話し合いの中で、自分を客観的に捉えると共に、他者の意見を聞き、多様な考え方・価値観があることを知り、他者を尊重する考えをもつことができる。
3. 自分の考えていることを、他者が理解できるように、正確にことばや文章で表現できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 「子どもの心理・発達の理解」、
- 1 「子どもの人権の尊重」、
- 4 「問題意識、解決に取り組む姿勢」

内容

1	オリエンテーション：思春期・青年期の意味【リアクションペーパー】
2	青年期の自我の発達【グループワーク】【リアクションペーパー】
3	青年期の認知発達【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	青年期の身体発達と心の発達【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	青年期の家族関係【グループワーク】【リアクションペーパー】
6	青年期の友人関係【討議・討論】【リアクションペーパー】
7	青年期の恋愛関係【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	前半のまとめ【討議・討論】【リアクションペーパー】
9	青年と学校【討議・討論】【リアクションペーパー】

10	青年と文化【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	就職とキャリア設計【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	青年期の臨床的な課題1【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	青年期の臨床的な課題2【グループワーク】【リアクションペーパー】
14	青年期と精神疾患【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】LiveCampusに提示された配布資料を読む。(1時間)

【事後学修】ワークの内容についてまとめる。(1時間)

評価方法および評価の基準

授業中のリアクションペーパー30点、ワークの課題30点、内容確認テスト40点とし、総合評価60点以上を合格とする。総合評価が60点に達しなかった場合には、再試験は行わない。

【到達目標の評価方法と割合】

到達目標1.リアクションペーパー(10/30)、ワークの課題(10/30)、内容確認テスト(15/40)

到達目標2.リアクションペーパー(10/30)、ワークの課題(10/30)、内容確認テスト(15/40)

到達目標3.リアクションペーパー(10/30)、ワークの課題(10/30)、内容確認テスト(10/40)

【フィードバック】次回の授業の冒頭で、リアクションペーパー及びワークの課題に対するフィードバックを行う。内容確認テストに関しては実施後にフィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】LiveCampusに提示した資料のほか、適宜授業中に資料を配布する。

【推薦書】宮下一博監修 松島公望・橋本広信編「ようこそ！青年心理学」ナカニシヤ出版
大野久編著「エピソードでつかむ青年心理学」 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

幼児教育学科での心理・発達に関する科目は、乳幼児期を対象とすることがほとんどですが、この科目は、まさに履修者自身の属する青年期を対象としたものです。自分自身を振り返り、周りの履修者の意見を聞くことによって、現代の青年の心理的な発達や青年を取り巻く社会状況を知ることができます。

科目名	乳幼児発達論		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング	KAd432		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科学位授与方針の1.2.3.に対応する。人間の発達とは何かについて特に心理面に焦点を当て、研究方法や明らかにされて来た知見、今後の研究課題などについて、学生一人一人が問題意識を持ちつつ理解することを目指す。卒業研究で長田ゼミを希望する学生は履修することが望ましい。

科目の概要

乳幼児期から児童期への発達を中心に、最新の研究成果を紹介しながら、心理学に関連する様々な領域の発達について理解を深める。日常の経験や実習での体験などと併せて考えていくことにより、人間の発達について自ら包括的に考える力を養いたい。

授業方法

各回の授業テーマに沿って講義形式の授業を行う。学生は授業の中から最も興味を持ったテーマについて、毎回の授業後にレポートを作成して提出する。加えて、授業後にはリアクションペーパーを作成する。【レポート(知識)】【PBL】【リアクションペーパー】

学修目標

- (1)乳幼児期から児童期への心理学的発達の特徴を研究例を通して理解する。
- (2)最新の研究知見を日常の経験や実習での体験などと結びつけて考察し、人間の発達について包括的に考える力を身につける。
- (3)各回の講義後に出される課題を次回授業開始前までに提出し、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1子どもの心理・発達の理解 -3保育者の思考・判断 -2成長発達の支援、積極性

内容

各回の講義の内容の中から、学生各自が興味を持ったテーマについて、独自に調査してまとめたものを次回の授業前までに提出する形で、学生自らが積極的に授業に参加しながら学びを深める。

1	発達心理学とは
2	人生における胎児期・乳幼児期の意味
3	人間発達の可塑性
4	母子相互作用
5	世界の認識

6	気質・社会性
7	象徴機能の成立と言語発達
8	言語の機能と会話の発達
9	記憶
10	心の理論
11	遊びの発達
12	思考と語り
13	科学する心
14	生活世界から学びの世界へ
15	まとめ・質疑応答

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定テキストの次回範囲をよく読んでおくこと。出来ればレジユメなどを事前にまとめておくことが望ましい。
[約1時間から1時間半]

【事後学修】授業資料を学内授業フォルダに格納するので、授業内容をよく復習し、理解しておくこと。興味を持ったテーマに関して、学生自身の観点から調査しまとめる課題に取り組む。[約1時間半]

評価方法および評価の基準

授業中の提出課題（15回）100点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

各回の授業後に学生が提出した課題内容や質問に対して、その都度、教員から授業内でフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』 ミネルヴァ書房

【推薦書】 『生涯発達心理学とは何か:理論と方法(講座生涯発達心理学;第1巻)』無藤隆・やまだようこ編集(金子書房)

『人生への旅立ち:胎児・乳児・幼児前期(講座生涯発達心理学;第2巻)』麻生武・内田伸子編(金子書房)

『子ども時代を生きる:幼児から児童へ(講座生涯発達心理学;3)』内田伸子・南博文編(金子書房)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業中の提出課題（15回）100点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。再試験の方法などはLive Campusから周知する。

科目名	乳幼児発達論		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAd432		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、人間生活学部幼児教育学科専門科目（選択）である。専門科目の領域は「発達と臨床」である。卒業研究で発達心理学分野を履修希望する者は選択することが望ましい。

なお、同科目名で、別内容及び別担当教員の授業があるため、繰り返し受講可とする。

科目の概要

ことばは、コミュニケーションの手段とともに思考の道具である。この科目では人間の発達の中で、特に「ことばと思考」に焦点をあてて、乳幼児のことばや思考の発達について理解を深め、ことばと考える力を育てる初期環境の重要性を考える。また、言語発達に関する文献の読み方・内容のまとめ方を学ぶ。

授業の方法

講義を中心とするが、毎回の授業終了前にリアクションペーパーにより、授業内容を自分なりのことばで簡潔にまとめるとともに、自分の意見・感想を記入する。【リアクションペーパー】

第12回から14回においては、自ら文献をまとめる練習を行う。【レポート（知識）】

第15回においては、各自が子どものおしゃべりに関するデータを収集し、授業内容に基づいてそのおしゃべりについて考察する。【レポート（表現）】

到達目標

1. ことば及び乳幼児期の思考の発達過程を理解し、乳幼児期の思考の特徴を説明できる。
2. 1を踏まえて、乳幼児の思考を育てるための大人のかかわり方について、自分なりの考えを持つことができる。
3. 言語発達についての文献の読み方を習得し、内容をまとめて記述することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係： -1「子どもの心理・発達の理解」、 -3「保育内容・指導法」、 -5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」

内容

1	ことばと思考の発達について：導入【リアクションペーパー】
2	ことばの獲得を支えるもの【リアクションペーパー】
3	ことばの発達過程【リアクションペーパー】
4	読み書き能力の発達【リアクションペーパー】
5	絵本との出会い【リアクションペーパー】
6	会話の発達【リアクションペーパー】

7	言葉の発達の個人差【リアクションペーパー】
8	第2言語習得【リアクションペーパー】
9	子どもの思考(1)【リアクションペーパー】
10	子どもの思考(2)【リアクションペーパー】
11	言語発達の障害【リアクションペーパー】
12	文献の読み方(1)【レポート(知識)】【リアクションペーパー】
13	文献の読み方(2)【レポート(知識)】【リアクションペーパー】
14	文献の読み方(3)【レポート(知識)】【リアクションペーパー】
15	まとめ【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎回の授業前にLive Campusに提示された資料を各自印刷し、事前に読み、その段階での疑問点や感想をまとめておく。(45分)

【事後学修】授業を受けて、事前の疑問点について理解したことを自分なりにまとめておく。(45分)

評価方法および評価の基準

毎回授業内のリアクションペーパー30点、第15回のレポート課題70点とし、総合評価60点以上を合格とする。総合評価が60点に満たない場合、再試験は行わない。

【到達目標の評価方法と割合】

到達目標1.リアクションペーパー(10/30)、レポート課題(30/70)

到達目標2.リアクションペーパー(10/30)、レポート課題(30/70)

到達目標3.リアクションペーパー(10/30)、レポート課題(10/70)

【フィードバック】

次回の授業時に、前回のリアクションペーパーのフィードバックを行う。レポートに関しては、採点后添削コメントを記入して、各自に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】毎回の授業前にLive Campusに資料を提示するので、各自その資料を印刷して持参すること。

【推薦書】岩立志津夫・小椋たみ子編 『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房

内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本授業を受講することにより、他の科目、特に保育内容の指導法(言葉)の授業をより理解しやすくなります。

科目名	発達臨床論		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAd433		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

児童発達支援センター、障害者支援施設、病院、保育園、幼稚園、学校等における発達相談の経験を踏まえ、子ども理解および支援についての理解を促す。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目「発達と臨床」に位置づく科目で、選択科目である。

「発達臨床論」の科目は異なる教員により前期と後期に開講される。内容が異なるため、繰り返し受講が可能になる。

科目の概要

子どもたちの育ちは様々で何らかの心の問題や葛藤、発達の課題を抱えている子どもがいる。発達心理学的な知見で子どもが抱えている課題を捉えなおし、保育場面あるいは生活場面でどのように援助したら良いか実践的に学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

適宜映像や事例を取り入れながら講義を行う。また、テーマに応じてグループディスカッションやブレイルームでの演習を通して学びを深める。毎回の授業後にはリアクションペーパーを記入する。【リアクションペーパー】【グループディスカッション】【演習】

到達目標

1. 今日の子どもの臨床的課題を踏まえた子ども理解ができる。
2. 支援を必要とする子どもと親について置かれている社会的な環境要因も踏まえて総合的な観点から理解することができる。
3. 発達臨床学的な見地から、親子支援について実践的に考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの心理・発達の理解
- 4保育者の感性
- 4受容的・共感的態度

内容

何らかの支援が必要な子どもたちとはどのような状況（環境）にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料（視聴覚教材を含む）をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていく。また子どもの育つ環境として望ましくない場合も多い。そうした状況にある親子についてどのような支援していくか、また子どもが抱えている要因、親が抱えている要因、社会的環境要因についても学びながら援助の方法について考えていく。

以下に述べるテーマを取り上げる。

子どもの育ちと養育環境について考える【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

養育環境の中で、愛着関係の視点で親子の問題と表に現れる子どもの行動の問題（発達障害、児童虐待、非行等）について考える【リアクションペーパー】

障害と家族支援について考える（第3回～第7回）【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

事例を通して発達障害支援と家族支援について考える（第8回～第9回）【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

子どもの活動と経験【リアクションペーパー】

おもちゃについてとその振り返り（第11回～第12回）【演習】【リアクションペーパー】

積木類のおもちゃについてとその振り返り（第13回～第14回）【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

まとめ【グループディスカッション】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習・事後学修】

授業前後それぞれ約60分程の時間を利用して、事前事後学習を行う。

与えられた課題をまとめたり、授業で学んだ内容への理解を深めるため自主的に文献を探したり、自分の考えを文章にしてまとめる作業を行う。

評価方法および評価の基準

授業の参加状況（20点）と授業内外の課題の取り組み状況（20点）、最終課題（60点）を加味し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（15% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%）、最終課題（20% / 60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定する

【推薦書】授業内で必要に応じて随時紹介する

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

今までの学びを踏まえて改めて発達とは何かをしっかりと捉えなおす授業になる。

科目名	発達臨床論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAd433		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場を含めた保育臨床・心理臨床場面での相談経験を持つ教員が担当し、子育て・子育てに関わる保育実践や心理相談、発達相談の実践事例を活用しながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、「発達と臨床」の領域に位置づく、選択科目です。子ども、子どもとかわる人々について理解を深め、広い視野から他者理解することができるように学びます。また、保育現場及び社会において必要とされる共感的に関わる力を習得する事を目指します。

科目の概要

一人一人の子どもたちの育ちは様々ですが、その子ども達が生き生きと楽しく毎日を過ごすためにどのような関わりが必要かを心理学的見地から学んでいきます。何らかの心の問題や葛藤、発達の課題を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて実践的に援助する方法について学び、保育場面あるいは生活場面での実践について考えながら学んでいきます。

科目担当者により内容が異なりますので、「繰り返し受講可」としてしています。

授業の方法（ALを含む）

文献・視聴覚教材等を用いて、具体的事例から抽象的思考へと発展させるように学びます。グループワーク・プレゼンテーション・事例検討等、多様な方法で学びます。【グループワーク】【討議】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】

到達目標

臨床発達、臨床心理学の初歩的な知識を学びながら、今日の子どもの臨床的課題を把握することを目指します。子どもの発達を踏まえ、さまざまな問題が発生する原因について心理学的な見地から考えることができること、一人の人間としてまた保育者として出来ることについて自身の考えを深めること、それを他者と共有する力を身につけことを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの心理・発達の理解
- 4 保育者の感性
- 4 受容的・共感的態度

内容

何らかの心理的支援が必要な子どもたちとはどのような状況（環境）にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料（視聴覚教材を含む）をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていきます。また子どもの育つ環境として望ましくない場合も現実の場面では多くあります。そうした状況にある親子についてどのような支援が出来るのか、また子どもが抱えている要因、親が抱えている要因、社会的

環境要因についても学びながら援助の方法について考えていきます。

また、グループワークやグループでの発表等も行い、インタラクティブに学び合い、そこから自分自身の考えを深め、それを発表することが求められます。

以下に述べるテーマを取り上げます。

1. 現代の子育て事情と支援を必要とする子どもの現状
支援が必要な問題について考える(3回) 【討議】
2. 支援が必要とされる事例の検討とグループワーク(3回) 【グループワーク】
3. 子どもの要因：発達障害を中心に考える(3回)
4. 親の要因(1回) 【ロールプレイ】
5. 社会的要因(1回)
6. さまざまな環境での子どもの育ちについて(3回) 【プレゼンテーション】
7. まとめ(1回)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】与えられた課題に対して自分の意見が述べられるよう考えをまとめておくこと。今まで学んだことを理解しているか自分自身で確認しておくこと。【事後学修】理解を深めるため自主的に文献を探したり、自分の考えを文章にしてまとめること。事前・事後学習とも毎回30～60分程度必要です。

評価方法および評価の基準

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度(30%)、授業内でのレポート(20%)、最終課題(50%)により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指定します。

【推薦書】授業内で必要に応じて随時紹介します。

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各自が問題意識を持ち、全体で共有しながら考えを深めることを目指します。積極的に学ぶ姿勢を大切にしてください。

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe134		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当する。学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた学科卒業必修科目である。子どもや家庭をめぐる社会福祉の要素を学ぶものであり、保育専門職として身につけるべき知識や技術、自己課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は、「生活と福祉」の各科目において学ぶ各子ども家庭福祉の制度やサービス体系、関連性を提示し、各科目の基礎知識と理解につながるものである。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 家庭生活の変遷を知り、子ども家庭福祉に関する基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 児童の権利に関する条約を始めとした、子どもの権利擁護について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	子ども家庭福祉とは
2	子ども家庭福祉の法体系とその対象
3	児童福祉法の変遷と権利擁護
4	児童福祉施設と専門職（社会的養護を中心に）
5	児童福祉施設と専門職（障がいのある子どもの支援を中心に）
6	保育・教育施設と幼保一体化
7	保育・教育施設と幼保一体化
8	児童福祉法の変遷と専門機関・職の確認 / 前半講義のまとめ
9	子ども家庭福祉の歴史的変遷（主に諸外国を中心に）

10	子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に戦前日本を中心に）
11	子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に戦後日本を中心に）
12	子ども家庭福祉の現状
13	子ども家庭福祉の法体系と実施体制
14	子育て支援サービス、子ども家庭福祉の展望
15	歴史と子ども家庭福祉の現状の確認 / 後半講義のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業では教科書1冊を学び終えることになる。授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読み、理解できない点は調べる等を2時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、関連する文献、情報等の確認を1時間半程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパー（20点）、学修目標に関する課題（20点）、前半筆記テスト（30点）、後半筆記テスト（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。[フィードバック]授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 新・はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論（第2版）（ミネルヴァ書房）、最新保育資料集2019（ミネルヴァ書房）、ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規）

[参考書] 保育所保育指針解説書（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe134		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の学位授与方針1、3に該当する。学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた学科卒業必修科目である。子どもや家庭をめぐる社会福祉の要素を学ぶものであり、保育専門職として身につけるべき知識や技術、自己課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は、「生活と福祉」の各科目において学ぶ各子ども家庭福祉の制度やサービス体系、関連性を提示し、各科目の基礎知識と理解につながるものである。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や保育者の専門性と役割について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 家庭生活の変遷を知り、子ども家庭福祉に関する基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設の現状を理解する。
3. 児童の権利に関する条約を始めとした、子どもの権利擁護について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	子ども家庭福祉とは
2	子ども家庭福祉の法体系とその対象
3	児童福祉法の変遷と権利擁護
4	児童福祉施設と専門職（社会的養護を中心に）
5	児童福祉施設と専門職（障がいのある子どもの支援を中心に）
6	保育・教育施設と幼保一体化
7	保育・教育施設と幼保一体化
8	児童福祉法の変遷と専門機関・職の確認 / 前半講義のまとめ
9	子ども家庭福祉の歴史的変遷（主に諸外国を中心に）

10	子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に戦前日本を中心に）
11	子ども家庭福祉の歴史の変遷（主に戦後日本を中心に）
12	子ども家庭福祉の現状
13	子ども家庭福祉の法体系と実施体制
14	子育て支援サービス、子ども家庭福祉の展望
15	歴史と子ども家庭福祉の現状の確認 / 後半講義のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業では教科書1冊を学び終えることになる。授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読み、理解できない点は調べる等を2時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、関連する文献、情報等の確認を1時間半程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパー（20点）、学修目標に関する課題（20点）、前半筆記テスト（30点）、後半筆記テスト（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。[フィードバック]授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 新・はじめて学ぶ社会福祉 児童家庭福祉論（第2版）（ミネルヴァ書房）、最新保育資料集2019（ミネルヴァ書房）、ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2019（中央法規）

[参考書] 保育所保育指針解説書（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名			
ナンバリング	KAe334		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当し、専門科目「生活福祉」に位置する選択科目である。子ども家庭福祉 をふまえて、現在の子ども家庭福祉問題に関わる援助の実際について、関わる機関、施設、領域、対象別にテーマを設けて検討する。特に、法改正の変遷や子どもをめぐる問題、子どもの権利の保護の実情等に即して、専門援助のあり方を考察できるようになることを目指す。

科目の概要 本講義では、子ども家庭福祉 をふまえて、現在の児童福祉問題に関わる援助の実際について、現代の子どもや家庭に関わる福祉課題の理解、理念の理解（講義1.2.3.4）、子ども家庭福祉の法制度、関わる機関、支援、施設の理解（講義5.6.7.8.9.10.11.12.13）をふまえ、今後の課題について考察ができる（講義14）ようになることを目指す。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における子どもや家庭の現状と福祉課題について理解する。 2. 子ども家庭福祉の法制度の基礎を理解する。 3. 子ども家庭福祉の援助体制や実際について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本科目は講義を基本にしつつ、資料、ワークシートを活用したり、グループワークも取り入れながら学びを深めていく。

- 1 現代社会と子ども・家庭の生活実態
- 2 子ども・家庭福祉の歴史的展開と現代的ニーズ1
- 3 子ども・家庭福祉の歴史的展開と現代的ニーズ2
- 4 子ども家庭福祉の理念 児童の権利
- 5 子ども家庭福祉に関わる法と実施体制
- 6 子ども家庭福祉と自立支援

- 7 児童虐待の理解
- 8 児童虐待、家庭内暴力への援助と防止
- 9 子ども家庭福祉サービスの実際 1
- 10 子ども家庭福祉サービスの実際 2
- 11 子ども家庭福祉サービスの実際 3
- 12 子ども家庭福祉サービスの実際 4 児童福祉専門職の専門性
- 13 子ども家庭福祉サービスの新しい動きと倫理の課題
- 14 講義の総括
- 15 授業の振り返り フィードバック まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】子ども家庭福祉、社会福祉の授業で習得した知識の確認。各授業の前回内容の復習と次回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

評価方法および評価の基準

学修目標に関する課題レポート(授業内含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 講義中に示す

推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	社会福祉		
担当教員名			
ナンバリング	KAe135		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当する学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し（講義1.2）社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の関連性について理解する（講義3.4）、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め（講義5.6.7.8.9.10.11.12）、課題の考察、判断の根拠の提示（講義13）が可能になることを目的とする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2．社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3．社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4．社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5．社会福祉の動向と課題について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議も採り入れながら学びを深める。

1	オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義
2	現代社会における社会福祉 取り巻く環境と歴史的展開
3	社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念
4	社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護
5	社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系
6	社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関

7	社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解
8	社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者
9	社会福祉の制度と実施体系 (5) 社会保障及び関連制度の概要
10	社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則
11	社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
12	社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
13	社会福祉の動向と課題 1
14	社会福祉の動向と課題 2 全体総括
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識、これまでの社会関連知識等を確認すること、各授業の前回内容の復習と次回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

評価方法および評価の基準

学修目標に関する課題レポート(授業内含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房
参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	社会福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe135		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 本科目は幼児教育学科の学位授与方針1.3に該当する学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられている必修科目である。4年間で学ぶ福祉に関する基本的知識の理解や考察を求める。特に保育専門職として身につけるべき福祉知識や技術、自己の課題に関わる考察を行う基盤となる。科目の関連は「子ども家庭福祉」をはじめ「生活と福祉」の各科目において学ぶ各福祉領域の制度やサービスの体系や関連性を提示し、各科目の基礎知識理解につながるものである。

科目の概要 本講義では社会福祉の意義、歴史的展開、社会福祉の動向・課題を概観し (講義1.2) 社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の関連性について理解する (講義3.4)、そして、社会福祉に関わる基本的な制度、実施体系、専門職などについて理解を深め (講義5.6.7.8.9.10.11.12)、課題の考察、判断の根拠の提示 (講義13) が可能になることを目的とする。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議も採り入れながら学びを深める。

1	オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義
2	現代社会における社会福祉 取り巻く環境と歴史的展開
3	社会福祉と人権 (1) 社会福祉の理念
4	社会福祉と人権 (2) 社会福祉における権利擁護
5	社会福祉の制度と実施体系 (1) 社会福祉の制度と法体系

6	社会福祉の制度と実施体系 (2) 社会福祉行財政と実施機関
7	社会福祉の制度と実施体系 (3) 社会福祉施設等とサービスの理解
8	社会福祉の制度と実施体系 (4) 社会福祉の専門職・実施者
9	社会福祉の制度と実施体系 (5) 社会保障及び関連制度の概要
10	社会福祉における相談援助 (1) 相談援助の意義と原則
11	社会福祉における相談援助 (2) 相談援助の方法と技術
12	社会福祉における相談援助 (3) 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
13	社会福祉の動向と課題 1
14	社会福祉の動向と課題 2 全体総括
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】子ども家庭福祉 で習得した知識、これまでの社会関連知識等を確認すること、各授業の前回内容の復習と今回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

評価方法および評価の基準

学修目標に関する課題レポート(授業内含む)(20点)、試験(50点)、授業態度(リアクションペーパー提出含む)(30点)。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】石田慎二・山縣文治編著「新・プリマーズ保育 福祉 社会福祉」ミネルヴァ書房
参考図書 必要に応じて随時講義内で示す。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助		
担当教員名	横畑 泰希		
ナンバリング	KAe336		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

母子保健事業における子育て相談、幼児教育施設等での相談業務の経験を活かし授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた選択科目であり、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会的養護原理」「社会的養護内容」「子育て支援論」、3年次履修「保育・教育相談」や3・4年次の保育所実習及び施設実習とも関連性がある。

科目の概要

保育現場における相談援助の概要を理解し、具体的な方法と援助、展開について学ぶ。また、保育におけるソーシャルワークの応用について具体的な事例から学ぶ。保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、直接援助技術及び間接援助技術について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

相談援助の概要を踏まえたうえで、実際の援助法と具体的展開についてグループワークを中心に検討していく。授業毎にリアクションペーパーに取り組み、自己の学びの整理として活用する。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 保育者に期待される相談援助の概要を知り、支援方法と技術について理解し、説明できる。
2. 様々な子育て家庭への理解を深め、支援の必要性と内容を判断する力を養い、説明できる。
3. 保護者に対する具体的ななかかわり方とその計画・評価について理解し、説明できる。
4. 保護者・地域・他の専門職との連携について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3 保育者の思考・判断
- 4 受容的・共感的態度

内容

視聴教材や臨床事例（保育場面、園庭開放、特別な配慮を要する子どもと保護者など）を取り入れて具体的に学んでいく。

【ケースメソッド】【グループワーク】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

1. 相談援助とは
2. 保育と保護者支援のつながり【グループワーク】
3. 保護者との相互理解と信頼形成にあたってのソーシャルワークの活用
4. 相談援助の概要：相談援助とソーシャルワーク
5. 相談援助の概要：保育とソーシャルワーク
6. 地域と保育者の連携・協働【グループワーク】
7. 相談援助の方法と技術【ロールプレイ】
8. 幼児教育施設における保護者支援【ケースメソッド】
9. 幼児教育施設における保護者支援 【プレゼンテーション】
10. 特別な配慮を要する子どもと保護者に関する支援【ケースメソッド】
 11. 相談援助の展開：事例に基づいた計画・記録・評価の作成
 12. 相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開
 13. 地域の保護者への支援【ケースメソッド】【グループワーク】
 14. 相談援助の展開：まとめ
 15. 子育て家庭のニーズと保育者の専門性

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読むなどしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、保育所保育指針解説等を読む。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標1. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（5/30）、期末レポート（15/50）

到達目標2. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（5/30）、期末レポート（15/50）

到達目標3. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（15/30）、期末レポート（10/50）

到達目標4. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（5/30）、期末レポート（10/50）

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】と【推薦書】は授業で説明する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など
日常生活の場では会う子どもと保護者に関心を持ちましょう。

科目名	相談援助		
担当教員名	横畑 泰希		
ナンバリング	KAe336		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

母子保健事業における子育て相談、幼児教育施設等での相談業務の経験を活かし授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた選択科目であり、保育士資格を得るために必要な科目であり、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会的養護原理」「社会的養護内容」「子育て支援論」、3年次履修「保育・教育相談」や3・4年次の保育所実習及び施設実習とも関連性がある。

科目の概要

保育現場における相談援助の概要を理解し、具体的な方法と援助、展開について学ぶ。また、保育におけるソーシャルワークの応用について具体的な事例から学ぶ。保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、直接援助技術及び間接援助技術について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

相談援助の概要を踏まえたうえで、実際の援助法と具体的展開についてグループワークを中心に検討していく。授業毎にリアクションペーパーに取り組み、自己の学びの整理として活用する。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 保育者に期待される相談援助の概要を知り、支援方法と技術について理解し、説明できる。
2. 様々な子育て家庭への理解を深め、支援の必要性と内容を判断する力を養い、説明できる。
3. 保護者に対する具体的ななかかわり方とその計画・評価について理解し、説明できる。
4. 保護者・地域・他の専門職との連携について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3 保育者の思考・判断
- 4 受容的・共感的態度

内容

視聴教材や臨床事例（保育場面、園庭開放、特別な配慮を要する子どもと保護者など）を取り入れて具体的に学んでいく。

【ケースメソッド】【グループワーク】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

1. 相談援助とは
2. 保育と保護者支援のつながり【グループワーク】
3. 保護者との相互理解と信頼形成にあたってのソーシャルワークの活用
4. 相談援助の概要：相談援助とソーシャルワーク
5. 相談援助の概要：保育とソーシャルワーク
6. 地域と保育者の連携・協働【グループワーク】
7. 相談援助の方法と技術【ロールプレイ】
8. 幼児教育施設における保護者支援【ケースメソッド】
9. 幼児教育施設における保護者支援 【プレゼンテーション】
10. 特別な配慮を要する子どもと保護者に関する支援【ケースメソッド】
 11. 相談援助の展開：事例に基づいた計画・記録・評価の作成
 12. 相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開
 13. 地域の保護者への支援【ケースメソッド】【グループワーク】
 14. 相談援助の展開：まとめ
 15. 子育て家庭のニーズと保育者の専門性

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。それを各自でプリントアウトし、所定の教科書範囲を読むなどしながら、理解できない点は調べる等を1時間程度行う。

【事後学修】各授業終了後から次週までに、授業資料やノート、教科書から授業中に触れた内容を再確認し、知識を再確認する。また、保育所保育指針解説等を読む。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパーの内容評価（20点）、グループ学習及び授業課題（30点）、期末レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

到達目標1. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（5/30）、期末レポート（15/50）

到達目標2. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（5/30）、期末レポート（15/50）

到達目標3. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（15/30）、期末レポート（10/50）

到達目標4. 授業毎リアクションペーパーの内容評価（5/20）、グループ学習及び授業課題（5/30）、期末レポート（10/50）

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や筆記試験のフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】と【推薦書】は授業で説明する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など
日常生活の場では会う子どもと保護者に関心を持ちましょう。

科目名	相談援助		
担当教員名	柳井 康子		
ナンバリング	KAe336		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元児童発達支援センターの相談員と支援員として地域の保育所・幼稚園・保健センター等と連携しながら、保育・教育施設及び地域の子どもと保護者支援をしてきた。その経験を踏まえ相談援助の授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「生活と福祉」領域の選択科目で、保育士資格の取得にかかわる必修科目である。今まで学んできた保育、福祉、心理に関する科目の知識および相談支援関連科目と関連しながらより実践的な学ぶ科目である。

科目の概要

保育現場で求められる相談援助のニーズ、内容、意義について理解した上で、様々な子育て家庭への理解を深めながら、相談援助の基本について理解した上で、具体的な支援方法と技術について学ぶ。保護者・地域・他の専門職との連携について理解を深める。受講生相互の学びを深めていくことを求める。

授業の方法（ALを含む）

基本知識を確認しながら、適宜映像、事例等を通してグループディスカッション、ロールプレイ等の方法で受講生相互の学びを深める。授業後は毎回リアクションペーパーを記入し、次の授業でそれを踏まえて振り返りを行う。【グループディスカッション】【ロールプレイ】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現代社会における保育現場で求められる相談援助のニーズと内容について理解し、説明できる。
2. 保育現場における相談援助の基本について理解した上で、具体的な支援方法と技術について学び、応用できる。
3. 様々な子育て家庭への理解を深め、支援の必要性和具体的な支援について考える力を養い、説明できる。
4. 保護者・地域・他の専門職との連携について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3保育者の思考・判断
- 4受容的・共感的態度

内容

1	保育実践で行う相談援助とは
2	子どもの保育とともに行う保護者支援【グループディスカッション】
3	日常的に・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
4	相談援助の基盤となるソーシャルワークの視点をを用いること
5	相談援助の概要：保育とソーシャルワーク【グループディスカッション】
6	相談援助の方法と技術：ケースワークの実際
7	相談援助の方法と技術：ケースワークの実際
8	相談援助の方法と技術：ケースワークの理論と要点
9	相談援助の方法と技術：ロールプレイングによるケースワーク【ロールプレイング】
10	相談援助の方法と技術：生活環境とソーシャルワーク
11	相談援助の方法と技術：グループワーク及びコミュニティワーク【グループワーク】
12	相談援助の展開：計画・記録・評価【グループワーク】
13	相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開
14	保育所における危機場面と相談援助
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】

1時間前後の時間を利用し、テキストを読んでから授業に臨むこと。

【事後学修】

1時間前後の時間を利用し、テキストと配布資料を読み返しながら事後学修を行うこと。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（20点）、期末課題（60点）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

到達目標 4：課題プリント・授業への取り組み（10%/40%）期末課題（15%/60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

授業時に紹介する。

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

最新保育資料集2018 .

3年前期まで学んだ保育や福祉に関する知識、保護者支援に関する知識を踏まえて、実際の事例を検討する。グループディスカッション等を通して仲間で学び合う充実さを体験してほしい。

科目名	相談援助		
担当教員名	柳井 康子		
ナンバリング	KAe336		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

元児童発達支援センターの相談員と支援員として地域の保育所・幼稚園・保健センター等と連携しながら、保育・教育施設及び地域の子どもと保護者支援をしてきた。その経験を踏まえ相談援助の授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の専門科目「生活と福祉」領域の選択科目で、保育士資格の取得にかかわる必修科目である。今まで学んできた保育、福祉、心理に関する科目の知識および相談支援関連科目と関連しながらより実践的な学ぶ科目である。

科目の概要

保育現場で求められる相談援助のニーズ、内容、意義について理解した上で、様々な子育て家庭への理解を深めながら、相談援助の基本について理解した上で、具体的な支援方法と技術について学ぶ。保護者・地域・他の専門職との連携について理解を深める。受講生相互の学びを深めていくことを求める。

授業の方法 (ALを含む)

基本知識を確認しながら、適宜映像、事例等を通してグループディスカッション、ロールプレイ等の方法で受講生相互の学びを深める。授業後は毎回リアクションペーパーを記入し、次の授業でそれを踏まえて振り返りを行う。【グループディスカッション】【ロールプレイ】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現代社会における保育現場で求められる相談援助のニーズと内容について理解し、説明できる。
2. 保育現場における相談援助の基本について理解した上で、具体的な支援方法と技術について学び、応用できる。
3. 様々な子育て家庭への理解を深め、支援の必要性と具体的な支援について考える力を養い、説明できる。
4. 保護者・地域・他の専門職との連携について理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3保育者の思考・判断
- 4受容的・共感的態度

内容

1	保育実践で行う相談援助とは
2	子どもの保育とともに行う保護者支援【グループディスカッション】
3	日常的に・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
4	相談援助の基盤となるソーシャルワークの視点をを用いること
5	相談援助の概要：保育とソーシャルワーク【グループディスカッション】
6	相談援助の方法と技術：ケースワークの実際
7	相談援助の方法と技術：ケースワークの実際
8	相談援助の方法と技術：ケースワークの理論と要点
9	相談援助の方法と技術：ロールプレイングによるケースワーク【ロールプレイング】
10	相談援助の方法と技術：生活環境とソーシャルワーク
11	相談援助の方法と技術：グループワーク及びコミュニティワーク【グループワーク】
12	相談援助の展開：計画・記録・評価【グループワーク】
13	相談援助の展開：事例検討を元にした相談援助の展開
14	保育所における危機場面と相談援助
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】

1時間前後の時間を利用し、テキストを読んでから授業に臨むこと。

【事後学修】

1時間前後の時間を利用し、テキストと配布資料を読み返しながら事後学修を行うこと。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（20点）、期末課題（60点）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

到達目標 1：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%） 期末課題（15% / 60%）

到達目標 2：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%） 期末課題（15% / 60%）

到達目標 3：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%） 期末課題（15% / 60%）

到達目標 4：課題プリント・授業への取り組み（10% / 40%） 期末課題（15% / 60%）

【フィードバック】

毎回の授業の最初に、前回授業の質問に答え説明不足を補い、理解が深まるようにする。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

授業時に紹介する。

【推薦書】

授業時に紹介する。

【参考図書】

最新保育資料集2018 .

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

3年前期まで学んだ保育や福祉に関する知識、保護者支援に関する知識を踏まえて、実際の事例を検討する。グループディスカッション等を通して仲間と学び合う充実さを体験してほしい。

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KAe240		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉法第4条地域福の推進を目的とする同法109条に位置づけられた社会福祉協議会の福祉活動専門員として地域福祉実践に携わったを経験を活かして担当し、地域福祉を具体的な実践事例等を用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の生活と福祉に位置付けられる選択科目である。社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。しかし、本科目においては、専門的な知識と技能の習得を図り全人的な人間理解をめざすものとする。

科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心とするが、より具体的に学べるよう地域福祉実践者にゲストスピーカーとして報告をしてもらい、質疑応答や、シンキングタイムを設けて、小グループで話し合うことも取り入れた授業を行う。また、講義等を通して得た知識の定着と理解度を確認するレポートライティングを行うとともに、毎時リアクションペーパーを記入し、次回授業開始時に教員がフィードバックし、学習内容の理解促進を充実させる。【グループワーク】【レポート】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1.地域福祉の基本的考え方について解釈することができる。
- 2.地域福祉の主体と対象について述べるすることができる。
- 3.地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を説明することができる。
- 4.地域福祉の推進方法について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解 -1子どもの人権尊重 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

1	地域福祉を知る【グループワーク】【リアクションペーパー】
2	地域福祉の実際について【グループワーク】【リアクションペーパー】
3	地域福祉の概観を捉える【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	地域福祉の主体と対象【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	地域福祉における民間組織・住民の役割【グループワーク】【リアクションペーパー】
6	地域福祉実践を知る【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】
7	社会福祉協議会の組織と役割【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	地域福祉の専門職と人材【グループワーク】【リアクションペーパー】
9	社会福祉協議会の仕事【グループワーク】【リアクションペーパー】
10	ネットワーキングの意味と方法【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	地域福祉ネットワークの実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	ボランティア・市民活動の推進と福祉教育【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	福祉教育・ボランティア学習の実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
14	地域福祉の課題【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	まとめ(全員)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】厚生労働省HP「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」「地域共生社会の実現に向けて」を確認し、自分なりに内容を整理しまとめる。(各授業に対して60分)。

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介されたHP、法律や政策、図書、国家試験問題等について各自で内容を理解し深められるよう、復習ノートを作成する(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各授業回のグループワーク(10%)とリアクションペーパー(10%)、レポート課題提出(40%)、筆記試験(40%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.グループワーク(3%/10%)、リアクションペーパー(3%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標2.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標3.グループワーク(3%/10%)、リアクションペーパー(3%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標1.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

【フィードバック】毎授業のリアクションペーパーの質疑に対しては、授業開始時や必要に応じてペーパーに返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦図書】新社会福祉士養成課程対応 第2版 地域福祉の理論と方法 株式会社みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	児童養護論		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAe441		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 本科目は学科専門科目における選択科目である。1年生、2年生で修得した保育に関わる専門科目（特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護」、「社会的養護内容」等保育必修科目全般）を踏まえて、子ども家庭福祉、社会的養護の現状と専門性を深く理解し、課題を考察できるようになることを到達課題とする。さらに、実践的、発展的な学習をめざす科目である。同科目名の別担当教員、内容の授業があるため、繰り返し受講可とする。

科目の概要 本科目では子ども家庭福祉、社会的養護について、事例、施策や法制度等の資料等を用いて、歴史的展開から現代的課題、将来展望について理解し、自身の考察を行うことをめざす。

現代の福祉援助課題に対応する社会的養護の基本的視座・意義や理念（講義1.2.3.4.）、社会的養護の対象や方法、内容、課題の確認（講義5.6.7.8.9）、学生自身が考察をしたことについて提示を求める（講義0.11.12.13.14）。

授業の方法（ALを含む）

本講義では教材内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で学修できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項を確認し、学生自身が課題を考察することを求める。また、事例研究や教材を提示してグループワークを取り入れ、多面的な考察を求める。授業ごとにリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【レポート（表現）】

到達目標

- 1 児童養護、社会的養護に関する基礎知識と歴史的な課題について理解し、説明できる。
- 2 社会的養護の必要な子どもや家族の理解、援助体制、専門的支援内容、方法、専門職の理解と課題について考察し、記述できる。
- 3 子どもの権利擁護や自立支援の視点から具体的な論点の理解と課題について事例に照らして説明し、考察内容を記述できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 子どもの人権尊重
- 1 子どもから学び子どもとともに育つ姿勢
- 3 社会的事象への関心

内容

この授業は講義を基本に、ワークシートなどの活用、グループでの討議もとり入れながら学びを深める。

毎回、リアクションペーパーを活用する

内容

- 1 社会福祉・社会的養護の定義と関係 【グループワーク】
- 2 社会的養護、子ども家庭福祉の歴史1
- 3 社会的養護、子ども課程内施設援助の歴史2 【ケースメソッド】
- 4 社会的養護の意義と基本原理
- 5 子ども家庭福祉、社会的養護の現状、利用者理解1 【ケースメソッド】
- 6 子ども家庭福祉、社会的養護の現状、利用者理解2【グループワーク】
- 7 社会的養護における援助の内容と方法1【ケースメソッド】
- 8 社会的養護における援助の内容と方法2 【ケースメソッド】
- 9 社会的養護における援助の内容と方法3
- 10子ども家庭福祉、社会的養護の課題1
- 11子ども家庭福祉、社会的養護の課題2
- 12子ども家庭福祉、社会的養護の課題3 【グループワーク】
- 13子ども家庭福祉、社会的養護の課題4
- 14授業内容の総括とフィードバック
- 15振り返り、まとめ 【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて、子ども家庭福祉の課題の確認を行う各授業の前回内容の復習、次回の学習内容について提示したことに関わる知識確認、報告資料作成等を1時間半程度行う。

【事後学修】授業終了ごとに、授業中に扱われた事項、報告内容の復習、ノートやテキスト等の該当箇所、知識の確認を1時間半程度行う。さらに1時間程度、関連の文献、資料などから学習し、考察する。

評価方法および評価の基準

到達目標の1、2、3それぞれについて、評価の方法と割合は課題レポート(授業内含む)30%、試験50%、授業態度(リアクションペーパー提出含む)20%とする。総合して60点以上を合格とする。合格点に達できなかった場合は「再試験」を行う。毎回の授業リアクションについて、次週にフィードバックを行う。課題レポート、試験のフィードバックは授業最終週に行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 講義内で示す。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	児童養護論		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAe441		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

母子保健事業における子育て相談や子育て教室、幼児教育施設や児童発達支援センター等での相談業務、幼稚園や乳児院、児童発達支援センター職員への助言等の経験を活かし授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「生活と福祉」に位置づけられた選択科目であり、卒業研究へつながる選択科目である。「すべての子ども」とその保護者、彼らを支援する保育者と社会資源について、具体的な事例から保育者の専門性を踏まえて理解し、課題を考察できるようになることを到達課題とする。

なお、同科目名の別担当教員、内容の授業があるため、繰り返し受講可とする。

科目の概要

本科目では、当事者理解として、障害児者及び社会的養護に関係する子どもとそのきょうだい、保護者について理解を進めていく。また、発達支援や生活支援、家族支援についても具体的に考察すると共に、絵本の多様性と支援及び保育としての活用についても理解していく。

授業の方法 (ALを含む)

講義による解説を中心としながら、受講生が主体的な学びとなるよう事例研究や視聴教材を提示して学んでいく。また、授業毎にリアクションペーパーを通して、受講の振り返りをしていく。【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】【討議】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 当事者理解の視座を持ち、理解としての評価と共感的理解の重要性を理解し、説明できる。
2. 当事者のきょうだい、家族支援について理解し、考えたことを説明できる。
3. 絵本の多様性を理解し、実際の援助の活用と保育での活用について理解し、説明できる。
4. 保育者の援助と、より豊かな保育・生活を支えるための課題について考察できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

?-1 子どもの人権尊重

- 1 子どもから学び子どもとともに育つ姿勢
- 3 社会的事象への関心

内容

この授業は講義を基本に、グループワークや討議、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深める。

1. 「すべての子ども」の具体的な姿と実際、テーマ設定
2. 当事者と家族を支えるとは 特別な配慮を要する保護者への理解と支援【ケースメソッド】
3. 当事者と家族を支えるとは 子どもの人権保障【ケースメソッド】
4. 当事者と家族を支えるとは 【討議】
5. 当事者理解と支援の考察内容の分かち合いと総括【プレゼンテーション】
6. 子どもの自立に必要なことは何か【グループワーク】
7. 社会的養護下にある子どもへの理解と支援【ケースメソッド】
8. 施設と地域が協働した社会的養護下にある子どもへの支援の実際【ケースメソッド】
9. 自立支援とは【グループワーク】【プレゼンテーション】
10. 絵本の魅力と可能性【グループワーク】
11. 子育て支援としての絵本の可能性に迫る【グループワーク】
12. 障害のある子どもが作成した絵本から当事者に迫る【ケースメソッド】
13. 絵本の魅力と可能性の考察内容の分かち合いと総括【グループワーク】【プレゼンテーション】
14. きょうだいについて知る【ケースメソッド】
15. 子どもの育ちに求められる要因と保育者の専門性【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて、子ども家庭福祉の課題の確認を行う各授業の前回内容の復習、次回の学習内容について提示したことに関わる知識確認、報告資料作成等を1時間半程度行う。

【事後学修】授業終了ごとに、授業中に扱われた事項、報告内容の復習、ノートやテキスト等の該当箇所、知識の確認を1時間半程度行う。さらに1時間程度、関連の文献、資料などから学習し、考察する。

評価方法および評価の基準

授業毎リアクションペーパー（20点）、授業課題（30点）、グループ学習の発表（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

到達目標1. 授業毎リアクションペーパー（5/20）、授業課題（10/30）、グループ学習の発表（10/50）

到達目標2. 授業毎リアクションペーパー（5/20）、授業課題（5/30）、グループ学習の発表（10/50）

到達目標3. 授業毎リアクションペーパー（5/20）、授業課題（5/30）、グループ学習の発表（10/50）

到達目標4. 授業毎リアクションペーパー（5/20）、授業課題（10/30）、グループ学習の発表（20/50）

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパーは、翌週授業開始時にフィードバックを行う。学修目標に関する課題や発表内容に関するフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育者は様々な子ども、保護者、地域と共に歩みながら子どもの最善の利益を願って職務にあたっている。多面的な学びを通し、自らも探求してほしい。

科目名	食と発達		
担当教員名	徳野 裕子		
ナンバリング	KAf244		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

栄養士として幼児および子ども達の成長段階にかかわる栄養相談および研修会などを通して得た経験を活かしながら授業を行うことができる。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

保育士養成課程教育カリキュラムにおける " 保育の対象の理解に関する科目 " の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

授業の方法 (ALを含む)

リアクションペーパー、双方向授業、媒体づくり、プレゼンテーション、レポートを行う。

到達目標

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 食育の基本と内容を理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- ・子どもの健康に関する基礎的知識と技能を有し、保育場面で必要な援助を選択して実行することができる。
- ・子どもの栄養や食育に関する基礎的知識を獲得し、今日的課題に取り組む。
- ・子どもの運動指導に関する環境設定及び援助方法について実践を通して知識と技能を習得する。
- ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。

内容

この授業は、講義を基本にディスカッションを行いながら、深く学ぶと共に、まとめとして学んだことのアウトプット

が上手にできるかどうか確認するためにプレゼンを行う。

1	ガイダンス，子どもの発達に応じた食について学ぶ意義【リアクションペーパー】【双方向授業】
2	子どもの発育・発達と食生活【リアクションペーパー】【双方向授業】
3	栄養に関する基本的な知識（栄養の基本概念と栄養素の種類と機能）【リアクションペーパー】【双方向授業】
4	栄養に関する基本的な知識（食事摂取基準と献立作成・調理の基本）【リアクションペーパー】【双方向授業】
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴【リアクションペーパー】【双方向授業】
6	乳児期の食生活（乳汁栄養）【リアクションペーパー】【双方向授業】
7	乳児期の食生活（子どもの発育・発達の関係と離乳の実際）【リアクションペーパー】【双方向授業】
8	幼児期の心身の発達と食生活【リアクションペーパー】【双方向授業】
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活【リアクションペーパー】【双方向授業】
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養【リアクションペーパー】【双方向授業】
11	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援【リアクションペーパー】【双方向授業】
12	食育の基本と内容【リアクションペーパー】【双方向授業】
13	食育のための媒体作成8【媒体づくり】
14	食育の発表会【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書をよく読み，わからない用語や疑問をまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する．子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し説明できる．食育の基本と内容を理解し説明できる．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について積極的に取り組むことができる．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し説明できる．リアクションペーパー等20%、授業内レポート20%、プレゼンテーション20% 媒体作成30%、授業への参加度10%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【参考図書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院
亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

慣れない栄養学でなるため、教科書をしっかり予習・復習をしてほしい。また授業後積極的に自分の生活の中にも取り入れてほしい。総合的な側面からレポートを課題とする。

科目名	食と発達		
担当教員名	徳野 裕子		
ナンバリング	KAf244		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

栄養士として幼児および子ども達の成長段階にかかわる栄養相談および研修会などを通して得た経験を活かしながら授業を行うことができる。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

保育士養成課程教育カリキュラムにおける " 保育の対象の理解に関する科目 " の一つであり、保育士資格を取得するためには必修の科目である。

科目の概要

保育者として、子どもの食生活を支援する力を身につけるため、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に応じた適切な栄養や食生活とは何かを学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学習する。以上の子どもの望ましい食生活を理解した上で、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように、演習として食育の媒体作成、発表を行う。

授業の方法 (ALを含む)

リアクションペーパー、双方向授業、媒体づくり、プレゼンテーション、レポートを行う。

到達目標

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を身につける。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 食育の基本と内容を理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- ・子どもの健康に関する基礎的知識と技能を有し、保育場面で必要な援助を選択して実行することができる。
- ・子どもの栄養や食育に関する基礎的知識を獲得し、今日的課題に取り組む。
- ・子どもの運動指導に関する環境設定及び援助方法について実践を通して知識と技能を習得する。
- ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。

内容

この授業は、講義を基本にディスカッションを行いながら、深く学ぶと共に、まとめとして学んだことのアウトプット

が上手にできるかどうか確認するためにプレゼンを行う。

1	ガイダンス，子どもの発達に応じた食について学ぶ意義【リアクションペーパー】【双方向授業】
2	子どもの発育・発達と食生活【リアクションペーパー】【双方向授業】
3	栄養に関する基本的な知識（栄養の基本概念と栄養素の種類と機能）【リアクションペーパー】【双方向授業】
4	栄養に関する基本的な知識（食事摂取基準と献立作成・調理の基本）【リアクションペーパー】【双方向授業】
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴【リアクションペーパー】【双方向授業】
6	乳児期の食生活（乳汁栄養）【リアクションペーパー】【双方向授業】
7	乳児期の食生活（子どもの発育・発達の関係と離乳の実際）【リアクションペーパー】【双方向授業】
8	幼児期の心身の発達と食生活【リアクションペーパー】【双方向授業】
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活【リアクションペーパー】【双方向授業】
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養【リアクションペーパー】【双方向授業】
11	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援【リアクションペーパー】【双方向授業】
12	食育の基本と内容【リアクションペーパー】【双方向授業】
13	食育のための媒体作成8【媒体づくり】
14	食育の発表会【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書をよく読み，わからない用語や疑問をまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノートにまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する．子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し説明できる．食育の基本と内容を理解し説明できる．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について積極的に取り組むことができる．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し説明できる．リアクションペーパー等20%、授業内レポート20%、プレゼンテーション20% 媒体作成30%、授業への参加度10%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【参考図書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院
亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

慣れない栄養学でなるため、教科書をしっかり予習・復習をしてほしい。また授業後積極的に自分の生活の中にも取り入れてほしい。総合的な側面からレポートを課題とする。

科目名	食と発達		
担当教員名	堀井 貴子		
ナンバリング	KAf244		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科「健康と運動」の領域であり、子どもを取りまく食環境について理解を深め、子どもの成長が食生活と密接に関わっていることを学修する。2年次履修科目である「子どもの健康と安全」や「体育基礎Ⅰ(子どもと運動)」、3年次履修科目である「幼児運動論」や「健康教育学」等に結びつく内容を扱う。

科目の概要

栄養に関する基本的な知識や、子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活の関わりについて学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学修する。さらに、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように食育の媒体作成および発表を行う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心とし、知識の定着および確認を図るためのレポート作成や、グループワークによるプレゼンテーションを取り入れた授業を行う。【レポート(知識・表現)】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 健康な生活を営むための食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を述べることができる。
2. 子どもの発育・発達に応じた食生活や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解することができる。
3. 食育の基本と内容およびその実践方法について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育者としての思考力・判断力 2 成長発達の支援、積極性

内容

1	オリエンテーション, 子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発育・発達と食生活
3	栄養に関する基本的な知識 (栄養の基本概念と栄養素の種類と機能)
4	栄養に関する基本的な知識 (食事摂取基準と献立作成・調理の基本)
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴

6	乳児期の食生活（乳汁栄養）
7	乳児期の食生活（子どもの発育・発達の関係と離乳の実際）
8	幼児期の心身の発達と食生活
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
11	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
12	食育の基本と内容
13	食育のための媒体作成
14	食育の発表会
15	食育の発表会・まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書をよく読み、わからない用語や疑問をまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノート等にまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業の際に指示する課題への取り組み（40%）、定期試験レポート（45%）、授業態度（15%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出（10/40%）、定期試験レポート（15/45%）、授業態度（5/15%）

到達目標2. 課題提出（15/40%）、定期試験レポート（15/45%）、授業態度（5/15%）

到達目標3. 課題提出（15/40%）、定期試験レポート（15/45%）、授業態度（5/15%）

【フィードバック】提出された課題およびレポートにはコメントを付し、翌週以降の授業時間までに返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【推薦書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院

【参考図書】亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	食と発達		
担当教員名	堀井 貴子		
ナンバリング	KAf244		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科「健康と運動」の領域であり、子どもを取りまく食環境について理解を深め、子どもの成長が食生活と密接に関わっていることを学修する。2年次履修科目である「子どもの健康と安全」や「体育基礎Ⅰ(子どもと運動)」、3年次履修科目である「幼児運動論」や「健康教育学」等に結びつく内容を扱う。

科目の概要

栄養に関する基本的な知識や、子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活の関わりについて学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても学修する。さらに、子どもや保護者に対する食育支援が実践できるように食育の媒体作成および発表を行う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心とし、知識の定着および確認を図るためのレポート作成や、グループワークによるプレゼンテーションを取り入れた授業を行う。【レポート(知識・表現)】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 健康な生活を営むための食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を述べることができる。
2. 子どもの発育・発達に応じた食生活や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解することができる。
3. 食育の基本と内容およびその実践方法について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育者としての思考力・判断力
- 2 成長発達の支援、積極性

内容

1	オリエンテーション, 子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発育・発達と食生活
3	栄養に関する基本的な知識 (栄養の基本概念と栄養素の種類と機能)
4	栄養に関する基本的な知識 (食事摂取基準と献立作成・調理の基本)
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴

6	乳児期の食生活（乳汁栄養）
7	乳児期の食生活（子どもの発育・発達の関係と離乳の実際）
8	幼児期の心身の発達と食生活
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
11	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
12	食育の基本と内容
13	食育のための媒体作成
14	食育の発表会
15	食育の発表会・まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書をよく読み、わからない用語や疑問をまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ重要なポイントをノート等にまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業の際に指示する課題への取り組み（40%）、定期試験レポート（45%）、授業態度（15%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出（10/40%）、定期試験レポート（15/45%）、授業態度（5/15%）

到達目標2. 課題提出（15/40%）、定期試験レポート（15/45%）、授業態度（5/15%）

到達目標3. 課題提出（15/40%）、定期試験レポート（15/45%）、授業態度（5/15%）

【フィードバック】提出された課題およびレポートにはコメントを付し、翌週以降の授業時間までに返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる 他著：子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養，萌文書林

【推薦書】飯塚美和子 他著：最新子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために，学建書院

【参考図書】亀城和子 他著：保育所の食事を通して食育を，学建書院

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAf245		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動指導についてさらに専門的に学ぶ幼児運動論へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

本授業では、運動指導理論の理解と実際に身体を動かす体験を交えながら、幼児期の運動指導に関する実践的な知識を身に付けていく。

【実技】【グループワーク】【創作】

到達目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「子どもの心理・発達の理解」
- 3「保育実践」
- 3「保育者の思考・判断」

内容

1	オリエンテーション 幼児期の運動指導とは
2	バンブーダンス
3	音楽を使った準備運動
4	音楽を使った準備運動の練習
5	平均台を使った運動遊び

6	ボールを使った運動遊び
7	フープを使った運動遊び
8	マットを使った運動遊び
9	跳び箱を使った運動遊び
10	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
11	授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
12	授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる（2時間程度）。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む（2時間程度）。

【フィードバック】授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

評価方法および評価の基準

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びノートの作成 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

身体を動かすことが多い授業内容のため、不安なことがある場合（既往症など）は、第1回目の授業で必ず教員へ相談すること。

運動着や運動靴を忘れた者は、安全管理上、身体を動かす授業への参加は認められない（見学扱い）。

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAf245		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動指導についてさらに専門的に学ぶ幼児運動論へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

本授業では、運動指導理論の理解と実際に身体を動かす体験を交えながら、幼児期の運動指導に関する実践的な知識を身に付けていく。

【実技】【グループワーク】【創作】

到達目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「子どもの心理・発達の理解」
- 3「保育実践」
- 3「保育者の思考・判断」

内容

1	オリエンテーション 幼児期の運動指導とは
2	バンブーダンス
3	音楽を使った準備運動
4	音楽を使った準備運動の練習
5	平均台を使った運動遊び
6	ボールを使った運動遊び

7	フープを使った運動遊び
8	マットを使った運動遊び
9	跳び箱を使った運動遊び
10	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
11	授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
12	授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる（2時間程度）。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む（2時間程度）。

【フィードバック】授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

評価方法および評価の基準

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びノートの作成 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

身体を動かすことが多い授業内容のため、不安なことがある場合（既往症など）は、第1回目の授業で必ず教員へ相談すること。

運動着や運動靴を忘れた者は、安全管理上、身体を動かす授業への参加は認められない（見学扱い）。

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAf245		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動指導についてさらに専門的に学ぶ幼児運動論へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

本授業では、運動指導理論の理解と実際に身体を動かす体験を交えながら、幼児期の運動指導に関する実践的な知識を身に付けていく。

【実技】【グループワーク】【創作】

到達目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「子どもの心理・発達の理解」
- 3「保育実践」
- 3「保育者の思考・判断」

内容

1	オリエンテーション 幼児期の運動指導とは
2	バンブーダンス
3	音楽を使った準備運動
4	音楽を使った準備運動の練習
5	平均台を使った運動遊び
6	ボールを使った運動遊び

7	フープを使った運動遊び
8	マットを使った運動遊び
9	跳び箱を使った運動遊び
10	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
11	授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
12	授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる（2時間程度）。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む（2時間程度）。

【フィードバック】授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

評価方法および評価の基準

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びノートの作成 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

身体を動かすことが多い授業内容のため、不安なことがある場合（既往症など）は、第1回目の授業で必ず教員へ相談すること。

運動着や運動靴を忘れた者は、安全管理上、身体を動かす授業への参加は認められない（見学扱い）。

科目名	体育基礎（子どもと運動）		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAf245		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 に該当します。幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のために履修が必要な科目です。また、この科目は、子どもの運動指導についてさらに専門的に学ぶ幼児運動論へと発展します。

科目の概要

幼児期には、自らが主体的に運動に関わるなかで、「身体を動かすことが楽しい」と感じる経験が必要であり、そのための援助や環境設定が保育者に求められています。授業では、幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、その援助方法や環境設定について考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

本授業では、運動指導理論の理解と実際に身体を動かす体験を交えながら、幼児期の運動指導に関する実践的な知識を身に付けていく。

【実技】【グループワーク】【創作】

到達目標

1. 幼児の発達段階に応じた運動遊び場面での援助方法や遊具の環境設定について、基本的事項を理解する。
2. 運動遊び場面におけるモデルとしての保育者の能力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「子どもの心理・発達の理解」
- 3「保育実践」
- 3「保育者の思考・判断」

内容

1	オリエンテーション 幼児期の運動指導とは
2	バンブーダンス
3	音楽を使った準備運動
4	音楽を使った準備運動の練習
5	平均台を使った運動遊び
6	ボールを使った運動遊び

7	フープを使った運動遊び
8	マットを使った運動遊び
9	跳び箱を使った運動遊び
10	日本の伝承遊び あんたがたどこさ
11	授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
12	授業の振り返り（運動遊びノートの作成）
13	日本の伝承遊び 竹馬
14	日本の伝承遊び こま
15	授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の授業内容についてどのような遊びが考えられるのかについて自分なりに考えてみる（2時間程度）。

【事後学修】各回の授業内容をまとめる。また、対応している教科書の部分（理論編）を読む（2時間程度）。

【フィードバック】授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

評価方法および評価の基準

評価は、授業態度（25点）、授業での課題提出（運動遊びノートの作成 30点）、保育者としての運動遊びモデル（45点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩崎洋子編，保育と幼児期の運動遊び，萌文書林。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

身体を動かすことが多い授業内容のため、不安なことがある場合（既往症など）は、第1回目の授業で必ず教員へ相談すること。

運動着や運動靴を忘れた者は、安全管理上、身体を動かす授業への参加は認められない（見学报い）。

科目名	幼児運動論		
担当教員名			
ナンバリング	KAf446		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、学位授与方針1，3に該当します。幼児期の発達特性に基づいた運動指導について理解を深めていきます。

科目の概要

子どもへの運動指導を体験し、運動遊びに関する環境設定や援助について実践的に学修していく。

授業の方法（ALを含む）

本授業では、運動指導理論の理解を再確認するとともに理論をベースとした運動指導の在り方を検討し、子どもへの運動指導実践へとつなげていく。

【実技】【グループワーク】【ケースメソッド】

到達目標

1. 幼児期の運動遊びに関する環境設定や援助について基礎的な理論を説明できる。
2. 幼児への実際の運動指導を体験し、幼児の運動遊びに関する指導力を高める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4「指導案作成・実践」
- 2「状況判断」
- 3「社会的事象への関心」

内容

1	ガイダンス（授業内容の詳細や授業の進め方等の説明）
2	幼児期の運動能力の発達（講義）
3	幼児期の発達特性に応じた運動指導のポイント（講義）
4	遊びとしての運動指導のポイント（講義）
5	運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2020の計画）
6	運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2020の計画の修正）
7	運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2020に向けた教材研究）
8	運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2020に向けた教材研究）

9	運動遊び指導の立案（子ども元気プロジェクト2020に向けた教材研究）
10	運動遊びの実際（子ども元気プロジェクト2020Aでの実際の運動指導）
11	運動遊びの実際（子ども元気プロジェクト2020Aでの実際の運動指導）
12	子ども元気プロジェクト2020Aの振り返り
13	運動遊びの実際（子ども元気プロジェクト2020Bでの実際の運動指導）
14	運動遊びの実際（子ども元気プロジェクト2020Bでの実際の運動指導）
15	子ども元気プロジェクト2020Bの振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】運動遊びに関する文献を読み、授業内容に対応できるよう準備する（2時間程度）。

【事後学修】授業で指示された課題に取り組む（2時間程度）。

評価方法および評価の基準

評価は、運動遊び活動案の作成過程と成果（30点）、実際の運動遊び指導（援助）における取り組みと成果（70点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

【フィードバック】授業の最初に前回授業の質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 特に使用しない

推薦書 授業中に随時紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	健康教育学		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAf447		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

小児科臨床現場の実務及び母子保健研究の実務経験が直接教科内容に関連する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の概要

幼児教育学科の学位授与方針 1.3 に対応する

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

授業の概要

児童保健学、子どもの健康と安全での学びを基礎に、感染症、予防接種、安全管理など、保育の実践で会うことの多い課題を取り上げて、学びを深める。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

1. 保育中によく起こる子どもの疾病・症状とその予防・対応について説明できる。
2. 子どものよくかかる感染症とその対応を説明できる。
3. 病気になった子どもの保育について説明できる。
4. 保育所における安全管理について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は講義を基本に、リアクションペーパーによる積極的参加を取り入れながら、学びを深めていく。

1. 双子の養育 外出時の注意
2. 子どものけがとスポーツ外傷

3. 子どもの肥満とやせ
4. 熱中症、日射病などの夏の保育の注意
5. 食中毒と保育
6. 親子関係を良くするしつけのコツ
7. 慢性疾患と子ども
8. (感染症 寄生虫、シラミその他)
9. (感染症 プール熱、水いぼその他)
10. 最近の予防接種
11. 学校保健安全法と感染症
12. 病児保育、病後児保育、院内保育
13. 子どもへの薬の飲ませ方
14. 復習
15. まとめと解説

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に関し事前にアップされた資料に記載された教科書の対応ページを読み、資料の最後にある小諮問に関連する事項をメモしておく。(各授業に対して30分)

【事後学修】授業で取り扱った事項に関し、教科書や参考資料に当たって確認し、理解を深める。(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

【評価の方法と比率】

1. 保育中によく起こる子どもの疾病・症状とその予防・対応について説明できる。試験10% 平常点15%
2. 子どものよくかかる感染症とその対応を説明できる。試験10% 平常点15%
3. 病気になった子どもの保育について説明できる。試験10% 平常点15%
4. 保育所における安全管理について説明できる。試験10% 平常点15%

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質問や意見に毎回返答することにより、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】加藤則子 布施晴美編集 新保育ライブラリ シリーズ「子どもを知る」子どもの保健 北大路書房

加藤則子 菅井敏行編集 新保育ライブラリ シリーズ「子どもを知る」子どもの健康と安全 北大路書房

【参考図書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

授業用の資料をLiveCampusの授業共有ファイルにアップするので、予習に役立てる

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg248		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

声楽家として多くの舞台を経験した教員が担当し、歌唱法について実技を取り入れながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の「表現と文化」領域の科目で、「音楽基礎」名称の科目の最初に位置づく幼稚園教員免許状の必修科目であり、保育者に求められる「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもとともに歌うことが多々あるが、そのためにはどのように歌ったら良いのか、その的確な方法を学修する。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもとともに歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動で歌唱を伴った劇作品を創作して上演することで総合的な歌唱表現を養う。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、演習による解説で基礎的な音楽知識や声に関する知識に触れ、実際に歌って表現することでそれらの知識を体得できるように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生が人前でも臆せずに歌うことができる。
2. 学生が保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げることができる。
3. 学生が劇作品を創作し演じて表現することで、歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

?3 保育内容・指導法 - 4 保育者としての感性 ?5 表現・コミュニケーション

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは

3	声が出るしくみ
4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用【実技】
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	身体を用いた歌唱表現とは
9	身体を用いた歌唱表現の創作と実践【実技】【創作、制作】
10	子どもの歌唱作品・表現について
11	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画【グループワーク】【創作、制作】
12	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の立案【グループワーク】【創作、制作】
13	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作【実技】【グループワーク】【創作、制作】
14	まとめ（歌唱試験）【実技】
15	まとめ（グループ単位での作品発表）【実技】【グループワーク】【創作、制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 各授業で学習する予定の歌（授業内で指示する）を読譜し、歌えるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 各授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 歌唱試験（10%/30%）、グループ活動への取り組み(20%/50%)

到達目標 2 . レポート（20%/20%）、グループ活動への取り組み(10%/50%)

到達目標 3 . 歌唱試験（20%/30%）、グループ活動への取り組み(20%/50%)

【フィードバック】 提出されたレポートは点検して翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会『日本の子どもの歌』音楽之友社

【推薦書】

斉田晴仁『声の科学』音楽之友社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、アン・カーブ『「声」の秘密』草思社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg248		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

声楽家として多くの舞台を経験した教員が担当し、歌唱法について実技を取り入れながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の「表現と文化」領域の科目で、「音楽基礎」名称の科目の最初に位置づく幼稚園教員免許状の必修科目であり、保育者に求められる「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもとともに歌うことが多々あるが、そのためにはどのように歌ったら良いのか、その的確な方法を学修する。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもとともに歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動で歌唱を伴った劇作品を創作して上演することで総合的な歌唱表現を養う。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、演習による解説で基礎的な音楽知識や声に関する知識に触れ、実際に歌って表現することでそれらの知識を体得できるように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生が人前でも臆せずに歌うことができる。
2. 学生が保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げることができる。
3. 学生が劇作品を創作し演じて表現することで、歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

? 3 保育内容・指導法 - 4 保育者としての感性 ? 5 表現・コミュニケーション

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ

4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用【実技】
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	身体を用いた歌唱表現とは
9	身体を用いた歌唱表現の創作と実践【実技】【創作、制作】
10	子どもの歌唱作品・表現について
11	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画【グループワーク】【創作、制作】
12	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の立案【グループワーク】【創作、制作】
13	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作【実技】【グループワーク】【創作、制作】
14	まとめ（歌唱試験）【実技】
15	まとめ（グループ単位での作品発表）【実技】【グループワーク】【創作、制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 各授業で学習する予定の歌（授業内で指示する）を読譜し、歌えるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 各授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．歌唱試験（10%/30%）、グループ活動への取り組み(20%/50%)

到達目標 2．レポート（20%/20%）、グループ活動への取り組み(10%/50%)

到達目標 3．歌唱試験（20%/30%）、グループ活動への取り組み(20%/50%)

【フィードバック】 提出されたレポートは点検して翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会『日本の子どもの歌』音楽之友社

【推薦書】

斉田晴仁『声の科学』音楽之友社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、アン・カーブ『「声」の秘密』草思社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg248		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

声楽家として多くの舞台を経験した教員が担当し、歌唱法について実技を取り入れながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の「表現と文化」領域の科目で、「音楽基礎」名称の科目の最初に位置づく幼稚園教員免許状の必修科目であり、保育者に求められる「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもとともに歌うことが多々あるが、そのためにはどのように歌ったら良いのか、その的確な方法を学修する。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもとともに歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動で歌唱を伴った劇作品を創作して上演することで総合的な歌唱表現を養う。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、演習による解説で基礎的な音楽知識や声に関する知識に触れ、実際に歌って表現することでそれらの知識を体得できるように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生が人前でも臆せずに歌うことができる。
2. 学生が保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げることができる。
3. 学生が劇作品を創作し演じて表現することで、歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

? 3 保育内容・指導法 - 4 保育者としての感性 ? 5 表現・コミュニケーション

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ

4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用【実技】
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	身体を用いた歌唱表現とは
9	身体を用いた歌唱表現の創作と実践【実技】【創作、制作】
10	子どもの歌唱作品・表現について
11	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画【グループワーク】【創作、制作】
12	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の立案【グループワーク】【創作、制作】
13	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作【実技】【グループワーク】【創作、制作】
14	まとめ（歌唱試験）【実技】
15	まとめ（グループ単位での作品発表）【実技】【グループワーク】【創作、制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 各授業で学習する予定の歌（授業内で指示する）を読譜し、歌えるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 各授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．歌唱試験（10%/30%）、グループ活動への取り組み(20%/50%)

到達目標2．レポート（20%/20%）、グループ活動への取り組み(10%/50%)

到達目標3．歌唱試験（20%/30%）、グループ活動への取り組み(20%/50%)

【フィードバック】 提出されたレポートは点検して翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会『日本の子どもの歌』音楽之友社

【推薦書】

斉田晴仁『声の科学』音楽之友社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、アン・カーブ『「声」の秘密』草思社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（歌唱法）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg248		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

声楽家として多くの舞台を経験した教員が担当し、歌唱法について実技を取り入れながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の「表現と文化」領域の科目で、「音楽基礎」名称の科目の最初に位置づく幼稚園教員免許状の必修科目であり、保育者に求められる「歌うこと」を学ぶ科目である。保育現場では子どもとともに歌うことが多々あるが、そのためにはどのように歌ったら良いのか、その的確な方法を学修する。

科目の概要

保育現場で歌われている歌を多く取り上げ、子どもとともに歌う方法を、基礎的な音楽知識や声に関する知識（発声法、呼吸法など）を学びながら体得する。さらにグループ活動で歌唱を伴った劇作品を創作して上演することで総合的な歌唱表現を養う。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、演習による解説で基礎的な音楽知識や声に関する知識に触れ、実際に歌って表現することでそれらの知識を体得できるように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生が人前でも臆せずに歌うことができる。
2. 学生が保育現場で歌われている歌、歌ってほしい歌を知りレパートリーを広げることができる。
3. 学生が劇作品を創作し演じて表現することで、歌うことの楽しさを実体験として味わい、豊かに表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

? 3 保育内容・指導法 - 4 保育者としての感性 ? 5 表現・コミュニケーション

内容

1	ガイダンス
2	歌うこととは
3	声が出るしくみ

4	発声法・呼吸法の基礎
5	発声法・呼吸法の応用【実技】
6	音楽の基礎知識と読譜（ト音記号によるクレ読み）
7	音楽の基礎知識と読譜（ヘ音記号によるクレ読み）
8	身体を用いた歌唱表現とは
9	身体を用いた歌唱表現の創作と実践【実技】【創作、制作】
10	子どもの歌唱作品・表現について
11	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の計画【グループワーク】【創作、制作】
12	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇創作の立案【グループワーク】【創作、制作】
13	子どもを対象とした歌唱を伴った音楽劇の創作【実技】【グループワーク】【創作、制作】
14	まとめ（歌唱試験）【実技】
15	まとめ（グループ単位での作品発表）【実技】【グループワーク】【創作、制作】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 各授業で学習する予定の歌（授業内で指示する）を読譜し、歌えるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 各授業内で取り上げた歌の弾き歌いができるように練習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

レポート（20%）、歌唱試験（30%）、グループ活動への取り組み（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．歌唱試験（10%/30%）、グループ活動への取り組み(20%/50%)

到達目標 2．レポート（20%/20%）、グループ活動への取り組み(10%/50%)

到達目標 3．歌唱試験（20%/30%）、グループ活動への取り組み(20%/50%)

【フィードバック】 提出されたレポートは点検して翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国大学音楽教育学会『日本の子どもの歌』音楽之友社

【推薦書】

斉田晴仁『声の科学』音楽之友社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、アン・カーブ『「声」の秘密』草思社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	二宮 紀子、山賀 英美		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	01
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭免許取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択必修科目である。これらの免許・資格の取得のために欠かせない音楽に関する基礎的な理論と実技を内容とする。「音楽基礎」に引き継がれ、3年次に開講される「保育内容の指導法（音楽表現）」履修のための基礎となる科目である。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目にML教室での学びに関するまとめとして筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でも毎日練習することが望ましい。次のレッスンまで少なくともトータルで2~3時間は練習する)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2に関して筆記試験(30%)、到達目標1と3に関して実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	二宮 紀子、矢部 尚子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	02
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭免許取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択必修科目である。これらの免許・資格の取得のために欠かせない音楽に関する基礎的な理論と実技を内容とする。「音楽基礎」に引き継がれ、3年次に開講される「保育内容の指導法（音楽表現）」履修のための基礎となる科目である。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目にML教室での学びに関するまとめとして筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でも毎日練習することが望ましい。次のレッスンまで少なくともトータルで2~3時間は練習する)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2に関して筆記試験(30%)、到達目標1と3に関して実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	二宮 紀子、浜野 範子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	03
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭免許取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択必修科目である。これらの免許・資格の取得のために欠かせない音楽に関する基礎的な理論と実技を内容とする。「音楽基礎」に引き継がれ、3年次に開講される「保育内容の指導法（音楽表現）」履修のための基礎となる科目である。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目にML教室での学びに関するまとめとして筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でも毎日練習することが望ましい。次のレッスンまで少なくともトータルで2~3時間は練習する)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2に関して筆記試験(30%)、到達目標1と3に関して実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	二宮 紀子、市川 節子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	04
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭免許取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択必修科目である。これらの免許・資格の取得のために欠かせない音楽に関する基礎的な理論と実技を内容とする。「音楽基礎」に引き継がれ、3年次に開講される「保育内容の指導法（音楽表現）」履修のための基礎となる科目である。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を旨とする。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目にML教室での学びに関するまとめとして筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でも毎日練習することが望ましい。次のレッスンまで少なくともトータルで2~3時間は練習する)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2に関して筆記試験(30%)、到達目標1と3に関して実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	二宮 紀子、藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	05
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼稚園教諭免許取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択必修科目である。これらの免許・資格の取得のために欠かせない音楽に関する基礎的な理論と実技を内容とする。「音楽基礎」に引き継がれ、3年次に開講される「保育内容の指導法（音楽表現）」履修のための基礎となる科目である。

科目の概要

楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な理論を学びながら、保育者として身に付けておきたいピアノ演奏の基礎技術習得を目ざす。入学時ピアノ未経験者もバイエルピアノ教則本を修了し、子どもの歌を弾き歌いできる力をつけることが単位認定の必須要件である。

授業の方法（ALを含む）

授業はML教室での理論的学びと一人ひとりに対応したピアノレッスンを組み合わせた形で行われる。授業の半分の時間をMLでピアノを弾きながら楽典、和声理論、子どもの歌の伴奏法を学び、もう半分の時間は各レッスングループ（3～4名）がお互いのレッスンを見学しながら一人ひとりレッスンを受ける。レッスン曲はバイエルピアノ教本を基本とし、経験値に応じた課題曲を課す。授業のまとめとして、理論の筆記試験とピアノの実技試験が行われる。【実技】

到達目標

1. 子どもと音楽活動を行う際に必要となってくるピアノ演奏ができる。
2. 音楽の基礎的な理論を理解し、子どもの歌の特徴を分析できる。
3. 自身の演奏能力に応じたアレンジをして弾き歌いすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3保育実践、 -4保育者の感性、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

授業一コマを半分の45分ずつに分け、レッスン室での学びとMLでの学びを組み合わせる。

各レッスン室には3~4人がグループとなり、公開レッスンのようにお互いのレッスンを聞きあい、お互いに学びあう。レッスンを受ける曲目は、原則バイエルピアノ教則本から指定された曲とし、それぞれ履修者のピアノ演奏技量に応じて選曲される。バイエルピアノ教則本修了者に対してはレッスン担当教員より、課題曲が示される。

ML教室では楽譜を読み、歌い、弾くために必要な基本的な音楽理論を、実際に演奏しながら、鍵盤を使いながら学習する。さらに子どもの歌に見られるリズムや和声について理解し、自身の演奏力に応じたアレンジを自らできるような力を習得する。教科書を使ってドリルを繰り返し、音楽のしくみについて理解する。

授業14回目にML教室での学びに関するまとめとして筆記試験が、15回目に実技のまとめとしてピアノの実技試験が行われる。実技試験に関しては、バイエルピアノ教則本修了者はバイエルピアノ教則本の中から指定された曲を弾く。バイエルピアノ教則本修了程度以上の者は担当教員と決定した試験曲を弾く。ピアノ課題以外に子どもの歌の弾き歌いが課せられることがある。

(留意事項)

- ・本科目は後期開講科目なので、ピアノの演奏技術の習得としては、前期は自習をして後期に備える。特に初心者は後期のみでバイエル修了程度の演奏力を身につけるために、前期の間に学習を進め、60番くらいまで弾けるようにしておくことが望ましい。
- ・バイエルにおける自習は、独学あるいはピアノ学習のできる機関で習うなど方法は各自で選択する。ただしピアノ担当の教員との相談は、いつでも研究室を訪れば可能である。またピアノ初心者に対し対策講座など開かれるので積極的に参加すること。
- ・バイエルピアノ教則本修了の認定は、本学の音楽教員が修了とみなした学生に限る。大学外での修了は考慮するが、バイエルピアノ教則本修了程度の実力を有しているかどうかの最終判断は、担当教員が行う。
- ・経験者は、前期は自習してレベルを保つことに努め、授業での課題は担当の教員と授業の最初に相談し決定して進めていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指示された課題曲を練習し、弾けるようにする。MLでの学習課題を予習する。(約1時間)

【事後学修】学習した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。理論の課題を復習する。(ピアノは少しの時間でも毎日練習することが望ましい。次のレッスンまで少なくともトータルで2~3時間は練習する)

評価方法および評価の基準

評価は、授業への参加度(10%)、到達目標2に関して筆記試験(30%)、到達目標1と3に関して実技試験(60%)を目安に総合的に判断される。

欠席が多いあるいは学習意欲に著しく欠けると担当教員が判断した場合は、試験受験は不可とする。

筆記試験、実技試験とも合格点に達しなかった場合は再試験を行う場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- ・バイエルを修了していない学生:「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
- ・バイエル修了者:担当教員と相談の上決定。(全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から選曲する。)
- ・二宮紀子「歌って弾いて書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ」音楽之友社 2014年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育現場で求められる子どもの歌のピアノ伴奏やリズム活動でのピアノ演奏ができる力を身につけましょう。楽譜が読め、音楽の仕組みを理解し、基本的なピアノ奏法を学んで、子ども達と音楽活動ができる力をつけましょう。毎日の練習が大きな成果をもたらします。少しずつでも毎日練習しましょう。理論は演奏を助けるものとして位置付けています。理論と実践を両輪に総合的に学び、音楽する力を養いましょう。

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	07
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の「表現と文化」領域の科目で幼稚園教諭一種免許状必修科目、保育士資格選択必修科目であり、ピアノ演奏の基礎技術習得を目的に再履修者のために設定された科目である。授業の形態は個人レッスン形式で、受講者の習熟度に応じて授業を進める。

科目の概要

バイエルピアノ教則本全曲を修了し、バイエルピアノ教則本修了程度以上の実力を有することが単位認定の必須要件である。すでに長い経験を持つ受講者から初心者まで習熟度に差がある為、バイエル修了程度の実力を有しない受講者はバイエルから学修を始め、バイエル修了程度以上の実力を有する受講者はレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し授業を進める。

授業の方法（ALを含む）

授業は個人レッスン形式で行う。1回目の授業で担当教員と習熟度の確認を行い、バイエル修了程度の実力がない履修者は、習熟度に応じたバイエルの課題から学修を始め、バイエル修了程度以上の実力を有するものはレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し授業を進める。授業の最終回には、実技試験を行う。【実技】

学修目標

1. バイエル修了程度の実力がない学生は、バイエル教則本を学び、修了し、実技試験に合格をすることができる。
2. バイエル修了程度以上の実力がある学生は、担当教員と相談して自由曲を決め、実技試験に向けて演奏レベルの向上を図り、実技試験に合格することができる。
3. 学生は、保育現場で必要とされる基礎的なピアノ演奏技術を身につけることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者としての感性 -1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢 -5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

本科目は、各履修者の習熟度に応じて担当教員が個人レッスン形式で授業を行い、授業の15回目でまとめとしてピアノの

実技試験を行う。【実技】

以下、科目履修における留意事項を述べる。

本科目は後期開講科目なので、前期は自習をして後期に備える。

バイエル修了程度の実力であるかの認定は担当教員が行う。

自習して技術レベルを保つことに努める。

個人レッスンは1コマ（90分）を8～10人で分割して行う。出された課題への取り組みが十分な場合には履修者全員に均等な時間配分でレッスンを行うことができるが、課題への取り組みが不十分な状態で受講した場合、時間通りにレッスンを行えない場合もある。その場合は一人のレッスン時間に多少の差が生じる。

バイエル修了程度以上の実力が認められた履修者は担当の教員と授業の最初に相談をして自由曲を選定し授業を進める。

音楽基礎（ピアノ基礎技術）は幼稚園教諭一種免許状必修科目であるので注意すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員より指示された課題曲を練習し、必ず次の授業までに弾けるようにしておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

バイエルを修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、試験時にバイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上のものは担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。授業への参加度（10%）、実技試験（90%）。

【フィードバック】実技試験後に担当教員が試験について講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（ピアノ基礎技術）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg149		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	08
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の「表現と文化」領域の科目で幼稚園教諭一種免許状必修科目、保育士資格選択必修科目であり、ピアノ演奏の基礎技術習得を目的に再履修者のために設定された科目である。授業の形態は個人レッスン形式で、受講者の習熟度に応じて授業を進める。

科目の概要

バイエルピアノ教則本全曲を修了し、バイエルピアノ教則本修了程度以上の実力を有することが単位認定の必須要件である。すでに長い経験を持つ受講者から初心者まで習熟度に差がある為、バイエル修了程度の実力を有しない受講者はバイエルから学修を始め、バイエル修了程度以上の実力を有する受講者はレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し授業を進める。

授業の方法（ALを含む）

授業は個人レッスン形式で行う。1回目の授業で担当教員と習熟度の確認を行い、バイエル修了程度の実力がない履修者は、習熟度に応じたバイエルの課題から学修を始め、バイエル修了程度以上の実力を有するものはレベルに応じて担当教員と相談して自由曲を選定し授業を進める。授業の最終回には、実技試験を行う。【実技】

学修目標

1. バイエル修了程度の実力がない学生は、バイエル教則本を学び、修了し、実技試験に合格をすることができる。
2. バイエル修了程度以上の実力がある学生は、担当教員と相談して自由曲を決め、実技試験に向けて演奏レベルの向上を図り、実技試験に合格することができる。
3. 学生は、保育現場で必要とされる基礎的なピアノ演奏技術を身につけることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者としての感性 -1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢 -5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

本科目は、各履修者の習熟度に応じて担当教員が個人レッスン形式で授業を行い、授業の15回目でまとめとしてピアノの

実技試験を行う。【実技】

以下、科目履修における留意事項を述べる。

本科目は後期開講科目なので、前期は自習をして後期に備える。

バイエル修了程度の実力であるかの認定は担当教員が行う。

自習して技術レベルを保つことに努める。

個人レッスンは1コマ（90分）を8～10人で分割して行う。出された課題への取り組みが十分な場合には履修者全員に均等な時間配分でレッスンを行うことができるが、課題への取り組みが不十分な状態で受講した場合、時間通りにレッスンを行えない場合もある。その場合は一人のレッスン時間に多少の差が生じる。

バイエル修了程度以上の実力が認められた履修者は担当の教員と授業の最初に相談をして自由曲を選定し授業を進める。

音楽基礎（ピアノ基礎技術）は幼稚園教諭一種免許状必修科目であるので注意すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員より指示された課題曲を練習し、必ず次の授業までに弾けるようにしておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】学修した曲をいつでも再演できるよう、繰り返し練習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

バイエルを修了したものは実技試験を受験できる。バイエル修了者は、試験時にバイエルの中から指定された曲を弾く。また、バイエル修了程度以上のものは担当教員と試験曲を決定し、実技試験を受ける。授業への参加度（10%）、実技試験（90%）。

【フィードバック】実技試験後に担当教員が試験について講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

バイエルを修了していない学生は「標準バイエルピアノ教則本」または「全訳バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
その他の学生は全音ピアノピース、ピアノコスモス、トンプソン現代ピアノ教本、ショパンワルツ集など、あらゆるピアノ教本から担当教員の指示で選択する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	01
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	02
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	03
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	04
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	05
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	06
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	07
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	08
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	09
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	10
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	11
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	12
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	13
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	音楽基礎（楽器演奏）		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg250		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	14
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の保育士資格選択必修科目であり、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修した学生の次へのステップとして位置づく科目である。音楽実技をピアノやピアノ以外の楽器、歌に広げて、音楽をどのように表現するかという課題に取り組む実技授業である。

科目の概要

実技科目としてさらに広く音楽に取り組めるように、分野を広げて開講する。ピアノ演奏技術の向上を目指す「ピアノ」、歌唱力を高めるための「声楽」、電子楽器を学ぶための「エレクトーン」、邦楽に取り組むための「箏」の4つのジャンルから選択することができる。

授業の方法（ALを含む）

ピアノ、エレクトーンは基本的には個人レッスンで授業を行うが、場合によっては合奏なども取り入れる。声楽は履修希望者の人数により、個人レッスン、合唱、重唱などの形式で声楽担当教員と履修者で相談の上、授業を進める。箏はグループレッスンを基本とする。【実技】【グループワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 学生は保育者に必要な音楽表現を身につけることができる。
2. 学生は音楽表現を楽しむ姿勢を培い、豊かに表現することができる。
3. 学生は音楽表現を共有し、それらを互いに高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2 状況即応性 - 4保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

授業は、各担当教員が、下記のように授業を行う。【実技】【グループワーク】【創作・制作】

ピアノ

ピアノは、1年後期開講の音楽基礎（ピアノ基礎技術）を履修して身につけた演奏技術をさらに高める目的で行う。個人レッスンを基本として独奏はもちろんのこと、多様なピアノ演奏を楽しむことができるように、場合によっては連弾や他楽器とのアンサンブルなども行う。授業は担当教員と相談しながら進める。

声楽

履修希望者数により、個人レッスン、合唱、アンサンブルなど授業の形態が異なる。基本的には、学生の希望を尊重するが、履修者数により特に個人レッスンが不可能な場合もあるので、その場合は、担当教員と話し合いの上、授業形態を決めて授業を進める。どの形態でも実際に歌を歌い、歌に関するテクニク的な面と表現力を身につけることを基本として進めていく。

エレクトーン

基本的には個人レッスンで進めていく。エレクトーンの魅力はあらゆる音色が楽しめることと、リズム音が出ることで、広いジャンルの音楽が楽しめることである。機械とともに演奏することで、1人で弾いていても、オーケストラの音色やアンサンブルの音色で、大きな編成の中で演奏をしているようなスケールの大きい音楽が楽しめる。

箏（邦楽）

文部科学省の音楽推薦事項に小学校・中学校における邦楽の実技が置かれて久しい。平素あまり触れることのない日本音楽に、箏を演奏することで触れ、伝統音楽に関する学びを深めていく。日本の「わらべうた」や日本古謡を演奏することで、日本文化に目を向けていくことも目的としている。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】担当教員から課された課題を、授業前までにしっかり練習する。（各授業に対して60分）

【事後学修】担当教員から指導を受けた部分について克服できるように反復練習をする。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（50％）、課題への取り組み（50％）とする。

【フィードバック】担当教員から課題への取り組みについて講評する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ピアノで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

声楽で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

エレクトーンで使用する楽譜は、担当教員が指示する。

箏で使用する楽譜は、担当教員が指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KAg151		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳・幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について

2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4
9. 破いた形からイメージを広げて
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土
11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土
12. 触感覚と表現について お花紙
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ
14. 光とのかかわり LEDライト
15. エピローグ 全体の振り返りと総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験したり、教科書等で確認したりすること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

〔推薦書〕平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KAg151		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳・幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接接触して体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について

2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4
9. 破いた形からイメージを広げて
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土
11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土
12. 触感覚と表現について お花紙
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ
14. 光とのかかわり LEDライト
15. エピローグ 全体の振り返りと総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験したり、教科書等で確認したりすること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

〔推薦書〕平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KAg151		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳・幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接触れて体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について

2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4
9. 破いた形からイメージを広げて
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土
11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土
12. 触感覚と表現について お花紙
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ
14. 光とのかかわり LEDライト
15. エピローグ 全体の振り返りと総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験したり、教科書等で確認したりすること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

〔推薦書〕平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	造形基礎（感じて表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KAg151		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

幼児教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

科目の性格

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きい。主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形活動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士を理解し合える手段として欠かせない行動のひとつである。

そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのように乳・幼児・児童期に保障していけるかを自ら体験的に学ぶ。

科目の概要

大人になると、すでに造形的な価値観も獲得しているが、いわゆる上手下手という狭義の結果論がその価値基準になっていることが多い。造形嫌いになったり、造形活動に無関心になっている学生に、造形活動の大切さや楽しさを体中の感覚を駆使して再認識してもらうことが第一のねらいである。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

そのねらいが達成されることで、自己の感性を再認識し自己の価値観を多様にするばかりでなく、乳・幼児から児童までの理解にも深く関わる。さらに子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を育成し、望ましい保育・教育の実現を可能にすることになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

造形的行為や行動、造形表現の基礎としての感性や意欲、さらに、さまざまな表現法に関わる技術などは、“もの”との直接体験からの感受習得が望ましい。そこで演習を通して、感性や意欲を高めながら、幅広い価値観が獲得できることを望み、造形基礎 および を連動させておこなう。従って、造形基礎 も継続して履修することを望む。

この造形基礎 では“もの=身近な素材”に直接接触して体感し、人間にとって“つくる”ことの意味を問い直しながら経験を深めていく。そのために身支度等の準備は必須である。

1. プロローグ 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用について

2. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 1 新聞紙
3. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 2 新聞紙
4. 身近にある材料を使った表現を学ぶ 3 新聞紙
5. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 1 フィンガーペインティング
6. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 2 フィンガーペインティング
7. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 3
8. 様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ 4
9. 破いた形からイメージを広げて
10. 粘土を使った表現について学ぶ 1 土粘土
11. 粘土を使った表現について学ぶ 2 土粘土
12. 触感覚と表現について お花紙
13. 色画用紙を活かした表現を学ぶ
14. 光とのかかわり LEDライト
15. エピローグ 全体の振り返りと総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験したり、教科書等で確認したりすること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作第2版』建帛社

〔推薦書〕平田智久・小野和『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg152		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きなものです。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士が理解し合う手段として欠かせない行動のひとつです。そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳・幼児・児童期に保障していけるでしょうか。

科目の概要

身近な素材やものの形や色、感触やイメージ等に親しみ、考え、表現する活動を通して、造形表現の楽しさや喜びを味わうとともに造形表現に関する知識・技能を習得し、将来、保育者として必要となる実践的な力をつけていきます。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

様々な材料体験や表現を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本授業は、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール 1
3	身近にある材料を使った表現：段ボール 2
4	身近にある材料を使った表現：段ボール 3
5	身近にある材料を使った表現：段ボール 4
6	つくったもので遊び場づくり
7	前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション
8	様々な描画材料を使った表現：クレヨン等
9	様々な描画材料を使った表現：マーカー等

10	身近にある材料を使った表現：木材等
11	身近にある材料を使った表現：紙等
12	身近にある材料を使った表現：自然材等
13	身近な材料でつくって遊ぶ1
14	身近な材料でつくって遊ぶ2
15	まとめ：造形について考える

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具・身支度・体調を準備すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを教科書なども参考にしながら一冊のスケッチブックにまとめ、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名			
ナンバリング	KAg152		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きなものです。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士が理解し合う手段として欠かせない行動のひとつです。そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳・幼児・児童期に保障していけるでしょうか。

科目の概要

身近な素材やものの形や色、感触やイメージ等に親しみ、考え、表現する活動を通して、造形表現の楽しさや喜びを味わうとともに造形表現に関する知識・技能を習得し、将来、保育者として必要となる実践的な力をつけていきます。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

様々な材料体験や表現を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本授業は、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール 1
3	身近にある材料を使った表現：段ボール 2
4	身近にある材料を使った表現：段ボール 3
5	身近にある材料を使った表現：段ボール 4
6	つくったもので遊び場づくり
7	前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション
8	様々な描画材料を使った表現：クレヨン等
9	様々な描画材料を使った表現：マーカー等

10	身近にある材料を使った表現：木材等
11	身近にある材料を使った表現：紙等
12	身近にある材料を使った表現：自然材等
13	身近な材料でつくって遊ぶ1
14	身近な材料でつくって遊ぶ2
15	まとめ：造形について考える

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを教科書なども参考にしながら一冊のスケッチブックにまとめ、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KAg152		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きなものです。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士が理解し合う手段として欠かせない行動のひとつです。そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳・幼児・児童期に保障していけるでしょうか。

科目の概要

身近な素材やものの形や色、感触やイメージ等に親しみ、考え、表現する活動を通して、造形表現の楽しさや喜びを味わうとともに造形表現に関する知識・技能を習得し、将来、保育者として必要となる実践的な力をつけていきます。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

様々な材料体験や表現を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本授業は、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール 1
3	身近にある材料を使った表現：段ボール 2
4	身近にある材料を使った表現：段ボール 3
5	身近にある材料を使った表現：段ボール 4
6	つくったもので遊び場づくり
7	前半のまとめ：造形について考えるグループディスカッションとプレゼンテーション
8	様々な描画材料を使った表現：クレヨン等
9	様々な描画材料を使った表現：マーカー等

10	身近にある材料を使った表現：木材等
11	身近にある材料を使った表現：紙等
12	身近にある材料を使った表現：自然材等
13	身近な材料でつくって遊ぶ1
14	身近な材料でつくって遊ぶ2
15	まとめ：造形について考える

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを教科書なども参考にしながら一冊のスケッチブックにまとめ、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	造形基礎（考えて表現）		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KAg152		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

乳・幼児・児童期の望ましい成長を願う時、造形的環境の担う役割は極めて大きなものです。

主に視覚や触覚を通して“もの”に関わり、感じ、考え、心を表したりする造形行動は、生活をより豊かにする営みであるばかりでなく、人間同士が理解し合う手段として欠かせない行動のひとつです。そうした人間にとって重要な生きる手段としての造形を、どのようにすれば乳・幼児・児童期に保障していけるでしょうか。

科目の概要

身近な素材やものの形や色、感触やイメージ等に親しみ、考え、表現する活動を通して、造形表現の楽しさや喜びを味わうとともに造形表現に関する知識・技能を習得し、将来、保育者として必要となる実践的な力をつけていきます。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

様々な材料体験や表現を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本授業は、グループワーク、ディスカッション、講義等織り交ぜながら実践的に学びを深めていきます。

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール 1
3	身近にある材料を使った表現：段ボール 2
4	身近にある材料を使った表現：段ボール 3
5	身近にある材料を使った表現：段ボール 4
6	つくったもので遊び場づくり
7	前半のまとめ：造形について考える グループディスカッションとプレゼンテーション
8	様々な描画材料を使った表現：クレヨン等
9	様々な描画材料を使った表現：マーカー等

10	身近にある材料を使った表現：木材等
11	身近にある材料を使った表現：紙等
12	身近にある材料を使った表現：自然材等
13	身近な材料でつくって遊ぶ1
14	身近な材料でつくって遊ぶ2
15	まとめ：造形について考える

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを教科書なども参考にしながら一冊のスケッチブックにまとめ、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	鈴木 瑛貴、仁科 幸		
ナンバリング	KAg253		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園、小学校～高等学校での身体表現の指導経験のある教員が、子ども達の身体表現の発達や実際の姿を踏まえながら、身体表現活動の実践を中心とした授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「表現と文化」の領域に位置づけられています。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

多様な身体表現活動、グループ創作、発表等多様な方法で展開します。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮できる。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解し説明できる。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生ずることができるか考え、説明できる

。。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 4 「保育者の感性」、2 - 「表現・コミュニケーション」、3 - 「子どもから学び、子どもと共に育つ姿勢」

内容

1	身体表現について（鈴木・仁科）
2	保育者にふさわしいからだづくり リズムに合わせて踊る（鈴木）【実技】
3	保育者にふさわしいからだづくり 動きを覚える・表現する（鈴木）【実技】
4	保育者にふさわしいからだづくり 発表する（鈴木）【プレゼンテーション】
5	変身を楽しむ身体表現 動物ごっこ（鈴木）【実技】【グループワーク】
6	変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ（鈴木）【実技】【グループワーク】
7	題材を工夫した身体表現 新聞紙（鈴木・仁科）【実技】【グループワーク】
8	題材を工夫した身体表現 パラバルーン（仁科）【実技】【グループワーク】
9	こころとからだをときほぐす レクリエーションゲーム（仁科）【実技】
10	こころとからだをときほぐす フォークダンス（仁科）【実技】
11	遊びから身体表現へ 色々なじゃんけん（仁科）【実技】【グループワーク】
12	遊びから身体表現へ 手遊びからからだ遊びへ（仁科）【実技】【グループワーク】
13	身体表現の作品創作 グループごとの創作活動（鈴木・仁科）【グループワーク】
14	身体表現の作品創作 グループごとの発表（鈴木・仁科）【プレゼンテーション】
15	まとめ（鈴木・仁科）【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。（60分）

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと。（60分）

評価方法および評価の基準

積極的な授業への取り組み30点、授業記録・身体表現ノート20点、発表や実技試験25点、レポート課題25点とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

到達目標 1) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、発表や実技試験25点

到達目標 2) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、授業記録・身体表現ノート10点 / 20点、レポート課題25点

到達目標 3) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、授業記録・身体表現ノート10点 / 20点、

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	鈴木 瑛貴、仁科 幸		
ナンバリング	KAg253		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園、小学校～高等学校での身体表現の指導経験のある教員が、子ども達の身体表現の発達や実際の姿を踏まえながら、身体表現活動の実践を中心とした授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「表現と文化」の領域に位置づけられています。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

多様な身体表現活動、グループ創作、発表等多様な方法で展開します。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮できる。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解し説明できる。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生ずることができるか考え、説明できる

。。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 4 「保育者の感性」、2 - 「表現・コミュニケーション」、3 - 「子どもから学び、子どもと共に育つ姿勢」

内容

1	身体表現について（鈴木・仁科）
2	こころとからだをときほぐす レクリエーションゲーム（仁科）【実技】
3	こころとからだをときほぐす フォークダンス（仁科）【実技】
4	遊びから身体表現へ 色々なじゃんけん（仁科）【実技】【グループワーク】
5	遊びから身体表現へ 手遊びからからだ遊びへ（仁科）【実技】【グループワーク】
6	題材を工夫した身体表現 パラバルーン（仁科）【実技】【グループワーク】
7	題材を工夫した身体表現 新聞紙（鈴木・仁科）【実技】【グループワーク】
8	保育者にふさわしいからだづくり リズムに合わせて踊る（鈴木）【実技】変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ（鈴木）【実技】【グループワーク】
9	保育者にふさわしいからだづくり 動きを覚える・表現する（鈴木）【実技】
10	保育者にふさわしいからだづくり 発表する（鈴木）【プレゼンテーション】
11	変身を楽しむ身体表現 動物ごっこ（鈴木）【実技】【グループワーク】
12	変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ（鈴木）【実技】【グループワーク】
13	身体表現の作品創作 グループごとの創作活動（鈴木・仁科）【グループワーク】
14	身体表現の作品創作 グループごとの発表（鈴木・仁科）【プレゼンテーション】
15	まとめ（鈴木・仁科）【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。（60分）

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと。（60分）

評価方法および評価の基準

積極的な授業への取り組み30点、授業記録・身体表現ノート20点、発表や実技試験25点、レポート課題25点とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

到達目標 1) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、発表や実技試験25点

到達目標 2) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、授業記録・身体表現ノート10点 / 20点、レポート課題25点

到達目標 3) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、授業記録・身体表現ノート10点 / 20点、

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	鈴木 瑛貴、仁科 幸		
ナンバリング	KAg253		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園、小学校～高等学校での身体表現の指導経験のある教員が、子ども達の身体表現の発達や実際の姿を踏まえながら、身体表現活動の実践を中心とした授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「表現と文化」の領域に位置づけられています。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

多様な身体表現活動、グループ創作、発表等多様な方法で展開します。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮できる。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解し説明できる。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生ずることができるか考え、説明できる

。。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 4 「保育者の感性」、2 - 「表現・コミュニケーション」、3 - 「子どもから学び、子どもと共に育つ姿勢」

内容

1	身体表現について（鈴木・仁科）
2	保育者にふさわしいからだづくり リズムに合わせて踊る（鈴木）【実技】
3	保育者にふさわしいからだづくり 動きを覚える・表現する（鈴木）【実技】
4	保育者にふさわしいからだづくり 発表する（鈴木）【プレゼンテーション】
5	変身を楽しむ身体表現 動物ごっこ（鈴木）【実技】【グループワーク】
6	変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ（鈴木）【実技】【グループワーク】
7	題材を工夫した身体表現 新聞紙（鈴木・仁科）【実技】【グループワーク】
8	題材を工夫した身体表現 パラバルーン（仁科）【実技】【グループワーク】
9	こころとからだをときほぐす レクリエーションゲーム（仁科）【実技】
10	こころとからだをときほぐす フォークダンス（仁科）【実技】
11	遊びから身体表現へ 色々なじゃんけん（仁科）【実技】【グループワーク】
12	遊びから身体表現へ 手遊びからからだ遊びへ（仁科）【実技】【グループワーク】
13	身体表現の作品創作 グループごとの創作活動（鈴木・仁科）【グループワーク】
14	身体表現の作品創作 グループごとの発表（鈴木・仁科）【プレゼンテーション】
15	まとめ（鈴木・仁科）【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。（60分）

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと。（60分）

評価方法および評価の基準

積極的な授業への取り組み30点、授業記録・身体表現ノート20点、発表や実技試験25点、レポート課題25点とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

到達目標 1) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、発表や実技試験25点

到達目標 2) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、授業記録・身体表現ノート10点 / 20点、レポート課題25点

到達目標 3) 積極的な授業への取り組み10点 / 30点、授業記録・身体表現ノート10点 / 20点、

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	体育基礎（身体表現）		
担当教員名	鈴木 瑛貴、仁科 幸		
ナンバリング	KAg253		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園、小学校～高等学校での身体表現の指導経験のある教員が、子ども達の身体表現の発達や実際の姿を踏まえながら、身体表現活動の実践を中心とした授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科専門科目（選択科目）であり、「表現と文化」の領域に位置づけられています。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目です。保育内容の指導法（身体表現）、身体表現論、身体表現論演習と身体表現について専門的に学んでいくための基礎となります。

科目の概要

様々なからだの動きや動きの感じを体験することを通して、運動することの楽しさや面白さ、運動が引き起こす心身の変化を敏感に捉えることのできる学生の育成を図ります。幼児期の心身の発達や運動機能の特性をふまえながら、身体表現の素材や環境設定、援助方法について考えていきます。

授業の方法（ALを含む）

多様な身体表現活動、グループ創作、発表等多様な方法で展開します。【実技】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

- 1、体を大きく動かし、現時点での自分の運動能力、運動体力を最大限に発揮できる。
- 2、幼児の身体表現活動の援助方法や環境設定についての基礎を理解し説明できる。
- 3、実際に動いて感じたことを保育の場面でどう生ずることができるか考え、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 4 「保育者の感性」、2 - 「表現・コミュニケーション」、3 - 「子どもから学び、子どもと共に育つ姿勢」

内容

1	身体表現について（鈴木・仁科）
---	-----------------

2	こころとからだをときほぐす レクリエーションゲーム(仁科)【実技】
3	こころとからだをときほぐす フォークダンス(仁科)【実技】
4	遊びから身体表現へ 色々なじゃんけん(仁科)【実技】【グループワーク】
5	遊びから身体表現へ 手遊びからからだ遊びへ(仁科)【実技】【グループワーク】
6	題材を工夫した身体表現 パラバルーン(仁科)【実技】【グループワーク】
7	題材を工夫した身体表現 新聞紙(鈴木・仁科)【実技】【グループワーク】
8	保育者にふさわしいからだづくり リズムに合わせて踊る(鈴木)【実技】変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ(鈴木)【実技】【グループワーク】
9	保育者にふさわしいからだづくり 動きを覚える・表現する(鈴木)【実技】
10	保育者にふさわしいからだづくり 発表する(鈴木)【プレゼンテーション】
11	変身を楽しむ身体表現 動物ごっこ(鈴木)【実技】【グループワーク】
12	変身を楽しむ身体表現 忍者ごっこ(鈴木)【実技】【グループワーク】
13	身体表現の作品創作 グループごとの創作活動(鈴木・仁科)【グループワーク】
14	身体表現の作品創作 グループごとの発表(鈴木・仁科)【プレゼンテーション】
15	まとめ(鈴木・仁科)【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業内で紹介した書籍や映像資料を見ておくこと。(60分)

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、実技試験に向けた復習を行うこと。(60分)

評価方法および評価の基準

積極的な授業への取り組み30点、授業記録・身体表現ノート20点、発表や実技試験25点、レポート課題25点とし、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます。

到達目標 1) 積極的な授業への取り組み10点/30点、発表や実技試験25点

到達目標 2) 積極的な授業への取り組み10点/30点、授業記録・身体表現ノート10点/20点、レポート課題25点

到達目標 3) 積極的な授業への取り組み10点/30点、授業記録・身体表現ノート10点/20点、

【フィードバック】毎週のコメント表は確認し翌週以降に、提出されたノートとレポートに関しても確認し、質問等に返答した後返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて授業内で紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	表現総論		
担当教員名	藪崎 伸一郎、上垣内 伸子、大宮 明子、長田 瑞恵 他		
ナンバリング	KAg354		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の卒業必修科目であり、「表現と文化」領域の科目に位置づく科目で、幼児教育学科の「表現」は幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中での保育の内容の領域の一つになっている。その表現領域は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、想像性を豊かにする」というねらいが示されている。

科目の概要

各専門分野から、「表現」について考えていく。表現は乳幼児期の保育を考え実践していく上で重要である。保育者として、人として表現すること受け止めることの意味を改めて問い直す事は必要であり、音楽や造形、身体表現だけでなく、さまざまな視点から表現することを学び、表現豊かな人間性を育むことに繋げていく。

授業の方法（ALを含む）

各教員がテーマに沿って講義形式で授業を行う。授業の最終回ではまとめとして筆記試験を行う。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 学生がさまざまな表現の方法を知り、自分の表現の仕方を考えることができる。
2. 学生が表現することの意義や意味についての認識を深めることができる。
3. 学生がさまざまな特性や状態に対応した表現行動についての理解をひろげることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育者の思考・判断 -4 保育者の感性 -5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

1	ガイダンス（藪崎伸一郎）
2	新しいカリキュラムが目指す領域「表現」のあり方(上垣内伸子)【リアクションペーパー】

3	子どもが「表現する」ということを考える（近藤有紀子）【リアクションペーパー】
4	子どもの表現をとらえる保育者の視点(首野麻紀)【リアクションペーパー】
5	豊かに感じ表現する子どもたち～実践事例から学ぶ～(桶田ゆかり)【リアクションペーパー】
6	赤ちゃんの表現とは(金 允貞)【リアクションペーパー】
7	表現によって体と心を癒す(加藤則子)【リアクションペーパー】
8	五感の発達とイメージの言語的外化としてのオノマトペ(大宮明子)【リアクションペーパー】
9	発達心理学から考える『表』と『現』(長田瑞恵)【リアクションペーパー】
10	子どもの愛おしむ絵本に根付く「くうき」(鈴木晴子)【リアクションペーパー】
11	子どもの生活と「表現」(潮谷恵美)【リアクションペーパー】
12	アート そして表現(水島ゆめ)【リアクションペーパー】
13	造形と表現(名達英詔)【リアクションペーパー】
14	乳幼児の音楽表現について(二宮紀子)【リアクションペーパー】
15	まとめ(藪崎伸一郎)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】保育の内容の領域「表現」について確認し、各担当教員の授業内容に関連すると考えられる書籍などを読んでおく。(各60分)

【事後学修】授業の配付資料を参考に復習し、「表現」に対する理解を深める。(各60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度(50点)、筆記試験(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーはチェックして翌週以降に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定無し。各授業で資料を配布する。

【推薦書】適宜紹介する

【参考図書】適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。実施日・実施時間・実施教室については、Live Campusの授業連絡で周知する。

科目名	言語文化表現		
担当教員名			
ナンバリング	KAg155		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

幼稚園教諭免許・保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、幼稚園教諭・保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- 1.さまざまな児童文化財について積極的に学び、親しむことを通して、将来の保育者として必要な知識や技能を身につける。
- 2.多様な言語表現活動を楽しみながら、豊かな言語感覚を養い、言葉に対する感性を磨く。
- 3.子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、子どもの健全な心身の発達を目指す言語表現活動についてグループワークや模擬保育を中心に実践的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身に付けていく。

1	オリエンテーション 素話と言葉遊び
2	児童文化とは 保育の中の遊び
3	絵本の読み聞かせ(1) 絵本の歴史・物語の教材解釈
4	絵本の読み聞かせ(2) 昔話
5	絵本の読み聞かせ(3) 教材研究と読み聞かせの練習（グループワーク）
6	絵本の読み聞かせ(4) 模擬保育（グループワーク）

7	素話の発表 模擬保育（グループワーク）
8	紙芝居の演じ方(1) 紙芝居の歴史・演じ方の実際（グループワーク）
9	紙芝居の演じ方(2) 模擬保育（グループワーク・図書館フォーラム使用）
10	いろいろな児童文化財の紹介と実演(1) 人形劇の演じ方の練習（グループワーク）
11	いろいろな児童文化財の紹介と実演(2) 人形劇の演じ方の発表（グループワーク）
12	制作絵本の発表と合評会
13	わらべうた、手あそびうたの実演
14	声を届ける～群読（グループワーク）
15	まとめ（オノマトベ・授業全体のまとめ）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の授業該当頁を読み児童文化財について下調べをし、実演前にはよく練習してくる。「幼稚園教育要領」等を読み、保育活動への具体的展開方法を考えておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことを復習してノートにまとめる習慣をつけ、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演をふり返り、改善点をはっきりさせて再度練習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポートは、コメントを記載し、翌週の授業内で返却する。制作絵本は合評会を経て提出後、翌週の授業内で評価、紹介しながら返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】皆川美恵子 武田京子 編著「新版 児童文化」 ななみ書房 2016年

【推薦書】「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」 チャイルド本社 2017年

【参考図書】授業で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	言語文化表現		
担当教員名			
ナンバリング	KAg155		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

幼稚園教諭免許・保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる、幼稚園教諭・保育士の基礎的保育技術を修得する演習科目として位置づけられている。

科目の概要

子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本、紙芝居、素話、人形劇、言葉遊び、わらべうたなどの言語表現活動に焦点を当て、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法を実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- 1.さまざまな児童文化財について積極的に学び、親しむことを通して、将来の保育者として必要な知識や技能を身につける。
- 2.多様な言語表現活動を楽しみながら、豊かな言語感覚を養い、言葉に対する感性を磨く。
- 3.子どもの発達段階に適した絵本、紙芝居、素話、人形劇などを選定することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は、子どもの健全な心身の発達を目指す言語表現活動についてグループワークや模擬保育を中心に実践的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身に付けていく。

1	オリエンテーション 素話と言葉遊び
2	児童文化とは 保育の中の遊び
3	絵本の読み聞かせ(1) 絵本の歴史・物語の教材解釈
4	絵本の読み聞かせ(2) 昔話
5	絵本の読み聞かせ(3) 教材研究と読み聞かせの練習（グループワーク）
6	絵本の読み聞かせ(4) 模擬保育（グループワーク）

7	素話の発表 模擬保育（グループワーク）
8	紙芝居の演じ方(1) 紙芝居の歴史・演じ方の実際（グループワーク）
9	紙芝居の演じ方(2) 模擬保育（グループワーク・図書館フォーラム使用）
10	いろいろな児童文化財の紹介と実演(1) 人形劇の演じ方の練習（グループワーク）
11	いろいろな児童文化財の紹介と実演(2) 人形劇の演じ方の発表（グループワーク）
12	制作絵本の発表と合評会
13	わらべうた、手あそびうたの実演
14	声を届ける～群読（グループワーク）
15	まとめ（オノマトベ・授業全体のまとめ）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の授業該当頁を読み児童文化財について下調べをし、実演前にはよく練習してくる。「幼稚園教育要領」等を読み、保育活動への具体的展開方法を考えておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことを復習してノートにまとめる習慣をつけ、さらに児童文化財への興味関心を広げる。自分の実演をふり返し、改善点をはっきりさせて再度練習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポートは、コメントを記載し、翌週の授業内で返却する。制作絵本は合評会を経て提出後、翌週の授業内で評価、紹介しながら返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】皆川美恵子 武田京子 編著「新版 児童文化」 ななみ書房 2016年

【推薦書】「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」 チャイルド本社 2017年

【参考図書】授業で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	言語文化表現		
担当教員名			
ナンバリング	KAg155		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

子どもの周りにおける言語文化への興味関心を広め、教材研究する。また、実践することで幼児の発達を踏まえた保育技術を養う。子どもをとりまく文化や文化財をとおり、子どもについて、保育者について、保育のあり方について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、実技、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、教材研究、学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる
3	いろいろな絵本について
4	絵本・紙芝居の選び方
5	絵本・紙芝居の読み聞かせ体験
6	昔話

7	幼年童話
8	お話・お話作り
9	伝承遊びとわらべうた・言葉遊び
10	人形劇
11	ペープサートについて
12	ペープサート体験
13	伝統的玩具と遊び・季節の行事と言葉
14	絵本つくりと合評・子どもの言語表現
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針を読む。指定された教科書をよみ予習すること。(各授業40分)

【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、さらに教材研究(絵本・紙芝居を読む、実体験を積む)を深める。(各授業40分 テーマごとに40分) 児童文化への興味関心を広げ探究する。

評価方法および評価の基準

授業への参加度(取り組み)30% 提出物30% 試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック:提出物に関して評価したり、疑問点や学びについて返答し、さらに学びが深まり学習意欲が高まるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】新版 児童文化 皆川美恵子 武田京子編著 ななみ書房

【推薦書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 絵本各種

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	言語文化表現		
担当教員名			
ナンバリング	KAg155		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

本科目は、保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの言語表現にかかわる保育士の基礎的保育技術を習得する演目として位置づけられている。

科目の概要

子どもを取り巻く環境には様々な文化的要素がある。その中の言語文化的な分野、絵本、紙芝居、わらべうた、言葉遊び、人形劇などに焦点をあてて学ぶ。子どもの幸せを願いつつ児童文化とはなにかについて考えると共に、教材の選び方、生かし方、実際の保育の場でどのように展開されているか、また、環境構成のありかたについても実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

子どもの周りにおける言語文化への興味関心を広め、教材研究する。また、実践することで幼児の発達を踏まえた保育技術を養う。子どもをとりまく文化や文化財をとおり、子どもについて、保育者について、保育のあり方について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、実技、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、教材研究，学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	幼稚園生活の中での遊び、遊具、行事などの児童文化に触れる
3	いろいろな絵本について
4	絵本・紙芝居の選び方
5	絵本・紙芝居の読み聞かせ体験

6	昔話
7	幼年童話
8	お話・お話作り
9	伝承遊びとわらべうた・言葉遊び
10	人形劇
11	ペープサートについて
12	ペープサート体験
13	伝統的玩具と遊び・季節の行事と言葉
14	絵本つくりと合評・子どもの言語表現
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】幼稚園教育要領・保育所保育指針を読むこと 指定された教科書をよみ予習すること。(各授業40分)

【事後学修】授業で学んだことについてノートをまとめ、さらに教材研究(絵本・紙芝居を読む、実体験を積むなど)を深める。(各授業40分 テーマごとに40分)児童文化への興味関心を広げ探究する。

評価方法および評価の基準

授業への参加度(取り組み)30% 提出物30% 試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック:提出物に関して評価したり、疑問点や学びについて返答し、さらに学びが深まり学習意欲が高まるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】新版 児童文化 皆川美恵子 武田京子編著 ななみ書房

【推薦書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 b絵本各種

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	名達 英詔、水島 ゆめ		
ナンバリング	KAg256		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目である。森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくこと、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

科目の概要

本科目においては、さまざまな視座の交差統合が重要である。本学の自然環境に加え、学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

授業の方法（ALを含む）

いわゆる環境教育や動植物の観察といったことではなく、自然の中に身をおき、過ごすことを通して学生自身がそこで出会った神秘さや不思議さに目を見張り、様々な感覚や考え、経験を合わせて世界をとらえていく。そのために、実感を伴う体験を豊富に行うとともに学科学部から専門性の高い教員に参加していただきお話をうかがう。

【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

- (1) 幼児教育に大切な「総合的に・・・」の意味及び分かち合うことの大切さを体感することを通して理解できる。
- (2) 森や林などに身をおく体験を通して、自然の中に出かけ、そこで出会った神秘さや不思議さに目を見張る感性を育み発揮できる。
- (3) 人としての感性、考える力、行動する力を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者の感性 - 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢 - 4 受容的・共感的態度

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。

第1回：プロローグ 森に入るとは デジタルカメラなどの情報機器の活用について

第2回：森に出かけよう！【実技】【フィールドワーク】

第3回：異文化としての人との交流

第4回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その1 感じる【実技】【フィールドワーク】

- 第5回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その2 みつけ【実技】【フィールドワーク】
- 第6回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その3 分かち合い【実技】【フィールドワーク】
- 第7回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その4 浸る【実技】【フィールドワーク】
- 第8回：森ってどんなところ？
- 第9回：自然の中に生きる その1 感じる【実技】【フィールドワーク】
- 第10回：自然の中に生きる その2 繋がる【実技】【フィールドワーク】
- 第11回：自然の中に生きる その3 響き合う【実技】【フィールドワーク】
- 第12回：子どもと自然
- 第13回：自然の中に生きる その4 これまでの体験のまとめ【実技】【フィールドワーク】
- 第14回：オリジナルスケッチブックの製作 【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】
- 第15回：エピローグ オリジナルスケッチブックの発表と総括【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】 【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。(各授業に対して30分)

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどをもとに自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブック(自作)により到達目標(1)(2)を評価する(60%)。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標(3)を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳)「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

演習にふさわしい服装と心構え、体調で望むこと。

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	名達 英詔、水島 ゆめ		
ナンバリング	KAg256		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目である。森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくこと、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

科目の概要

本科目においては、さまざまな視座の交差統合が重要である。本学の自然環境に加え、学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

授業の方法（ALを含む）

いわゆる環境教育や動植物の観察といったことではなく、自然の中に身をおき、過ごすことを通して学生自身がそこで出会った神秘さや不思議さに目を見張り、様々な感覚や考え、経験を合わせて世界をとらえていく。そのために、実感を伴う体験を豊富に行うとともに学科学部から専門性の高い教員に参加していただきお話をうかがう。

【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

- (1) 幼児教育に大切な「総合的に・・・」の意味及び分かち合うことの大切さを体感することを通して理解できる。
- (2) 森や林などに身をおく体験を通して、自然の中に出かけ、そこで出会った神秘さや不思議さに目を見張る感性を育み発揮できる。
- (3) 人としての感性、考える力、行動する力を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者の感性 - 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢 - 4 受容的・共感的態度

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。

第1回：プロローグ 森に入るとは デジタルカメラなどの情報機器の活用について

第2回：森に出かけよう！【実技】【フィールドワーク】

第3回：異文化としての人との交流

第4回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その1 感じる【実技】【フィールドワーク】

- 第5回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その2 みつけ【実技】【フィールドワーク】
- 第6回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その3 分かち合い【実技】【フィールドワーク】
- 第7回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その4 浸る【実技】【フィールドワーク】
- 第8回：森ってどんなところ？
- 第9回：自然の中に生きる その1 感じる【実技】【フィールドワーク】
- 第10回：自然の中に生きる その2 繋がる【実技】【フィールドワーク】
- 第11回：自然の中に生きる その3 響き合う【実技】【フィールドワーク】
- 第12回：子どもと自然
- 第13回：自然の中に生きる その4 これまでの体験のまとめ【実技】【フィールドワーク】
- 第14回：オリジナルスケッチブックの製作 【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】
- 第15回：エピローグ オリジナルスケッチブックの発表と総括【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。(各授業に対して30分)

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどをもとに自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブック(自作)により到達目標(1)(2)を評価する(60%)。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標(3)を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳)「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

演習にふさわしい服装と心構え、体調で望むこと。

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	名達 英詔、水島 ゆめ		
ナンバリング	KAg256		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目である。森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくこと、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

科目の概要

本科目においては、さまざまな視座の交差統合が重要である。本学の自然環境に加え、学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

授業の方法（ALを含む）

いわゆる環境教育や動植物の観察といったことではなく、自然の中に身を置き、過ごすことを通して学生自身がそこで出会った神秘さや不思議さに目を見張り、様々な感覚や考え、経験を合わせて世界をとらえていく。そのために、実感を伴う体験を豊富に行うとともに学科学部から専門性の高い教員に参加していただきお話をうかがう。

【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

- (1) 幼児教育に大切な「総合的に・・・」の意味及び分かち合うことの大切さを体感することを通して理解できる。
- (2) 森や林などに身をおく体験を通して、自然の中に出かけ、そこで出会った神秘さや不思議さに目を見張る感性を育み発揮できる。
- (3) 人としての感性、考える力、行動する力を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者の感性 - 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢 - 4 受容的・共感的態度

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。

第1回：プロローグ 森に入るとは デジタルカメラなどの情報機器の活用について

第2回：森に出かけよう！【実技】【フィールドワーク】

第3回：異文化としての人との交流

第4回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その1 感じる【実技】【フィールドワーク】

- 第5回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その2 みつけ【実技】【フィールドワーク】
- 第6回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その3 分かち合い【実技】【フィールドワーク】
- 第7回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その4 浸る【実技】【フィールドワーク】
- 第8回：森ってどんなところ？
- 第9回：自然の中に生きる その1 感じる【実技】【フィールドワーク】
- 第10回：自然の中に生きる その2 繋がる【実技】【フィールドワーク】
- 第11回：自然の中に生きる その3 響き合う【実技】【フィールドワーク】
- 第12回：子どもと自然
- 第13回：自然の中に生きる その4 これまでの体験のまとめ【実技】【フィールドワーク】
- 第14回：オリジナルスケッチブックの製作 【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】
- 第15回：エピローグ オリジナルスケッチブックの発表と総括【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】 【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。(各授業に対して30分)

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどをもとに自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブック(自作)により到達目標(1)(2)を評価する(60%)。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標(3)を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳)「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

演習にふさわしい服装と心構え、体調で望むこと。

科目名	ネイチャー・ワーク		
担当教員名	名達 英詔、水島 ゆめ		
ナンバリング	KAg256		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科専門科目に位置づけられた学科卒業必修科目である。森や林などに身を置いた直接体験を通して、幼児教育の根幹の一つ「総合的に…」の意味を理解することが目標である。そうした理解は幼児教育にとどまらず、人間の感性をより豊かに醸成していくこと、考える力、行動力にも深くかかわることにもなること、つまり、幼保小の連携やそれ以降の人間性の高揚に連なっていることを体感することである。

科目の概要

本科目においては、さまざまな視座の交差統合が重要である。本学の自然環境に加え、学科学部のさまざまな専門性の高い教員の知見を活用し、学生自らの体験の中でさまざまな視座を絡めあわせ構築させていく。

授業の方法（ALを含む）

いわゆる環境教育や動植物の観察といったことではなく、自然の中に身をおき、過ごすことを通して学生自身がそこで出会った神秘さや不思議さに目を見張り、様々な感覚や考え、経験を合わせて世界をとらえていく。そのために、実感を伴う体験を豊富に行うとともに学科学部から専門性の高い教員に参加していただきお話をうかがう。

【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

- (1) 幼児教育に大切な「総合的に・・・」の意味及び分かち合うことの大切さを体感することを通して理解できる。
- (2) 森や林などに身をおく体験を通して、自然の中に出かけ、そこで出会った神秘さや不思議さに目を見張る感性を育み発揮できる。
- (3) 人としての感性、考える力、行動する力を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 保育者の感性 - 1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢 - 4 受容的・共感的態度

内容

ゲストスピーカーや天候などに応じて授業形態を変更する。

第1回：プロローグ 森に入るとは デジタルカメラなどの情報機器の活用について

第2回：森に出かけよう！【実技】【フィールドワーク】

第3回：異文化としての人との交流

第4回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その1 感じる【実技】【フィールドワーク】

- 第5回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その2 みつけ【実技】【フィールドワーク】
- 第6回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その3 分かち合い【実技】【フィールドワーク】
- 第7回：自然との対話 風・光・影・樹木・鳥 その4 浸る【実技】【フィールドワーク】
- 第8回：森ってどんなところ？
- 第9回：自然の中に生きる その1 感じる【実技】【フィールドワーク】
- 第10回：自然の中に生きる その2 繋がる【実技】【フィールドワーク】
- 第11回：自然の中に生きる その3 響き合う【実技】【フィールドワーク】
- 第12回：子どもと自然
- 第13回：自然の中に生きる その4 これまでの体験のまとめ【実技】【フィールドワーク】
- 第14回：オリジナルスケッチブックの製作 【実技】【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】
- 第15回：エピローグ オリジナルスケッチブックの発表と総括【レホ? ート(知識)】【レホ? ート(表現)】 【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通しておくこと。(各授業に対して30分)

【事後学修】集めたメモや写真資料を整理し、授業で体験したことを振り返り、理解を深めること。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

演習を通して感じ考えたことや実験してわかったことなどをもとに自分のための資料集としてまとめた一冊のスケッチブック(自作)により到達目標(1)(2)を評価する(60%)。授業への参加状況及びスケッチブックにより到達目標(3)を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

・レイチェル・L. カーソン, 上遠 恵子 (翻訳)「センス・オブ・ワンダー」新潮社刊

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

演習にふさわしい服装と心構え、体調で望むこと。

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg357		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

声楽家として多くの舞台経験がある教員が担当し、様々な音楽表現を提案し、共に試行錯誤しながら授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の選択科目（同名科目であっても授業内容が異なる場合、繰り返し受講可。）であり、保育者に求められる幅広い音楽表現を学ぶ科目である。既存の音楽表現に限定せず、履修者が感性を研ぎ澄まし、試行錯誤を重ねることで、総合的な音楽表現の獲得をめざす。

科目の概要

基礎的な音楽に関する知識を学び、実際に歌い、様々な楽器に触れて、歌う、動く、楽器を演奏するなど、音楽表現の方法を学ぶ。また、身近にある「音」に対する感覚を磨き、身の周りにある音から音楽的表現の可能性を見出す感性を磨く。さらに合唱する、合奏する等のグループ活動を通して、学びを共有する。

授業の方法（ALを含む）

本授業では、歌う、動く、楽器を演奏するなど、実演を通して多様な音楽表現を学び、さらに身近にある環境に身を置き、身近にある「音」に対する感覚を磨き、身の周りにある音から音楽的表現の可能性を見出す感性を磨く。【実技】【創作、制作】【グループワーク】【フィールドワーク】

到達目標

1. 学生が音楽表現の多様性を体得することができる。
2. 学生が表現したい事を他者に的確に伝えることができる。
3. 学生が人の心に伝わる歌唱とはどのようなものかを考え、様々な表現を試し、実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育者としての思考力・判断力 -4 保育者としての感性 -5 表現・コミュニケーション

内容

1	ガイダンス
---	-------

2	発声法と呼吸法について
3	子どもの歌の表現について
4	子どもの歌を日本語と英語で歌ってみよう【実技】
5	子ども向きのオペラ、オペレッタ、ミュージカル作品について
6	子ども向きのオペラ、オペレッタ、ミュージカル作品の鑑賞
7	楽器にふれてみよう【実技】
8	楽器を使って合奏してみよう【実技】【グループワーク】
9	歌と楽器で合奏してみよう【実技】【グループワーク】
10	身近にあるもので楽器を作ってみよう
11	作った楽器を使って表現してみよう【実技】
12	身近にある「音」を探してみよう【グループワーク】
13	見つけた「音」を共有しよう【グループワーク】
14	見つけた「音」を素材にして表現してみよう【グループワーク】【実技】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】子どもの表現を音楽的表現という観点から考察し、まとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】様々な音楽表現を学ぶ中で、それぞれの表現形態において子どもに対してどのようなアプローチが適切であるのか考察し、まとめておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

グループ活動への取り組み(20%)、表現発表(20%)、授業への参加度(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. グループ活動への取り組み(10%/20%)、表現発表(5%/20%)、授業への参加度(20%/60%)

到達目標2. グループ活動への取り組み(5%/20%)、表現発表(5%/20%)、授業への参加度(20%/60%)

到達目標3. グループ活動への取り組み(5%/20%)、表現発表(10%/20%)、授業への参加度(20%/60%)

【フィードバック】表現発表の振り返りを行い、表現への気づきを共有する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。授業中に授業資料を配布する。

【推薦書】小川容子 今川恭子『音楽する子どもをつかまえない』ふくろう出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	山賀 英美		
ナンバリング	KAg357		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科の表現と文化の選択科目(同名科目とは授業内容が異なることから繰り返し受講可)である。入学以来本学で学修した音楽に関する各自の力をさらに伸長し、表現力を総合的に高める。

科目の概要

幼児教育の現場での音楽的活動に、指導者として十分に力を発揮するために必要な能力を身につける。各自のピアノ演奏技術を向上・伸長させ、レパートリーを広げるとともに応用力を高める。

授業の方法（ALを含む）

本科目ではMLを使用し理論的学びと実践的学びを両輪とする。各回指示された実技課題をMLを中心に練習する時間を設け、各自1回以上ピアノで実技練習に関する助言を受ける。

取り組みの成果を発表しディスカッションし合い表現力を高める。

伴奏と歌を分け、それぞれ合わせる機会も持ち、グループでの学びも共有する。

【実技】【ディスカッション】

到達目標

- 1.子どもの歌に関する音楽的理解、ピアノ伴奏に関する基本的理論の理解を深めることができる。
- 2.子どもの歌の伴奏に関わる基本的演奏技術を習得できる。
- 3.演奏を発表する機会を持つことにより、積極的に子どもの歌や伴奏に取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育内容・指導法 -4保育者としての感性 -2成長発達の支援、積極性

内容

1	ガイダンス
2	読譜のポイントと音楽の基礎的な要素を学ぶ 【実技】
3	鍵盤楽器での簡易伴奏のつけ方を学ぶ 【実技】
4	動物の歌について 【実技】

5	生き物の歌について 【実技】
6	わらべうたについて 【実技】
7	<発表> 【実技】【ディスカッション】
8	季節・行事の歌について 【実技】
9	コードネームについて学ぶ 【実技】
10	アレンジをして演奏を楽しむ 【実技】
11	いろいろなピアノ曲 【実技】
12	簡単な音の創作・音遊び 【実技】
13	発表に向け取り組む 【実技】
14	<自由な選択曲での発表> 【実技】【ディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指示された授業準備を必ず行うこと。(課題準備にかかる必要時間・1~2時間くらい)

【事後学修】授業内で学んだ事を復習する。更に各自の力を伸ばせるよう可能な限り時間を取ること。(1時間くらい)

評価方法および評価の基準

実技活動が中心となるので授業への参加度60%、グループでの演奏の取り組み20%、演奏の発表20%とし総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 授業への参加度(20%/60%)

到達目標2. 授業への参加度(20%/60%)、グループでの演奏の取り組み(20%/20%)

到達目標3. 授業への参加度(20%/60%)、演奏の発表(20%/20%)

【フィードバック】毎回、前回授業の振り返りを行う時間を設ける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要な資料は授業時に配布する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

弾き方が分からない場合や、幼児教育の現場で課された曲などの質問も受け付ける

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	山賀 英美		
ナンバリング	KAg357		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科の表現と文化の選択科目(同名科目とは授業内容が異なることから繰り返し受講可)である。入学以来本学で学修した音楽に関する各自の力をさらに伸長し、表現力を総合的に高める。

科目の概要

幼児教育の現場での音楽的活動に、指導者として十分に力を発揮するために必要な能力を身につける。各自のピアノ演奏技術を向上・伸長させ、レパートリーを広げるとともに応用力を高める。

授業の方法 (ALを含む)

本科目ではMLを使用し理論的学びと実践的学びを両輪とする。各回指示された実技課題をMLを中心に練習する時間を設け、各自1回以上ピアノで実技練習に関する助言を受ける。

取り組みの成果を発表しディスカッションし合い表現力を高める。

伴奏と歌を分け、それぞれ合わせる機会も持ち、グループでの学びも共有する。

【実技】【ディスカッション】

到達目標

1. 子どもの歌に関する音楽的理解、ピアノ伴奏に関する基本的理論の理解を深めることができる。
2. 子どもの歌の伴奏に関わる基本的演奏技術を習得できる。
3. 演奏を発表する機会を持つことにより、積極的に子どもの歌や伴奏に取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 保育内容・指導法 -4 保育者としての感性 -2 成長発達の支援、積極性

内容

1	ガイダンス
2	読譜のポイントと音楽の基礎的な要素を学ぶ 【実技】
3	鍵盤楽器での簡易伴奏のつけ方を学ぶ 【実技】
4	動物の歌について 【実技】

5	生き物の歌について 【実技】
6	わらべうたについて 【実技】
7	<発表> 【実技】【ディスカッション】
8	季節・行事の歌について 【実技】
9	コードネームについて学ぶ 【実技】
10	アレンジをして演奏を楽しむ 【実技】
11	いろいろなピアノ曲 【実技】
12	簡単な音の創作・音遊び 【実技】
13	発表に向け取り組む 【実技】
14	<自由な選択曲での発表> 【実技】【ディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指示された授業準備を必ず行うこと(課題準備にかかる必要時間・1~2時間くらい)

【事後学修】授業内で学んだ事を復習する。更に各自の力を伸ばせるよう可能な限り時間を取ること。(1時間くらい)

評価方法および評価の基準

実技活動が中心となるので授業への参加度60%、グループでの演奏の取り組み20%、演奏の発表20%とし総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 授業への参加度(20%/60%)

到達目標2. 授業への参加度(20%/60%)、グループでの演奏の取り組み(20%/20%)

到達目標3. 授業への参加度(20%/60%)、演奏の発表(20%/20%)

【フィードバック】毎回、前回授業の振り返りを行う時間を設ける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要な資料は授業時に配布する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

弾き方が分からない場合や、幼児教育の現場で課された曲などの質問も受け付ける

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAg357		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は保育者として必要な様々な音楽表現を学ぶものである。日々の園生活の中で行われる小さな活動から、遊びの中での即興的創造的な音楽やその発表の持ち方につながる幅広い音楽表現を学ぶ。同じ科目名でも担当教員によって扱う内容が異なるため繰り返し受講可となっている。

科目の概要

手あそび歌、あそびうた、身近にある音の探索、楽器につながる音器や楽器による合奏から、物語の音楽表現などの総合的な表現まで幅広く扱う。

授業の方法（ALを含む）

資料や教科書を基に、実際に実践し体験してみることを通して、レパートリーを広げ、様々な音楽活動を展開する術を学ぶ。創作する面白さ、創作のために留意すること等、実体験を通して学ぶ。【実技】【創作】

到達目標

1. 手あそび歌や伝統的なあそびうた、わらべうたなど遊びの中の音楽の意味を理解し歌い遊ぶことができる。
2. 身近な音に気づき、音遊び、音器や楽器を正しく使った演奏ができる。
3. 物語などを基に総合的な音楽表現ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育内容・指導法、 -4保育者としての感性、 -2成長発達の支援、積極性

内容

この授業は基本的に演習を通して学ぶ。自身でやってみることで気づき、問題意識を持ち、それを友人と分かち合うことで理解を深める。グループで話し合い工夫し演奏し演じるなどの発表も行う。

1	オリエンテーション：創造的音楽表現とは
2	手あそび歌、あそびうたの意義を実践をとおして学ぶ【実技】
3	替え歌遊びの実践：ことばとメロディの関係【創作】
4	日本の伝統的なあそびうた、わらべうたの意義を実践をとおして学ぶ【実技】

5	わらべうたの音とリズム
6	身近な音に気づく活動とは
7	素材から音を探す。音器を作って遊ぶ。【創作】
8	主にリズム楽器の扱い，正しい奏法，子ども達と楽器の出会い
9	合奏として楽しむために編曲する【創作】
10	合奏を発表し意見交換する
11	物語の中の音楽表現とは
12	絵本を音楽表現する
13	歌の創作，絵本の中の音の創作【創作】
14	絵本を演じ遊ぶ
15	まとめ：総合的表現活動としての音楽

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指示された授業準備を必ず行うこと(課題準備にかかる必要時間・1～2時間くらい)

【事後学修】授業内で学んだことを復習する。科目の性格上練習を必要とすることがある。(1時間くらい)

評価方法および評価の基準

到達目標1、2、3ともに実技活動、創作活動が中心となるので授業への参加度60%，グループ活動の取り組み20%，表現活動の発表20%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題や作品は全員で共有できる形で返却している。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】コンパス音楽表現 駒久美子・味府美香編著 建帛社 2020年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育内容・音楽表現につながる内容の授業です。子どもたちの自発的な遊びを誘発するために必要な保育者としての知識や技術を、自身が経験することを通じて習得しましょう。調べたり覚えてきて演じたり、仲間と協力して話し合い、工夫して音楽表現活動を行います。積極的に参加し、楽しんでください。

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAg357		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は保育者として必要な様々な音楽表現を学ぶものである。日々の園生活の中で行われる小さな活動から、遊びの中での即興的創造的な音楽やその発表の持ち方につながる幅広い音楽表現を学ぶ。同じ科目名でも担当教員によって扱う内容が異なるため繰り返し受講可となっている。

科目の概要

手あそび歌、あそびうた、身近にある音の探索、楽器につながる音器や楽器による合奏から、物語の音楽表現などの総合的な表現まで幅広く扱う。

授業の方法（ALを含む）

資料や教科書を基に、実際に実践し体験してみることを通して、レパートリーを広げ、様々な音楽活動を展開する術を学ぶ。創作する面白さ、創作のために留意すること等、実体験を通して学ぶ。【実技】【創作】

到達目標

1. 手あそび歌や伝統的なあそびうた、わらべうたなど遊びの中の音楽の意味を理解し歌い遊ぶことができる。
2. 身近な音に気づき、音遊び、音器や楽器を正しく使った演奏ができる。
3. 物語などを基に総合的な音楽表現ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育内容・指導法、 -4保育者としての感性、 -2成長発達の支援、積極性

内容

この授業は基本的に演習を通して学ぶ。自身でやってみることで気づき、問題意識を持ち、それを友人と分かち合うことで理解を深める。グループで話し合い工夫し演奏し演じるなどの発表も行う。

1	オリエンテーション：創造的音楽表現とは
2	手あそび歌、あそびうたの意義を実践をとおして学ぶ【実技】
3	替え歌遊びの実践：ことばとメロディの関係【創作】
4	日本の伝統的なあそびうた、わらべうたの意義を実践をとおして学ぶ【実技】

5	わらべうたの音とリズム
6	身近な音に気づく活動とは
7	素材から音を探す。音器を作って遊ぶ。【創作】
8	主にリズム楽器の扱い，正しい奏法，子ども達と楽器の出会い
9	合奏として楽しむために編曲する【創作】
10	合奏を発表し意見交換する
11	物語の中の音楽表現とは
12	絵本を音楽表現する
13	歌の創作，絵本の中の音の創作【創作】
14	絵本を演じ遊ぶ
15	まとめ：総合的表現活動としての音楽

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指示された授業準備を必ず行うこと(課題準備にかかる必要時間・1～2時間くらい)

【事後学修】授業内で学んだことを復習する。科目の性格上練習を必要とすることがある。(1時間くらい)

評価方法および評価の基準

到達目標1、2、3ともに実技活動、創作活動が中心となるので授業への参加度60%，グループ活動の取り組み20%，表現活動の発表20%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題や作品は全員で共有できる形で返却している。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】コンパス音楽表現 駒久美子・味府美香編著 建帛社 2020年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育内容・音楽表現につながる内容の授業です。子どもたちの自発的な遊びを誘発するために必要な保育者としての知識や技術を、自身が経験することを通じて習得しましょう。調べたり覚えてきて演じたり、仲間と協力して話し合い、工夫して音楽表現活動を行います。積極的に参加し、楽しんでください。

科目名	造形発達と表現		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KAg358		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。全身の身体感覚を働かせ、五感を横断しながら視覚情報のみにとらわれない造形表現の在り方を学ぶ。乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について理解し、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していく。ひいては造形活動の中で個々の子どもの個性や能力に寄り添った活動を行える人材となれるよう力をつける。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

授業の方法 (ALを含む)

プリント、PC、プロジェクター等を用いて画像や映像によっても知識を深める。また、実物の児童画へ触れたり、模写を行うことにより身体感覚を通じて子どもの絵画表現への理解を深める。グループでのディスカッションで互いに思考力を高める。復習として授業内容を1冊のスケッチブックにまとめる。

【実技、レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】

到達目標

- (1)造形発達の内容を理解し、価値観を多様に広げることで、子どものあり方を理解できる。
- (2)造形を通して子どもが育つ環境について感じ、造形活動の様子を構想できる。
- (3)造形を通して望ましい保育・教育のあり方を探る態度を自ら醸成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 子どもの心理・発達の理解 -4 保育者の感性 -1 子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性（同一性）もおのずと理解されることになる。

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

1	ガイダンス
2	造形表現の意味と役割・乳・幼児独特の造形表現について【レポート（知識）、討議・討論】
3	各年齢における乳・幼児画を予測し描写する【実技、レポート（知識）、討議・討論、レポート（表現）】
4	見て描くことの広がり：人はなぜ描き表現するか、アルタミラ洞窟壁画より考察【レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、PBL】【ICT】
5	乳・幼児画を模写、考察【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】
6	乳・幼児画の発達段階：描き始め（Scribble期・1～2歳頃）【レポート（知識）、討議・討論】
7	作品撮影・分析【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】
8	乳・幼児画の発達段階：意味づけ、アニミズム（象徴期・3～4歳頃）【レポート（知識）、討議・討論】
9	作品撮影・分析【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】
10	乳・幼児画の発達段階、学童期以降の発達段階：（知的リアリズム等・5～6歳、6歳～）【レポート（知識）、討議・議論】
11	作品撮影・分析【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】
12	カラーチャート作成による絵の配色への理解：【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】
13	美術教育における法則化について：教育現場での絵画活動の実態【レポート（知識）、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】【ICT】
14	つくる活動と発達段階について【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
15	総括、ノート提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。また各自アナウンスされた内容をリサーチする。（各授業に対し45分）

【事後学修】各授業ごとに内容をスケッチブックにまとめ、考察を記入する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。総合評価60点以上を合格とする。必要に応じてスケッチブック等の提出物について授業内において

振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔推薦書〕

- ・平田智久監修『みんないきいき絵の具で描こう！』サクラクレパス出版部
- ・磯部錦司編著『造形表現・図画工作－幼児から小学生の統合的美術教育－』建帛社
- ・谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に創造する楽しさを味わい、子どもの気持ちや視線をイメージしながら活動しましょう。

実技が中心となる回は作業しやすい服装を心がけてください。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなどの環境設定等に気を配りながら活動しましょう。

科目名	幼児音楽論		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAg459		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、幼児教育学科の表現と文化領域の選択科目（同名科目であっても授業内容が異なる場合は繰り返し受講可）であり、子どもの豊かな表現を見取り育むために、履修者自身の感性と豊かな表現への理解を深めると共に、音楽基礎（歌唱法）、音楽基礎（ピアノ基礎技術）、音楽基礎（楽器演奏）で得た音楽表現技術や知識及び幼児の音楽表現に関する専門的事項について、さらに深く学修することを目的とする。

科目の概要

本科目は、子どもに歌われる歌に関して歴史的変遷を概観し、理解を深め、視聴覚資料などを活用して具体的な事例を参照しながら学修を進める。また、子どもの音楽的表現、音楽表現に係る事項を取り上げ、その意義を学修する。さらに、それらを保育の現場で活かすために、音楽表現を用いた模擬保育を行い、保育方法を検討する。

授業の方法（ALを含む）

保育現場で歌われている歌を歴史的変遷に着目して理解を深め、並行して子どもの音楽的表現、音楽表現に係る事項を取り上げ学修する。さらに、子どもの音楽的表現や音楽表現を引き出すような指導案を考えて模擬保育を行い、保育方法を検討する。【グループワーク】【ロールプレイ】【模擬授業】【討議・討論】

到達目標

1. 学生が子どもに歌われる歌について説明することができる。
2. 学生が子どもの音楽的表現、音楽表現について理解することができる。
3. 学生が保育における音楽表現を実践することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3 保育内容・指導法 -4 指導計画作成・実践 -3 保育者としての思考力・判断力

内容

1	ガイダンス
2	わらべ歌について

3	唱歌について
4	唱歌教育について
5	童謡について
6	児童雑誌「赤い鳥」について
7	戦後の子どもの歌について
8	詩と音楽の関係について
9	幼児の声域と声の発達、声の管理（怒鳴り声、小児嘔声・音声障害）について
10	子どもの音楽的発達について
11	子どもの音楽的表現、音楽表現について
12	子どもを取り巻く音楽環境について
13	音楽を用いた模擬保育の実践【グループワーク】【模擬授業】【ロールプレイ】【討議・討論】
14	音楽を用いた模擬保育の実践と考察【模擬授業】【ロールプレイ】【討議・討論】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 授業に関連のある書籍を読み、概要をまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 授業ノート、授業資料のまとめを行う。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

レポート（30%）、筆記試験（30%）、授業への参加度（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．レポート（15%/30%）、筆記試験（15%/30%）、授業への参加度（15%/40%）

到達目標2．レポート（15%/30%）、筆記試験（15%/30%）、授業への参加度（15%/40%）

到達目標3．授業への参加度（10%/40%）

【フィードバック】 提出されたレポートは点検し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

使用しない。授業中に授業資料を配布する。

【推薦書】

奥中康人『国家と音楽 伊澤修二がめざした日本近代』春秋社、竹内貴久雄『唱歌・童謡120の真実』ヤマハミュージックメディア、周東美材『童謡の近代』岩波現代全書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼児音楽論		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAg459		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業研究の基礎となる科目である。幼児のみならず乳児の段階からの音楽とのかかわりに関するあらゆる課題を学ぶ。自身で感じ、考え、調べ、まとめるというプロセスを学ぶ。子どもと音楽に関わるあらゆることが対象になるため、音楽の教員が開講する同名称の科目を繰り返し受講できる。

科目の概要

保育と音楽に関わるあらゆる課題を取り上げる。具体的には、最新の研究による知見を基に赤ちゃんがどのように音や音楽を認知し自ら表現する存在となるのかなど、赤ちゃんと言語の関わり、様々な子どもの歌が保育活動として持つ意義、子どもの歌の歴史と時代による特徴、音や楽器との出会い、リズム活動などである。

授業の方法（ALを含む）

ほとんどの授業が講義であるが、自身の経験の振り返りなどをグループで共有して話し合ったり、調べ学習を発表するなどアクティブ・ラーニングの手法も取り入れる。リズム活動などは、実際に自身が体験することを通して学ぶ。【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【レポート（知識）】【実技】【レポート（表現）】

到達目標

1. 赤ちゃんと言語・音楽の関わりを理解することができる。
2. 赤ちゃんから幼児までの保育現場での音楽活動について考え、実践することができる。
3. 子どもの歌が持つ歴史、保育活動としての意義について理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

3保育内容・指導法、 3保育者としての思考力・判断力、 2成長発達の支援、積極性

内容

この授業は講義を中心に、課題の実践、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら理解を深めていく。

1	保育と音楽【リアクションペーパー】
2	赤ちゃんと言語・音楽
3	赤ちゃんと言語 （自身の経験を振り返り、グループで共有する）【グループワーク】

4	わらべうたが育むもの 乳児編
5	わらべうたが育むもの 幼児編 【リアクションペーパー】
6	日本の音・音楽文化
7	西洋音楽との出会い 【リアクションペーパー】
8	明治時代の「唱歌」（調べ学習をし、発表する）【プレゼンテーション】
9	大正時代の「童謡」（調べ学習をし、発表する）【プレゼンテーション】
10	戦後の「新しい子どもの歌」（調べ学習をし、発表する）【プレゼンテーション】
11	子どもの歌は時代によってどのように捉えられてきたのか 【レポート（知識）】
12	幼児と楽器
13	保育内容としてのリズム 【実技】
14	リズム活動の考え方 【リアクションペーパー】
15	まとめ・文化としての音楽 【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎時間次回の予告をするので、それぞれ必要な調べ学習やグループワークの準備をする。（1時間程度）

【事後学習】授業については復習することを基本とするが、特にそれぞれの授業課題に対する問題意識を自身でまとめて書き記しておき、卒業研究に向けた準備をする。（1時間程度）

評価方法および評価の基準

到達目標1でのグループワークやリアクションペーパー、到達目標3のプレゼンテーションなど授業への参加度、提出物の評価60%、到達目標2のまとめのレポート評価40%を総合的に判断し、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】グループワークでのまとめなど提出物に関しては、すべての学びを共有できるような形をとって返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に必要なプリント配布を行う

【参考図書】日本の子どもの歌 唱歌童謡140年の歩み 全国大学音楽教育学会編 音楽之友社 2013年

【推薦書】授業の中で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

論の着く授業は卒業研究に関わっていきます。乳幼児を含め子どもを取り巻く音楽について学び、気づきを深めましょう。赤ちゃんがどのように音や歌や、音楽に出会い、乳児期のどのような経験が幼児期の音楽活動に発展していくのか、子どもにとって音楽とはどのようなものなのか、様々な考え方を学び、現状を見つめ、自身で考え課題を発掘してみましょう。

科目名	造形保育論		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KAg460		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科における「表現と文化」の選択科目である。受講者それぞれの主体的な取り組みによる多様な授業展開とより深い学修を積み上げられるよう、また受講機会の提供も考慮し繰り返し受講を可としている。子どもは日々「もの」や「人」とかかわり生活しており、そのかかわり一つひとつが子どもが自ら感じ考え行動する機会となる。子ども自らが主体的に生きることを願って行われる保育において、そうした関わりを認め励ますために造形はどのようにありえるであろうか。2年までの学修を踏まえつつ探究を重ねることを目指したい。

科目の概要

造形は人間の本性に関わり発生する行為であり保育手段のひとつとしてその意義は大きい。保育全体を見通しながら造形活動の役割と意義を見出し、子どもの成長発達に呼応した実践ができるよう、季節や自然との触れ合いなど、子どもの興味関心を起点にした活動展開や活動の中で育まれる人との関わりなどに視点を置いて学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察と研究をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】
【ロールプレイ】【フィールドワーク】【PBL】【創作・制作】

到達目標

- (1)子どもの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもに育つ環境づくりと造形の関わりについて理解できる。
- (2)子どもの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもに育つ環境づくりを造形を通して構想できる。
- (3)子どもの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもに育つ環境づくりに関われる人材となるよう、自らの保育力を高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践 - 4 指導案作成・実践 - 3 保育者の思考・判断

内容

1週 授業の概要

2週 子どもの生活と造形 【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】

-)】【ロールプレイ】【PBL】【創作・制作】
- 3週 子どもの生活と造形 【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【ロールプレイ】【フィールドワーク】【PBL】【創作・制作】
- 4週 子どもの生活と造形 【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】
- 5週 子どもの文脈と造形 【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【ロールプレイ】【フィールドワーク】【PBL】【創作・制作】
- 6週 子どもの文脈と造形 【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】
- 7週 コミュニケーションと造形 【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【レポート(表現)】【ロールプレイ】【フィールドワーク】【PBL】【創作・制作】
- 8週 コミュニケーションと造形 レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【PBL】
- 9週 造形と協同 【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【ロールプレイ】【PBL】【創作・制作】
- 10週 造形と協同 【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【ロールプレイ】【PBL】【創作・制作】
- 11週 素材のもつ特性・応答的環境 【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【ロールプレイ】【PBL】【創作・制作】
- 12週 素材のもつ特性・応答的環境 【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【ロールプレイ】【PBL】【創作・制作】
- 13週 子どもの造形教育の歴史
- 14週 領域「表現」を超えて【実技】【実験】【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】【ロールプレイ】【創作・制作】
- 15週 まとめ【レポート(知識)】【グループワーク】【討議・討論】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】前回の内容を確認し、次回に向けた課題に取り組みます。(各授業に対して60分)
- 【事後学修】ノートを整理し、感想を含め疑問・問題点をまとめます。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業を通して学び、感じ、考えたことや実際に試したことなどをもとに造形を手がかりとした保育展開が可能になるようにまとめ、提出されたスケッチブックにより到達目標の(1)(2)を評価する(60%)。授業への取り組み及び提出されたスケッチブックによって到達目標の(3)を評価する(40%)。以上を総合評価し60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

- ・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

推薦書

- ・授業内で適宜紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目では受講希望者多数の場合、定員30名を上限に抽選を行い受講者を決定する。

科目名	造形保育論		
担当教員名	水島 ゆめ		
ナンバリング	KAg460		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、様々な専門領域の中で、保育における造形や造形表現について追求し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としている。ここでの学びが卒業研究に結びついていく。幼児造形教育の意義や子どもの造形表現に対する理解、保育者の役割、造形活動の中で育まれるものや人とのかかわりを実技も含めながら学ぶ。また幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に造形的な環境を構成していく力や実際に幼稚園や保育所での実習とも関連させながら子どもの発達を考慮した教材研究を通して将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目標とする。

科目の概要

造形は人間の本性に関わり発生する行為であり保育手段のひとつとしてその意義は大きい。保育全体を見通しながら造形活動の役割と意義を見出し、子どもの成長発達に呼応した実践ができるよう、季節や自然との触れ合いなど、子どもの興味関心を起点にした活動展開や活動の中で育まれる人との関わりなどに視点を置いて学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察と研究をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

【実技、レポート（知識）、レポート（表現）、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】

到達目標

- (1)子どもの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもに育つ環境づくりと造形の関わりについて理解できる。
- (2)子どもの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもに育つ環境づくりを造形を通して構想できる。
- (3)子どもの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもに育つ環境づくりに関われる人材となるよう、自らの保育力を高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1子どもの心理・発達の理解 -3保育内容・指導法 -4指導計画作成・実施 -2状況即応性 -3保育者としての思考力・判断力 -4保育者としての感性 -5表現・コミュニケーション -1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢 -2成長発達の支援、積極性 -4受容的・共感的態度 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

作品の最終的な完成度にとらわれず、造形活動を通じてどのような学びがあるか、活動の場面場面で考え課程を記録していく。(デジタル機器やメモの活用)お互いに意見を交わし合い、様々な可能性を考慮し視野を広げる。視覚情報以外の身体感覚での気付きを大切にする。スケッチブックは各自その都度進めていく。

1	オリエンテーション
2	造形表現の意味と役割：五感を使ったワークショップ【実技、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】
3	子どもの育ちと造形表現：発達段階に応じ子どもの目線で活動を考える【レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】【ICT】
4	幼児の造形教育の歴史：実践の紹介、考察【レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL】
5	絵の指導方法について1：子どもの絵を読み解く【レポート(知識)、レポート(表現)、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】
6	絵の指導方法について2：技法や環境を実技を通じて知る【実技、レポート(表現)、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
7	教材研究1 身近な素材を使った表現を学ぶ：素材のリサーチ・観察【レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL】
8	教材研究2 身近な素材を使った表現を学ぶ：素材の様々な活用方法や扱い方を考え、作例を制作【実技、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】
9	教材研究3 身近な素材を使った表現を学ぶ：発表・お互いの作例を分析【実技、グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL、創作・制作】【ICT】
10	教材研究4 様々な描画材料について理解し「かく」活動について学ぶ【実技、レポート(表現)、グループワーク、PBL、創作・制作】【ICT】
11	教材研究5 様々な描画材料について理解し「かく」活動について学ぶ【実技、レポート(表現)、グループワーク、PBL、創作・制作】【ICT】
12	造形に関する保育計画案づくりについて1：グループによるディスカッション・リサーチ【レポート(知識)、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL】【ICT】
13	造形に関する保育計画案づくりについて2：グループによる活動研究・作例制作【実技、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】【ICT】
14	造形に関する保育計画案づくりについて3：グループによる作例制作【実技、レポート(表現)、グループワーク、討議・討論、PBL、創作・制作】【ICT】
15	造形に関する保育計画案づくりについて4：グループによる発表・総括・スケッチブック提出【グループワーク、討議・討論、プレゼンテーション、PBL】【ICT】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。また各自アナウンスされた内容をリサーチする。(各授業に対し45分)

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度（40%）により総合的に判断します。なお、60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。必要に応じて活動や作品等の提出物について授業内において振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔推薦書〕

- ・谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社
- ・磯部錦司編著『造形表現・図画工作―幼児から小学生の統合的美術教育―』建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目では受講希望者多数の場合、定員30名を上限に抽選を行い受講者を決定する。

主体的に創造する楽しさを味わい、子と？もの気持ちや視線をイメージしながら活動しましょう。

実技の回は、作業しやすい服装を心がけてくた？さい。

基本的な用具等は、各自で調達・用意をお願いします。

友人との共同の活動や後片付けなど？の環境設定等に気を配りなか？ら活動しましょう。

科目名	身体表現論		
担当教員名	渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAg461		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園での身体表現の指導経験、身体表現の教育、研究を続けている教員が担当する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、学位授与方針 1, 2, 3 に該当します。幼児の身体表現について学んできた理論をもとに、自ら問いを見つけ探求し、且つ実践を通して考えを深めていきます。

科目の概要

体育基礎（身体表現）、保育内容の指導法（身体表現）をもとに、身体表現に関わる自分自身の能力の進展を図ります。また、幼児期の身体表現活動の中から興味関心のある事柄を見つけ、その中から問いをたて、探求し、考えを深めていきます。

授業の方法

体育館で実際に身体で表現する活動と、身体表現の理論を学ぶ講義、身体表現について考えを深める討議等多様な形態の授業を展開する。

到達目標

- 1、身体表現に関わる自分自身の能力を高めること
- 2、幼児期の身体表現に関わる興味関心から問いをたて、探求、考えを深めること
- 3、学んだ知識を実践へ、実践から得た知識を学びへと循環できるようになること

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 4 指導案作成・実践、 - 2 状況判断、 - 4 保育者の感性

内容

1	身体表現について：「からだは語る」「からだで語る」
2	創造的な身体表現活動 具体的なもの・ことから展開する
3	創造的な身体表現活動 抽象的なもの・ことから展開する
4	創造的な身体表現活動 グループ作品 創作（1）
5	創造的な身体表現活動 グループ作品 創作（2）
6	子どもの身体表現活動を考える 子どもの身体表現活動の実際
7	子どもの身体表現活動を考える 子どもの身体表現活動をとりまく課題
8	子どもの身体表現活動を考える 身体表現の育むもの～感性について～
9	子どもの身体表現活動を考える 身体表現の育むもの～からだについて～

10	子どもの身体表現活動を考える 身体表現の育むもの～想像と創造について～
11	模擬保育 身体表現活動の企画
12	模擬保育 身体表現活動の実施（１）
13	模擬保育 身体表現活動の実施（２）
14	模擬保育身体表現活動の振り返り
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業内に紹介した推薦書や参考図書を読んでおくこと。（90分）

【事後学修】授業内で扱ったことに対し、自分の考えや疑問を記す記録ノートを作成すること。（90分）

評価方法および評価の基準

平常点50%（グループワークへの貢献、授業に対する積極性、意欲、態度など）、レポート50%により、総合評価60点以上を合格とします。三分の二以上の出席で評価を受けることができます

【フィードバック】コメントは翌週以降、レポートは確認後、質問等に回答し返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】駒久美子、島田由紀子編著「コンパス保育内容表現」建帛社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	幼稚園教育実習総論		
担当教員名	上垣内 伸子、横井 紘子、桶田 ゆかり、向井 美穂 他		
ナンバリング	KAh362		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場での保育経験と指導的立場での現任者研修指導や実習指導の実務経験のある教員は、自身の保育実践と指導実績を活かした実習指導を行う。保育に関連する実務経験のある専任教員は、その経験や知見を活かした実習指導を行う。また、実習指導講師の保育経験と保育現場での実習指導の実績を活かした実践的な学びを行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）で「フィールドワーク（実習）」領域に位置づけられる、幼稚園における教育実習の事前事後指導のための科目である。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための実習（「幼稚園教育実習」）を行う際には、必ず本科目を併せて履修することが求められる。

科目の概要

実習前には、実習を行う幼稚園の組織、保育形態、今回行う実習の目的・目標などの理解を促し、実りある実習をめざす。そのために、実習に求められる様々な知識や技能が習得されているか、幼児理解、保育者の役割の理解などを確認する。実習後は、保育日誌などの記録を基に考察・討論し、保育者を目指す自己の保育行為の評価と課題の明確化をめざす。

授業の方法（ALを含む）

教材や事前課題はLivecampusで提示し、事前学習及び振り返りができるようにする。

自己課題を設定して、教材研究や指導計画作成に積極的に取り組む。仲間とのディスカッションや共同学習を通じて、集団の知によって保育理解を深めたり、新たな視点や知見を獲得することに努める。

模擬保育やロールプレイなど、実際に保育場面を想定して動きながら、援助のポイントを理解する。

事前学習のために実習園を訪問し、園環境を確認したり現場指導者の話を聞く。

事後指導では、責任実習のロールプレイを含めた発表を行ったり、現在社会と保育の課題、保護者・地域・他の専門職との連携などについてレポートを作成して考察する。

【リアクションペーパー】【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【ロールプレイ】【模擬授業】【フィールドワーク】【創作、制作】

到達目標

1. 実習に必要な事前学習と準備を通して獲得した、実習に必要な知識を整理して記し、説明することが出来る。更に、実践に活かすための方略についても工夫し、説明することが出来る。

2. 実習に必要な指導計画や教材を作成することができる。更にその適切性について、説明することが出来る。また、実際に操作することや表現することが出来る。

3. 実習後に自己の保育行為を評価し、課題を明確化して発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 指導案作成・実践
- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 3 社会的事象への関心

内容

(1) 事前指導（参加観察実習）

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（知識）】【模擬授業】【実技】【創作】【フィールドワーク】

学内での担当教員による実習の目的・目標、内容等に関わるオリエンテーション

DVDで幼稚園の一日をイメージし、個々の保育場面に必要な援助のポイントを検討する

絵本などの教材研究を行い、部分実習の指導計画を立て、グループディスカッションと発表を通して洗練させていく。

指導計画を作成し、模擬保育を行って、保育技術の向上と援助に対する理解を深める。

実習園園長・実習担当者を学内に招聘しての特別講義

実習園に出向いての、園長・実習担当、担任等によるオリエンテーション

園の周辺環境の自己調査と把握、環境特性の理解

(2) 事後指導（参加観察実習）/事前指導（総合実習）

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【ロールプレイ】【実技】【創作】【フィールドワーク】【プレゼンテーション】

クラス全体、グループ、実習園別、担当年齢別、個別面談等、様々な規模と形態での話し合いを重ねながら、1週間の参加観察実習を振り返り、実習に関する自己評価を行うと共に、総合実習に向けての課題を設定し、それに向けての準備に取り組む。

総合実習において取り組む指導案作成、責任実習のために、これまでに学んできた知識・技術の確認と、保育日誌等を基にした保育対象である子ども・子ども集団の理解に努める。

実習園にて、総合実習に関するオリエンテーションを受ける

(3) 事後指導（総合実習）

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【ロールプレイ】【プレゼンテーション】

実習園においての実習の総括としての反省会

学内での実習報告、これから実習を行う下位学年に向けての発表と話し合いを通して、自分にとっての実習成果は何かについて考える

自己の成長部分、努力が現れた取り組み、反省点などを踏まえて自己評価を行う。

事前指導では、幼稚園教育の基本となる考え方、子どもの生活実態、発達特性など保育実践の土台となる知識を整理し、これまでの実習体験や保育シュミレーションなどを通して、保育者としての自己課題を明確にすること、指導計画作成、教材研究など、実習に向けての具体的準備を行うことに取り組む。

自分の保育を振り返って反省し、主体的に評価を行うことが、保育実習後に学内で行う事後指導の要点である。保育実習日誌などの記録を手がかりにして、自己の対象理解と保育行為について、クラスの仲間や指導教員と話し合い、更なる保育実践力の向上に向けて踏み出す契機とする。

なお、実習時期に応じ、「保育実習総論」にて事前指導を行ったり、後期には保育実習、施設実習の事後指導を行うこともある。

【事前予習】1～2時間。実習先の特性の理解を進め、保育援助や環境構成、教材に関する研究および指導計画の作成を行う。

【事後学修】1～2時間。実習後の自己課題を明確にし、各自の課題について達成目標を設定して改善向上に取り組む。

評価方法および評価の基準

学内外での実習指導への参加状況(50%)、課題の作成、レポート等の提出(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2. 参加状況(20%/50%)、課題作成、レポート提出(20%/50%)

到達目標3. 参加状況(10%/50%)、課題作成、レポート提出(10%/50%)

【フィードバック】授業内課題は確認、評価を行い返却する。不十分なものについては、再提出を課す。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他、授業時に指示する。

【推薦書】新版 遊びの指導・幼少年教育研究所編著 (同文書院)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業を欠席した場合には、必要に応じて補講時間を設けるので、必ず参加して欲しい。実習の事前課題の提出がなされなかったり、欠席が多く、実習を行うための準備が不足していると判断される場合には、予定期間での実習を中止する可能性がある。

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	桶田 ゆかり、上垣内 伸子、横井 紘子、山田 陽子 他		
ナンバリング	KAh463		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として保育の質の向上や人材育成に携わってきた教員が担当し、保育実践や協働などについての事例を活用し、グループワークを取り入れながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科の学科専門科目「フィールドワーク」であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための最終の現場における総合的実習である。実習事前事後指導のための「幼稚園教育実習総論」を同時履修することが求められる。

科目の概要

本学科が指定した実習園にて、4週間の教育実習を行う。

授業の方法（ALを含む）

保育観察、保育参加、保育計画の立案、教材研究、部分実習、責任実習を行う。【実習】

到達目標

1. 幼稚園教育の実践を理解し、これまでの専門的学習成果や保育技術を与えられた保育条件のもとで発揮することができる。
2. 社会人、職業人としての基礎的常識、行動の仕方を身に付け、実践することができる。
3. 幼児についての深い共感と洞察に基づいて保育の省察をし、よりよい保育実践の改善への手立てを考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践・指導法
- 2 状況判断性
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

実習期間は参加観察実習1週間（3年次後期）、総合実習3週間（4年次前期）に分けられる。

実習中は毎日実習日誌を書き、幼児集団を指導する部分実習（数回）および責任実習（1～2日）を行う。

部分実習・責任実習においては指導計画を作成し、実習担当保育者から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

実習に臨むための要件は、「履修の手引き」と「実習の手引き」参照のこと。

実習内容の詳細は、「実習の手引き」を参照のこと。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習先の特性の理解を進め、保育援助や環境構成、教材に関する研究および指導計画の作成を行う。翌日の保育について考える。実習終了後に事後学習と予習に2～3時間をあてる。

【事後学修】その日の保育実践を振り返り、実習日誌を作成する。実習後の自己課題を明確にし、各自の課題について達成目標を設定して改善向上に取り組む。

評価方法および評価の基準

実習指導園に実習ごとに評価をいただき、それを参考に実習担当教員が評価する。評価の観点は「実習の手引き」に示してある。実習日誌、事前事後指導における出席、提出物等も評価対象になる。

総合して60点以上を合格とする。

【フィールドバック】

実習日誌は、提出後に担当教員がコメントを書き、1ヶ月を目途に返却する。その後、事後指導とし授業内で活用する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育実習総論に準じる。

その他は、実習授業開始時に指定する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育実習総論		
担当教員名	曾野 麻紀、権 明愛、上垣内 伸子、横井 紘子 他		
ナンバリング	KAh364		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

専任担当教員は保育・幼児教育、障碍児保育・教育、心理相談、社会福祉事業の実務経験を有する。その経験や知見を活かした実習指導を行う。実習指導講師は保育経験と保育現場での実習指導の実績を活かして、個別の実習事前指導及び教材研究の指導を行う。また、実習園の園長と実習指導担当主任教諭による特別講義を行い、実習に対する具体的なイメージを持つことと、実習に向かう意欲を高める。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目の「フィールドワーク（実習）」に位置づいており、保育士資格取得希望者を対象とした選択必修科目である。本科目は、「保育所保育実習」「施設実習」の履修者の実習事前事後指導を目的とする。「保育所保育実習」「施設実習」と同時履修とする。幼稚園教諭免許状のみの取得希望者も共通の内容があるため受講する必要がある。将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌や保育指導計画等の書き方などを指導する。また、グループ学習等を振り返り、その話し合いを通して経験を共有することで学びを深める。

授業の方法（ALを含む）

事前指導及び事後指導に取り組む。教材や課題はlivecampusで提示し、実習施設の役割や保育者の役割及び支援について理解する。事後指導では、自身の実習体験及び他の学生の実習体験から、保育者としての役割と支援について理解していく。

【リアクションペーパー】【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【グループディスカッション】【討議・討論】【創作、制作】

到達目標

1. 実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習となる。そのことを理解し、授業に積極的に参加しながら発展的学習・課題を行うことができる。
2. 子どもや施設利用児・者の理解と人権尊重等について、保育の場・保育実践をより多角的に理解することができる。
3. 実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力を養うことができる。
4. 保育者となる上での自己課題を明確にし、その課題に向き合う姿勢を持つことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4指導案作成・実践
- 5保護者・地域・他の専門性との連携の理解
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業は講義とグループワーク、ディスカッション、個人指導を取り入れながら学びを深めていく。

【前期の主な授業内容】

- <「保育所保育実習」「施設実習」の事前指導>
- ・授業概要とスケジュール/各実習の目的と方法
- ・実習内容、実習生としての心構え/人権尊重及びプライバシー保護と守秘義務
- ・乳幼児への援助のあり方
- ・実習日誌/指導案/実践演習
- ・実習施設別のグループワーク
- ・個別指導

【後期の主な授業内容】

- <「保育所保育実習」「施設実習」の事前事後指導>
- ・授業概要とスケジュール/各実習の目的と方法
- ・実習後の振り返り(グループディスカッション、個別指導)
- ・実習課題(自己課題/保育課題)の確認
- <「幼稚園教育実習」への展開>
- ・「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え、実習内容の確認
- ・幼児期の発達による教材研究や指導のねらい、留意点
- ・実習日誌の意義と書き方/指導案/模擬保育

毎回『実習の手引き』を持参すること

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1~2時間以上 資格・免許取得に関わる専門科目における学び、乳幼児期の発達、施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。

【事後学修】1~2時間以上 実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況(50%)や課題提出(50%)などから総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2. 参加状況(25%/50%)、課題作成、レポート提出(25%/50%)

到達目標3,4. 参加状況(25%/50%)、課題作成、レポート提出(25%/50%)

【フィードバック】

授業内課題は確認、評価を行い返却する。不十分なものについては、再提出を課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<教科書>

阿部・増田・小櫃編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

授業時には『実習の手引き』を必ず持参すること。

その他、授業時に指定する。

<参考書>

最新保育資料集 子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説 / 保育所保育指針解説書 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育実習総論		
担当教員名	向井 美穂、山田 陽子、権 明愛、上垣内 伸子 他		
ナンバリング	HAh464		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

実務経験のある専任教員は、その経験や知見を活かした実習指導を行う。また、実習指導講師の保育経験と保育現場での実習指導の実績を活かした実践的な学びを行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目の「フィールドワーク (実習)」に位置づいており、保育士資格取得者を対象とした選択必修科目である。本科目は「保育所保育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。履修条件として、「保育所保育実習」及び「施設実習」を履修していることを前提とする。

将来、保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

科目の概要

保育所保育実習の目的を踏まえ、これまでの実習体験を振り返り、自らの課題を明確にし、実践力を培うための実習方法の確認をする。具体的な保育計画やそのために必要とされる保育者としての動きを考え、保育者としての自覚を養う。また、実習後の学びにおいては、グループ学習や話し合い、プレゼンテーション等により実習を振り返り、自身の学びを共有する。保育者としての専門性について自覚し、自己の学びを深化させる。

授業の方法 (ALを含む)

教材や事前課題はLivecampusで提示し、事前学習及び振り返りができるようにする。リアクションペーパー・プレゼンテーション・グループワーク等多様な方法にて学ぶ。【リアクションペーパー】【レポート (知識)】【グループワーク】【討議】【プレゼンテーション】

到達目標

- ・授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などを持つことができる。
- ・保育者となる上での自己課題を明確化し、その課題に向き合うための力を持ち続けることができる。
- ・自己課題を明確にし、その課題に向き合う姿勢を持つことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 指導計画作成・実践
- 3 保育者としての思考力・判断力
- 5 問題意識、課題に取り組む姿勢

内容

講義とグループワーク、ディスカッション、個人指導等で、展開する。

<事前指導>

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習の目的と実習内容の確認
- ・自己課題の明確化
- ・実習先の特性の理解
- ・実習計画の作成
- ・実習生としての心構え
- ・実習日誌 / 指導案 / 実践演習
- ・個別指導

「保育所保育実習」では、原則実習先が同じであることから、「保育所保育実習」の実習経験を踏まえて、「保育所保育実習」の目的の明確化をし発展的な学習を目指す。また、特定のクラス(原則3歳未満児クラス)で責任実習(または部分責任実習)を実践するための自己課題を明確化する。

<事後指導>

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習後の振り返り(グループディスカッション、個別指導)
- ・実習課題(自己課題/保育課題)の確認
- ・個別の実習体験を全体で共有化

保育実習と幼稚園教育実習に内容がまたがる場合、保育士資格あるいは幼稚園教諭免許状のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習総論」とあわせて受講することが望ましい。

なお、実習時期に応じ、「幼稚園教育実習総論」にて事後指導を行うこともある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを振り返り、確認しておくこと。[1時間程度]

実習の手引きを確認しておくこと。

【事後学修】授業内での学びを自己の学びと結びつけて深化させること。また、授業課題、実習記録、ディスカッション、面談などを通して得られた自己課題を明確にすること。[1時間程度]

評価方法および評価の基準

授業への参加状況(50点)や課題提出(50点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示を行う

【参考図書】

「保育実習総論」で指定する教科書

最新保育資料集 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育実習総論		
担当教員名	鈴木 晴子、潮谷 恵美		
ナンバリング	KAh464		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

実務経験のある専任教員は、その経験や知見を活かした実習指導を行う。また、実習指導講師が保育経験と保育現場での実習指導の実績を活かして、子どもの生活や遊びに関する個別指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「フィールドワーク（実習）」に位置付けられた選択科目であり、保育士資格取得者を対象とした選択必修科目である。実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習となる。本科目は「施設実習」履修者の実習事前・事後指導を目的とする。

履修条件として、「保育実習総論」、「保育所保育実習」及び「施設実習」を履修していることを前提とする。

将来、施設保育者を目指す学生が受講することが望ましい。

科目の概要

施設実習の実習目的を踏まえ、これまでの実習体験を振り返り、自らの課題を明確にし、実践力を培うための実習方法の確認をする。具体的な支援展開や保育者・施設職員との関係などのシミュレーションを行うとともに、自分の長所短所を客観視し、専門家としての自覚を養う。また、実習終了後には実習報告を行い、話し合いやプレゼンテーションを通して経験を共有し、可視化する中で専門職としての専門性を習得する。

授業の方法（ALを含む）

事前指導及び事後指導に取り組む。教材や課題はlivecampusで提示し、実習施設の役割や支援内容を理解していく。事後指導では、自身の実習体験及び他の学生の実習体験から、保育士としての役割と支援について理解していく。【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【プレゼンテーション】【討議】【グループワーク】

到達目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解し、説明できる。
2. 実習やこれまでの学びの関連性を踏まえ、保育の実践力を習得し、支援の意図を説明できる。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解し、言語化できる。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解し、説明できる。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 1 子どもの人権尊重
- 5 表現・コミュニケーション

内容

< 「施設実習」の事前指導 >

毎回、【リアクションペーパー】に取り組む。

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習生としての心構え
- ・実習の目的と実習内容の確認
- ・実習先の種別及び特性の理解【レポート（知識）】【プレゼンテーション】
- ・実習計画の作成【グループワーク】【プレゼンテーション】
- ・実習日誌の活用方法 / 指導計画の立案 / 実践演習【討議】
- ・個別指導

< 「施設実習」の事後指導 >

毎回、【リアクションペーパー】に取り組む。

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習後の振り返り【討議】【グループワーク】
- ・実習課題（自己課題 / 保育課題）の確認【討議】【グループワーク】
- ・実習報告会の開催【プレゼンテーション】
- ・個別指導

保育実習と幼稚園教育実習に内容がまたがる場合、保育士資格あるいは幼稚園教諭免許状の片方だけの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習総論」とあわせて受講することが望ましい。

尚、実習時期に応じ、「幼稚園教育実習総論」にて事後指導を行うこともある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業資料は事前にWEB-UPする。内容に応じて、これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。実習施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。これらを1時間程度行う。

【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。1時間程度行う。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（50点）や受講ノートの提出と内容、課題提出（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 授業への参加状況（10/50）、受講ノートの提出と内容、課題提出（10/50）

到達目標2. 授業への参加状況（10/50）、受講ノートの提出と内容、課題提出（10/50）

到達目標3. 授業への参加状況（10/50）、受講ノートの提出と内容、課題提出（10/50）

到達目標4. 授業への参加状況（10/50）、受講ノートの提出と内容、課題提出（10/50）

到達目標5. 授業への参加状況（10/50）、受講ノートの提出と内容、課題提出（10/50）

[フィードバック] 受講ノートの返却とそれに基づいた振り返りを翌週授業に実施する。また、授業課題は提出後に返却をし、助言を行う。不十分なものについては、再提出を課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

「保育実習総論」で指定した教科書

「ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2020」 中央法規

【参考図書】

最新保育資料集2020 ミネルヴァ書房

保育用語辞典[第8版] ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

事前指導及び事後指導において、毎回、実習の手引きを活用します。自らの学びの目的と身長評価をしながら進めてきましょう。

科目名	保育所保育実習		
担当教員名	曾野 麻紀、権 明愛、山田 陽子、向井 美穂 他		
ナンバリング	KAh365		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

専任担当教員が、保育・幼児教育、障害児保育・教育、心理相談、社会福祉事業の実務経験を持っており、実務経験のある専任教員は、その経験や知見を活かした実習指導を行う。

元公立保育園園長、元公立幼稚園主任経験を有する実習講師が、個別の実習事前指導及び教材研究を含む実習指導を行う。保育士として活躍する卒業生を特別講師に呼び、保育現場での自身の仕事や実習生へのアドバイスを行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目「フィールドワーク（実習）」に位置づいており、保育士資格取得のための選択必修科目である。原則事前事後指導に当たる「保育実習総論」と、そして「施設実習」と同時履修が必要。さらに4年次に「保育所保育実習」もしくは「施設実習」を選択履修し、保育実習総論と同時履修すること。本科目の履修は、本学科が作成している「履修の手引き」の内容を踏まえ、実習配属の要件を満たしているものに限る。今まで習得した座学の内容を踏まえ、実践的にそして発展的に学びを深める。

科目の概要

原則3年次に約2週間、保育所で実習を行う。保育所における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1~2日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達と保育のあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺的な仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に大事である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

授業の方法（ALを含む）

配属先の担当保育者の指導のもと、実習プログラムに沿って、保育観察、保育参加、保育計画の立案、教材研究、部分責任実習を行う。実践、記録、省察、自己評価、次の課題の設定する経験を繰り返しながら学ぶ。【実習】

到達目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つける。

以下4点を本実習の目的とし、自己課題に取り組む。

1. 保育者の援助等の意図、保育環境の構成などを読み取り、実際にかかわりながら生活の中の様々な養護および教育について学ぶことができる。また、保育を支える全般的な実務の体験を通して理解することができる。
2. 子どもの心身の発達および子ども同士の関係性、保育者との関係性を踏まえながら、子ども理解に努めるよう実際にかかわりながら学ぶことができる。
3. 保育者間の連携に努めながら、実習先の職員と連携・協働できるようなコミュニケーション能力と技能を育むことがで

きる。

4. 保育所の「保育士」の役割や保護者支援など保育所の社会的意義について具体的に理解することができる。

保育実習（4年次）の実習に備えて園の保育内容を理解し、次の実習のためにどのような準備をする必要があるかを細かく理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育実践

-2状況判断

-5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

< 保育所保育実習 の主な内容 >

実習施設の概要の理解

保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）

乳幼児の発達

保育課程・指導計画の理解

多職種職員の連携によるチームワークの実情

家庭・地域の連携

保育方法と保育技能の理解と習得

安全・危機管理

疾病予防や健康維持を図る配慮

保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をすること。なお、4年次に保育所保育実習を選択した場合は、保育所保育実習と原則同じ施設での実習となりより発展的学習を目指す。

実習の事前事後指導にあたる「保育実習総論」との同時履修が望ましい。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前事後指導の授業前には1時間前後の時間を利用してこれまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。

乳幼児に対する専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。

【事後学修】事前事後指導の授業において実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。事前事後指導の授業後の1時間前後の時間を利用し、学びを深める。

評価方法および評価の基準

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受ける。評価表は「実習生としての姿勢」、「援助に関する事項」、「保育士への志向性」の3つの項目ものもとに細分化した項目各4個、さらに「総合評価」、「所見」で構成されており、「所見」以外は5段階評価と概要を記入していただく。加えて、事前指導（主に「保育実習総論」）、日誌の内容を踏まえて、実習目標に達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えを行う。学生へのフィードバックは、保育実習総論の授業時間内並びに必要なに応じて設定する個別面談等にて実習先からの評価、実習担当教員からの評価

等について伝えることとする。総合して60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習の手引

<教科書>

阿部・増田・小櫃編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

履修にあたっては、本学科「履修の手引き」をよく確認すること。特に、履修、実習配属の要件があることに注意すること

。

科目名	保育所保育実習		
担当教員名	向井 美穂、権 明愛、山田 陽子、上垣内 伸子 他		
ナンバリング	KAh465		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

実務経験のある専任教員は、その経験や知見を活かした実習指導を行う。また、実習指導講師の保育経験と保育現場での実習指導の実績を活かした個別及びグループでの実践的指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、「フィールドワーク (実習)」である。保育士資格取得のための実習として、必修の「保育所保育実習」「施設実習」のほかに、この「保育所保育実習」または「施設実習」のいずれかを履修する必要がある。保育所における実習体験の拡充を図るものは当該科目を選択する。「保育所保育実習」「施設実習」「保育実習総論」を履修後に取り組み実習である。保育士資格取得の為の現場における最終の総合的実習である。実習の事前事後指導のための「保育実習総論」を同時履修する事が求められる。

科目の概要

今までの実習の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。「保育所保育実習」の実習経験と「保育所保育実習」の実習の連続性を意識し、2週間の実習内容に関する計画を立て、発展的保育実習を行う。

授業の方法 (ALを含む)

実習園で約2週間の保育実習を行う。保育計画の立案、教材研究、部分実習・責任実習を行う。原則、3歳未満児のクラスを中心とした実習を行う。【実習】

到達目標

1. 保育所の実践を理解し、これまでの専門的学習成果や保育技術を与えられた保育条件の下で発揮することができる。
2. 保育者としての基礎的常識、行動の仕方を身につけ、実践することができ、実習先からも同等の評価を得られている。
3. 子どもへの深い共感と洞察に基づいて保育を省察し、よりよい保育実践為の改善への手立てを考えることができる。
4. 保育者としての、自己課題・保育課題を明確化することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育内容・指導
- 2 状況即応性
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

「保育所保育実習」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

保育全般に参加し保育技能を習得する

子どもの個人差に応じた援助を理解する
多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
指導計画の立案と実践（責任実習）
家族や地域社会との連携を学ぶ
保育者の倫理について理解する
保育への自己課題の明確化
保育実習の総括

事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。

責任実習（一日または半日の保育、または部分）は指導案を作成し、実習担当保育者から指導を受けることとする。

実習に臨むための要件は、「実習の手引き」及び「履修の手引き」参照のこと。

実習内容の詳細は「実習の手引き」参照のこと。

原則保育所実習と同じ施設で行い、2週間（土曜を含む）とする。

実習時期は原則4年生の夏季にておこなうこととする。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】[保育所保育実習]の内容を振り返り、自己課題を明確にしておくこと。実習先の特性の理解を進め、保育援助や環境構成、教材に関する研究及び指導案の作成を行う。翌日の保育の準備を行う。【事後学修】その日の保育実践を振り返り、実習日誌を作成する。実習後の自己課題を明確にし、翌日の目標を設定して、改善向上に取り組む。

事前学習と実習終了後の事後学習と併せて2～3時間をあてる。

評価方法および評価の基準

実習先の保育所による評価を得た後、実習担当教員が総合的な評価をおこない、60点以上を合格とする。評価観点は「実習の手引き」を参照のこと。また、実習日誌、事前指導及び事後指導への取り組み、必要提出書類の状況等も評価対象となる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【参考図書】保育実習総論 に準じる

その他、必要に応じて適宜提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

4年間の学びの最終時期での実習です。自己課題を明確にし、主体的に学ぶことを目指しましょう。

科目名	施設実習		
担当教員名	潮谷 恵美、鈴木 晴子、権 明愛、向井 美穂 他		
ナンバリング	KAh366		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

担当教員が保育・幼児教育、障害児保育・教育、心理相談、社会福祉事業等に携わってきた実務経験を活かし、学生の事前事後指導、訪問指導と配属実習先の施設職員との連携を行う。又、配属実習中には保育士資格を持つ各実習先福祉施設職員から保育実践の指導を学生が受ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 本科目は学科専門科目「フィールドワーク（実習）」に位置づく選択科目である。保育士資格取得のための必修科目であり、資格取得には「保育所保育実習」とともに必ず履修しなければならない科目の1つである。同じく保育士資格必修科目「保育実習総論」は本実習の事前事後指導の科目にあたり、原則同時履修とする。これら3科目の修得後、発展としてさらに4年次に「保育所保育実習」もしくは「施設実習」を選択履修することも資格取得に必須である。本科目の履修は本学科が作成している「実習の手引き」の内容を踏まえ、実習配属の要件を満たしているものに限る。

科目の概要 3年次に保育所を除く児童福祉施設、障害者支援施設等で、11日～12日間（実実習時間90時間）の実習を行う。宿泊実習が原則となっている。施設における支援を行う保育士として必要な資質を、実践を通して体験的に学び、養う。

授業の方法（ALを含む）

配属先の担当職員の指導のもと、実習プログラムに沿って、実践、記録、省察、自己評価、次の課題の設定する経験を繰り返しながら子どもや利用者への関わり方、支援の習得に向かっていく。【実習】

到達目標

本実習は児童福祉施設等の理解、施設における子どもや利用者に対する保育者の役割、方法、技術等について、これまで講義や演習等で学習してきた知識、技術、価値等を基礎とし、実際の現場で実践を通して総合的に理解し、児童福祉施設等における基礎的な保育、支援の実践力を習得することをめざすものである。

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、以下の4点を本実習の目的とし、自己課題に取り組む。

- 1 施設実習園の理解を踏まえて、児童や利用者の方と共に生活し実習することにより、児童福祉施設・社会福祉施設の役割や社会的意義、子どもの権利の尊重について体験的に理解したことを説明、記述できる。
- 2 施設内で取り組まれている日常生活に関わる基本的な援助技術等を具体的に学び、実践できる。
- 3 施設を利用している児童や利用者との関係の形成と、子どもの権利を尊重した適切な関わりを実践できる。さらに実践の自己の課題を確認できる。
- 4 施設で働く保育士の職務や役割、他職種との連携を具体的に理解し、説明、記述できる。さらに基本的な部分については指導を受け、実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育実践 - 1 子どもの人権尊重 - 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

「実習の手引き」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

「事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 刈込報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導（学内反省会） 個別指導（評価表にそって）」の流れに則って進める。

実習の事前事後指導を行う「保育実習総論」との同時履修が望ましい。

<学内での事前指導>

施設実習は施設の種類の多様で、実習時期の幅も広いいため、全体指導の他にグループ指導および個別指導を行い、実習に向けての心構えをし、準備を行う。主として「保育実習総論」の授業内で行う。加えてそれ以外の時間を設定することもあ

<施設での実習内容>

主な実習内容は次の2点。その他については施設の種類や対象年齢、施設実習園の方針等によって異なる。

日常生活全般の流れに沿って環境を整え、集団生活の中での基本的な生活習慣や社会性を個々に応じた計画に基づいて支援する。

食事、排泄、入浴、着脱衣の生活処理能力としてのADL(日常生活動作)の自立を支援し、必要な援助を行う。

・実習後、日誌を書くことによって保育体験の中身を自分自身で振り返ることと、実習指導者から反省会等の場で直接指導を受けたり、日誌への講評を頂いたりする過程で、日々の実習での学びを積み重ねていく。

<学内での事後指導>

実習全般を振り返り、グループ指導の中で各自が自分の実習を振り返りつつ互いの経験を共有して、これからの保育の学びの糧にする。必要に応じて個別指導も行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】「保育実習総論」での学習とこれまで習得してきた保育士資格取得に関わる学びを確認する。施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項等を学習し、実習先調べのレポート、実習計画等を作成する。1時間30分程度もしくはそれ以上の事前学習時間を要する。

【事後学修】実習中は毎日実習終了後、実習日誌の記録を行う。実習期間終了後には実習全体の振り返りを記録する。その他提出課題等に取り組み、実習の成果と課題を明確にする。1時間30分程度もしくはそれ以上の事後学習時間を要する。

評価方法および評価の基準

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受ける。評価表は「実習生としての姿勢」、「援助に関する事項」、「保育士への志向性」の3つの項目ものもとに細分化した項目各4個、さらに「総合評価」、「所見」で構成されており、「所見」以外は5段階評価と概要を記入していただく。加えて、事前指導（主に「保育実習総論」）、日誌の内容を踏まえて、実習目標に達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えを行う。学生へのフィードバックは、保育実習総論の授業時間内並びに必要なに応じて設定する個別面談等にて実習先からの評価、実習担当教員からの評価等について伝えることとする。総合して60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキストは使用する。書名、購入方法は授業内で指導する

【参考書】「保育者のための児童家庭福祉データブック2019」一般社団法人全国保育士養成協議会監修 / 西郷泰之、宮島 清編集、中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

履修にあたっては、本学科「履修の手引き」をよく確認すること。特に、履修、実習配属の要件があることに注意すること

。

科目名	施設実習		
担当教員名	鈴木 晴子、潮谷 恵美、権 明愛、向井 美穂 他		
ナンバリング	KAh466		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

担当教員が保育・幼児教育、特別支援教育、心理相談、社会福祉事業等に携わってきた実務経験を活かし、学生の事前事後指導、実習訪問指導と実習配属先の施設職員との連携を行う。又、配属実習中には保育士資格を持つ各実習先福祉施設職員から保育実践の指導を学生が受ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科専門科目「フィールドワーク（実習）」に位置付けられた選択科目であり、保育士資格を取得するためには、必修の実習である「保育所実習」「施設実習」に加えて、「保育所保育実習」あるいは「施設実習」のいずれか1つを履修する必要がある。原則として、施設（保育所以外）における拡充を図る場合は「施設実習」となる。実習の事前事後指導にあたる「保育実習総論」との同時履修が望ましい。本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要

施設実習は、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけており、「施設実習」で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標としている。

授業の方法（ALを含む）

実習配属先の担当職員の指導のもと、実習プログラムに沿って、実践、記録、省察、自己評価、次の課題の設定する経験を繰り返しながら子どもや利用者への関わり方、支援の習得に向かっていく。【実習】

到達目標

本実習は児童福祉施設等の理解、施設における子どもや利用者に対する保育者の役割、方法、技術等について、「保育実習総論」とこれまでの講義や演習等の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、本実習の目的に向けた実習計画を立てて臨む。実習を通して、生活を共にすることで自身の保育観を見つめ直し、支援対象者のニーズを捉えた援助の実践を目指す。実習においては、「事前指導 実習 事後指導」という一連の流れの指導を受けて実習として認められる。実習の目的は以下4点である。

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解し、説明、記述できる。
2. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践を学び、実践できる。
3. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養い、説明、記述できる。
4. 保育士として自己の課題を確認できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 1 子どもの人権尊重
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。【実習】

実習先を自己開拓することが求められる。実習配属にあたっては、受け入れ先との交渉、その他の実習スケジュールとの関係も考慮する必要がある。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。

実習先を自己開拓するにあたっては、以下5点について整理した上で検討することが必要である。

施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する。

子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する。

実習施設の生活環境などを理解する。

子どもたちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する。

施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する。

また、施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めていくこと。さらには実習先によっては障害に関する専門的知識を有していることが必要とされる。よって、実習先に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨むことが求められる。

実習では、「施設実習」で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが臨まれる。

実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障害に対する見方等についても振り返ることが求められる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】既習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。1時間半程度行う。

【事後学修】実習中は実習日誌を作成し、実践を振り返る。実習後は、実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。1時間半程度行う。

評価方法および評価の基準

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受ける。評価表は「実習生としての姿勢」「援助に関する事項」「保育士への志向性」の3つの項目に細分化した項目各4個、さらに「総合評価」「所見」で構成されており、「所見」以外は5段階評価と概要を記入いただく。加えて、事前指導（主に「保育実習総論」）、実習日誌の内容を踏まえて、実習目標を達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えを行う。総合して60点以上を合格とする。

[フィードバック]基本的に保育実習総論の個別面談等にて、実習評価、実習担当教員からの評価等について伝え、自己成長と自己課題の支援を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]「保育実習総論」の指定教科書

「保育者のための児童家庭福祉データブック2020」中央法規

[参考書]「最新保育資料集2020」ミネルヴァ書房

その他、実習先に応じて適宜個別に指示をする

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

履修にあたっては、本学科「履修の手引き」をよく確認すること。特に、履修、実習配属の要件があることに注意すること

。

科目名	保育インターンシップ		
担当教員名	上垣内 伸子、横井 紘子、桶田 ゆかり、山田 陽子 他		
ナンバリング	KAh567		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ほとんどの専任担当教員が保育・幼児教育、障害児保育・教育、心理相談、社会福祉事業の実務経験、指導経験を有する。その経験や知見を活かした実習指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「フィールドワーク (実習)」領域に位置づけられる学科専門科目 (選択科目) である。免許・資格習得にかかわらない学生の自発的な選択による幼稚園、保育所などの児童福祉施設、その他における実習の科目であり、学生の主体的な取り組みが期待される。明確な実習課題を持っている場合に履修を認める。学科が実習先とのインターンシップの取り決めを結んだ上で、保育者としての責任とチームの一員としての自覚をもって実践に臨む。希望者は、履修登録前に、実習課題および実習計画書を担当教員に提出し、事前の相談を行った上で履修登録を行う。

3 年次および 4 年次の前期オリエンテーション時に履修希望調査を行うほか、個別相談も受け付ける。時間をかけて準備をして意欲を持ってインターンシップとしての保育実践に臨んでもらいたい。

科目の概要

保育実践を必要とする発達研究、保育方法・保育内容に関する研究、保育者となるための保育実践力の向上などを目的とするインターンシップとしての性格を持つ実習である。現場指導者と科目担当者から指導を受けながら、1年間または一定期間の現場実習と実践記録の作成、それに基づく省察を深める。

授業の方法 (ALを含む)

自分が行いたい実習の計画書を作成して指導担当教員と面談し、実習目標、実習内容、実習施設、期間などを決める。実習施設と交渉し、大学と実習先の指導担当者が連携して指導計画を策定する。実習生は事前訪問にて自身の実習計画を伝え、指導を受けながら実習を行う。2 単位の実習科目なので、2 週間程度の実習となる。毎回の実収後に記録を作成し、保育現場と大学の担当者の指導を受ける。

【実習】【インターンシップ】【レポート (表現)】

到達目標

- ・受講生自身が実習計画を作成することができる。
- ・設定した実習計画に基づいた実習と実習後の省察を行うことができる。
- ・実習記録や指導計画を作成し、保育スキルの熟達と深い洞察ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3保育者の思考・判断 -3社会的事象への関心 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

実習にあたっては、実習担当者に実習課題および実習計画の概要レポートを提出する。実習中は実習日誌を毎日実習先に提出し、実習後は、実習前に提出したレポートをもとに考察レポートを作成し、実習先と大学双方に提出する。

実習先は、実習目的に合う実習先を担当教員と相談のうえで決めることとするが、目的によっては出身地の園や施設などを自己開拓することもすすめる。

実習方法および実習時期は、授業に支障のないように実習生と実習先との話し合いによって決め、実習目的、実習先の状況等により、次のいずれかの方法をとることができることとする。

毎週1日実習（12日程度）の実習

2週間継続実習

1週間ずつの分割実習

および の組み合わせ

インターンシップとしての性格をもつ実習であり、実習担当教員と現場での実習指導担当者が連携して指導に当たり、実習生と三者での話し合いを通して、実習課題の探求および保育実践力向上に資する実習となることを目指す。

【実習】【インターンシップ】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1～2時間。実習先の種別および特性の理解をすすめる、実習計画の作成を行う。

【事後学修】1～2時間。実習後の自己課題を明確にし、その改善向上に取り組む。

評価方法および評価の基準

実習先からのコメント、および提出されたレポートと実習日誌、学内での実習指導参加状況とし、総合評価60点以上を合格とする。

実習記録（日誌）を確認し、講評を記入して返却し、その内容に基づく指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各実習によって異なるので、受講生と相談して決める。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育・教職実践演習		
担当教員名	向井 美穂、上垣内 伸子、大宮 明子、長田 瑞恵 他		
ナンバリング	KAj568		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育に関わるさまざまな現場での実務経験のある専任教員及び外部講師が、その経験や知見を活かした講義及び演習（グループワーク）を展開する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、「総合」領域に位置づけられている。また、保育士資格・幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。保育実習・教育実習を含め、教職にかかわるすべての科目を履修後、4年次後期に履修する。今までの学びを総合的に振り返り、保育者としての自己課題や目指すべき姿・目標を明確にすることが求められる。

科目の概要

保育者（幼稚園教諭、保育士）を目指す「学びの軌跡の集大成」として、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、幼児教育・保育を担っていくために必要な演習を行う。

授業の方法（ALを含む）

1)使命感や責任感、教育的愛情、倫理等に関する事項 2)社会性や対人関係能力に関する事項 3)子どもやその家庭の理解や学級経営、職員間の連携、関連機関との連携に関する事項 4)保育内容等の指導力や子育て家庭に対する支援の展開に関する事項で構成される。

(1)保育の今日的課題に関する講義(2)「現地調査」：保育現場等に出向き調査活動や情報の収集を行う(3)グループ学習：模擬保育・ロールプレイ・事例研究等、多様な方法で学習する。

【グループワーク】【レポート（表現）】【ロールプレイ】【模擬保育】【フィールドワーク】

到達目標

- ・保育者を目指す者として保育実践上の自己課題を明確化することができるようになる。
- ・自己課題に対してどのように取り組んでいくかを計画することができる。
- ・必要な演習を通じて自己課題となっている知識・技能等を獲得することができるようになる。
- ・今までの学びとこれからの学びを結びつけて理解する視点を持つことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 保育者としての思考力・判断力
- 5 表現・コミュニケーション
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

1	ガイダンス：科目概要の説明、履修履歴の把握、自身の学びの振り返り 【向井・近藤】
2	講義：子どもの疾病について（仮） 【加藤】
3	講義（外部講師）：幼保小連携について（仮）
4	講義（学科外講師）：小児栄養について（仮） 【徳野裕子(健康栄養学科)】
5	保育現地調査の準備 【横井・桶田】
6	保育現地調査の実施 【横井・桶田】
7	保育現地調査のまとめと発表・討論 【横井・桶田】
8	グループ学習 模擬保育・ロールプレイ・事例検討等【上垣内・大宮・名達・権・薮崎・鈴木（晴）・金】
9	グループ学習 模擬保育・ロールプレイ・事例検討等【上垣内・大宮・名達・権・薮崎・曽野・鈴木（晴）・金】
10	グループ学習 模擬保育・ロールプレイ・事例検討等【上垣内・大宮・名達・権・薮崎・曽野・鈴木（晴）・金】
11	グループ学習 模擬保育・ロールプレイ・事例検討等【山田・長田・潮谷・鈴木（康）・二宮・曽野・水島】
12	グループ学習 模擬保育・ロールプレイ・事例検討等【山田・長田・潮谷・鈴木（康）・二宮・曽野・水島】
13	グループ学習 模擬保育・ロールプレイ・事例検討等【山田・長田・潮谷・鈴木（康）・二宮・曽野・水島】
14	グループ学習 ・ についての学習成果の報告と全体討論 【向井・近藤】
15	まとめ【向井・近藤】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自己課題に即して、今まで学んだ保育と教職にかかわる内容を振りかえりながら授業の事前準備を行う。[60分]

【事後学修】授業の配布資料や授業内で記入した課題をファイルに整理し、振り返る。学んだ内容について自己課題と結びつけながら理解を深める。[60分]

評価方法および評価の基準

授業への積極的参加（20%）、グループ活動への取り組み姿勢とプレゼンテーション内容（20%）、参加活動による作成資料の提出（30%）、期末レポート（30%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

特に定めない。授業時に、必要に応じて紹介する。他にプリントを配布する。

【推薦書】

授業時に、必要に応じて紹介する。

【参考図書】

授業時に、必要に応じて紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目の特性を十分に理解し、卒業後の自分の姿を思い浮かべながら、学びを深めましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

発達支援事業所理事長、保育士、臨床発達心理士として障害児保育のコンサルテーションと発達相談にかかわってきたという実務経験と、幼児教育研究会の指導者として保育者とともに現認者研修を行ったり保育実践研究を行ってきたという経験をもつ教員が担当し、理論と実践の双方の視点に立ち、より保育現場に近い研究指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

卒業研究の進め方、参考文献の調べ方活かし方、研究方法の選択、論文の執筆のルールやポイント等は、ゼミで全体に講義する。その上で、自らが考えたテーマに基づき、個別に指導しながらテーマと研究方法を決定し、研究に取り掛かる。本研究に取り掛かる前のパイロットスタディや予備観察、実践研究、観察研究など、現場での研究を応援したい。ゼミでのディスカッションを大切にする。

後半は、個別指導が中心となる。卒業研究を学科に提出後は、発表会に向けて発表資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。発表会当日には、〔研究動機、目的、方法、結果、考察、今後の課題〕について、簡潔で分かりやすい発表を目指す。質疑応答に対しても準備をして臨む。

【討議・討論】【フィールドワーク】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述・説明し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」
- 5「表現・コミュニケーション」
- 5「問題意識・解決に取り組む姿勢」

内容

ゼミ単位でのグループ指導及び個別指導を行う。学生が主体的に研究に取り組み、以下に示す能力を獲得することを目指して指導を行う。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める
- ・論文にまとめる
- ・研究成果を分かりやすく論理的に発表する

論文の提出締切は当該年度1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

【討議・討論】【フィールドワーク】【論文】【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2. 論文の成果(25%/50%)、作成の取り組み(10%/30%)

到達目標3. 作成の取り組み(10%/30%)、発表(20%/20%)

【フィードバック】論文の作成に際しては、研究内容、執筆内容に目を通し、個別かつ応答的に助言・指導を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書の紹介・資料の配布を個別に行う。

全員に対しての参考図書として、「保育用語辞典」(ミネルヴァ書房)を推奨する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理士・臨床心理士・臨床発達心理士として心理相談での臨床経験を有する教員が担当し、保育実践場面や心理相談場面の事例や経験を提示しながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

教員と相談しながら、各自が研究テーマを決定する。その後、先行研究を精査する。ゼミの仲間とをグループディスカッションや担当教員とのディスカッションを通して考えを深め、各自の目的に応じた方法によってデータを収集し、卒業研究としてまとめる。各回の授業では、各自が進捗状況を発表し、討論・討議する。【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【PBL】【論文】

到達目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果(エビデンス)に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・自身の研究成果について論理的に記述し、プレゼンテーションすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」
- 5「表現・コミュニケーション」
- 5「問題意識・解決に取り組む姿勢」

内容

今までの学びを踏まえ、各自自分自身の問を立て、その問題意識をもとにした研究テーマを見出す。その研究テーマを履修生全員で共有し、互いの研究に対する意見を交換をしながら、学問としての学びを深める。自分自身の視点を相対化し、物事の本質を見抜く力を熟成させることを目指す。

卒業研究を進めるに際して、教員及び他の履修生と協力する事が不可欠である。グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、大学4年間の学びの集大成として卒業研究をまとめることを目指す。

大まかな流れは

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

となる。

年間計画を立て、論文の提出締め切りまでに完成するよう取り組む。提出は当該年度1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。研究発表会では、ゼミの学生、及び幼児教育学科全学生と協力しながら行う。自分の取り組んだ研究について簡潔にまた社会に還元できる形で発表することが重要である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各自のテーマに必要な文献や論文を自ら探して熟読する。論文作成に関する計画を立て、各自の責任において書き進める。【事後学修】授業内での教員や仲間からのアドバイスや意見を参考にして自分のその時々々の論文内容を再考する。事前・事後学習とも相当時間数(2時間以上)を要する。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成に当たっての取り組み(30%)、発表会への参加及び発表(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。意欲及び探求心を持って取り組めたか、幅広い視野を持つよう努めたか等、各自が卒業研究を進めていく姿勢についても重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加と発表をもって評価し、全体として60点以上に達した場合に単位認定となる。

【フィードバック】

先行研究のまとめ、論文執筆内容について、授業内および次回の授業時まで目に通し、助言・指導を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：幼児教育学科学位授与方針の1．2．3．に対応する科目である。大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

科目の概要：自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、1年という長い時間を使って自発的に調査・研究を行う。

授業の方法

最初に教員と相談しながら、各自が研究テーマを決定する。その後、先行研究を精査する。最終的には心理学的方法によってデータを収集し、卒業研究としてまとめる。各回の授業では、各自が進捗状況を発表し、討論・討議する。【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【PBL】【論文】

学修目標：

- (1)課題探求能力を養う
- (2)調査・研究方法を身に付ける
- (3)論文執筆の技術を高める
- (4)他者への説明能力を磨く

ディプロマ・ポリシーとの関係

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解 -5表現・コミュニケーション -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

各自の問題意識に対応し、各回の授業ごとに個別に学習内容を検討し、次回までに進めておく課題を指示する。

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは令和3年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教員の指示に従い、各回の授業までに出された課題を行うこと。[約3時間]

【事後学修】授業内容を復習し、研究を進めるために出された課題を行うこと。[約3時間]

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

各学生の疑問点やテーマに応じた進め方については、個別に指導を行うことでその都度フィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

単に卒業研究本体を作成することだけが目的なのではなく、作成過程の状況も評価対象とする。

加えて、卒業研究の提出と卒業研究発表会での発表をもって、成績評価の対象とする。

科目名	卒業研究		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育者として保育に携わった経験をもつ教員が担当し、保育実践の事例や経験を提示しながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。専門科目の領域「総合」に位置づく。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

文献研究、保育観察、アンケート調査など、各自の研究テーマに応じて検討していく。【討議・討論】【プレゼンテーション】【ディスカッション】【論文】

到達目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの -5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」、 -5「表現・コミュニケーション」、 -5「問題意識・解決に取り組む姿勢」に当たる。

内容

ゼミ単位での指導・個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見つける
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
- ・論文にまとめる

【討議・討論】【論文】

論文の提出締め切りは当該年度1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表することまでで単位が認められる。

【プレゼンテーション】【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。（各授業に対して60分以上）

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。（各授業に対して60分以上）

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成に当たっての取り組み(30%)、発表会への参加及び発表(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 論文の成果(20%/60%) 論文作成の取り組み(10%/30%)

到達目標 2 論文の成果(20%/60%) 論文作成の取り組み(10%/30%)

到達目標 3 論文の成果(20%/60%) 論文作成の取り組み(10%/30%) 発表会への参加・発表(20%/20%)

【フィードバック】

先行研究のまとめ、論文執筆内容について、授業内および次回の授業時までを目を通し、助言・指導を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書の紹介・資料の配布を個別に行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

母子保健事業における子育て相談や子育て教室、幼児教育施設や児童発達支援センター等での相談業務、幼稚園や乳児院、児童発達支援センター職員への助言等の経験を活かし授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。これまでの学びを総合し、探求するものである。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

ゼミ授業時間毎に自己の研究テーマに関わる基礎的な知識や最新の情報を収集していく。さらに、演習メンバーで報告をしあう中で、相互に疑問点の確認や意見の提示を行い、自身の研究のテーマを明確にしていく。そして、研究テーマを検証に適した検証方法を選択し、現地調査、インタビュー、観察等のフィールドワークや公表されている文献やデータの再分析を行い、その結果についてまとめ、発表、意見交換を経て論文を執筆する。

【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】【論文】

到達目標

1. 先行研究レビューを行うことが出来る。
2. 研究テーマ研究目的に応じた適切な研究方法を選択し、結果を導きだすことが出来る。
3. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
4. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5 表現・コミュニケーション
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

ゼミ単位での指導に加えて、授業時間外での個別の指導を行う。受講学生との積極的なディスカッションと共同した学びを通して深めていく。

- ・研究テーマを見出すために、先行研究レビューを重ねる。原則学術論文のレビューを中心に講読しながら、指導教員の指導のもとにテーマ設定する。
- ・研究テーマに関する先行研究レビューをし、プレゼンテーションを行うことで、質疑応答を通してさらに深化させていく。
- ・研究アウトラインを立てていく。方法は教科書を熟読の上、自らが主体的に取り組む。【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探究する。【フィールドワーク】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】
- ・研究結果を収集し、整理し、考察を進める。【論文】
- ・論文をまとめていく。【論文】
- ・研究成果を発表する。【プレゼンテーション】

論文及び研究要旨の提出締め切りは当該年度1月上旬の予定となる。

また、論文提出後、学科教員、学生に対する研究発表会で研究報告を行うことによって、単位が認められる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各自の研究テーマに関する文献を集め、先行研究のレビューを行う。（各授業に対して2時間半程度）

【事後学修】指導教員の指導を受けた、研究アウトラインの見直しと、データ整理、文献取り寄せなどを行う。（各授業に対して1時間半程度）

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。論文及び研究要旨の所定期日を遵守した提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。評価の内訳としては、論文の成果50%、作成にあたっての取り組み40%、発表10%などから総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.論文の成果（10/50）、作成にあたっての取り組み（10/40）

到達目標2.論文の成果（10/50）、作成にあたっての取り組み（10/40）

到達目標3.論文の成果（10/50）、作成にあたっての取り組み（20/40）

到達目標4.論文の成果（20/50）、発表（10/10）

【フィードバック】各自の進捗に応じて毎回口頭指導を行うとともに、論文の添削を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまで学んできたこと、さらに探求したいことを定め、1つのことを突き詰めていきましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5表現・コミュニケーション
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業はグループワーク、個別指導を組み合わせながら、各自の研究をすすめていく。

1. 研究テーマを見つける
2. 研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
3. 自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
4. 論文にまとめる

論文の提出締め切りは平成31年1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントを活用するなどして発表する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。(各授業に対して120分以上)

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジюме作成、データ整理、論文作成などを行う。(各授業に対して60分以上)

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書を紹介・資料の配布を個別に行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自分が一番関心のあることを卒論のテーマに定め、ゼミの仲間と共有し相手の研究に関心をもって応援し合いながら、1年かけてそれぞれが納得のいく卒業論文を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は幼児教育学科の専門科目「総合」に位置づく科目であり、学科必修科目である。

大学における幼児教育の学びの総まとめとしての科目である。自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その研究成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

ゼミ授業時間毎に自己の研究テーマに関わる基礎的な知識、情報を終始、レポートに概要をまとめる。さらに、演習メンバーで報告をしあう中で、相互に疑問点の確認や意見の提示を行い、自身の研究のテーマを明確にしていく。そして、研究テーマを検証に適した検証方法を選択し、現地調査、インタビュー、観察等のフィールドワークや公表されている文献やデータの再分析を行い、その結果についてまとめ、発表、意見交換を経て論文を執筆する。【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】【論文】

到達目標

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5表現・コミュニケーション
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

本科目ではグループ形式のゼミあるいは個別の指導を受けて、以下の過程を進め、卒業論文執筆、発表する。

1回～4回 研究テーマを見出し、基礎知識、文献を整理、発表し合い、焦点化していく。

【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

5回～20回 研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、事例またはデータを集め、報告を行い、討論などを交えて、考察を深める。

【フィールドワーク】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】

21回～30回 検証結果をまとめ、論文を作成、発表する。

【論文】【プレゼンテーション】

論文の締切は2021年1月上旬の予定となる。論文提出後、学科教員、学生に対する研究発表会を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】研究テーマに応じ、先行研究および関連文献の収集、内容理解に取り組む。論文作成にあたって必要な研究方法、論文執筆の方法等を確認。授業時間ごとの課題に2時間以上の予習が必要。

【事後学修】授業内で指示された論文・文献を読み、整理、分析を行うこと。指導内容をふまえ、計画的な論文作成に努めること。概ね各回の授業終了後、論文作成に関わる2時間以上の取り組みが必要。

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

【フィードバック】個々のテーマに沿った発表、まとめたものについて指導する。

評価の方法と割合は、到達目標 1 研究テーマ、目的に応じた研究方法を選択し、研究を行うことができるについては授業参加状況、課題提出状況 60% 論文執筆 30% 発表10%、2 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことは 授業参加状況、課題提出状況 30% 論文執筆 60% 発表10%、3研究成果について論理的に記述し、発表することができる については授業参加状況、課題提出状況 20% 論文執筆 60% 発表20% とする。総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自身の研究に対する探究とゼミ生同士の相互の学び合いを主体的、積極的な取り組みで進めていくことを期待します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた論文指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の11,2,3に該当する。

科目の概要

大学における学びの総まとめとして研究テーマを各自で設定し、担当教員の指導・援助を受けながら考察を深め、研究を行う。研究成果は論文としてまとめ、発表（学科発表会）する。

授業の方法（ALを含む）

前期では、主に文献精読やゼミ生間の討議を通して研究テーマを焦点化し、研究方法を検討する。後期では、各自の研究計画に基づき研究を遂行し、得られた結果を整理・分析・考察し論文としてまとめていく。研究テーマの設定からまとめまで担当教員からの指導を受けながら論文としての完成度を高めていく。

【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- ・研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、プレゼンテーションすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」
- 5「表現・コミュニケーション」
- 5「問題意識・解決に取り組む姿勢」

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を選択し、研究を行う
- ・研究結果を分析・考察し、論文にまとめる

論文の締め切りは2021年年1月上旬の予定。

また、論文提出後、学科の研究発表会で研究成果を発表する。

* 日程の詳細は4月に通知する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】論文作成に向けた資料整理及び論文の執筆（2時間程度）

【事後学修】指摘を受けた箇所の再考と修正（2時間程度）

評価方法および評価の基準

論文成果（40％）と発表（40％）、論文作成に向けた取り組み（20％）を基準として評価する。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自が進める研究テーマに応じた参考論文や資料を適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科の卒業必修科目であり、保育者養成課程における専門科目の中で「総合」に区分される科目である。履修者はそれぞれの興味、関心にしたがってテーマを設定し、時間をかけて考察を深め、卒業論文を仕上げる。その過程でそれまでの学びを整理し学びを深めることができる。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

授業は、第1回から第4回までをグループ形式のゼミナールで行い、各自の卒業研究テーマの設定のため先行研究の知見を収集し、得られた知見をまとめて発表し討議しあう中で、研究テーマの設定目的や意義を確認する。第5回から第15回は、決定したそれぞれの研究テーマに沿って研究を進め（個別指導を含む）、履修者全体の進捗状況を確認し、研究の質を高める目的で、適宜、研究成果の中間発表を行い、卒業論文を仕上げる。【討議・討論】【プレゼンテーション】【論文】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解 -5 表現・コミュニケーション -5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

グループ形式のゼミナールあるいは個別指導を通じて、以下のように論文指導を進める。

第1回～第4回 研究テーマを見だし、焦点化する（グループ形式）。【討議・討論】【プレゼンテーション】

第5回～第15回 研究テーマにふさわしい研究方法を探求して考察をすすめ、論文にまとめる。【討議・討論】【プレゼンテーション】【論文】

卒業論文の締め切りは2021年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、卒業論文提出後、卒業研究発表会をおこなう。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】これまで習得してきた学習を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込み、内容をまとめる。（各授業60分）

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度、専門書や論文にあたり、調べなおして考察を行う。（各授業60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み（50%）、卒業研究発表（20%）、卒業論文（30%）、
卒業論文提出と卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

到達目標 1．授業への取り組み（10%/50%）、卒業研究発表（5%/20%）、卒業論文（10%/30%）

到達目標 2．授業への取り組み（20%/50%）、卒業研究発表（5%/20%）、卒業論文（10%/30%）

到達目標 3．授業への取り組み（20%/50%）、卒業研究発表（10%/20%）、卒業論文（10%/30%）

【フィードバック】卒業論文作成のために提出された原稿などは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で参考図書を紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	1Rクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有り

実務経験および科目との関連性

小児科臨床現場の実務及び母子保健研究の実務経験が直接教科内容に関連する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針 1.2.3 に対応する

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1子どもの人権尊重
- 1子どもから学び、子どもとともに育つ姿勢
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する。
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる。
- ・論文にまとめる。

論文の締め切りは、2020年1月上旬の予定。

* 日程の詳細は4月に通知する。

また、論文提出後は、研究発表会を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ゼミ授業までに進めておくべきことを実践し、ゼミ授業でどのようなアドバイスを受けたいかについても要点を確認しておく。（各授業に対して120分）

【事後学修】ゼミ授業で確認した点に従って作業を進める。（各授業に対し120分）

評価方法および評価の基準

【評価の方法と比率】

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。発表会10% 平常点30%
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。発表会10% 平常点20%
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。発表会10% 平常点20%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Sクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目「総合」に位置づく科目で、卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

各自のテーマに関する文献をまとめ、その内容についてグループディスカッションを行いながら学び合う。必要に応じて個別指導を受けながら論文を完成させる。完成させた論文の発表も行う。【グループディスカッション】【討議・討論】【プレゼンテーション】【論文】

到達目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの -5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」、 -5「表現・コミュニケーション」、 -5「問題意識・解決に取り組む姿勢」に当たる。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは、令和3年1月上旬の予定である。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文の提出後は、研究発表を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】卒業論文のテーマに即して、文献を調べたり、文献を踏まえてレジюмеを作成したりしながら事前準備を行う

。毎回のゼミ指導の前に少なくとも60分以上の事前学習を求める。

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおしてレジュメを作成する。各授業後60分以上の学習を求める。

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ゼミの仲間同士が学び合い、支え合いながら、1年間じっくり一つのテーマに沿って研究を進めるようにしましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大宮 明子、渡邊 孝枝		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園での身体表現の指導といった実務経験と、保育現場における身体表現や身体表現活動を対象とした実践研究経験のある教員が、理論と実践の両面から指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

前半は、グループディスカッションを中心に自分の興味関心を絞り、主要参考文献を熟読し報告する。それと並行して、参考となる文献や論文の見つけ方、研究方法の選択、論文執筆のルール等を講義する。また、自らの問いに基き、個別に指導しながらテーマと研究方法を決定し、研究に取り掛かる。

後半は、個別指導を中心としながら、卒業研究としてまとめ上げる。まとめた卒業研究は、卒業研究発表会にて口頭発表し、質疑応答を行う。

【討議・討論】【フィールドワーク】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述・説明し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」
- 5「表現・コミュニケーション」
- 5「問題意識・解決に取り組む姿勢」

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

【討議・討論】【フィールドワーク】【論文】

- ・ 論文としてまとめた後は、卒業研究発表会にて口頭発表する。

【プレゼンテーション】

論文の締め切りは当該年度年1月上旬の予定。詳細の日程は4月に通知する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】これまで修得してきた学修を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む。(180分程度)

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおして考察を行う。(180分程度)

評価方法および評価の基準

卒業論文50点、卒業研究への積極的な取り組み30点、卒業論文発表会での口頭発表と質疑応答20点とし、総合60点以上を合格とする。

到達目標1) 卒業論文10点 / 50点、卒業研究への積極的な取り組み10点 / 30点

到達目標2) 卒業論文20点 / 50点、卒業研究への積極的な取り組み10点 / 30点

到達目標3) 卒業論文20点 / 50点、卒業研究への積極的な取り組み10点 / 30点、卒業論文発表会での口頭発表と質疑応答20点

【フィードバック】卒業論文までの提出の過程で、その都度執筆中の論文を読み、修正に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書を紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

発達支援事業所理事長、保育士、臨床発達心理士として障児保育のコンサルテーションと発達相談にかかわってきたという実務経験と、幼児教育研究会の指導者として保育者とともに現認者研修を行ったり保育実践研究を行ってきたという経験をもつ教員が担当し、理論と実践の双方の視点に立ち、より保育現場に近い研究指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

卒業研究の進め方、参考文献の調べ方活かし方、研究方法の選択、論文の執筆のルールやポイント等は、ゼミで全体に講義する。その上で、自らが考えたテーマに基づき、個別に指導しながらテーマと研究方法を決定し、研究に取り掛かる。本研究に取り掛かる前のパイロットスタディや予備観察、実践研究、観察研究など、現場での研究を応援したい。ゼミでのディスカッションを大切にする。

後半は、個別指導が中心となる。卒業研究を学科に提出後は、発表会に向けて発表資料を作成し、プレゼンテーションの準備をする。発表会当日には、〔研究動機、目的、方法、結果、考察、今後の課題〕について、簡潔で分かりやすい発表を目指す。質疑応答に対しても準備をして臨む。

【討議・討論】【フィールドワーク】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述・説明し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」
- 5「表現・コミュニケーション」
- 5「問題意識・解決に取り組む姿勢」

内容

ゼミ単位でのグループ指導及び個別指導を行う。学生が主体的に研究に取り組み、以下に示す能力を獲得することを目指して指導を行う。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める
- ・論文にまとめる
- ・研究成果を分かりやすく論理的に発表する

論文の提出締切は当該年度1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

【討議・討論】【フィールドワーク】【論文】【プレゼンテーション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集、毎回の指導に向けてのレジユメの作成。研究テーマ、方法によって研究に必要とする時間は異なるが、5～10時間を目安とする。

【事後学修】指導教員の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、研究活動を発展させ学びを深める。5～10時間程度。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成にあたっての取り組み(30%)、卒業研究発表会への参加及び発表(20%)をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1,2. 論文の成果(25%/50%)、作成の取り組み(10%/30%)

到達目標3. 作成の取り組み(10%/30%)、発表(20%/20%)

【フィードバック】論文の作成に際しては、研究内容、執筆内容に目を通し、個別かつ応答的に助言・指導を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書の紹介・資料の配布を個別に行う。

全員に対しての参考図書として、「保育用語辞典」(ミネルヴァ書房)を推奨する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公認心理士・臨床心理士・臨床発達心理士として心理相談での臨床経験を有する教員が担当し、保育実践場面や心理相談場面の事例や経験を提示しながら指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

教員と相談しながら、各自が研究テーマを決定する。その後、先行研究を精査する。ゼミの仲間とをグループディスカッションや担当教員とのディスカッションを通して考えを深め、各自の目的に応じた方法によってデータを収集し、卒業研究としてまとめる。各回の授業では、各自が進捗状況を発表し、討論・討議する。【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【PBL】【論文】

到達目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果(エビデンス)に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・自身の研究成果について論理的に記述し、プレゼンテーションすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」
- 5「表現・コミュニケーション」
- 5「問題意識・解決に取り組む姿勢」

内容

今までの学びを踏まえ、各自自分自身の問を立て、その問題意識をもとにした研究テーマを見出す。その研究テーマを履修生全員で共有し、互いの研究に対する意見を交換をしながら、学問としての学びを深める。自分自身の視点を相対化し、物事の本質を見抜く力を熟成させることを目指す。

卒業研究を進めるに際して、教員及び他の履修生と協力する事が不可欠である。グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、大学4年間の学びの集大成として卒業研究をまとめることを目指す。

大まかな流れは

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

となる。

年間計画を立て、論文の提出締め切りまでに完成するよう取り組む。提出は当該年度1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。研究発表会では、ゼミの学生、及び幼児教育学科全学生と協力しながら行う。自分の取り組んだ研究について簡潔にまた社会に還元できる形で発表することが重要である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各自のテーマに必要な文献や論文を自ら探して熟読する。論文作成に関する計画を立て、各自の責任において書き進める。【事後学修】授業内での教員や仲間からのアドバイスや意見を参考にして自分のその時々々の論文内容を再考する。事前・事後学習とも相当時間数(2時間以上)を要する。

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成に当たっての取り組み(30%)、発表会への参加及び発表(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。意欲及び探求心を持って取り組めたか、幅広い視野を持つよう努めたか等、各自が卒業研究を進めていく姿勢についても重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加と発表をもって評価し、全体として60点以上に達した場合に単位認定となる。

【フィードバック】

先行研究のまとめ、論文執筆内容について、授業内および次回の授業時まで目に通し、助言・指導を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：幼児教育学科学位授与方針の1. 2. 3. に対応する科目である。大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

科目の概要：自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、1年という長い時間を使って自発的に調査・研究を行う。

授業の方法

最初に教員と相談しながら、各自が研究テーマを決定する。その後、先行研究を精査する。最終的には心理学的方法によってデータを収集し、卒業研究としてまとめる。各回の授業では、各自が進捗状況を発表し、討論・討議する。【レポート(知識)】【討議・討論】【プレゼンテーション】【PBL】【論文】

学修目標：

- (1)課題探求能力を養う
- (2)調査・研究方法を身に付ける
- (3)論文執筆の技術を高める
- (4)他者への説明能力を磨く

ディプロマ・ポリシーとの関係

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解 -5表現・コミュニケーション -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

各自の問題意識に対応し、各回の授業ごとに個別に学習内容を検討し、次回までに進めておく課題を指示する。

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは令和3年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教員の指示に従い、各回の授業までに出された課題を行うこと。[約3時間]

【事後学修】授業内容を復習し、研究を進めるために出された課題を行うこと。[約3時間]

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

各学生の疑問点やテーマに応じた進め方については、個別に指導を行うことでその都度フィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

単に卒業研究本体を作成することだけが目的なのではなく、作成過程の状況も評価対象とする。

加えて、卒業研究の提出と卒業研究発表会での発表をもって、成績評価の対象とする。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

母子保健事業における子育て相談や子育て教室、幼児教育施設や児童発達支援センター等での相談業務、幼稚園や乳児院、児童発達支援センター職員への助言等の経験を活かし授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。これまでの学びを総合し、探求するものである。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

ゼミ授業時間毎に自己の研究テーマに関わる基礎的な知識や最新の情報を収集していく。さらに、演習メンバーで報告をしあう中で、相互に疑問点の確認や意見の提示を行い、自身の研究のテーマを明確にしていく。そして、研究テーマを検証に適した検証方法を選択し、現地調査、インタビュー、観察等のフィールドワークや公表されている文献やデータの再分析を行い、その結果についてまとめ、発表、意見交換を経て論文を執筆する。

【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】【論文】

到達目標

1. 先行研究レビューを行うことができる。
2. 研究テーマ研究目的に応じた適切な研究方法を選択し、結果を導きだすことができる。
3. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
4. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5 表現・コミュニケーション
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

ゼミ単位での指導に加えて、授業時間外での個別の指導を行う。受講学生との積極的なディスカッションと共同した学びを通して深めていく。

- ・研究テーマを見出すために、先行研究レビューを重ねる。原則学術論文のレビューを中心に講読しながら、指導教員の指導のもとにテーマ設定する。
- ・研究テーマに関する先行研究レビューをし、プレゼンテーションを行うことで、質疑応答を通してさらに深化させていく。
- ・研究アウトラインを立てていく。方法は教科書を熟読の上、自らが主体的に取り組む。【レポート（知識）】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探究する。【フィールドワーク】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】
- ・研究結果を収集し、整理し、考察を進める。【論文】
- ・論文をまとめていく。【論文】
- ・研究成果を発表する。【プレゼンテーション】

論文及び研究要旨の提出締め切りは当該年度1月上旬の予定となる。

また、論文提出後、学科教員、学生に対する研究発表会で研究報告を行うことによって、単位が認められる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各自の研究テーマに関する文献を集め、先行研究のレビューを行う。（各授業に対して2時間半程度）

【事後学修】指導教員の指導を受けた、研究アウトラインの見直しと、データ整理、文献取り寄せなどを行う。（各授業に対して1時間半程度）

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。論文及び研究要旨の所定期日を遵守した提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。評価の内訳としては、論文の成果50%、作成にあたっての取り組み40%、発表10%などから総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.論文の成果（10/50）、作成にあたっての取り組み（10/40）

到達目標2.論文の成果（10/50）、作成にあたっての取り組み（10/40）

到達目標3.論文の成果（10/50）、作成にあたっての取り組み（20/40）

到達目標4.論文の成果（20/50）、発表（10/10）

【フィードバック】各自の進捗に応じて毎回口頭指導を行うとともに、論文の添削を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

これまで学んできたこと、さらに探求したいことを定め、1つのことを突き詰めていきましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5表現・コミュニケーション
- 5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

この授業はグループワーク、個別指導を組み合わせながら、各自の研究をすすめていく。

1. 研究テーマを見つける
2. 研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
3. 自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
4. 論文にまとめる

論文の提出締め切りは平成31年1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントを活用するなどして発表する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。(各授業に対して120分以上)

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジューメ作成、データ整理、論文作成などを行う。(各授業に対して60分以上)

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書を紹介・資料の配布を個別に行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自分が一番関心のあることを卒論のテーマに定め、ゼミの仲間と共有し相手の研究に関心をもって応援し合いながら、1年かけてそれぞれが納得のいく卒業論文を完成させましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各都道府県指導主事への実践指導（スポーツ庁委嘱）、幼稚園等での園内研究指導等の経験を持つ教員が担当し、保育現場の事例や現代的課題を踏まえた論文指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。幼児教育学科の学位授与方針の11,2,3に該当する。

科目の概要

大学における学びの総まとめとして研究テーマを各自で設定し、担当教員の指導・援助を受けながら考察を深め、研究を行う。研究成果は論文としてまとめ、発表（学科発表会）する。

授業の方法（ALを含む）

前期では、主に文献精読やゼミ生間の討議を通して研究テーマを焦点化し、研究方法を検討する。後期では、各自の研究計画に基づき研究を遂行し、得られた結果を整理・分析・考察し論文としてまとめていく。研究テーマの設定からまとめまで担当教員からの指導を受けながら論文としての完成度を高めていく。

【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

- ・研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、プレゼンテーションすることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」
- 5「表現・コミュニケーション」
- 5「問題意識・解決に取り組む姿勢」

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を選択し、研究を行う
- ・研究結果を分析・考察し、論文にまとめる

論文の締め切りは2021年年1月上旬の予定。

また、論文提出後、学科の研究発表会で研究成果を発表する。

* 日程の詳細は4月に通知する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】論文作成に向けた資料整理及び論文の執筆（2時間程度）

【事後学修】指摘を受けた箇所の再考と修正（2時間程度）

評価方法および評価の基準

論文成果（40％）と発表（40％）、論文作成に向けた取り組み（20％）を基準として評価する。総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自が進める研究テーマに応じた参考論文や資料を適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は幼児教育学科の卒業必修科目であり、保育者養成課程における専門科目の中で「総合」に区分される科目である。履修者はそれぞれの興味、関心にしたがってテーマを設定し、時間をかけて考察を深め、卒業論文を仕上げる。その過程でそれまでの学びを整理し学びを深めることができる。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

授業は、第1回から第4回までをグループ形式のゼミナールで行い、各自の卒業研究テーマの設定のため先行研究の知見を収集し、得られた知見をまとめて発表し討議しあう中で、研究テーマの設定目的や意義を確認する。第5回から第15回は、決定したそれぞれの研究テーマに沿って研究を進め（個別指導を含む）、履修者全体の進捗状況を確認し、研究の質を高める目的で、適宜、研究成果の中間発表を行い、卒業論文を仕上げる。【討議・討論】【プレゼンテーション】【論文】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解 -5 表現・コミュニケーション -5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

グループ形式のゼミナールあるいは個別指導を通じて、以下のように論文指導を進める。

第1回～第4回 研究テーマを見だし、焦点化する（グループ形式）。【討議・討論】【プレゼンテーション】

第5回～第15回 研究テーマにふさわしい研究方法を探求して考察をすすめ、論文にまとめる。【討議・討論】【プレゼンテーション】【論文】

卒業論文の締め切りは2021年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、卒業論文提出後、卒業研究発表会をおこなう。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】これまで習得してきた学習を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込み、内容をまとめる。（各授業60分）

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度、専門書や論文にあたり、調べなおして考察を行う。（各授業60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み（50%）、卒業研究発表（20%）、卒業論文（30%）、
卒業論文提出と卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

到達目標 1．授業への取り組み（10%/50%）、卒業研究発表（5%/20%）、卒業論文（10%/30%）

到達目標 2．授業への取り組み（20%/50%）、卒業研究発表（5%/20%）、卒業論文（10%/30%）

到達目標 3．授業への取り組み（20%/50%）、卒業研究発表（10%/20%）、卒業論文（10%/30%）

【フィードバック】卒業論文作成のために提出された原稿などは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で参考図書を紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	2Sクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科の専門科目「総合」に位置づく科目で、卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

各自のテーマに関する文献をまとめ、その内容についてグループディスカッションを行いながら学び合う。必要に応じて個別指導を受けながら論文を完成させる。完成させた論文の発表も行う。【グループディスカッション】【討議・討論】【プレゼンテーション】【論文】

到達目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの -5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」、 -5「表現・コミュニケーション」、 -5「問題意識・解決に取り組む姿勢」に当たる。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは、令和3年1月上旬の予定である。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文の提出後は、研究発表を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】卒業論文のテーマに即して、文献を調べたり、文献を踏まえてレジюмеを作成したりしながら事前準備を行う

。毎回のゼミ指導の前に少なくとも60分以上の事前学習を求める。

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおしてレジュメを作成する。各授業後60分以上の学習を求める。

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ゼミの仲間同士が学び合い、支え合いながら、1年間じっくり一つのテーマに沿って研究を進めるようにしましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育者として保育に携わった経験をもつ教員が担当し、保育実践の事例や経験を提示しながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。専門科目の領域「総合」に位置づく。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

文献研究、保育観察、アンケート調査など、各自の研究テーマに応じて検討していく。【討議・討論】【プレゼンテーション】【ディスカッション】【論文】

到達目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの -5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」、-5「表現・コミュニケーション」、-5「問題意識・解決に取り組む姿勢」に当たる。

内容

ゼミ単位での指導・個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見つける
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
- ・論文にまとめる

【討議・討論】【論文】

論文の提出締め切りは当該年度1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表することまでで単位が認められる。

【プレゼンテーション】【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。（各授業に対して60分以上）

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。（各授業に対して60分以上）

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成に当たっての取り組み(30%)、発表会への参加及び発表(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 論文の成果(20%/60%) 論文作成の取り組み(10%/30%)

到達目標 2 論文の成果(20%/60%) 論文作成の取り組み(10%/30%)

到達目標 3 論文の成果(20%/60%) 論文作成の取り組み(10%/30%) 発表会への参加・発表(20%/20%)

【フィードバック】

先行研究のまとめ、論文執筆内容について、授業内および次回の授業時までを目を通し、助言・指導を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書の紹介・資料の配布を個別に行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	1Tクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

授業の方法 (ALを含む)

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、それぞれが設定したテーマに基づき研究を進め、論文及び研究発表会にて研究成果を報告する。

【実技】【実験】【討議・討論】【プレゼンテーション】【ロールプレイ】【ケースメソッド】【フィールドワーク】【PBL】【創作・制作】【論文】

到達目標

- (1) 研究テーマを設定し、論理的に考え内容を伝達する表現方法を理解しながら、研究成果を正確に伝達できる。
- (2) 自らが設定したテーマについて論理的に考えることができる。
- (3) 自らが設定したテーマについて、感受性を発揮しながら論理的に考え、表現、伝達する態度を発揮できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解 - 5 表現・コミュニケーション - 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる
- ・ プレゼンテーションの技法を学ぶ
- ・ 研究発表をおこなう

論文の締め切りは例年1月上旬の予定。

論文提出後、研究発表会を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】研究を行う上での自己課題・テーマの探究，必要な書籍・論文のまとめ，データ収集等を各自でおこなう。（60分）

【事後学修】ゼミでの指導をふまえて研究を進め，論文を作成する。また，研究発表後のふりかえりを行う。（60分）

評価方法および評価の基準

論文の成果，研究のプロセス，論文の提出，卒業研究発表会の参加および発表をもって到達目標の（1）（2）（3）を評価する。総合評価 60点以上 を合格とする。

【フィードバック】授業中、前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Uクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業研究を行い卒業論文としてまとめるという研究のプロセスを学ぶ科目である。卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

週2回ゼミ形式で行う。ゼミは全員で行うこともグループで行うこともある。保育と音楽に関わることであれば、どのようなことも研究対象となりうる。卒業研究発表会に参加して考えたことをディスカッションし、問題設定やその解決のための方法論、結果と考察の導き方について解説することから始める。その後基本的な論文と一緒に読み、論文の構成、研究計画の立て方、先行研究の探し方などを解説し、それぞれのテーマを煮詰めていく。【討議・討論】【プレゼンテーション】【ディスカッション】【論文】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解、 -5表現・コミュニケーション、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

ゼミ単位でのグループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める

・論文にまとめる

論文の提出締切は2021年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各自の研究課題に従って文献研究、フィールド研究等を行う。(3~4時間)

【事後学修】各自の研究課題に従い自身の研究を深める。授業で学んだことを整理し理解を深め、論文としてまとめる。(3~4時間)

評価方法および評価の基準

到達目標1と2については、論文の成果だけでなく、プロセスも重視し評価の50%とする。

到達目標3である論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表の評価50%を加算し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】個々のテーマに沿ってまとめたものをその都度添削し返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】各自のテーマに従い指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

3年生までに受けた授業や実習等で学んだことを基盤に、保育と音楽に関わる自身のテーマについて掘り下げていきましょう。研究とはどういうことが学びましょう。自身の疑問、興味から出発して先行研究を探し、研究手法を参照し、論理的に思考し、考えたことを人に伝わるように文章化する経験をしましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	近藤 有紀子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	1Wクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

幼稚園教諭として保育に携わった経験をもつ教員が担当し、保育者の視点から実践の事例等を提示しながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。専門科目の領域は「総合」である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法 (ALを含む)

文献研究、保育参与観察、インタビュー等、それぞれの研究テーマに応じて検討、選択し、論文の執筆を行う。【討議・討論】【フィールドワーク】【プレゼンテーション】【論文】

到達目標

- ・研究テーマ、研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5 表現・コミュニケーション
- 5 問題意識・解決に取り

組む姿勢

内容

ゼミ単位でのグループ指導及び個別指導を通して、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる

- ・仲間とのディスカッションを通して、個々の考察を磨きなおし、深める。
- ・論文にまとめる

論文の提出締切は当該年度1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントで発表する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各自の研究を進めるうえで、テーマの探究、先行研究のまとめ、書籍等のまとめ、データ収集などを行う。(毎回の講義に対して60分以上)

【事後学修】ゼミでのディスカッションや指導を踏まえて再考し、レジュメ作成やデータ整理をし、論文を作成する。(毎回の講義に対して60分以上)

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、論文作成にあたっての取り組みも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題等は、コメントを記載し、適宜返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の研究テーマに応じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

【参考図書】保育用語辞典第8版(2015)森上史朗 柏女霊峰編 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年		ク ラ ス	2Qクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所や幼稚園、子ども園での身体表現の指導といった実務経験と、保育現場における身体表現や身体表現活動を対象とした実践研究経験のある教員が、理論と実践の両面から指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

前半は、グループディスカッションを中心に自分の興味関心を絞り、主要参考文献を熟読し報告する。それと並行して、参考となる文献や論文の見つけ方、研究方法の選択、論文執筆のルール等を講義する。また、自らの問いに基き、個別に指導しながらテーマと研究方法を決定し、研究に取り掛かる。

後半は、個別指導を中心としながら、卒業研究としてまとめ上げる。まとめた卒業研究は、卒業研究発表会にて口頭発表し、質疑応答を行う。

【討議・討論】【フィールドワーク】【論文】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述・説明し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」
- 5「表現・コミュニケーション」
- 5「問題意識・解決に取り組む姿勢」

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

【討議・討論】【フィールドワーク】【論文】

- ・ 論文としてまとめた後は、卒業研究発表会にて口頭発表する。

【プレゼンテーション】

論文の締め切りは当該年度年1月上旬の予定。詳細の日程は4月に通知する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】これまで修得してきた学修を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む。(180分程度)

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおして考察を行う。(180分程度)

評価方法および評価の基準

卒業論文50点、卒業研究への積極的な取り組み30点、卒業論文発表会での口頭発表と質疑応答20点とし、総合60点以上を合格とする。

到達目標1) 卒業論文10点 / 50点、卒業研究への積極的な取り組み10点 / 30点

到達目標2) 卒業論文20点 / 50点、卒業研究への積極的な取り組み10点 / 30点

到達目標3) 卒業論文20点 / 50点、卒業研究への積極的な取り組み10点 / 30点、卒業論文発表会での口頭発表と質疑応答20点

【フィードバック】卒業論文までの提出の過程で、その都度執筆中の論文を読み、修正に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書を紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	二宮 紀子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	2Uクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業研究を行い卒業論文としてまとめるという研究のプロセスを学ぶ科目である。卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

週2回ゼミ形式で行う。ゼミは全員で行うこともグループで行うこともある。保育と音楽に関わることであれば、どのようなことも研究対象となりうる。卒業研究発表会に参加して考えたことをディスカッションし、問題設定やその解決のための方法論、結果と考察の導き方について解説することから始める。その後基本的な論文と一緒に読み、論文の構成、研究計画の立て方、先行研究の探し方などを解説し、それぞれのテーマを煮詰めていく。【討議・討論】【プレゼンテーション】【ディスカッション】【論文】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目標とする。

-5保護者・地域・他の専門職との連携の理解、 -5表現・コミュニケーション、 -5問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

ゼミ単位でのグループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める

・論文にまとめる

論文の提出締切は2021年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各自の研究課題に従って文献研究、フィールド研究等を行う。(3~4時間)

【事後学修】各自の研究課題に従い自身の研究を深める。授業で学んだことを整理し理解を深め、論文としてまとめる。(3~4時間)

評価方法および評価の基準

到達目標1と2については、論文の成果だけでなく、プロセスも重視し評価の50%とする。

到達目標3である論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表の評価50%を加算し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】個々のテーマに沿ってまとめたものをその都度添削し返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】各自のテーマに従い指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

3年生までに受けた授業や実習等で学んだことを基盤に、保育と音楽に関わる自身のテーマについて掘り下げていきましょう。研究とはどういうことが学びましょう。自身の疑問、興味から出発して先行研究を探し、研究手法を参照し、論理的に思考し、考えたことを人に伝わるように文章化する経験をしましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	近藤 有紀子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	2Wクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

幼稚園教諭として保育に携わった経験をもつ教員が担当し、保育者の視点から実践の事例等を提示しながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法（ALを含む）

文献研究、保育参与観察、インタビュー等、それぞれの研究テーマに応じて検討、選択し、論文の執筆を行う。【討議・討論】【フィールドワーク】【プレゼンテーション】【論文】

到達目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解 -5 表現・コミュニケーション -5 問題意識・解決に取り組む姿勢

内容

ゼミ単位のグループ指導及び個別指導を通して、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・仲間とのディスカッションを通して、個々の考察を磨きなおし、深める。

・論文にまとめる

論文の提出締切は当該年度1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントで発表する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各自の研究を進めるうえで、テーマの探究、先行研究のまとめ、書籍等のまとめ、データ収集などを行う。（毎回の講義に対して60分以上）

【事後学修】ゼミでのディスカッションや指導を踏まえて再考し、レジュメ作成やデータ整理をし、論文を作成する。（毎回の講義に対して60分以上）

評価方法および評価の基準

論文の成果だけでなく、論文作成にあたっての取り組みも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題等は、コメントを記載し、適宜返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の研究テーマに応じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

【参考図書】保育用語辞典第8版（2015）森上史朗 柏女霊峰編 ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

授業の方法

各自のテーマに関する文献をまとめ、その内容についてグループディスカッションを行ったり、個別指導により、論文を完成させ、さらにグループ形式での発表練習を行う【レポート（表現）】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】。

到達目標

1. 各自のテーマについて、これまでどのようなことがわかっているかを文献などで調べ、それらを述べることができる。
2. そのテーマについて論理的に考え、自分なりの結論を導くことができる。
3. 明らかになったことについて、内容を文章で正確に表現するとともに、他者が理解可能なように説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」、 -5「表現・コミュニケーション」、 -5「問題意識、解決に取り組む姿勢」

内容

グループ指導及び個別指導を通して、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・お互いに研究テーマについて積極的に研鑽する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締切は令和3年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について報告する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。毎回の指導に向けてレジュメを作成する。(各回1.5時間)

【事後学修】指導教官の指導にそって論文作成を進める。(各回1.5時間)また、卒業研究発表において、指摘を受けた内容については再考する。

評価方法および評価の基準

論文の成果(30点)、論文作成にあたっての取り組み(40点)、卒業研究発表会への参加及び発表(30点)によって、総合評価60点以上を合格とする。締め切りまでに論文を提出できない場合には、単位認定はされない。

【到達目標の評価方法と割合】

到達目標1.論文の成果(10/30)、論文作成にあたっての取り組み(10/40)、卒業研究発表会への参加及び発表(10/30)

到達目標2.論文の成果(10/30)、論文作成にあたっての取り組み(10/40)、卒業研究発表会への参加及び発表(10/30)

到達目標3.論文の正解(10/30)、論文作成に当たっての取り組み(20/40)、卒業発表会への参加及び発表(10/30)

【フィードバック】各自のテーマに基づいて口頭個別指導及び論文添削により行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各学生の研究テーマ及び個々の進捗に応じて、適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ゼミの仲間同士が励ましあい、支えあうことにより、計画的に研究を進めるようにしましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	桶田 ゆかり		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として保育に携わった経験をもつ教員が担当し、保育実践や研究経験を生かしながら実践的な研究を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科の卒業科目であり、大学における幼児教育の学びの総まとめとしての科目である。

科目の概要

自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマに基づき、担当教員の指導・援助を得ながら探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて研究を進める中で、感受性・論理的に考える思考力・内容を的確に伝達する表現力を身に付ける。

授業の方法

文献研究、保育観察、アンケート調査など、各自の研究テーマに応じて検討していく。【討議・討論】【プレゼンテーション】【ディスカッション】【論文】

到達目標

1. 研究テーマや目的に応じた研究方法を選択して研究を進めることができる。
2. 今までの学びを生かし、結果に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5 表現・コミュニケーション
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

ゼミ単位・個別指導を通して、以下のことを行う。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する。
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる。

- ・自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探し、事例やデータを収集・整理し、考察を進める。
- ・ゼミの仲間とディスカッションし、共同での学びを通して自分の考えを深める。
- ・論文にまとめ、発表する。

論文の提出締め切りは、2021年1月上旬の予定である。

また、論文提出後は、学科教員・学生に対する研究発表会を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データの収集などを行う。(各授業60分以上)

【事後学修】指導教官の指導のもと、論文や文献を読み、まとめる。レジюме作成、データ整理、論文作成などを行う。指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、学びを深める。(各授業60分以上)

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成に当たったの取り組み(30%)、発表会への参加及び発表(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.論文の成果(10% / 50%)、論文作成に当たったの取り組み(15% / 30%)

到達目標2.論文の成果(10% / 50%)、論文作成に当たったの取り組み(15% / 30%)

到達目標3.論文の成果(30% / 50%)、発表会への参加及び発表(20% / 20%)

【フィールドバック】

授業時に提出された先行研究のまとめやデータの整理・考察などに目を通し、授業内や次回の授業でコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。

各自の興味や関心、研究テーマに沿った論文や参考図書の紹介、資料の配布を個別に行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）- 幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目であり、保育者養成課程における専門科目の中で「総合」に区分される科目である。履修者はそれぞれの興味、関心にしながらテーマを設定し、時間をかけて考察を深め、卒業論文を仕上げる。その過程にそれぞれの学びを整理し、学びを深めることができる。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマに基づき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法

グループ指導および個別指導を基本とする。

【討議・討論】【プレゼンテーション】【ディスカッション】【論文】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマポリシーとの関係

- 3 保育者としての思考力・判断力 - 3 保育・教育に関する社会的事象への関心 - 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

グループ指導及び個別指導を通して各自の研究を進めていく。以下の力を身に付ける。

- ・研究テーマを見つけて焦点化する。
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる。
- ・自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データ収集・整理・考察をすすめる。
- ・論文にまとめる

論文の提出締め切りは、2021年1月上旬の予定。

また、論文提出後に、研究発表会にて自分の研究内容について発表することまでで単位認定される。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、各自の研究テーマに関する先行研究のまとめやデータ収集などを行う。（各授業に対して120分以上）

【事後学修】指導教員の指導のもと、レジュメ、資料作成、データ整理、論文作成などを行う。（各授業に対して120分以上）

評価方法および評価の基準

論文提出と卒業研究発表会への参加及び発表をもって単位認定・評価する。

論文の成果（40％）論文作成への取り組み（40％）研究発表会参加・発表（20％）から総合的に評価し、60点以上を合格とする。

- 1．論文作成への取り組み（10/40）論文の成果（10/40）研究発表会参加・発表（5/20）
- 2．論文作成への取り組み（10/40）論文の成果（10/40）研究発表会参加・発表（5/20）
- 3．論文作成への取り組み（20/40）論文の成果（20/40）研究発表会参加・発表（10/20）

【フィードバック】論文作成のために提出された原稿などはコメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて参考図書や推薦書等を適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

卒業研究はこれまでの学びの集大成です。卒業論文は皆さんにとっても大学にとっても貴重な学びの足跡であり、財産です。頑張りましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

授業の方法

各自のテーマに関する文献をまとめ、その内容についてグループディスカッションを行ったり、個別指導により、論文を完成させ、さらにグループ形式での発表練習を行う【レポート(表現)】【討議・討論】【論文】【プレゼンテーション】。

到達目標

1. 各自のテーマについて、これまでどのようなことがわかっているかを文献などで調べ、それらを述べることができる。
2. そのテーマについて論理的に考え、自分なりの結論を導くことができる。
3. 明らかになったことについて、内容を文章で正確に表現するとともに、他者が理解可能なように説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-5「保育者・地域・他の専門職との連携の理解」、 -5「表現・コミュニケーション」、 -5「問題意識、解決に取り組む姿勢」

内容

グループ指導及び個別指導を通して、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・お互いに研究テーマについて積極的に研鑽する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締切は令和3年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について報告する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。毎回の指導に向けてレジユメを作成する。(各回1.5時間)

【事後学修】指導教官の指導にそって論文作成を進める。(各回1.5時間)また、卒業研究発表において、指摘を受けた内容については再考する。

評価方法および評価の基準

論文の成果(30点)、論文作成にあたっての取り組み(40点)、卒業研究発表会への参加及び発表(30点)によって、総合評価60点以上を合格とする。締め切りまでに論文を提出できない場合には、単位認定はされない。

【到達目標の評価方法と割合】

到達目標1.論文の成果(10/30)、論文作成にあたっての取り組み(10/40)、卒業研究発表会への参加及び発表(10/30)

到達目標2.論文の成果(10/30)、論文作成にあたっての取り組み(10/40)、卒業研究発表会への参加及び発表(10/30)

到達目標3.論文の正解(10/30)、論文作成に当たっての取り組み(20/40)、卒業発表会への参加及び発表(10/30)

【フィードバック】各自のテーマに基づいて口頭個別指導及び論文添削により行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各学生の研究テーマ及び個々の進捗に応じて、適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ゼミの仲間同士が励ましあい、支えあうことにより、計画的に研究を進めるようにしましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	曾野 麻紀		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部 (K) - 幼児教育学科 (KA)		
学 年	4	ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目であり、保育者養成課程における専門科目の中で「総合」に区分される科目である。履修者はそれぞれの興味、関心にしながらテーマを設定し、時間をかけて考察を深め、卒業論文を仕上げる。その過程にそれぞれの学びを整理し、学びを深めることができる。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマに基づき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

授業の方法

グループ指導および個別指導を基本とする。

【討議・討論】【プレゼンテーション】【ディスカッション】【論文】

到達目標

1. 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
2. 結果 (エビデンス) に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマポリシーとの関係

- 3 保育者としての思考力・判断力 - 3 保育・教育に関する社会的事象への関心 - 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

グループ指導及び個別指導を通して各自の研究を進めていく。以下の力を身に付ける。

- ・研究テーマを見つけて焦点化する。
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる。
- ・自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データ収集・整理・考察をすすめる。
- ・論文にまとめる

論文の提出締め切りは、2021年1月上旬の予定。

また、論文提出後に、研究発表会にて自分の研究内容について発表することまでで単位認定される。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指導教員の指導のもと、各自の研究テーマに関する先行研究のまとめやデータ収集などを行う。（各授業に対して120分以上）

【事後学修】指導教員の指導のもと、レジュメ、資料作成、データ整理、論文作成などを行う。（各授業に対して120分以上）

評価方法および評価の基準

論文提出と卒業研究発表会への参加及び発表をもって単位認定・評価する。

論文の成果（40％）論文作成への取り組み（40％）研究発表会参加・発表（20％）から総合的に評価し、60点以上を合格とする。

- 1．論文作成への取り組み（10/40）論文の成果（10/40）研究発表会参加・発表（5/20）
- 2．論文作成への取り組み（10/40）論文の成果（10/40）研究発表会参加・発表（5/20）
- 3．論文作成への取り組み（20/40）論文の成果（20/40）研究発表会参加・発表（10/20）

【フィードバック】論文作成のために提出された原稿などはコメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて参考図書や推薦書等を適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

卒業研究はこれまでの学びの集大成です。卒業論文は皆さんにとっても大学にとっても貴重な学びの足跡であり、財産です。頑張りましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	桶田 ゆかり		
ナンバリング	KAj569		
学 科	人間生活学部（K）-幼児教育学科（KA）		
学 年	4	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

幼稚園の担任・管理職として保育に携わった経験をもつ教員が担当し、保育実践や研究経験を生かしながら実践的な研究を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は幼児教育学科の卒業科目であり、大学における幼児教育の学びの総まとめとしての科目である。

科目の概要

自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマに基づき、担当教員の指導・援助を得ながら探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて研究を進める中で、感受性・論理的に考える思考力・内容を的確に伝達する表現力を身に付ける。

授業の方法

文献研究、保育観察、アンケート調査など、各自の研究テーマに応じて検討していく。【討議・討論】【プレゼンテーション】【ディスカッション】【論文】

到達目標

1. 研究テーマや目的に応じた研究方法を選択して研究を進めることができる。
2. 今までの学びを生かし、結果に基づく分析と考察を行うことができる。
3. 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、幼児教育学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 保護者・地域・他の専門職との連携の理解
- 5 表現・コミュニケーション
- 5 問題意識、解決に取り組む姿勢

内容

ゼミ単位・個別指導を通して、以下のことを行う。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する。
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる。

- ・自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探し、事例やデータを収集・整理し、考察を進める。
- ・ゼミの仲間とディスカッションし、共同での学びを通して自分の考えを深める。
- ・論文にまとめ、発表する。

論文の提出締め切りは、2021年1月上旬の予定である。

また、論文提出後は、学科教員・学生に対する研究発表会を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データの収集などを行う。(各授業60分以上)

【事後学修】指導教官の指導のもと、論文や文献を読み、まとめる。レジюме作成、データ整理、論文作成などを行う。指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、学びを深める。(各授業60分以上)

評価方法および評価の基準

論文の成果(50%)、論文作成に当たったの取り組み(30%)、発表会への参加及び発表(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.論文の成果(10% / 50%)、論文作成に当たったの取り組み(15% / 30%)

到達目標2.論文の成果(10% / 50%)、論文作成に当たったの取り組み(15% / 30%)

到達目標3.論文の成果(30% / 50%)、発表会への参加及び発表(20% / 20%)

【フィールドバック】

授業時に提出された先行研究のまとめやデータの整理・考察などに目を通し、授業内や次回の授業でコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。

各自の興味や関心、研究テーマに沿った論文や参考図書の紹介、資料の配布を個別に行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など